

北立誠地区放課後児童クラブ整備に伴う
旧津市立北立誠幼稚園及び津市立北立誠小学校改修工事

図 面 リ ス ト					
図面番号	建築工事	A-24	詳細図（3）	図面番号	電気設備工事
A-01	改修 特記仕様書（1）	A-25	詳細図（4）	E-01	電気設備 特記仕様書（1）
A-02	改修 特記仕様書（2）	A-26	普通教室 平面詳細図 改修前・改修後	E-02	電気設備 特記仕様書（2）
A-03	改修 特記仕様書（3）	A-27	普通教室 展開図 改修前	E-03	電気設備 特記仕様書（3）
A-04	改修 特記仕様書（4）	A-28	普通教室 展開図 改修後	E-04	電気設備配置図・津市立北立誠幼稚園 1 階平面図
A-05	改修 特記仕様書（5）	A-29	廊下 展開図 改修前・改修後	E-05	附近見取図・配置図兼外部仮設計画図
A-06	改修 特記仕様書（6）	A-30	普通教室・廊下 断面図・天井伏図 改修前・改修後	E-06	津市立北立誠幼稚園 1 階 電灯設備図(改修前・後)
A-07	附近見取図・工事概要・配置図兼外部仮設計画図	A-31	普通教室 建具表	E-07	津市立北立誠幼稚園 1 階 弱電・コンセント設備図(改修前・後)
A-08	放課後児童クラブ 求積図・仕上表	A-32	詳細図（5）	E-08	津市立北立誠幼稚園 1 階 自動火災報知設備・弱電設備図(改修前・後)
A-09	普通教室 求積図・仕上表	A-33	詳細図（6）	E-09	津市立北立誠小学校普通教室 電灯・弱電・コンセント設備図(改修前・後)
A-10	旧北立誠幼稚園 平面図・内部仮設計画図 改修前・改修後				
A-11	普通教室 1 階 平面図・内部仮設計画図 改修前・改修後				
A-12	保育室Ⅰ・児童クラブⅠ 平面詳細図 改修前・改修後			図面番号	機械設備工事
A-13	保育室Ⅰ 展開図 改修前			M-01	給排水衛生 特記仕様書（1）
A-14	児童クラブⅠ 展開図 改修後			M-02	給排水衛生 特記仕様書（2）
A-15	便所Ⅰ 平面詳細図 改修前・改修後			M-03	給排水・衛生設備 凡例・器具機器表
A-16	便所Ⅰ 展開図 改修前			M-04	旧津市立北立誠幼稚園 1 階平面図
A-17	便所Ⅰ 展開図 改修後			M-05	給排水・衛生設備 便所Ⅰ 平面詳細図(改修前・改修後)
A-18	保育室Ⅰ・児童クラブⅠ 断面図 改修前・改修後			M-06	空調・換気設備 凡例・機器表
A-19	便所Ⅰ 断面図 改修前・改修後			M-07	旧津市立北立誠幼稚園 空調・換気設備 平面図 改修後
A-20	放課後児童クラブ天井伏図 改修前・改修後			M-08	津市立北立誠小学校 普通教室・管理棟 1 階平面図
A-21	便所Ⅰ・職員便所 建具表			M-09	給排水・衛生・換気設備 普通教室平面詳細図(改修前・改修後)
A-22	詳細図（1）				
A-23	詳細図（2）				

工事特記仕様書（改修）

I. 工事名称
II. 工事概要

北立誠地区放課後児童クラブ整備に伴う旧津市立北立誠幼稚園改修及び津市立北立誠小学校改修工事

1 工事場所
2 敷地面積
3 工事内容

津市 江戸橋一丁目 地内
3,356㎡
津市立北立誠幼稚園・津市立北立誠小学校
幼稚園：鉄筋コンクリート造平屋建 ・ 小学校：鉄筋コンクリート造3階建
構造
建築面積
延べ面積
工事項目
幼稚園：765㎡ ・ 小学校：1,480㎡
幼稚園：保育室Ⅰ・Ⅱを放課後児童クラブへ改修、便所Ⅰの全面改修、職員室をコミュニティールームに改修、職員便所の改修、玄関にスロープ新設、園庭の遊具撤去
小学校：コミュニティールームを普通教室に改修、廊下に掲示板、ヘルメット用フックの設置、外部スロープ改修

III. 建築改修工事仕様

1 共通仕様
2 特記仕様

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、「三重県公共工事共通仕様書」及び「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）平成28年版（以下「改修標準仕様書」という。）による。
(1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
(2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。
(3) 項目欄に記載の（ ）内表示番号は改修仕の該当項目等を示す。

章	項 目	特 記 事 項																				
一般共通事項	① 適用基準等	1）公共建築工事標準仕様書（建築工事編） 国土交通大臣官房官庁営繕部監修（平成28年版） 2）建築工事標準詳細図 国土交通大臣官房官庁営繕部監修（平成28年版）																				
	② 施工条件	施工方法及び検査に関する事項 ※ 工事契約後、速やかに調査及び施工計画書等を作成し、現場着手までに市監督員の承諾を得ること。 ※ 作業着手までの施設内調査は、事前に施設及び市監督員の承諾を得るものとし、休日等の行事に影響を与えない範囲とする。 ※ 工事中の安全計画・消防計画等は、市監督員と十分協議し災害防止に努めること。 ※ 本工事における諸官庁への届出、手続き及び書類等は、速やかに提出し工事の遂行に影響の無いよう努めること。 ※ 特定作業に伴って発生する騒音は、低振動・低騒音に努め騒音規制法に基づき関係機関への届出・打合せの上、作業に着手する事とし、周辺住民からの苦情があった時は、工事を一時中断し、誠意をもって地元調整を行い、工事の再開は市監督員の承認を得てから行うこと。 ※ 工事期間中、近隣関係者等へ危害を与えないよう注意し、かつ周辺道路等に資材を落下させたり、ほこり等を飛散させないよう万全の注意を払うこと。 ※ 場外退出時、車両足廻りの洗浄等を行い、汚損等しないようにすること。 ※ 工事車両の出入りについては、安全確保に十分配慮すること。 ※ 大型車両通行時には誘導員を配置し、通行人及び敷地周辺の安全に十分配慮すること。 ※ 工事車両及び工事関係車両は、周辺道路に駐車しないこと。 ※ 工事期間中、工事に起因し既存施設破壊等を与えた場合は、工事請負者の責任において速やかに原状復旧するとともに市監督員に報告書を提出すること。 ※ 工事着手前には、現況状況把握の為に破壊箇所等があれば、市監理立合いのもと写真に記録しておくこと。また、工事過程に於いて、既設施設に破壊等を与えた場合は、請負者の負担において速やかに復旧すると共に、市監督員に報告すること。 ※ 一部埋設配管工事はガードフェンス外での作業となるため、コーンバーを設置すること。 ※ 設計図書に明記なくとも機能上及び構造上当然必要と認められるもの並びに、取り合いのはつち補修復旧は本工事に含む。 なお内訳書の数量は参考とし、当図面を優先する。 ※ 同建築物別工事があるので、互いに協力し工事の遂行に影響のないよう務めること。 ※ 津市立北立誠小学校のコミュニティールーム改修に関して、原則、冬期休暇以降からの着工とし、騒音の出る作業等は冬期休暇中に終わらせ、3学期以降の工事に関して、騒音の伴わない作業は平日の朝から作業することができるが、騒音を伴う作業については、平日の夕方（15時30以降）及び土曜日に行い、学校の運営に支障のないようにすること。但し、学校及び監督員との協議により承諾を得た場合は、この限りではない。 ※ 工事中も施設利用するため、安全に十分配慮し、施設運営に影響がないようにすること。																				
	③ 発生材の処理等 (1.3.12)	本工事は、その施工に特定建設資材を使用する新築工事等であって、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（平成12年5月31日法律第104号。以下「建設リサイクル法」という。）施行令で定める建設工事の規模に関する基準以上の工事であるため、建設リサイクル法に基づき分別解体等及び特定建設資材の再資源化等の実施について適正な措置を講ずることとする。 工事契約後に明らかになったやむをえない事情により、予定した条件により難しい場合は、監督員と協議するものとする。 分別解体等の方法 <table><tr><th>工程</th><th>作業の有無</th><th>分別解体等の方法</th></tr><tr><td>造成等</td><td>・ 有 ○ 無</td><td>・ 手作業 ・ 手作業、機械作業の併用</td></tr><tr><td>基礎・基礎ぐい</td><td>・ 有 ○ 無</td><td>・ 手作業 ・ 手作業、機械作業の併用</td></tr><tr><td>上部構造部分・外装</td><td>・ 有 ○ 無</td><td>・ 手作業 ・ 手作業、機械作業の併用</td></tr><tr><td>屋根</td><td>・ 有 ○ 無</td><td>・ 手作業 ・ 手作業、機械作業の併用</td></tr><tr><td>建築設備・内装等</td><td>○ 有 ・ 無</td><td>○ 手作業 ・ 手作業、機械作業の併用</td></tr><tr><td>その他 ()</td><td>○ 有 ・ 無</td><td>○ 手作業 ・ 手作業、機械作業の併用</td></tr></table> ○ 引き渡しを要するもの ○ 無 ・ () ・ 特別管理産業廃棄物 ・ 有 () 処理方法 () ・ アスベスト成形板等解体時の留意点 1. 手ばらし等、出来るだけ粉塵の発生しない方法で行うこと。 2. 可能であれば湿潤状態（散水）として作業を進めること。 3. 飛散されない様にする。こと。 4. 保護具及び作業着を着用すること。 5. 解体されたボード等は、蓋のある容器に入れること。 6. 事前に使用箇所や状況の調査を行い記録すること。 ・ 現場において再利用を図るもの () ○ 再資源化を図るもの ○ コンクリート塊 ・ アスファルトコンクリート塊 ○ 建設発生木材 引渡を要するもの、再資源化を図るものについては調書を作成し、監督員へ提出すること。 引渡を要するもの以外のものは、全て構外に搬出し、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、資源の有効な利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、その他関係法令によるほか、「建設副産物適正処理推進要綱」に従い適切に処理し、監督員にマニフェストA、B2、D票を提示すること。	工程	作業の有無	分別解体等の方法	造成等	・ 有 ○ 無	・ 手作業 ・ 手作業、機械作業の併用	基礎・基礎ぐい	・ 有 ○ 無	・ 手作業 ・ 手作業、機械作業の併用	上部構造部分・外装	・ 有 ○ 無	・ 手作業 ・ 手作業、機械作業の併用	屋根	・ 有 ○ 無	・ 手作業 ・ 手作業、機械作業の併用	建築設備・内装等	○ 有 ・ 無	○ 手作業 ・ 手作業、機械作業の併用	その他 ()	○ 有 ・ 無
工程	作業の有無	分別解体等の方法																				
造成等	・ 有 ○ 無	・ 手作業 ・ 手作業、機械作業の併用																				
基礎・基礎ぐい	・ 有 ○ 無	・ 手作業 ・ 手作業、機械作業の併用																				
上部構造部分・外装	・ 有 ○ 無	・ 手作業 ・ 手作業、機械作業の併用																				
屋根	・ 有 ○ 無	・ 手作業 ・ 手作業、機械作業の併用																				
建築設備・内装等	○ 有 ・ 無	○ 手作業 ・ 手作業、機械作業の併用																				
その他 ()	○ 有 ・ 無	○ 手作業 ・ 手作業、機械作業の併用																				

建設副産物情報交換システムの利用	再生資源の利用又は建設副産物の搬出がある場合、受注者は受注時において工事請負代金額が1億円以上の工事については、工事着手前及び工事完了後に「再生資源利用計画書（実施書）」及び「再生資源利用促進計画書（実施書）」を監督員に提出すること。 また、工事着手前にはJACICが運営する「建設副産物情報交換システム」ヘデータを入力し、工事完了時にはシステムへ実績報告を行うこと。																																
5 三重県産業廃棄物税	本工事はに産業廃棄物税相当分が計上されていないため、受注者が課税対象となった場合には完成年度の翌年度の4月1日から8月31日までの間に別に定める様式に産業廃棄物税納付証明書を添付して当該工事の発注者に対して支払請求を行うことができる。 なお、この期間を超えて請求することはできない。また、産業廃棄物処理集計表（マニフェストの数量の集計）を超えて請求することはできない。																																
6 電気保安技術者 (1.3.3)	適用する																																
7 技能士 (1.6.2)	職種別に可能なものについては、積極的に活用のこと。																																
8 施工数量調査 (1.5.2)	調査範囲及び調査方法 ・ 工種別の特記による																																
9 調査のための破壊部分の補修 (1.5.3)	補修方法 ・ 図示（図面番号： ） ・ （ ）																																
10 建築材料等	1) 本工事に使用する木材は、津市公共建築物等木材利用方針に基づき、木材の利用に努めること。 2) 本工事に使用する建築材料のホルムアルデヒド放散量等は、F☆☆☆☆以上とする。																																
1 化学物質の濃度測定 (1.6.9)	測定対象化学物質（●で示したものとす。） <table><tr><th>適用</th><th>施設用途</th><th>ホルムアルデヒド</th><th>トルエン</th><th>キシレン</th><th>エチルベンゼン</th><th>スチレン</th><th>パラジクロロベンゼン</th></tr><tr><td>○</td><td>学校、教育施設</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td></tr><tr><td></td><td>住宅</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td></td></tr><tr><td></td><td>その他</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td></td></tr></table> 測定対象室及び測定箇所数 ・ 図示（図面番号： ） ・ （ ） 測定方法（ ○ バッシブ法 ・ アクティブ法） 報告書提出部数 2部	適用	施設用途	ホルムアルデヒド	トルエン	キシレン	エチルベンゼン	スチレン	パラジクロロベンゼン	○	学校、教育施設	●	●	●	●	●	●		住宅	●	●	●	●	●			その他	●	●	●	●	●	
適用	施設用途	ホルムアルデヒド	トルエン	キシレン	エチルベンゼン	スチレン	パラジクロロベンゼン																										
○	学校、教育施設	●	●	●	●	●	●																										
	住宅	●	●	●	●	●																											
	その他	●	●	●	●	●																											
2 特別な材料の工法	改修標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。																																
3 騒音・振動の防止	低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程に基づき指定された建設機械の使用に努めること。																																
4 工事写真	営繕工事写真撮影要領（国土交通省大臣官房官庁営繕部（平成28年版））に従い撮影する。 提出部数 1部 用紙は上質紙とする。																																
5 完成図 (1.8.2)	作成する（ ○ 完成図（A2版2部） ・ 保全に関する資料 ・ （ ） ） 完成図作図範囲（設計図を訂正） 完成図はCADにより作成することとし、著作権（著作権法第27条及び第28条に規定する権利を含む）にかかる使用権は発注者に移譲するものとする。また、製本2部（原図サイズ）により提出すること。																																
6 完成写真	○ デジタルカメラで撮影し、全てL版相当サイズで印刷する。 （A4版用紙に1ページあたり3枚） 1部 箇所数は外観4面各室2面程度とし、規定の箇所数が確保できない場合や枚数が多くなる場合には、監督員と協議すること。写真は、着工前・施工中・完成を同一場所から、黒板なしで撮影すること。																																
7 設備工事との取合い	施工範囲 ○ 図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔・開口部の補強 ○ 図示した壁・天井の仕上材・下地材の切込み及び補強 ○ 自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強 ○ 駆動装置が電動による建具等の2次側の配管・配線及び 操作スイッチ 施工図 ○ 設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督員の承諾を受けること。																																
8 既存部分等へ (1.3.13)	○ 工事施工に際し、在来部分を汚損した場合又は損傷した場合は、監督職員に報告するとともに承諾を受けて現状に準じて補修する。																																
9 事故報告	工事の施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督員に通報するとともに、所定の様式により工事事故発生報告書を監督員が指示する期日までに、監督員に提出すること。 また、事故発生後の措置について監督員と協議を行うとともに、当該事故に係る状況聴取、調査、検証等に協力すること。																																
10 消防提出書類	1) 消火器に係る消防用設備等設置届出書の作成 ○ 本工事（ ・ 建築工事 ○ 電気設備工事 ・ 機械設備工事） ○ 別途工事 2) 防火対象物使用開始届出書 書類の作成（電気設備図面の作成及び電気設備に関する部分の記入）を行うこと。																																
21 労働安全衛生法に基づく労働災害防止措置	労働安全衛生法第30条第1項に規定する措置を講ずる必要がある場合、その措置を講ずべき者として、同法第30条第2項の規定に基づき、本工事の請負者を指名する。この場合における指名への同意は、本工事の請負契約を締結することにより得られたものとみなす。																																
22 不正軽油の使用の禁止	1) 一般事項 市工事の施工にあたり、工事現場で使用し、又は使用させる車両（資機材等の搬出入車両を含む。）並びに建設機械等の燃料として、不正軽油（地方税法第144条の32（製造等の承認を受ける義務等）の規定に違反する燃料をいう。）を使用してはならない。 2) 調査の協力 受注者は、市が使用燃料の採油調査を行う場合には、その調査に協力しなければならない。また、受注者は下請負者等に同調査に協力するよう管理及び監督しなければならない。 3) 是正措置 受注者は、不正軽油の使用が判明した場合は、速やかに正措置を講じなければならない。また、受注者は下請負者等に不正軽油の使用が判明した場合は速やかに正措置を講じよう管理及び監督しなければならない。																																
23 屋外広告物	屋外広告物を設置する場合は、「三重県屋外広告物条例」第23条に規定する屋外広告業の登録事業者であること。																																

仮設工事

1足場

2既存部分の養生

3仮設間仕切り

4監督員事務所

5監督員事務所の備品等

6仮設便所

7工事用水

8工事用電力

9交通誘導警備員

設置する足場について、「手すり先行工法等に関するガイドライン（厚生労働省平成21年4月）」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立等に関する基準」の2の(2)手すり据置き型方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。

内部足場の種別
外部足場の種別
防護シート等による養生

既存部分の養生
既存ブラインド・カーテンの養生
養生方法
保管場所
固定された備品、机、ロッカーの移動

屋内の仮設間仕切り
合板 厚さ
せっこうボード 厚さ
合板又は石こうボードの塗装
仮設扉
設置箇所
種別

構内建物内の一部を使用する。
設置する
監督員事務所の規模(単位:㎡)

適用規模					
規模	10程度	20程度	35程度	65程度	100程度

監督員事務所の仕上げ

部 位 等	仕 上 げ
床	合板張り又はビニール床シート張り
内壁・天井	合板張り又はせっこうボード張り、合成樹脂エマルジョン塗り
屋根	装溶融亜鉛めっき鋼板張り、又は鉄板張り、調合ペイント塗り

種類	机・いす	書棚	黒板・白板	掛時計	温度計
数量	組	台	個	個	個
種類	長靴	雨合羽	保護帽	懐中電灯	衣類ロッカー
数量	足	着	個	個	台
種類	消火器	掃除具	受注者加入電話 FAX	冷暖房機器	インターネット
数量	個	個	台	台	台

構内既存の施設
利用できる
構内既存の施設
利用できる
構内既存の施設
利用できる
有償利用の場合において、本工事で新規受電又は既設電気回路に接続し通電した時から工事に起因する電力料金は、本工事に含まれる。

配置

3 防水改修工事

1 アスファルト防水
(3. 1. 4)
(3. 3. 3)
(表3. 3. 3)～
(表3. 3. 10)

(3. 3. 2)

(3. 3. 3) (b) (2)
(3. 3. 3) (C)

(3. 3. 5)

2 改質アスファルトシート防水
(3. 4. 2)

(3. 4. 3)
(表3. 4. 1)～
(表3. 4. 3)

3 合成高分子系
ルーフィング
シート防水
(3. 5. 2)

(3. 5. 3)
(表3. 5. 1)～
(表3. 5. 3)

(3. 5. 3)

(3. 5. 4)

4 塗膜防水
(3. 6. 3)
(表3. 6. 1)
(3. 6. 3) (a)

(3. 6. 3) (b)

5 既存防水層表面
の仕上塗装の除
去
(3. 2. 6) (a) (2)
(3. 2. 6) (a) (6)

[illegible]

4 外壁改修工事

6 シーリング (3. 7. 2)
(表3. 7. 1)
(3. 7. 4~7)
(3. 7. 8)

7 とい (3. 8. 2)
(表3. 8. 1)

8 アルミニウム製
笠木 (3. 9. 2) (c)
(表3. 9. 1)
(3. 9. 3) (b)
(3. 9. 2) (d)
(3. 9. 3)

材料		
種類	材種	施工箇所
○ SR-1	シリコン系	ガラス廻り
○ SR-2	シリコン系	アルミハネル廻り
○ MS-2	変成シリコン系	水廻り
・ PS-2	ポリサルファイド系	
・ PU-2	ポリウレタン系	

工法

○ シーリング充填工法

- ・ シーリング再充填工法
- ・ 拡幅シーリング再充填工法
- ・ ブリッジ工法

(ボンドブレード幅 mm、エッジング材幅 mm)

シーリング材の試験

- ・ 簡易接着性試験
- ・ 引張接着性試験
- 行わない

材種

- ・ 硬質ポリ塩化ビニル管 (カラー)
- ・ 配管用鋼管 (白管)
- ・ (硬質ポリ塩化ビニル管 S O P 塗装)

工法

- ・ 図示 (図面番号:)

部材の種類

- ・ 押出し250形
- ・ 押出し300形
- ・ 押出し350形
- ・ 板材折曲げ形 (本体幅 () mm、板厚 ・ 2.0mm ・ ())

固定金具の間隔 (mm)

固定方法

- ・ ()

表面処理

- ・ ()

工法

- 既存笠木等の撤去
- ・ 図示 (図面番号:)
- 下地補修の工法
- ・ 図示 (図面番号:)
- 板材折曲げ形の笠木の取付方法
- ・ 図示 (図面番号:)
- 笠木固定金具の工法
- ・ 図示 (図面番号:)

建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応したか固定金具の間隔固定方法等は施工計画書として提出する。

・ 行う ・ 行わない

調査範囲 ・ 全面 ・ ()

調査項目 ・ ひび割れ部 (・ 幅0.2mm ・ 0.2mm～1.0mm ・ 1.0mm以上)

・ はがれ及びはく落部分

・ 浮き部

調査方法 ・ 打診、目視及びクラックスケール等 (・ 足場 ・ Gondola)

報告書 2部 (立面図等に記載、必要に応じて写真添付)

外壁	種類	改修工法
・ コンクリート打放し 仕上げ外壁	ひび割れ部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 樹脂注入工法 ・ Uカットシール材充填工法 ・ シール工法
	欠損部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 充填工法
	ひび割れ部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 樹脂注入工法 ・ Uカットシール材充填工法 ・ シール工法
	欠損部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 充填工法 ・ モルタル塗替え工法
・ モルタル塗り仕上げ外壁	ひび割れ部	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンカービンニング ・ 部分エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面ポリマーセメントスラリー注入工法
	浮き部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 注入口付アンカービンニング ・ 部分エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ・ 充填工法 ・ モルタル塗替え工法
	ひび割れ部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 樹脂注入工法 ・ Uカットシール材充填工法
	欠損部	<ul style="list-style-type: none"> ・ タイル部分張替え工法 ・ タイル張替え工法
・ タイル張り仕上げ外壁	ひび割れ部	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンカービンニング ・ 部分エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面ポリマーセメントスラリー注入工法
	浮き部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 注入口付アンカービンニング ・ 部分エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面エポキシ樹脂注入工法 ・ 全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ・ エポキシ樹脂注入タイル固定工法 ・ タイル部分張替え工法 ・ タイル張替え工法
	ひび割れ部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目地ひび割れ部改修工法 ・ 伸縮目地改修工法
	目地	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薄付け仕上塗材塗り ・ 厚付け仕上塗材塗り ・ 複層仕上塗材塗り ・ 可とう形改修用仕上塗材塗り ・ 各種塗料塗り ・ マスチック塗材塗り
・ 塗り仕上げ外壁	新規仕上	

3 改修工法等
(4.2.2)
(4)
(4)
(4)
(4.2.2)
(4)
(4)
(4)
(4.2.2)
(4)
(4)
(4.2.2)
(4)
(4.2.2)
(4)
(4.2.2)
(4.4)
(図4)
(4.2.2)
(4.4)
(図4)
(4.2.2)
(4.4)
(図4)
(4.2.2)
(4.4)
(図4)
(4.2.2)
(4.4)
(図4)
(4.2.2)
(4.4)
(図4)
(4.2.2)
(4)
(4.2.2)
(4)
(表4)
(4.5)
(4.2.2)
(4.5)

樹脂注入工法												
種類	・ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法											
	注入量 ()	注入間隔 ()										
	・ 手動式エポキシ樹脂注入工法											
	注入量 ()	注入口間隔 ()										
	・ 機械式エポキシ樹脂注入工法											
	注入量 ()	注入口間隔 ()										
材料	エポキシ樹脂JIS A6024(建築補修用注入エポキシ樹脂)											
	・ 低粘度形	・ 中粘度形										
コア抜取検査	・ 行う	・ 行わない										
	・ 抜取り個数 ()											
	・ 抜取り部分補修方法 ()											
・ Uカットシール材充填工法												
材料	・ シーリング用材充填											
	(・ P U - 1 ・ P U - 2 ・ ())											
	・ 可とう性エポキシ樹脂充填											
シーリング材の上にポリマーセメントモルタル充填												
	・ 行う	・ 行わない										
・ シール工法												
材料	・ バテ状エポキシ樹脂											
	・ 可とう性エポキシ樹脂											
・ 充填工法												
材料	・ エポキシ樹脂モルタル											
	・ ポリマーセメントモルタル											
・ モルタル塗替え工法												
材料	・ 既製目地材の適用及び形状 ()											
仕上げ厚 ()												
・ アンカーベニング部分エポキシ樹脂注入工法												
アンカーピンの本数	・ 標準	・ ()										
材料	・ ステンレス鋼 (S U S 3 0 4)	・ ()										
・ アンカーベニング全面エポキシ樹脂注入工法												
アンカーピンの本数及び注入口の数	・ 標準	・ ()										
材料	・ ステンレス鋼 (S U S 3 0 4)	・ ()										
・ アンカーベニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法												
アンカーピンの本数及び注入口の数	・ 標準	・ ()										
材料	・ ステンレス鋼 (S U S 3 0 4)	・ ()										
・ 注入口付アンカーベニング部分エポキシ樹脂注入工法												
注入口付アンカーピンの本数	・ 標準	・ ()										
材料	・ ステンレス鋼 (S U S 3 0 4)	・ ()										
呼び径	・ 6mm	・ ()										
・ 注入口付アンカーベニング全面エポキシ樹脂注入工法												
注入口付アンカーピンの本数及び注入口の数	・ 標準	・ ()										
材料	・ ステンレス鋼 (S U S 3 0 4)	・ ()										
呼び径	・ 6mm	・ ()										
・ 注入口付アンカーベニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法												
注入口付アンカーピンの本数及び注入口の数	・ 標準	・ ()										
材料	・ ポリマーセメントスラリー ()											
	・ 注入口付アンカーピン (・ ステンレス鋼 (S U S 3 0 4) ・ ())											
呼び径	・ 6mm	・ ()										
・ タイル部分張替え工法												
材料	・ ポリマーセメントモルタル											
・ 変成シリコン樹脂、エポキシ樹脂、ポリウレタン樹脂												
施工箇所	形状寸法	工法	用途による区分									
			Ⅰ 類(磁器)	Ⅱ 類(せつ器)	Ⅲ 類(陶器)							
				役物	標準・特注色							
					耐薬害性有無							
・ 役物 (・ 一体成形 ・ 接着加工)												
・ 試験張り ・ 行う ・ 行わない												

4	塗り仕上げ (4.2.2) (3) (表4.2.4(その1) (その2))		種 類	呼び名	仕上げ形状	工 法	
			薄付け仕上塗材	・ 外装薄塗材 E	・ 砂壁状	吹付け	
					・ ゆず肌状		
					・ 平たん状	こて	
					・ 凹凸状		
					・ ゆず肌状	ローラー	
			・ さざ波状				
			・ 着色骨材砂壁状	・ 吹付け ・ こて			
			・ ()	・ ()	・ ()		
			厚付け仕上塗材	・ 外装厚塗材 C	・ 吹放し	吹付け	
・ 凸部処理							
・ 平たん状							
・ 凹凸状	こて						
・ ひき起し							
・ 掻き落とし							
・ 外装厚塗材 Si ・ 外装厚塗材 E	・ 吹放し	吹付け					
	・ 凸部処理						
	・ 平たん状	・ こて					
	・ 凹凸状	・ ローラー					
	・ ひき起し						
・ ()	・ ()	・ ()					
複層仕上塗材	・ 複層塗材 E ・ 複層塗材 RE ・ 防水形複層塗材 E ・ 防水形複層塗材 RE	・ ゆず肌状	ローラー				
		・ 凸部処理					
		・ 凹凸模様	吹付け				
		・ ()	・ ()				
		・ ()	・ ()				
可とう形改修用 仕上塗材	・ 可とう形改修塗材 E ・ 可とう形改修塗材 RE ・ 可とう形改修塗材 CE	・ 平たん状	ローラー				
		・ さざ波状					
		・ ゆず肌状	吹付け				
		・ ()	・ ()				
		・ ()	・ ()				
			・ 外装厚塗 C の上塗材がセメントスタッコ以外の場合 材所要量 (kg/m2)				
			・ マスチック塗材塗り ・ A 種 ・ B 種 仕上材塗り ()				
			(4.7.2) (表4.7.1)				
			(表4.2.5)				
			複層仕上塗材の上塗材の種類				
			樹脂種類	溶媒種類	外 観		
			・ アクリル系	・ 溶剤系	・ 艶有	・ 艶無	・ メタリック
				・ 弱溶剤系	・ 艶有	・ 艶無	
				・ 水系	・ 艶有	・ 艶無	
			・ シリカ系	・ 水系	・ 艶無		
・ 溶剤系	・ 艶有	・ 艶無		・ メタリック			
・ 弱溶剤系	・ 艶有	・ 艶無					
・ ポリウレタン系	・ 水系	・ 艶有	・ 艶無				
	・ 溶剤系	・ 艶有	・ 艶無	・ メタリック			
	・ 弱溶剤系	・ 艶有	・ 艶無				
・ アクリル シリコン系	・ 水系	・ 艶有	・ 艶無				
	・ 溶剤系	・ 艶有	・ 艶無	・ メタリック			
	・ 弱溶剤系	・ 艶有	・ 艶無				
・ ふっ素系	・ 水系	・ 艶有	・ 艶無				
	・ 溶剤系	・ 艶有	・ 艶無	・ メタリック			
	・ 弱溶剤系	・ 艶有	・ 艶無				
(注) 艶無及びメタリックは、可とう形複層塗材、防水形複層塗材、及び可とう形改修塗材には適用しない。							
			(4.6.3)			既存塗膜等の除去及び下地処理	
			工 法	処理範囲			
			・ サンダー工法				
			・ 高圧水洗工法				
			・ 塗膜はく離剥工法				
			・ 水洗い工法				
			・ デッキブラシ				
			・ 高圧ポンプ				
			(4.6.4)				
			下地調整 ・ C-1 ・ C-2 ・ CM-2 ・ E ・ ()				
⑤	建 具 改 修 工 事		1	改修工法 (5.1.3)	・ かぶせ工法 ・ カバー工法 ・ 持出し工法 ・ ノンシール工法		
			2	防火戸 (5.1.4)	・ 撤去工法 ・ はつり工法 ・ 引抜き工法		
			3	見本の製作 (5.1.5)	・ 製作する ・ 製作しない		
			4	防犯建物部品 (5.1.7)	・ 図示 (図面番号:)		
			5	ブラインドボ ックス等 (5.1.6) (c)	・ 再使用する ・ 再使用しない		
			⑥	アルミニウム製 建具 (5.2.2) (5.2.4) (表5.2.1)	性能等級等 ・ A 種 ・ B 種 ・ C 種		
			(表5.2.2)	・ 防音ドアセット、防音サッシ (等級)			
				・ 断熱ドアセット、断熱サッシ (等級)			
				・ 耐震ドアセット (等級)			
				・ 結露水の処理方法 ・ 図示 (図面番号: A-20)			
アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理の種別 ○ 外部に面する建具 ・ B-1 ・ B-2 ・ () ・ 内部に面する建具 ・ C-1 ・ C-2 ・ ()							

7 網戸 (5.2.3)(e)	・ 可動式 ・ 固定式 防虫網の材質 ・ 合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス (SUS316) 製 網目 ・ 16メッシュ ・ 18メッシュ
8 樹脂製建具 (5.3.2)~(5.3.5) (表5.3.1)~ (表5.3.3)	性能等級等 ・ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ 防音ドアセット、防音サッシ (等級) ・ 断熱ドアセット、断熱サッシ (等級) ガラス ・ 複層ガラス ・ () 建具枠見込寸法 ・ 図示 (図面番号:) 水切り ・ 図示 (図面番号:) ぜん板 ・ 図示 (図面番号:) 丁香 ・ 改修標準仕様書 (表5.7.3) による ・ 図示 (図面番号:)
9 鋼製建具 (5.4.2)	鋼製建具の性能等級 ・ 簡易気密性ドアセット ・ 外部に面する建具の耐風圧 ・ S-4 ・ S-5 ・ S-6 ・ 防音ドアセット、防音サッシ (等級) ・ 断熱ドアセット、断熱サッシ (等級) ・ 耐震ドアセット (等級) ・ めっき付着量 JIS G 3302 ・ Z12 ・ F12 ・ () JIS G 3317 ・ Y08 ・ () ・ H2400又はW950の建具 鋼板類の厚さ ・ 図示 (図面番号:)
(5.4.3)	鋼製軽量建具の性能等級 ・ 簡易気密性ドアセット ・ 防音ドアセット、防音サッシ (等級) ・ 断熱ドアセット、断熱サッシ (等級) ・ 耐震ドアセット (等級) ・ H2400又はW950の建具 特定防火設備 鋼板類の厚さ ・ 図示 (図面番号:)
(5.4.4)	鋼製軽量建具の性能等級 ・ 簡易気密性ドアセット ・ 防音ドアセット、防音サッシ (等級) ・ 断熱ドアセット、断熱サッシ (等級) ・ 耐震ドアセット (等級) ・ H2400又はW950の建具 特定防火設備 鋼板類の厚さ ・ 図示 (図面番号:)
⑩ 鋼製軽量建具 (5.5.2) (5.5.5) (5.2.2)(b) (5.5.3) (5.5.4) (5.7.3)(a) (5.2.3)(a)	表面仕上げ ・ 焼付塗装 ・ ビニル被覆鋼板 ・ 不燃化粧鋼板 ・ ステンレス鋼板 (・ HL ・ 鏡面) ステンレス製建具の性能等級 ・ 簡易気密性ドアセット ・ 外部に面する建具の耐風圧 ・ S-4 ・ S-5 ・ S-6 ・ 防音ドアセット、防音サッシ (等級) ・ 断熱ドアセット、断熱サッシ (等級) ・ 耐震ドアセット (等級) 材料 ・ SUS304 ・ () 表面仕上げ ・ HL仕上げ ・ () 曲げ加工 ・ 普通曲げ ・ 角出し曲げ 金物の見え掛かり部等の材質等 ・ 改修標準仕様書 (表5.7.1) による ・ 図示 (図面番号:) マスターキー ・ 製作する ○ 製作しない ※ 普通教室は既設マスターキーに対応させる 引渡用鍵箱 ・ 必要 ・ 不要 開閉装置の性能値 ・ 図示 (図面番号:) センサーの種類 ・ 図示 (図面番号:) 凍結防止措置 ・ あり ・ なし 自閉式上吊り引戸装置の性能値 ・ 改修標準仕様書 (表5.9.1) による ・ () 種類 ・ 一般重量シャッター ・ 外壁用防火シャッター ・ 屋内用防火シャッター ・ 防煙シャッター 耐風圧強度 (Pa以上) 開閉機能 ・ 上部電動式 (手動併用) ・ 上部手動式 一般重量シャッターのシャッターケース ・ 設ける ・ 設けない ・ めっき付着量 ・ Z12 ・ F12 ・ () 開閉形式 ・ 上部電動式 (手動併用) ・ 手動式 耐風圧強度 (Pa以上) スラットの材質及び形状 ・ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形 ・ めっき付着量 JIS G 3312 ・ Z06 ・ F06 ・ () JIS G 3322 ・ AZ90 ・ ()
11 ステンレス製 建具 (5.6.2) (5.4.2)	ステンレス製建具の性能等級 ・ 簡易気密性ドアセット ・ 外部に面する建具の耐風圧 ・ S-4 ・ S-5 ・ S-6 ・ 防音ドアセット、防音サッシ (等級) ・ 断熱ドアセット、断熱サッシ (等級) ・ 耐震ドアセット (等級) 材料 ・ SUS304 ・ () 表面仕上げ ・ HL仕上げ ・ () 曲げ加工 ・ 普通曲げ ・ 角出し曲げ 金物の見え掛かり部等の材質等 ・ 改修標準仕様書 (表5.7.1) による ・ 図示 (図面番号:) マスターキー ・ 製作する ○ 製作しない ※ 普通教室は既設マスターキーに対応させる 引渡用鍵箱 ・ 必要 ・ 不要 開閉装置の性能値 ・ 図示 (図面番号:) センサーの種類 ・ 図示 (図面番号:) 凍結防止措置 ・ あり ・ なし 自閉式上吊り引戸装置の性能値 ・ 改修標準仕様書 (表5.9.1) による ・ () 種類 ・ 一般重量シャッター ・ 外壁用防火シャッター ・ 屋内用防火シャッター ・ 防煙シャッター 耐風圧強度 (Pa以上) 開閉機能 ・ 上部電動式 (手動併用) ・ 上部手動式 一般重量シャッターのシャッターケース ・ 設ける ・ 設けない ・ めっき付着量 ・ Z12 ・ F12 ・ () 開閉形式 ・ 上部電動式 (手動併用) ・ 手動式 耐風圧強度 (Pa以上) スラットの材質及び形状 ・ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形 ・ めっき付着量 JIS G 3312 ・ Z06 ・ F06 ・ () JIS G 3322 ・ AZ90 ・ ()
(5.6.3)	材料 ・ SUS304 ・ () 表面仕上げ ・ HL仕上げ ・ () 曲げ加工 ・ 普通曲げ ・ 角出し曲げ 金物の見え掛かり部等の材質等 ・ 改修標準仕様書 (表5.7.1) による ・ 図示 (図面番号:) マスターキー ・ 製作する ○ 製作しない ※ 普通教室は既設マスターキーに対応させる 引渡用鍵箱 ・ 必要 ・ 不要 開閉装置の性能値 ・ 図示 (図面番号:) センサーの種類 ・ 図示 (図面番号:) 凍結防止措置 ・ あり ・ なし 自閉式上吊り引戸装置の性能値 ・ 改修標準仕様書 (表5.9.1) による ・ () 種類 ・ 一般重量シャッター ・ 外壁用防火シャッター ・ 屋内用防火シャッター ・ 防煙シャッター 耐風圧強度 (Pa以上) 開閉機能 ・ 上部電動式 (手動併用) ・ 上部手動式 一般重量シャッターのシャッターケース ・ 設ける ・ 設けない ・ めっき付着量 ・ Z12 ・ F12 ・ () 開閉形式 ・ 上部電動式 (手動併用) ・ 手動式 耐風圧強度 (Pa以上) スラットの材質及び形状 ・ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形 ・ めっき付着量 JIS G 3312 ・ Z06 ・ F06 ・ () JIS G 3322 ・ AZ90 ・ ()
(5.6.4)	材料 ・ SUS304 ・ () 表面仕上げ ・ HL仕上げ ・ () 曲げ加工 ・ 普通曲げ ・ 角出し曲げ 金物の見え掛かり部等の材質等 ・ 改修標準仕様書 (表5.7.1) による ・ 図示 (図面番号:) マスターキー ・ 製作する ○ 製作しない ※ 普通教室は既設マスターキーに対応させる 引渡用鍵箱 ・ 必要 ・ 不要 開閉装置の性能値 ・ 図示 (図面番号:) センサーの種類 ・ 図示 (図面番号:) 凍結防止措置 ・ あり ・ なし 自閉式上吊り引戸装置の性能値 ・ 改修標準仕様書 (表5.9.1) による ・ () 種類 ・ 一般重量シャッター ・ 外壁用防火シャッター ・ 屋内用防火シャッター ・ 防煙シャッター 耐風圧強度 (Pa以上) 開閉機能 ・ 上部電動式 (手動併用) ・ 上部手動式 一般重量シャッターのシャッターケース ・ 設ける ・ 設けない ・ めっき付着量 ・ Z12 ・ F12 ・ () 開閉形式 ・ 上部電動式 (手動併用) ・ 手動式 耐風圧強度 (Pa以上) スラットの材質及び形状 ・ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形 ・ めっき付着量 JIS G 3312 ・ Z06 ・ F06 ・ () JIS G 3322 ・ AZ90 ・ ()
(5.6.5)	材料 ・ SUS304 ・ () 表面仕上げ ・ HL仕上げ ・ () 曲げ加工 ・ 普通曲げ ・ 角出し曲げ 金物の見え掛かり部等の材質等 ・ 改修標準仕様書 (表5.7.1) による ・ 図示 (図面番号:) マスターキー ・ 製作する ○ 製作しない ※ 普通教室は既設マスターキーに対応させる 引渡用鍵箱 ・ 必要 ・ 不要 開閉装置の性能値 ・ 図示 (図面番号:) センサーの種類 ・ 図示 (図面番号:) 凍結防止措置 ・ あり ・ なし 自閉式上吊り引戸装置の性能値 ・ 改修標準仕様書 (表5.9.1) による ・ () 種類 ・ 一般重量シャッター ・ 外壁用防火シャッター ・ 屋内用防火シャッター ・ 防煙シャッター 耐風圧強度 (Pa以上) 開閉機能 ・ 上部電動式 (手動併用) ・ 上部手動式 一般重量シャッターのシャッターケース ・ 設ける ・ 設けない ・ めっき付着量 ・ Z12 ・ F12 ・ () 開閉形式 ・ 上部電動式 (手動併用) ・ 手動式 耐風圧強度 (Pa以上) スラットの材質及び形状 ・ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形 ・ めっき付着量 JIS G 3312 ・ Z06 ・ F06 ・ () JIS G 3322 ・ AZ90 ・ ()
⑫ 建具用金物 (5.7.2)	金物の見え掛かり部等の材質等 ・ 改修標準仕様書 (表5.7.1) による ・ 図示 (図面番号:) マスターキー ・ 製作する ○ 製作しない ※ 普通教室は既設マスターキーに対応させる 引渡用鍵箱 ・ 必要 ・ 不要 開閉装置の性能値 ・ 図示 (図面番号:) センサーの種類 ・ 図示 (図面番号:) 凍結防止措置 ・ あり ・ なし 自閉式上吊り引戸装置の性能値 ・ 改修標準仕様書 (表5.9.1) による ・ () 種類 ・ 一般重量シャッター ・ 外壁用防火シャッター ・ 屋内用防火シャッター ・ 防煙シャッター 耐風圧強度 (Pa以上) 開閉機能 ・ 上部電動式 (手動併用) ・ 上部手動式 一般重量シャッターのシャッターケース ・ 設ける ・ 設けない ・ めっき付着量 ・ Z12 ・ F12 ・ () 開閉形式 ・ 上部電動式 (手動併用) ・ 手動式 耐風圧強度 (Pa以上) スラットの材質及び形状 ・ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形 ・ めっき付着量 JIS G 3312 ・ Z06 ・ F06 ・ () JIS G 3322 ・ AZ90 ・ ()
(5.7.4)	マスターキー ・ 製作する ○ 製作しない ※ 普通教室は既設マスターキーに対応させる 引渡用鍵箱 ・ 必要 ・ 不要 開閉装置の性能値 ・ 図示 (図面番号:) センサーの種類 ・ 図示 (図面番号:) 凍結防止措置 ・ あり ・ なし 自閉式上吊り引戸装置の性能値 ・ 改修標準仕様書 (表5.9.1) による ・ () 種類 ・ 一般重量シャッター ・ 外壁用防火シャッター ・ 屋内用防火シャッター ・ 防煙シャッター 耐風圧強度 (Pa以上) 開閉機能 ・ 上部電動式 (手動併用) ・ 上部手動式 一般重量シャッターのシャッターケース ・ 設ける ・ 設けない ・ めっき付着量 ・ Z12 ・ F12 ・ () 開閉形式 ・ 上部電動式 (手動併用) ・ 手動式 耐風圧強度 (Pa以上) スラットの材質及び形状 ・ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形 ・ めっき付着量 JIS G 3312 ・ Z06 ・ F06 ・ () JIS G 3322 ・ AZ90 ・ ()
13 自動ドア開閉 装置 (5.8.2)	開閉装置の性能値 ・ 図示 (図面番号:) センサーの種類 ・ 図示 (図面番号:) 凍結防止措置 ・ あり ・ なし 自閉式上吊り引戸装置の性能値 ・ 改修標準仕様書 (表5.9.1) による ・ () 種類 ・ 一般重量シャッター ・ 外壁用防火シャッター ・ 屋内用防火シャッター ・ 防煙シャッター 耐風圧強度 (Pa以上) 開閉機能 ・ 上部電動式 (手動併用) ・ 上部手動式 一般重量シャッターのシャッターケース ・ 設ける ・ 設けない ・ めっき付着量 ・ Z12 ・ F12 ・ () 開閉形式 ・ 上部電動式 (手動併用) ・ 手動式 耐風圧強度 (Pa以上) スラットの材質及び形状 ・ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形 ・ めっき付着量 JIS G 3312 ・ Z06 ・ F06 ・ () JIS G 3322 ・ AZ90 ・ ()
(5.8.3) (表5.8.3)	センサーの種類 ・ 図示 (図面番号:) 凍結防止措置 ・ あり ・ なし 自閉式上吊り引戸装置の性能値 ・ 改修標準仕様書 (表5.9.1) による ・ () 種類 ・ 一般重量シャッター ・ 外壁用防火シャッター ・ 屋内用防火シャッター ・ 防煙シャッター 耐風圧強度 (Pa以上) 開閉機能 ・ 上部電動式 (手動併用) ・ 上部手動式 一般重量シャッターのシャッターケース ・ 設ける ・ 設けない ・ めっき付着量 ・ Z12 ・ F12 ・ () 開閉形式 ・ 上部電動式 (手動併用) ・ 手動式 耐風圧強度 (Pa以上) スラットの材質及び形状 ・ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形 ・ めっき付着量 JIS G 3312 ・ Z06 ・ F06 ・ () JIS G 3322 ・ AZ90 ・ ()
(5.8.3)(f)	センサーの種類 ・ 図示 (図面番号:) 凍結防止措置 ・ あり ・ なし 自閉式上吊り引戸装置の性能値 ・ 改修標準仕様書 (表5.9.1) による ・ () 種類 ・ 一般重量シャッター ・ 外壁用防火シャッター ・ 屋内用防火シャッター ・ 防煙シャッター 耐風圧強度 (Pa以上) 開閉機能 ・ 上部電動式 (手動併用) ・ 上部手動式 一般重量シャッターのシャッターケース ・ 設ける ・ 設けない ・ めっき付着量 ・ Z12 ・ F12 ・ () 開閉形式 ・ 上部電動式 (手動併用) ・ 手動式 耐風圧強度 (Pa以上) スラットの材質及び形状 ・ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形 ・ めっき付着量 JIS G 3312 ・ Z06 ・ F06 ・ () JIS G 3322 ・ AZ90 ・ ()
14 自閉式上吊り 引戸装置 (5.9.3)	自閉式上吊り引戸装置の性能値 ・ 改修標準仕様書 (表5.9.1) による ・ () 種類 ・ 一般重量シャッター ・ 外壁用防火シャッター ・ 屋内用防火シャッター ・ 防煙シャッター 耐風圧強度 (Pa以上) 開閉機能 ・ 上部電動式 (手動併用) ・ 上部手動式 一般重量シャッターのシャッターケース ・ 設ける ・ 設けない ・ めっき付着量 ・ Z12 ・ F12 ・ () 開閉形式 ・ 上部電動式 (手動併用) ・ 手動式 耐風圧強度 (Pa以上) スラットの材質及び形状 ・ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形 ・ めっき付着量 JIS G 3312 ・ Z06 ・ F06 ・ () JIS G 3322 ・ AZ90 ・ ()
15 重量シャッ ター (5.10.2)	種類 ・ 一般重量シャッター ・ 外壁用防火シャッター ・ 屋内用防火シャッター ・ 防煙シャッター 耐風圧強度 (Pa以上) 開閉機能 ・ 上部電動式 (手動併用) ・ 上部手動式 一般重量シャッターのシャッターケース ・ 設ける ・ 設けない ・ めっき付着量 ・ Z12 ・ F12 ・ () 開閉形式 ・ 上部電動式 (手動併用) ・ 手動式 耐風圧強度 (Pa以上) スラットの材質及び形状 ・ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形 ・ めっき付着量 JIS G 3312 ・ Z06 ・ F06 ・ () JIS G 3322 ・ AZ90 ・ ()
(5.10.2)(c) (表5.10.1)	耐風圧強度 (Pa以上) 開閉機能 ・ 上部電動式 (手動併用) ・ 上部手動式 一般重量シャッターのシャッターケース ・ 設ける ・ 設けない ・ めっき付着量 ・ Z12 ・ F12 ・ () 開閉形式 ・ 上部電動式 (手動併用) ・ 手動式 耐風圧強度 (Pa以上) スラットの材質及び形状 ・ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形 ・ めっき付着量 JIS G 3312 ・ Z06 ・ F06 ・ () JIS G 3322 ・ AZ90 ・ ()
(5.10.2)(f) (5.10.3)	一般重量シャッターのシャッターケース ・ 設ける ・ 設けない ・ めっき付着量 ・ Z12 ・ F12 ・ () 開閉形式 ・ 上部電動式 (手動併用) ・ 手動式 耐風圧強度 (Pa以上) スラットの材質及び形状 ・ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形 ・ めっき付着量 JIS G 3312 ・ Z06 ・ F06 ・ () JIS G 3322 ・ AZ90 ・ ()
16 軽量シャッ ター (5.11.2) (表5.11.1)	種類 ・ 一般重量シャッター ・ 外壁用防火シャッター ・ 屋内用防火シャッター ・ 防煙シャッター 耐風圧強度 (Pa以上) 開閉機能 ・ 上部電動式 (手動併用) ・ 上部手動式 一般重量シャッターのシャッターケース ・ 設ける ・ 設けない ・ めっき付着量 ・ Z12 ・ F12 ・ () 開閉形式 ・ 上部電動式 (手動併用) ・ 手動式 耐風圧強度 (Pa以上) スラットの材質及び形状 ・ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形 ・ めっき付着量 JIS G 3312 ・ Z06 ・ F06 ・ () JIS G 3322 ・ AZ90 ・ ()
(5.11.4)	スラットの材質及び形状 ・ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形 ・ めっき付着量 JIS G 3312 ・ Z06 ・ F06 ・ () JIS G 3322 ・ AZ90 ・ ()

17 オーバーヘッドドア (5.12.2)	型式及び機構 セクション材料 ・ スチールタイプ ・ アルミニウムタイプ ・ ファイバーグラスタイプ
	耐風圧強度 (Pa以上)
(5.12.3)	開閉方式 ・ バランス式 ・ チェーン式 ・ 電動式
	収納形式 ・ スタンダード形 ・ ローヘッド形 ・ ハイリフト形 ・ パーチカル形
⑧ 板ガラス (5.13.2) (a) (5.13.4)	ガイドレール ・ 溶融亜鉛めっき鋼板 ・ ステンレス鋼板
	① 図示
⑨ ガラス留め材 (5.13.2) (b)	① シーリング ・ ガasket ()
⑩ ガラス溝の寸法、形状等 (5.13.3)	① 図示 ・ 改修標準仕様書 (表5.13.1) による
21 ガラスブロック積み (5.13.5)	ガラスブロック 表面形状、寸法、厚さ ・ 図示 (図面番号:) 金属枠、補強材 ・ 図示 (図面番号:) 化粧カバー ・ 図示 (図面番号:) 工法 ・ 図示 (図面番号:) 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を施行計画書として提出する。

⑥ 内装改修工事	① 一般事項 (6.1.3) (b)	既存間仕切壁の撤去に伴う取り合い部分の改修範囲															
		<table><tr><td>改修部分</td><td>改 修 範 囲</td></tr><tr><td>○ 天井</td><td>図示 (図面番号: A-30)</td></tr><tr><td>○ 壁</td><td>図示 (図面番号: A-27～A-29)</td></tr><tr><td>○ 床</td><td>図示 (図面番号: A-26)</td></tr></table>	改修部分	改 修 範 囲	○ 天井	図示 (図面番号: A-30)	○ 壁	図示 (図面番号: A-27～A-29)	○ 床	図示 (図面番号: A-26)							
	改修部分	改 修 範 囲															
	○ 天井	図示 (図面番号: A-30)															
	○ 壁	図示 (図面番号: A-27～A-29)															
	○ 床	図示 (図面番号: A-26)															
	(6.1.3) (c)	天井内の既存壁の撤去に伴う取り合い部の天井改修範囲 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()															
		天井の撤去に伴う取り合い部の壁面改修 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()															
	② 既存床撤去、下地補修 (6.2.2) (a) (1)	既存床仕上げ材の除去等 浮き、欠損部等による下地モルタルの撤去 ① 行う ・ 行わない															
		(6.2.2) (a) (2)	合成樹脂塗料床材の除去等 ・ 機械的除去工法 ・ 目荒し工法														
(6.2.2) (c)	改修後の床の清掃範囲 ① 施工範囲及び施工によって汚れが生じた範囲 ・ ()																
	③ 既存壁撤去、下地補修 (6.3.2)	既存間仕切壁の撤去に伴う他の構造体の補修工法 ① (A-35、A-39) もの塗替え工法によるもの塗り															
④ 木下地等 (6.5.1) (c) (表6.5.1)	表面仕上げ ・ A 種 ・ B 種 ① C 種																
	(6.5.2) (a) (2) (表6.5.2)	木材の含水率 (工事現場搬入時、質量比) <table><tr><td>部材名称</td><td>種 別</td></tr><tr><td>下地材</td><td>① A 種 ・ B 種</td></tr><tr><td>造作材</td><td>① A 種 ・ B 種</td></tr></table>	部材名称	種 別	下地材	① A 種 ・ B 種	造作材	① A 種 ・ B 種									
部材名称	種 別																
下地材	① A 種 ・ B 種																
造作材	① A 種 ・ B 種																
(6.5.2) (b) (1)	製材 「製材の日本農林規格」による製材 <table><tr><td>部 位</td><td>樹 種 ・ 寸 法 ・ 形 状</td><td>等 級</td><td>含 水 率</td></tr><tr><td>下地用 針葉樹製材</td><td>① 図示 (図面番号: A-13、A-24、A-28、A-29)</td><td>① (2級)</td><td>・ ()</td></tr><tr><td>造作用 針葉樹製材</td><td>・ 図示 (図面番号:)</td><td>・ ()</td><td>・ ()</td></tr><tr><td>広葉樹製材</td><td>・ 図示 (図面番号:)</td><td>・ ()</td><td>・ ()</td></tr></table>	部 位	樹 種 ・ 寸 法 ・ 形 状	等 級	含 水 率	下地用 針葉樹製材	① 図示 (図面番号: A-13、A-24、A-28、A-29)	① (2級)	・ ()	造作用 針葉樹製材	・ 図示 (図面番号:)	・ ()	・ ()	広葉樹製材	・ 図示 (図面番号:)	・ ()	・ ()
	部 位	樹 種 ・ 寸 法 ・ 形 状	等 級	含 水 率													
下地用 針葉樹製材	① 図示 (図面番号: A-13、A-24、A-28、A-29)	① (2級)	・ ()														
造作用 針葉樹製材	・ 図示 (図面番号:)	・ ()	・ ()														
広葉樹製材	・ 図示 (図面番号:)	・ ()	・ ()														
(6.5.2) (b) (2) (6.5.2) (b) (3) (表6.5.3)	「製材の日本農林規格」以外の製材 樹種、寸法、材面の品質、防虫処理、難燃処理及び含水率 ・ 図示 (図面番号:) 造作材の材面の品質 ・ A 種 ・ () 樹種 <table><tr><td>部 位</td><td>樹 種</td><td>県 産 材</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table>	部 位	樹 種	県 産 材													
	部 位	樹 種	県 産 材														
(6.5.2) (b) (3)	代用樹種の使用 ① 禁止する ・ 禁止しない																
(6.5.2) (c) (i)	造作用集成材 「集成材の日本農林規格」による造作用集成材 <table><tr><td>部 位</td><td>樹 種 ・ 寸 法</td><td>見付け材面の等級</td><td>厚 さ</td></tr><tr><td>造作用集成材</td><td>① 図示 (図面番号: A-25)</td><td>① (1等)</td><td></td></tr><tr><td>化粧ばり造作用集成材</td><td>・ 図示 (図面番号:)</td><td>・ ()</td><td></td></tr><tr><td>化粧ばり構造用造作用集成柱</td><td>・ 図示 (図面番号:)</td><td></td><td>・ ()</td></tr></table>	部 位	樹 種 ・ 寸 法	見付け材面の等級	厚 さ	造作用集成材	① 図示 (図面番号: A-25)	① (1等)		化粧ばり造作用集成材	・ 図示 (図面番号:)	・ ()		化粧ばり構造用造作用集成柱	・ 図示 (図面番号:)		・ ()
部 位	樹 種 ・ 寸 法	見付け材面の等級	厚 さ														
造作用集成材	① 図示 (図面番号: A-25)	① (1等)															
化粧ばり造作用集成材	・ 図示 (図面番号:)	・ ()															
化粧ばり構造用造作用集成柱	・ 図示 (図面番号:)		・ ()														

8	つや有合成樹脂 エマルションペ イント塗り (EP-6) (7.9.2)～(7.9.5) (表7.9.1)～ (表7.9.4)	種別	下地	種別	・ A種 ・ B種 ・ C種 しみ止め ()	
			木部（屋内）	・ A種 ・ B種 ・ C種		
			鉄鋼面（屋内）	・ A種 ・ B種 ・ C種		
			亜鉛めっき鋼面（屋内）	・ A種 ・ B種 ・ C種		
			種別	・ A種 ・ B種 ・ C種 しみ止め ・ ()		
9	合成樹脂エマ ルションペイン ト塗り (EP) (7.10.2) (表7.10.1)	種別	・ A種 ・ B種 ・ C種			
10	合成樹脂エマ ルション模様塗 料塗り (EP-T) (7.11.2) (表7.11.1)	種別	・ A種 ・ B種 ・ C種			
11	ウレタン樹脂 ワニス塗り (UC) (7.12.2) (表7.12.1)	種別	・ A種 ・ B種			
12	ラッカーエナ メル塗り (LE) (7.13.2) (表7.13.1)	種別	・ A種 ・ B種			
13	木造保護塗料 塗り (WP) (7.15.2) (表7.15.1)	種別	・ A種 ・ B種			
8 の 1 耐震改修工事 共通事項	(一般事項) 1 適用範囲 (8.1.1) (8.1.2)	工事内容	・ 現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事 ・ 鉄骨プレースの設置工事 ・ 柱補強工事（溶接金網巻き工法又は溶接閉鎖フープ巻き工法） ・ 柱補強工事（鋼板巻き工法又は帯板巻き付け工法） ・ 柱補強工事（連続繊維補強工法） ・ 耐震スリット新設工事 ・ 免震改修・制震改修工事 ・ 土間コンクリート打設工事	工事種別	・ 鉄筋工事 ・ あと施工アンカー工事 ・ コンクリート工事 ・ 鉄骨工事 ・ グラウト工事 ・ 連続繊維補強工事 ・ スリット新設工事 ・ 免震改修、制震改修工事 ・ 基礎工事	
8 の 2 耐震改修工事 撤去工事	1 既存部分の撤去等 (8.21.2) (8.22.2) (8.23.2) (8.24.2) 2 既存構造体の撤去 (8.21.2) (8.22.2) (8.23.2) (8.24.2)	撤去の範囲	・ 図示（図面番号： A-16、A-22、A-25） ・ 新設のコンクリート、モルタル、グラウト材、鉄骨、連続繊維に接する部分 ・ 既存コンクリート撤去範囲に面する部分 ・（ ）	既存設備機器、配管撤去、新設、移設等処置 本工事の範囲	・ 本工事の範囲として図示された設備機器及び配管、壁類の撤去及び処分 ・ 設備機器及び配管、壁類の撤去及び処分は本工事の範囲としない。 ・（ ） 撤去範囲 ・ 図示（図面番号：（ ））	
		既存構造体の撤去 撤去範囲 ・ 図示（図面番号：（ ）） はつりだした鉄筋及び鉄骨の処置	既存鉄筋コンクリート内の鉄筋の切断			
			鉄筋の切断	範囲	適用	
			・ 既存鉄筋は切断せず残す	・ 図示（図面番号：（ ）） ・ 全ての撤去部分 ・（ ） ・ 適用なし		
			・ コンクリートの撤去範囲の周囲より一定長さを残し切断する	・ 図示（図面番号：（ ）） ・ 全ての撤去部分 ・（ ） ・ 適用なし		
			・ コンクリート撤去範囲の鉄筋は切断する	・ 切断せず残す範囲を除く撤去する既存鉄筋コンクリートの範囲 ・（ ）		
			はつりだした鉄筋の処置			
			・ 鉄筋に損傷を与えないよう適切な養生を施す。 ・（ ）			
			はつりだした鉄骨の処置			
			・ コンクリート等を除去し鉄面を表す。 ・（ ）			
	(既存部分の処理) 3 既存構造体コンクリートの表層目荒らし (8.21.3) (8.22.3) (8.23.3)	既存構造体コンクリート面の表層目荒らし 目荒らし程度				
			・ 平均深さ5～10mmで最大深さ15mm程度の凹凸を100mm間隔程度で施す ・ 図示（図面番号： A-30）			

⑧ の 3 耐 震 改 修 工 事 鉄 筋 工 事	① 鉄筋 (8.2.1) (表8.2.1)	材料 改修標準仕様書(表8.2.1)による <table><tr><th>種別</th><th>径(mm)</th></tr><tr><td>○ SD295A</td><td>D10、D13</td></tr><tr><td>・ SD345</td><td></td></tr><tr><td>・ SD390</td><td></td></tr><tr><td>・ ()</td><td></td></tr></table> <table><tr><th colspan="2">網目の形状、寸法及び鉄線の径</th></tr><tr><th>網目の形状、寸法</th><th>鉄線の径(mm)</th></tr><tr><td></td><td></td></tr></table> 90°未満の折曲げの内法直径 ・ 図示(図面番号:)	種別	径(mm)	○ SD295A	D10、D13	・ SD345		・ SD390		・ ()		網目の形状、寸法及び鉄線の径		網目の形状、寸法	鉄線の径(mm)			
	種別	径(mm)																	
	○ SD295A	D10、D13																	
	・ SD345																		
	・ SD390																		
	・ ()																		
	網目の形状、寸法及び鉄線の径																		
	網目の形状、寸法	鉄線の径(mm)																	
	2 溶接金網 (8.2.2)																		
3 加工 (8.3.2)																			
④ 鉄筋の継手及び定着 (8.3.4)	<table><tr><th></th><th>径</th><th>部位</th></tr><tr><td>重ね継手</td><td>○ D 16以下</td><td></td></tr><tr><td>ガス圧接</td><td>・ D 19以上</td><td></td></tr></table> 主筋及び耐力壁の重ね継手の長さ ・ 改修標準仕様書(8.3.4)(c)(1)による ・ 図示(図面番号:) 継手位置 ・ 各部配筋参考図による ・ 図示(図面番号:) 先組み工法等 ・ 柱・梁主筋の継手を同一箇所に設ける 鉄筋の定着長さ ・ 改修標準仕様書(表8.3.4)による ・ 図示(図面番号:) 帯筋組立の形 ・ 図示(図面番号:)		径	部位	重ね継手	○ D 16以下		ガス圧接	・ D 19以上										
	径	部位																	
重ね継手	○ D 16以下																		
ガス圧接	・ D 19以上																		
5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (8.3.5)	軽量コンクリートで土に接する部分 ・ 無し ・ 有り 適用箇所() 最小かぶり厚さ()mm 耐久性上不利な部分(塩害を受けるおそれのある部分等) ・ 無し ・ 有り 適用箇所() 最小かぶり厚さ()mm																		
6 各部配筋	・ 図示(図面番号:)																		
7 ガス圧接 (8.3.8)	圧接完了後の試験 超音波探傷試験 ・ 行う ・ 行わない																		
(現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事及び鉄骨プレースの設置工事等)	割裂補強筋の適用 <table><tr><th>種類</th><th>材料</th><th>材種</th><th>径</th><th>本数・ピッチ</th><th>適用箇所</th></tr><tr><td>・ スパイラル筋</td><td>・ 鉄筋コンクリート用棒鋼</td><td>・ R235 ・ ()</td><td>・ 6φ ・ 9φ ・ ()</td><td>スパイラルの径(mm) () スパイラルのピッチ(mm) ()</td><td>・ 図示(図面番号:)</td></tr><tr><td>・ はしご筋</td><td>・ 鉄筋コンクリート用棒鋼(異形鉄筋) ・ ()</td><td>・ 295A ・ ()</td><td>・ 10 ・ ()</td><td>壁内方向筋 () 壁面外方向筋 ()</td><td></td></tr></table>	種類	材料	材種	径	本数・ピッチ	適用箇所	・ スパイラル筋	・ 鉄筋コンクリート用棒鋼	・ R235 ・ ()	・ 6φ ・ 9φ ・ ()	スパイラルの径(mm) () スパイラルのピッチ(mm) ()	・ 図示(図面番号:)	・ はしご筋	・ 鉄筋コンクリート用棒鋼(異形鉄筋) ・ ()	・ 295A ・ ()	・ 10 ・ ()	壁内方向筋 () 壁面外方向筋 ()	
種類	材料	材種	径	本数・ピッチ	適用箇所														
・ スパイラル筋	・ 鉄筋コンクリート用棒鋼	・ R235 ・ ()	・ 6φ ・ 9φ ・ ()	スパイラルの径(mm) () スパイラルのピッチ(mm) ()	・ 図示(図面番号:)														
・ はしご筋	・ 鉄筋コンクリート用棒鋼(異形鉄筋) ・ ()	・ 295A ・ ()	・ 10 ・ ()	壁内方向筋 () 壁面外方向筋 ()															
8 割裂補強筋 (8.21.6) (8.22.7)																			
9 鉄筋の機械式継手及び溶接継手 (8.4.2) (8.4.3)	・ 機械式継手 種類 () 工法 () 修正方法 () 品質の確認方法 () 鉄筋相互のあき ()mm ・ 溶接継手 工法 () 修正方法 () 品質の確認方法 () 鉄筋相互のあき ()mm																		

⑧ の 4 耐 震 改 修 工 事 コ ン ク リ ー ト 工 事	(コンクリート工事一般事項) 1 コンクリートの種類及び強度 (8.1.3) (8.1.4) (8.9.1) (8.9.2) (表8.9.1)	コンクリートの種別 ○ I類 ・ II類 普通コンクリートの設計基準強度 <table><tr><th>設計基準強度F_c [N/mm²]</th><th>適用範囲</th><th>気乾単位容積質量</th><th>スランプ</th></tr><tr><td>○ 21</td><td>土間コンクリート</td><td>○ 2.3t/m³程度</td><td>○ 18</td></tr><tr><td>・ ()</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 軽量コンクリートの設計基準強度 <table><tr><th>設計基準強度F_c [N/mm²]</th><th>種別</th><th>適用範囲</th><th>気乾単位容積質量</th><th>所要気乾単位容積質量</th><th>スランプ</th></tr><tr><td>・ 36</td><td>・ 1類 ・ 2類</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ ()</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	設計基準強度F _c [N/mm ²]	適用範囲	気乾単位容積質量	スランプ	○ 21	土間コンクリート	○ 2.3t/m ³ 程度	○ 18	・ ()				設計基準強度F _c [N/mm ²]	種別	適用範囲	気乾単位容積質量	所要気乾単位容積質量	スランプ	・ 36	・ 1類 ・ 2類					・ ()					
	設計基準強度F _c [N/mm ²]	適用範囲	気乾単位容積質量	スランプ																												
	○ 21	土間コンクリート	○ 2.3t/m ³ 程度	○ 18																												
	・ ()																															
	設計基準強度F _c [N/mm ²]	種別	適用範囲	気乾単位容積質量	所要気乾単位容積質量	スランプ																										
	・ 36	・ 1類 ・ 2類																														
	・ ()																															
	② 構造体コンクリートの仕上り (8.1.4)	合板せき板を用いる場合の打放し仕上げの種別 ・ A種 ○ B種 ・ C種																														
	(コンクリート) ③ コンクリートの材料 (8.2.5) (表8.2.3)	セメントの種類 ○ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 ・ () ・ 高炉セメントB種又はフライアッシュセメントB種 適用箇所 ()																														

⑧ の 4 耐 震 改 修 工 事 コ ン ク リ ー ト 工 事	④ 混和材料 (8.2.5)	骨材 アルカリシリカ反応性による区分 ・ A L (コンクリート中のアルカリ総量を規制) ・ A (安全と認められる骨材を使用) なお、A Lで規制できない場合は、Aとし、その試験は、施工着手前、工事中1回／6ヶ月かつ産地が変わった場合に信頼 できる試験機関で行い、試験に用いる骨材の採取は、請負者立ち会いのもと、試験を行う者が生コン工場のストックヤード から試料を採取して試験を行うこと。 ・ 特殊な骨材の使用 ・ フェロニッケルスラグ細骨材 ・ 銅スラグ細骨材 ・ 電気炉酸化スラグ骨材 ・ 再生骨材H ・ 混和剤 混和剤の種類 ・ 改修標準仕様書(8.2.5)(d)(1)による ・ 図示 (図面番号:) ・ 混和材 混和材の種類 ・ 改修標準仕様書(8.2.5)(d)(2)による ・ 図示 (図面番号:)																					
	5 調合管理強度 (8.2.5) (8.8.3) (8.10.2)	構造体強度補正值 (S) ※建物内部の土間コンクリートに適用 ・ 3N/mm ² ・ 6N/mm ² ・ (12/1月～2/25)に打設がある場合は6N/mm ² とする)																					
	⑥ 型枠 (8.2.7) (8.7.8)	材料 ・ 複合合板 (厚さ 12mm ・ ()) スリーブ ・ 改修標準仕様書(8.2.7)(g)(2)(i)による ・ 改修標準仕様書(8.2.7)(g)(2)(ii)による ・ 材種 () 規格 ()																					
⑧ の 4 耐 震 改 修 工 事 コ ン ク リ ー ト 工 事	7 暑中コンクリ ート (8.10.2)	構造体強度補正值 (S) ・ 6N/mm ² ・ ()																					
	⑧ 無筋コンクリ ート (8.11.1)	設計基準強度F _{ck} ※捨てコンクリート ・ 18N/mm ² ・ () スランプ ・ 15cm ・ 18cm ・ ()																					
	(現場打ち鉄筋コン クリート壁の増設工事 、溶接金網巻き工法 及び溶接閉鎖フープ 巻き工法) 9 コンクリートの 打込み工法等 (8.21.8) (8.23.5)	部位別のコンクリートの打設工法の指定 <table><tr><th>補強工法</th><th>打設工法</th><th>部位</th></tr><tr><td rowspan="3">現場打ち鉄筋コンクリート壁 の増設工事</td><td>・ 流込み工法 改修標準仕様書(8.21.8)(a)(1)及び(b)</td><td>・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()</td></tr><tr><td>・ 圧入工法 改修標準仕様書(8.21.8)(a)(2)及び(c)</td><td>・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()</td></tr><tr><td>・ 工法指定なし</td><td>・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()</td></tr><tr><td rowspan="3">鉄筋コンクリート柱の溶接金 網巻き工法及び溶接閉鎖フ ープ巻き工法</td><td>・ 流込み工法 改修標準仕様書(8.21.8)(a)(1)及び(b)</td><td>・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()</td></tr><tr><td>・ 圧入工法 改修標準仕様書(8.21.8)(a)(2)及び(c)</td><td>・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()</td></tr><tr><td>・ 工法指定なし</td><td>・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()</td></tr><tr><td rowspan="2">⑧ の 4 耐 震 改 修 工 事 コ ン ク リ ー ト 工 事</td><td>(8.23.6)</td><td>柱頭柱脚の隙間部間の型枠 ・ 発泡プラスチック保温材等を埋込む ・ () 柱頭柱脚の隙間寸法 ・ 図示 (図面番号:) 打ち込みコンクリート又はグラウト材の厚さ ・ 図示 (図面番号:) ・ 60mm ・ () ・ 図示 (図面番号:)</td></tr><tr><td>10 増設壁工事後の 仕上げ (8.21.10) (8.23.7)</td><td></td></tr></table>	補強工法	打設工法	部位	現場打ち鉄筋コンクリート壁 の増設工事	・ 流込み工法 改修標準仕様書(8.21.8)(a)(1)及び(b)	・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()	・ 圧入工法 改修標準仕様書(8.21.8)(a)(2)及び(c)	・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()	・ 工法指定なし	・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()	鉄筋コンクリート柱の溶接金 網巻き工法及び溶接閉鎖フ ープ巻き工法	・ 流込み工法 改修標準仕様書(8.21.8)(a)(1)及び(b)	・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()	・ 圧入工法 改修標準仕様書(8.21.8)(a)(2)及び(c)	・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()	・ 工法指定なし	・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()	⑧ の 4 耐 震 改 修 工 事 コ ン ク リ ー ト 工 事	(8.23.6)	柱頭柱脚の隙間部間の型枠 ・ 発泡プラスチック保温材等を埋込む ・ () 柱頭柱脚の隙間寸法 ・ 図示 (図面番号:) 打ち込みコンクリート又はグラウト材の厚さ ・ 図示 (図面番号:) ・ 60mm ・ () ・ 図示 (図面番号:)	10 増設壁工事後の 仕上げ (8.21.10) (8.23.7)
補強工法	打設工法	部位																					
現場打ち鉄筋コンクリート壁 の増設工事	・ 流込み工法 改修標準仕様書(8.21.8)(a)(1)及び(b)	・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()																					
	・ 圧入工法 改修標準仕様書(8.21.8)(a)(2)及び(c)	・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()																					
	・ 工法指定なし	・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()																					
鉄筋コンクリート柱の溶接金 網巻き工法及び溶接閉鎖フ ープ巻き工法	・ 流込み工法 改修標準仕様書(8.21.8)(a)(1)及び(b)	・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()																					
	・ 圧入工法 改修標準仕様書(8.21.8)(a)(2)及び(c)	・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()																					
	・ 工法指定なし	・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()																					
⑧ の 4 耐 震 改 修 工 事 コ ン ク リ ー ト 工 事	(8.23.6)	柱頭柱脚の隙間部間の型枠 ・ 発泡プラスチック保温材等を埋込む ・ () 柱頭柱脚の隙間寸法 ・ 図示 (図面番号:) 打ち込みコンクリート又はグラウト材の厚さ ・ 図示 (図面番号:) ・ 60mm ・ () ・ 図示 (図面番号:)																					
	10 増設壁工事後の 仕上げ (8.21.10) (8.23.7)																						

<div> <div>⑧</div> <div>の</div> <div>5</div> </div> <div>耐震改修工事</div> <div>あと施工アンカー工事</div>	<div> <div>(あと施工アンカー)</div> <div>①</div> <div>あと施工アンカーの材料</div> <div>(8. 2. 4)</div> <div>(表8. 2. 2)</div> </div>	<div> <div>種類</div> <div> <div> <div>金属系</div> <div>セットの方式</div> <div>本体打込み式</div> <div>改良型</div> <div>従来型</div> </div> <div> <div>径及び埋込み深さ</div> <div>引張耐力</div> <div>せん断耐力</div> <div>接合筋の種類・径・長さ</div> </div> </div> <div> <div> <div> <div>・</div> <div>接着系</div> <div>カプセル型回転</div> <div>・</div> <div>打撃式</div> <div>・</div> <div>有機系</div> <div>・</div> <div>無機系</div> </div> <div> <div>径及び埋込み深さ</div> <div>・</div> <div>図示</div> <div>(図面番号:)</div> </div> <div> <div>引張耐力</div> <div>・</div> <div>図示</div> <div>(図面番号:)</div> </div> <div> <div>せん断耐力</div> <div>・</div> <div>図示</div> <div>(図面番号:)</div> </div> <div> <div>アンカー筋の種類</div> <div>・</div> <div>図示</div> <div>(図面番号:)</div> </div> <div> <div>アンカー筋の新設壁内への定着長さ</div> <div>・</div> <div>図示</div> <div>(図面番号:)</div> </div> </div> <div> <div>あと施工アンカーの性能確認試験</div> <div>・</div> <div>行う</div> <div> <div> <div>○</div> <div>行わない</div> </div> </div> </div> </div></div>
	<div> <div>②</div> <div>あと施工アンカーの施工</div> <div>(8. 12. 2)</div> <div>(8. 12. 4)</div> <div>(8. 12. 5)</div> </div>	<div> <div>穿孔</div> <div> <div>埋込み配管等の探索の方法</div> <div>・</div> <div>鉄筋探知機(金属探知機)により検査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。</div> <div>・</div> <div>はつり出しによる。</div> <div>・</div> <div>()</div> </div> <div> <div>あと施工アンカーの施工確認試験</div> <div>・</div> <div>実施する</div> <div> <div> <div>○</div> <div>実施しない</div> </div> </div> <div> <div>確認試験方法</div> <div>・</div> <div>改修標準仕様書(8. 11. 5)による</div> <div>・</div> <div>()</div> </div> <div> <div>確認強度</div> <div>・</div> <div>()</div> </div> </div> </div>
	<div> <div>(場所打ちコンクリート壁の増設工事)</div> <div>3</div> <div>シアコネクタ</div> </div>	<div> <div>場所打ちコンクリート壁の打増部に用いる既存部とのシアコネクタ</div> <div>種類</div> <div>・</div> <div>金属系あと施工アンカーの異形差筋アンカー</div> <div>・</div> <div>接着系あと施工アンカーの異形差筋アンカー</div> <div>径[mm]</div> <div>・</div> <div>D 1 0</div> <div>長さ[mm]</div> <div>・</div> <div>増打壁厚－4 0</div> <div>・</div> <div>()</div> <div>彫込み深さ[mm]</div> <div>・</div> <div>5 d (d: シアコネクタの径)以上</div> <div>・</div> <div>()</div> <div>間隔[mm]</div> <div>・</div> <div>5 0 0 × 5 0 0</div> </div> <div> <div>シアコネクタとセパレーターの兼用</div> <div>・</div> <div>兼用してもよい</div> <div>・</div> <div>兼用しない</div> <div>・</div> <div>()</div> </div>
<div> <div>8</div> <div>の</div> <div>6</div> </div> <div>耐震改修工事</div> <div>鉄骨工事</div>	<div> <div>1</div> <div>鉄骨製作工場</div> <div>(8. 1. 5)</div> </div> <div> <div>2</div> <div>施工管理技術者</div> <div>(8. 1. 5)</div> </div> <div> <div>3</div> <div>鋼材</div> <div>(8. 2. 8)</div> </div> <div> <div>4</div> <div>高力ボルト</div> <div>(8. 2. 9)</div> <div>(8. 14. 2)</div> <div>(8. 14. 7)</div> </div> <div> <div>5</div> <div>仮組</div> <div>(8. 13. 10)</div> </div> <div> <div>6</div> <div>技能資格者</div> <div>(8. 15. 3)</div> </div> <div> <div>7</div> <div>溶接部の試験</div> <div>(8. 15. 11)</div> </div> <div> <div>8</div> <div>溶接材料</div> <div>(8. 2. 10)</div> </div> <div> <div>9</div> <div>溶接接合</div> <div>(8. 15. 4)</div> <div>(8. 15. 7)</div> </div> <div> <div>1 0</div> <div>錆止め塗装</div> <div>(8. 17. 3)</div> </div>	<div> <div> <div>㈱日本鉄骨評価センター又は㈱全国鉄骨評価機構の「鉄骨製作工事の性能評価基準」に定めるグレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場</div> <div>・</div> <div>J</div> <div>・</div> <div>R</div> <div>・</div> <div>M</div> <div>・</div> <div>H</div> <div>・</div> <div>S</div> </div> <div> <div>施工管理技術者(鉄骨製作管理技術者、鉄骨工事管理責任者等)の適用</div> <div>・</div> <div>しない</div> <div>・</div> <div>する</div> </div> <div> <div>材質・形状及び寸法</div> <div>・</div> <div>図示</div> <div>(図面番号:)</div> </div> <div> <div>高力ボルトの適用</div> <div>・</div> <div>トルシア形高力ボルト 2 種 (S10T)</div> <div>・</div> <div>JIS形高力ボルト 2 種 (F10T)</div> <div>・</div> <div>熔融亜鉛めっき高力ボルト 1 種 (F8T相当)</div> </div> <div> <div>高力ボルトの径</div> <div>・</div> <div>図示</div> <div>(図面番号:)</div> </div> <div> <div>すべり係数試験</div> <div>・</div> <div>行う</div> </div> <div> <div>試験方法等</div> <div>・</div> <div>図示</div> <div>(図面番号:)</div> </div> <div> <div>JIS形・ナット回転法かつボルト長がねじの5倍を超える場合の回転量</div> <div>・</div> <div>()</div> </div> <div> <div>仮組の実施</div> <div>・</div> <div>実施する</div> <div>()</div> <div>・</div> <div>実施しない</div> </div> <div> <div>溶接作業における技能資格者の技量付加試験</div> <div>・</div> <div>実施する</div> <div>()</div> <div>・</div> <div>実施しない</div> </div> <div> <div>完全溶込み溶接部の超音波探傷試験</div> <div>工場溶接の場合</div> <div>・</div> <div>全数試験とする</div> <div>・</div> <div>公共建築工事標準仕様書(平成28年版)(7. 6. 11)(b)による。</div> <div>平均出検品質限界(AOQL)</div> <div>・</div> <div>4. 0%</div> <div>・</div> <div>2. 5%</div> <div>・</div> <div>()</div> <div>検査水準</div> <div>・</div> <div>第 6 水準</div> <div>・</div> <div>()</div> <div>ロットの構成</div> <div>()</div> </div> <div> <div>工事現場溶接の場合</div> <div>・</div> <div>全数試験とする</div> <div>・</div> <div>公共建築工事標準仕様書(平成28年版)(7. 6. 11)(b)による。</div> <div>平均出検品質限界(AOQL)</div> <div>・</div> <div>4. 0%</div> <div>・</div> <div>()</div> </div> <div> <div>改修標準仕様書(8. 2. 10)(a)(b)以外の溶接材料</div> <div>材料及び使用箇所</div> <div>・</div> <div>図示</div> <div>(図面番号:)</div> </div> <div> <div>開先の形状</div> <div>・</div> <div>図示</div> <div>(図面番号:)</div> <div>スカーラップの形状</div> <div>・</div> <div>図示</div> <div>(図面番号:)</div> </div> <div> <div>鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面(鉄骨に溶接されたものに限る)</div> <div>・</div> <div>改修標準仕様書(7. 3. 2)(表7. 3. 1)</div> <div>()</div> <div>種</div> </div> <div> <div>耐久被覆材の接着する面への塗装</div> <div>・</div> <div>行う</div> <div>・</div> <div>行わない</div> </div> <div> <div>適用箇所</div> <div>図示</div> <div>(図面番号:)</div> </div> <div> <div>種類</div> <div>・</div> <div>改修標準仕様書(7. 3. 2)(表7. 3. 1)</div> <div>()</div> <div>種</div> </div> </div>

	1 1 耐火被覆材の種類及び性能 (8. 18. 2) (8. 18. 3)									
	1 2 プレース設置 工事後の仕上げ	・ 図示（図面番号： ）								
8 の 7 耐震改修工事 グラウト工事	（グラウト工事） 1 モルタル及びグラウト材 (8. 2. 6) (8. 2. 11) (表8. 2. 5) (表8. 2. 10)	構造体用モルタル <ul style="list-style-type: none"> 改修標準仕様書（8. 2. 6）及び（8. 2. 11）による。 無収縮モルタル <ul style="list-style-type: none"> 改修標準仕様書（8. 2. 11）(a)による （ ） グラウト材 <ul style="list-style-type: none"> 改修標準仕様書（8. 2. 11）(b)による。 								
	（現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事及び鉄骨プレースの設置工事等） 2 既存構造体との取合部の処理方法 (8. 21. 9) (8. 22. 7)	増設の現場打ち鉄筋コンクリート壁と既存構造体との隙間の処置方法 <table> <tr> <th>部位</th><th>処理方法</th><th>備考</th></tr> <tr> <td>・ 増設壁の上部</td><td>・ グラウト材を注入</td><td>・ 寸法は図示による</td></tr> <tr> <td>・ （ ）</td><td>・ （ ）</td><td>・ （ ）</td></tr> </table>	部位	処理方法	備考	・ 増設壁の上部	・ グラウト材を注入	・ 寸法は図示による	・ （ ）	・ （ ）
部位	処理方法	備考								
・ 増設壁の上部	・ グラウト材を注入	・ 寸法は図示による								
・ （ ）	・ （ ）	・ （ ）								
8 の 8 耐震改修工事 柱補強工事	（連続繊維補強工事） 1 連続繊維シート等による工法 (8. 24. 1)	連続繊維による補強、補修工法 <ul style="list-style-type: none"> （財）日本建築防災協会の評価を受けた工法とする。 （ ） 								
	2 連続繊維シート及び含浸接着樹脂等の材料 (8. 23. 6)	連続繊維の材料 <ul style="list-style-type: none"> （ ） 工法 <ul style="list-style-type: none"> （ ） 引張強度（含浸硬化後） <ul style="list-style-type: none"> （ ） ヤング係数（含浸硬化後） <ul style="list-style-type: none"> （ ） 								
	3 連続繊維シートの施工準備	仕上げモルタルの除去 <ul style="list-style-type: none"> 既存構造躯体面まで除去する モルタル除去は行わない （ ） 既存モルタルの圧縮強度測定 <ul style="list-style-type: none"> 行う（ ） 行わない ひび割れ部の改修工法 <ul style="list-style-type: none"> 樹脂注入工法 Ｕカットシール材充填工法 シール工法 								
	4 鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法 (8. 23. 6)	柱頭柱脚の隙間寸法 <ul style="list-style-type: none"> 図示（図面番号： ） 								
	5 耐震補強後の仕上げ (8. 23. 7) (8. 24. 5)	<ul style="list-style-type: none"> 図示（図面番号： ） 								
	6 炭素繊維シートの施工	炭素繊維の目付量 <ul style="list-style-type: none"> 図示（図面番号： ） 200g/m2 300g/m2 （ ） 炭素繊維シートの巻き数 <ul style="list-style-type: none"> 図示（図面番号： ） 1巻き 2巻き （ ） 								
	7 連続繊維補強材の強度試験 (8. 24. 4)	引張強度試験 <ul style="list-style-type: none"> 実施する（JIS A1191に準拠する）試験数量（ ） 実施しない 								

8
の
9

耐震補強工事

スリット新設工事

免震改修工事

(耐震スリット新設工事)

スリットの種類
(8. 25. 1)
(8. 25. 2)

付着強度試験

・ 実施する (JIS A6909に準拠する)
試験数量 ()
・ 実施しない

耐震スリットの種類及び形状

完全スリットの形状

	一般型	一面せん断型	
記号			
形状	・ 図示 (図面番号 :)	・ 図示 (図面番号 :)	
幅W (mm)	・ 図示 (図面番号 :) ・ ()	・ 図示 (図面番号 :) ・ ()	
既存鉄筋の処理	・ 既存鉄筋はつり出し ・ 切断してよい ・ ()	・ 切断してよい ・ ()	

部分スリットの形状

	片側スリット	両面スリット	
記号			
形状	・ 図示 (図面番号 :)	・ 図示 (図面番号 :)	
幅W (mm)	・ 図示 (図面番号 :) ・ ()	・ 図示 (図面番号 :) ・ ()	
目地の残存厚さ	・ 壁厚の1/2以下かつ70mm以下	・ 壁厚の1/2以下かつ70mm以下	
ts (mm)	・ ()	・ ()	
既存鉄筋の処理	・ 存置する ・ 既存鉄筋はつり出し ・ 切断してよい ・ ()	・ 存置する ・ 切断してよい	

スリット部の配管等の調査

範囲

・ スリット新設部に伴う鉄筋コンクリートの撤去範囲全て。
・ 図示 (図面番号 :)
・ ()

方法

・ 鉄筋探査機 (金属探知器) により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。

スリットの逃げ位置

壁上端部

・ 梁との接合部

・ ()

壁の柱きわ部

・ 柱の仕上げを逃けたきわ部

・ ()

壁下端部

・ 床仕上げ上部

・ 床体上部

・ ()

撤去部の補修

・ 図示 (図面番号 :)

充填材

・ 耐火材 使用箇所 () 仕様 ()
・ 遮音材 使用箇所 () 仕様 ()

(8. 26. 1) ~
(8. 26. 17)

免震改修、制震改修に関する仕様は、図示する。

8
の
10

その他工事

1 基礎工事
(8. 28. 2)
(8. 28. 3)

既存杭の撤去

・ 図示 (図面番号 :)

埋戻し及び盛土の材料及び工法

・ A種

・ B種

・ C種

・ D種

建設発生土の処理

・ 自由処分

・ 処分地指定 処分地 ()

・ 処分地未定につき相互協議する。暫定運搬距離 8km

山留めの撤去

・ 撤去

・ 存置

2 地業工事
(8. 28. 4)

杭の施工監理

杭工事特記仕様書による。

適用基準

本特記事項に個別に記載の適用基準に加え、以下の基準を適用する。
国土交通省告示第468号 「基礎ぐい工事の適正な施工を確保するために講ずべき措置」 (平成28年3月4日)

施工記録

受注者は、杭の施工期間中は、1 週間ごとに、その週に施工した杭の施工記録を取りまとめ、翌週以内に監督員に、工事打合せ簿を添付したうえで提出し、確認を受けること。また電流値が記録されたチャート紙等の原本を合わせて提示し、必ず監督員の確認を受けること。
なお、取得すべき施工記録が取得できない場合に、当該施工記録に代替する記録を確保するための手法については、施工計画書に明記しておくこと。

根拠資料

共通仕様書、特記仕様書及びその他基準書等の定めにより作成した施工管理資料の根拠となる資料 (施工記録の原本、チャート紙、電子的な記録やプリントアウト紙等) は、受注者において全て適切に管理し、保管しなければならない。
保管期間は契約書第3 1 条第4 項又は第5 項 (第3 8 条においてこれらの規定を準用する場合を含む。) の規定による引渡しを受けた日から1 0 年とする。
また、発注者から請求があった場合は、速やかにこれらを提出または提示しなければならない。

試験杭及び試験掘

・ 試験杭 位置、本数及び寸法は図示 (図面番号 :) による。
・ 試験掘 位置、本数及び寸法は図示 (図面番号 :) による。

杭の支持地盤

支持地盤の位置、種類

・ 図示 (図面番号 :)

・ ()

水平方向のずれ
() mm以下

杭の載荷試験

試験方法

・ 鉛直載荷

・ 水平載荷

・ ()

試験の方法及び報告書の記載は、敷地調査共通仕様書による。

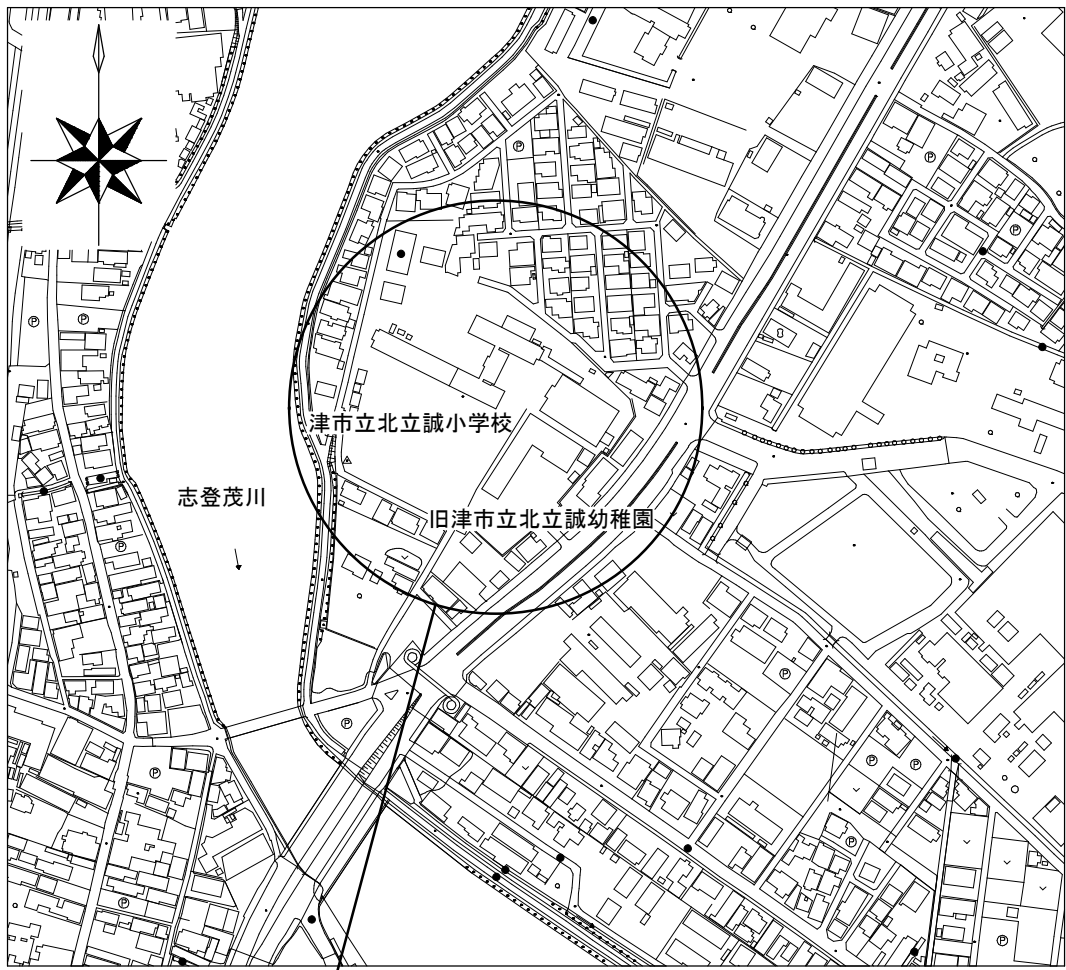
位置

・ 図示 (図面番号 :)

・ 載荷荷重 (kN)

報告書

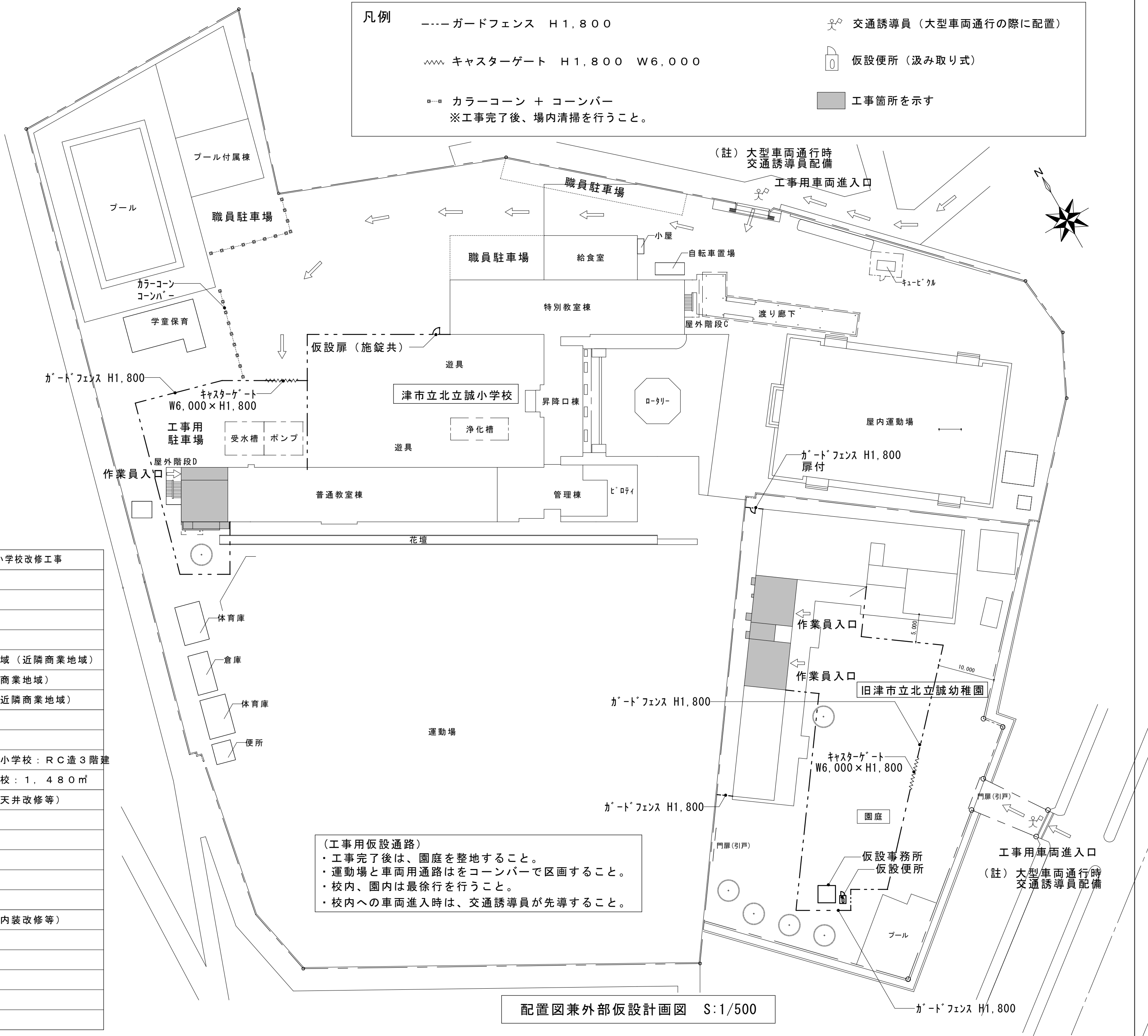
・ 提出部数 2部



附近見取図

工事概要

工事名称	北立誠地区放課後児童クラブ整備に伴う旧津市立北立誠幼稚園及び津市立北立誠小学校改修工事	
敷地概要	工事場所	津市 江戸橋一丁目 地内
	敷地面積	3,356㎡
	都市計画区域	市街化区域
	用途地域	第一種中高層住居専用地域、近隣商業地域
	防火地域	22条区域（第一種中高層住居専用地域）、準防火地域（近隣商業地域）
	指定建ぺい率	60％（第一種中高層住居専用地域）、80％（近隣商業地域）
建物概要	指定容積率	200％（第一種中高層住居専用地域）、200％（近隣商業地域）
	建物用途	幼稚園・小学校
	工事の種別	改修工事
	構造	旧津市立北立誠幼稚園：RC造平屋建、津市立北立誠小学校：RC造3階建
改修概要	延面積	旧津市立北立誠幼稚園：765㎡、津市立北立誠小学校：1,480㎡
	津市立北立誠幼稚園	a 保育室Ⅰ、Ⅱを放課後児童クラブへ改修（内装改修、天井改修等）
		b 便所Ⅰの洋便器化、全面改修
	津市立北立誠小学校	a コミュニティールームを普通教室に改修（建具改修、内装改修等）
		b 廊下に掲示板、ヘルメット用フックの設置
		c 外部スロープ改修



特記事項

イズマイ建築設計

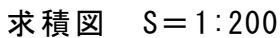
一級建築士事務所 三重県知事登録 第 1-2236 号
〒514-0041 三重県津市八町3丁目6-3増栄ビル200号

設計
一級建築士
第299733号
中西 修二

年月日
縮尺
1/500

工事名称
北立誠地区放課後児童クラブ整備に伴う
旧津市立北立誠幼稚園及び津市立北立誠小学校改修工事
図面名
附近見取図・工事概要・配置図兼外部仮設計画図

図面番号
A-07
原図：A 2

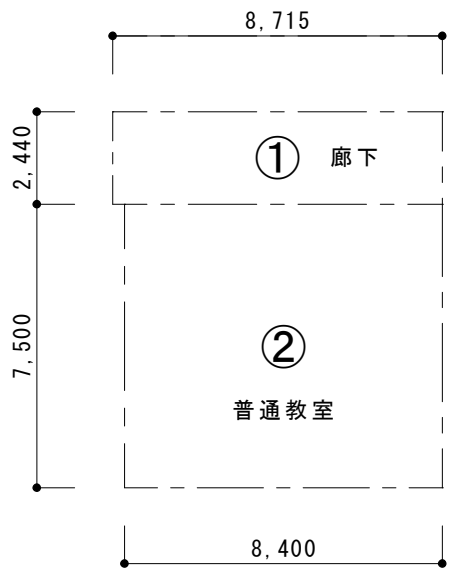


放課後児童クラブ				
犬走り (設備機器用基礎)	室外機置場	: 土間コンクリート D 1 0 @ 2 0 0	直均し 1 3 0 0 × 6 0 0	2 カ所 新設 (A-22参照)
	プロパンガス置場: 土間コンクリート D 1 0 @ 2 0 0		直均し 1 3 0 0 × 9 0 0	1 カ所 新設 (A-22参照)
	(L P ガス容器収納庫 5 0 キロ容器 2 本用対応サイズとする)			
	ガス給湯器置場	: 土間コンクリート D 1 0 @ 2 0 0	直均し 5 0 0 × 3 0 0	1 カ所 新設 (A-22参照)

内部仕上表

施設名	室名			床	巾木	壁	天井	廻り縁	天井高	備考			
放課後児童クラブ	保育室Ⅰ	改修前	下地	根太：桧45×45@303 飼いモルタルt30 土間コンクリートt120、砕石t100	一部撤去 一部撤去 既設のまま	米桐 H＝100 OP塗装	壁：モルタル金こて 既設のまま	LGS 既設のまま	塩ビ見切縁 一部撤去	【勾配天井】 2830 ～ 3510	ロッカー カーテンレール 室名札 壁付スピーカー・感知器（設備工事）	一部撤去 一部撤去 撤去 撤去	
			仕上	ナラフローリングt15 塗装品	一部撤去	既設のまま	V P 塗装	化粧P b t 9mm貼り			一部撤去		
	児童クラブⅠ	改修後	下地	耐水合板t15 根太：桧45×45@303（WP塗装塗） 大引き：米桐90×30@300 土間コンクリートt120、砕石t100	新設 新設 新設 既設のまま		LGS90下地 新設	LGS カーテンレール用LGS19形下地補強 新設	塩ビ見切縁 新設	既設のまま	病院用カーテンレール 面台 静養スペース（置コーナー） システムキッチンL2400 ステンレス流し台L1100 横型ブラインドW1400×H1950 2カ所 自動火災報知器（設備工事） 壁付扇（設備工事） 感知器（設備工事）	新設（A-24参照） 新設（A-23参照） 新設（A-23参照） 新設（A-24参照） 新設（A-24参照） 新設 新設 新設	
			仕上	ビニル床シートt2.5mm貼り	新設	ビニル巾木 H＝100 一部新設	シージングP b t 12.5＋メラミン化粧板t3.0貼り シージングP b t 12.5＋ビニルクロス張り（不燃）	新設 新設			化粧P b t 9.5mm貼り 病院用カーテンレール	新設 新設	
	便所Ⅰ	改修前	下地	土間コンクリートt120、砕石t100 タイル下モルタル下地t40	一部撤去 一部撤去	半磁器質 100角 タイル張り 一部撤去	腰：H＝1200 モルタルt25（面台部：CBt100共） 壁：モルタル金こてt25 腰：H＝1200 半磁器質100角タイル張り 壁：V P 塗装 腰：半磁器質100角タイル張り）	面台部撤去 既設のまま 面台部撤去 一部部撤去	LGS19型 一部撤去	塩ビ見切縁 一部撤去	2400 2450	トイレブース 洋便器・和便器（設備工事） 掃除具入（通気管共） 手洗い：人研大理石 化粧鏡4カ所	撤去 撤去 既設のまま 既設のまま 既設のまま
			仕上	磁器質25角モザイクタイル張り 框：人研大理石55×55×2900	一部撤去 既設のまま			大平板t5mm目透し貼りV P 塗装	一部撤去				
		改修後	下地	土間コンクリートt120 モルタル金こて下地t30 ポリエチレンフィルムt0.15、砕石t170	新設 新設 新設	ビニル巾木 H＝100 新設	腰：H＝1175 モルタル金こて 壁：モルタル金こてt25 LGS65下地 LGS100下地	新設 既設のまま 新設 新設	LGS19型 新設	塩ビ見切縁 新設	2400	洗濯パン（設備工事） 洋便器・小便器（設備工事） 手摺（設備工事） 掃除具入 ビクトサイン（平付型）	新設 新設 新設 塗替（A-25参照） 新設（A-25参照）
			仕上	合成樹脂塗り床仕上	新設		腰：H＝1175 NAD塗装 シージングP b t 12.5＋メラミン化粧板t3.0貼り 壁：下地調整の上、NAD塗替 シージングP b t 12.5＋珪酸カルシウム板t6の上、NAD塗装 新設間仕切LGS65壁内：グラスウールt50 24k充填	新設 新設 塗替 新設 新設	珪酸カルシウムt5mm目透し貼りNAD塗装 天井裏：グラスウールt50 24k敷込み 大平板t5mm目透し貼り下地調整の上、NAD塗替				
	保育室Ⅱ	改修前	下地	根太：桧45×45@303（クレオソート塗） 飼いモルタルt30 土間コンクリートt120、砕石t100		米桐 H＝100 OP塗装	壁：モルタル金こて 既設のまま	LGS 既設のまま	塩ビ見切縁 一部撤去	【勾配天井】 2830 ～ 3510	ロッカー 平面黒板 掲示板 カーテンレール 室名札 壁付スピーカー・感知器（設備工事）	既設のまま 既設のまま 既設のまま 撤去 撤去	
			仕上	ナラフローリングt15 塗装品		V P 塗装	化粧P b t 9mm貼り	一部撤去					
児童クラブⅡ	改修後	下地	既設のまま		既設のまま	既設のまま	LGS 既設のまま 新設	塩ビ見切縁 新設	既設のまま	壁付扇（設備工事） 感知器（設備工事）	新設 新設		
		仕上	既設のまま		既設のまま	化粧P b t 9.5mm貼り	一部新設 新設						

特記事項	塗装凡例			イズマイ建築設計 一級建築士事務所 三重県知事登録 第 1-2236 号 〒514-0041 三重県津市八町3丁目6-3増栄ビル200号	設 計 一級建築士 第299733号 中西 修二	年月日	工事名称	図面番号 A-08 原図: A
	U C : ウレタン樹脂ワニス	N A D : アクリル樹脂系非水分散形塗料	W P : 木材保護塗料			縮 尺 1/200	図 面 名 放課後児童クラブ 求積図・仕上表	
	O P : 油性調合塗料	S O P : 合成樹脂調合塗料						
	V P : 塩化ビニル樹脂系塗料	C L : クリヤーラッカー						



① 2.44 × 8.715 = 21.26

② 7.50 × 8.40 = 63.00

計 84.26

普通教室・廊下

延床面積 84.26㎡

求積図 S=1:200

外部仕上表

スロープ		(A-33参照)
改修前	床 : 磁器質100角タイル(防滑タイプ共)張り、モルタル下地 t 4 0	撤去
	排水溝 : モルタル金こて t 2 0	撤去
	立上り : モルタル金こて、V P 塗装	既設のまま
	笠木 : モルタル金こて t 2 0	既設のまま
	手すり : S U S 製 3 4 φ	既設のまま
改修後	床 : 磁器質100角タイル(一部防滑タイル)張り、モルタル下地 t 4 0	新設
	排水溝 : モルタル金こて t 2 0	新設
	立上り : モルタル金こて、V P 塗装	既設のまま
	笠木 : モルタル金こて t 2 0	既設のまま
	手すり : S U S 製 3 4 φ	既設のまま

内部仕上表

施設名	室 名			床	巾 木	壁	天 井	廻り縁	天井高	備 考			
普通教室	コミュニティールーム	改 修 前	下 地	土間コンクリート t 1 2 0、砕石 t 1 2 0 下地モルタル t 1 5・t 3 0	既設のまま 一部撤去	木製 H = 1 0 0 S O P 塗装 一部撤去	L G S 6 5 下地 壁 : P b t 1 2 . 5	撤去 一部撤去	L G S (梁型共) 既設のまま	アルミ見切縁 既設のまま	2 9 8 5	平面黒板 ブラインド・カーテンレール 流し台 貯湯湯沸器 (設備工事) インターホン (設備工事) 壁付スピーカー (設備工事) 壁掛時計	撤去 撤去 撤去 撤去 一時取外し 一時取外し 一時取外し
			仕 上	ブナモザイクパーケット t 1 5 塗装品 段差解消 框 : 堅木 t 3 0 張り L 2 1 0 0	一部撤去 2カ所撤去		半磁器質 1 0 0 角タイル貼り (木製見切縁共) ビニルクロス貼り 鋼製スクールパーティション	撤去 全面撤去 撤去	P b t 9 . 5 mm 目透し張りの上、E P 塗装 有孔 P b t 9 . 5 mm 目透し張りの上、E P 塗装 ビニルクロス貼り (梁型)	既設のまま 既設のまま 撤去		塩ビ見切縁 (パーティション取合) 撤去	
	普通教室	改 修 後	下 地	下地モルタル t 1 5・t 3 0	新設	木製 H = 1 0 0 下地調整の上 S O P 塗替	壁 : P b t 1 2 . 5 間仕切壁 (天井裏) : 強化 P b t 2 1 . 0 (二重張り) 片面	新設 新設	L G S (梁型共) 既設のまま		既設のまま	曲面黒板 S U S 製カーテンレール・暗幕用カーテンレール 背面黒板 掃除用具入 壁掛扇風機 (設備工事) 換気扇 (設備工事) インターホン (設備工事) 壁付スピーカー (設備工事) 壁掛時計 掲示板	新設 (A-32参照) 新設 新設 (A-32参照) 新設 (A-32参照) 新設 新設 再取付 再取付 再取付 新設
			仕 上	ナラフローリングブロック t 1 5 U C 塗装 段差解消 框 : 堅木 t 3 0 張り L 2 2 0 0 U C 塗装 既設モザイクパーケット 研磨 3 回の上、U C 塗替 一部 埋木補修	新設 2カ所新設	木製 H = 1 0 0 S O P 塗装 新設	ビニルクロス張り 鋼製スクールパーティション (鋼製額縁共)	新設 新設	P b t 9 . 5 mm 張り下地調整の上、N A D 塗替 有孔 P b t 9 . 5 mm 張り下地調整の上、N A D 塗替 ビニルクロス貼り (梁型)	全面塗替 全面塗替 新設		塩ビ見切縁 (パーティション上部) 新設	
	廊下	改 修 前	下 地	土間コンクリート t 1 2 0、砕石 t 1 2 0 下地モルタル t 2 8	既設のまま 一部撤去	モルタル金こて H = 1 0 0 E P 塗装 一部撤去	壁 : モルタル金こて	一部撤去	L G S 既設のまま	塩ビ見切縁 (パーティション上部) 一部撤去	2 4 8 0	室名札 (突出型)	一時取外し (詳細図 5 参照)
			仕 上	ビニール床シート t 2 . 0	一部撤去		E P 塗装 鋼製スクールパーティション (木製額縁共)	既設のまま 撤去	パーティション上 : 化粧 P b t 9 . 5 mm 目透し張り 化粧吸音 P b t 9 . 5 mm 目透し張り	一部撤去 既設のまま			
		改 修 後	下 地	下地モルタル t 2 8	新設	モルタル金こて H = 1 0 0 新設の上 N A D 塗装 新設	壁 : モルタル金こて	新設	L G S 既設のまま	塩ビ見切縁 (パーティション上部) 新設	既設のまま	室名札 (突出型) アクリル室名板 掲示板 ヘルメットホルダー設置用金具	再取付 (A-32参照) 新設 (A-32参照) 新設 (A-32参照) 新設 (A-32参照)
			仕 上	ビニール床シート t 2 . 0	新設		N A D 塗装	新設	パーティション上 : 化粧 P b t 9 . 5 mm 目透し張り	新設			

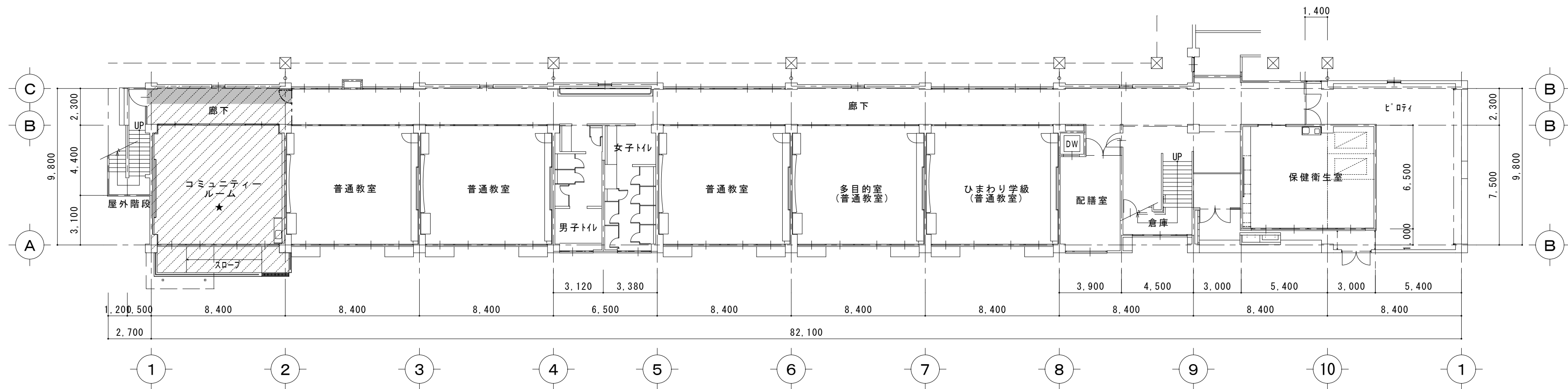
特記事項	塗装凡例		
	U C	: ウレタン樹脂ワニス	N A D : アクリル樹脂系非水分散形塗料
	O P	: 油性調合塗料	E P : 合成樹脂エマルジョン塗料
	V P	: 塩化ビニル樹脂系塗料	S O P : 合成樹脂調合塗料
			C L : クリヤーラッカー

イズマイ建築設計

一級建築士事務所 三重県知事登録 第 1-2236 号
〒514-0041 三重県津市八町3丁目6-3増栄ビル200号

設 計	年月日	工事名称
一級建築士 第299733号 中西 修二	縮 尺 1/200	図 面 名

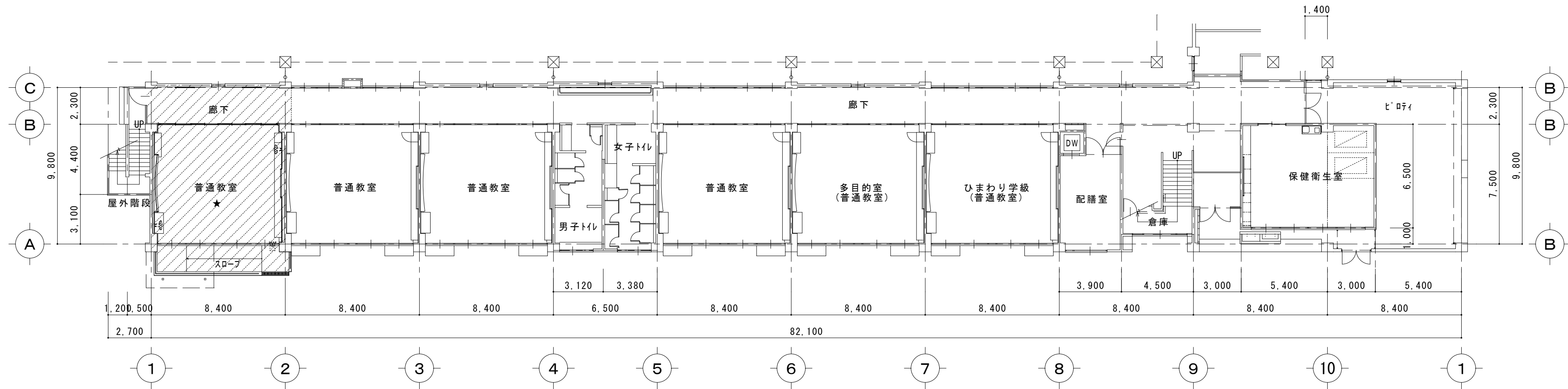
北立誠地区放課後児童クラブ整備に伴う 旧津市立北立誠幼稚園及び津市立北立誠小学校改修工事		図面番号
普通教室 求積図・仕上表		A-09 原図: A 2



普通教室・管理棟 1階平面図 S=1:200

凡例

- 仮設間仕切り（軽量鉄骨壁下地、片面石膏ボード）※天井まで
扉：南京錠付
★ 環境測定箇所（着手前）
- 床：養生（シート＋ベニヤ）範囲を示す
改修工事範囲を示す



普通教室・管理棟 1階平面図 S=1:200

凡例

- 改修工事範囲を示す
★ 環境測定箇所（完了後）

特記事項

イズマイ建築設計

一級建築士事務所 三重県知事登録 第 1-2236 号
〒514-0041 三重県津市八町3丁目6-3増栄ビル200号

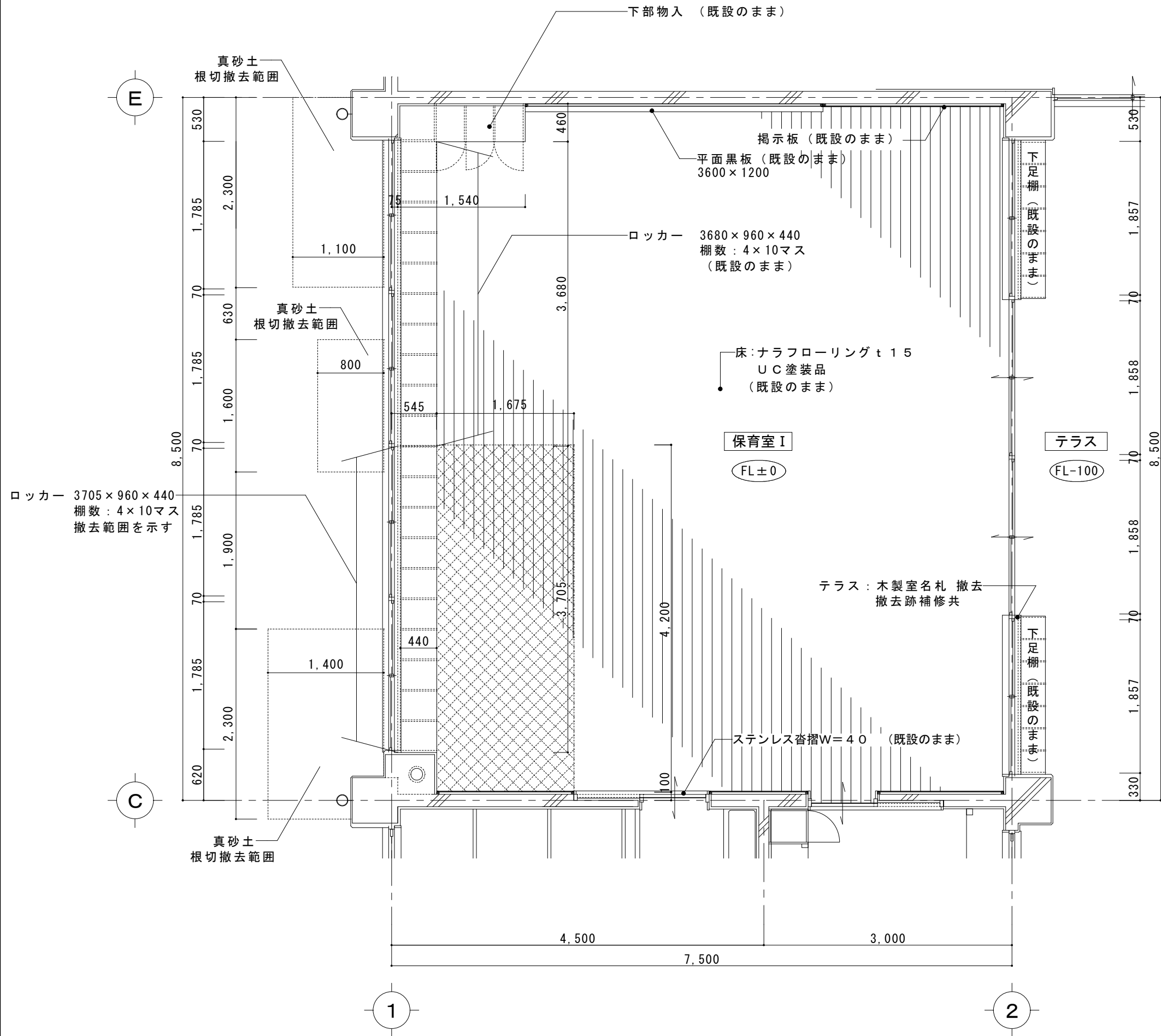
設計
一級建築士
第299733号
中西 修二

年月日
縮尺
1/200

工事名称
北立誠地区放課後児童クラブ整備に伴う
旧津市立北立誠幼稚園及び津市立北立誠小学校改修工事
図面名
普通教室1階平面図・内部仮設計画図 改修前・改修後

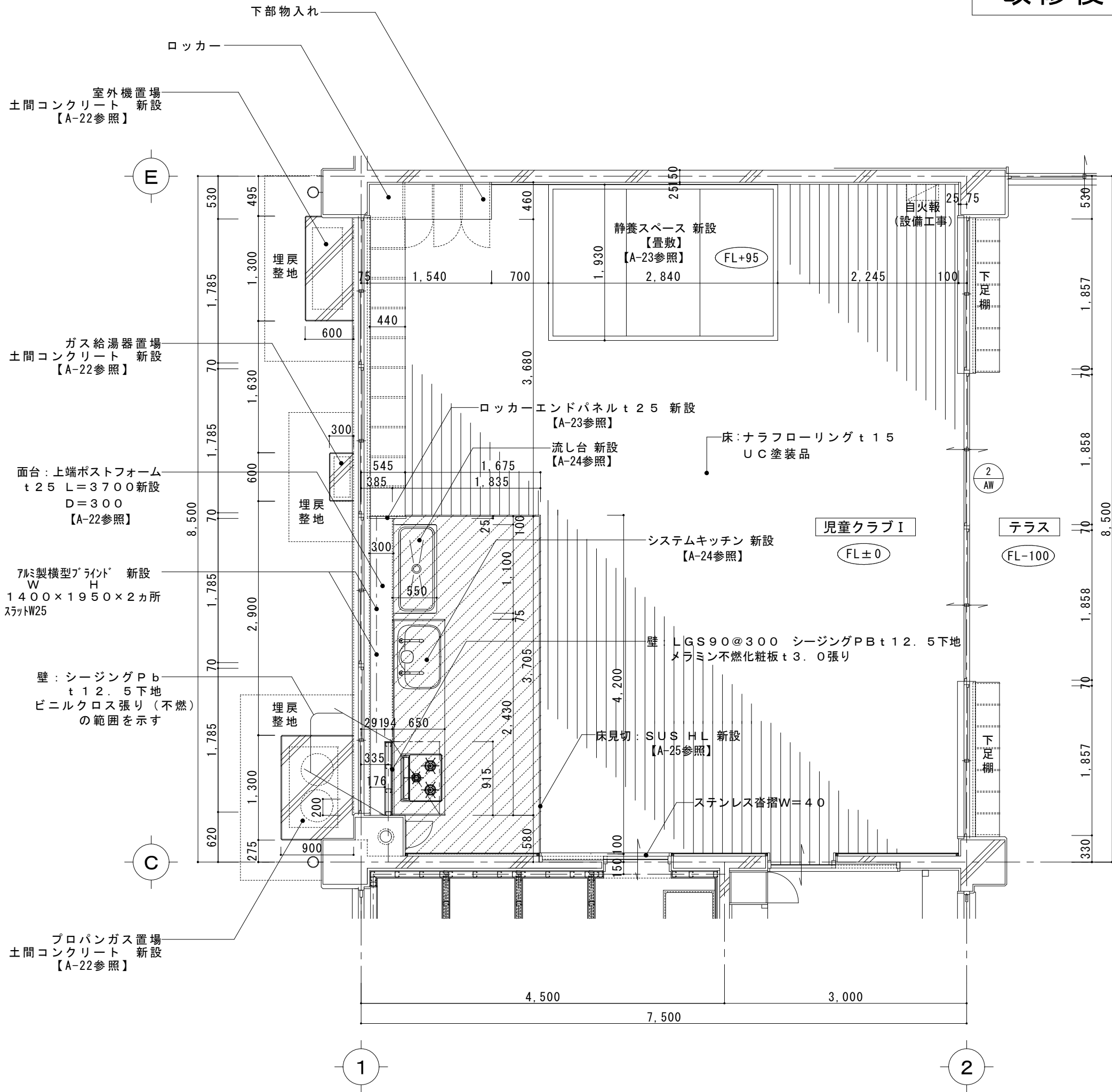
図面番号
A-11
原図：A 2

改修前



保育室 I 平面詳細図 S=1:50

改修後



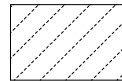
放課後児童クラブ I 平面詳細図 S=1:50

凡例



床：ナラフローリング t 15 撤去範囲を示す
根太 45×45@303
飼いモルタル t 30 共

凡例



床：ビニル床シート t 2.5 新設範囲を示す
耐水合板 t 15
根太：米桐 45×45@303 (木材保護塗料塗装)
大引：米桐 90×30@900 共 (木材保護塗料塗装)

特記事項

イズマイ建築設計

一級建築士事務所 三重県知事登録 第 1-2236 号
〒514-0041 三重県津市八町3丁目6-3増栄ビル200号

設計

一級建築士
第299733号
中西 修二

年月日

縮尺
1/50

工事名称

北立誠地区放課後児童クラブ整備に伴う
旧津市立北立誠幼稚園及び津市立北立誠小学校改修工事

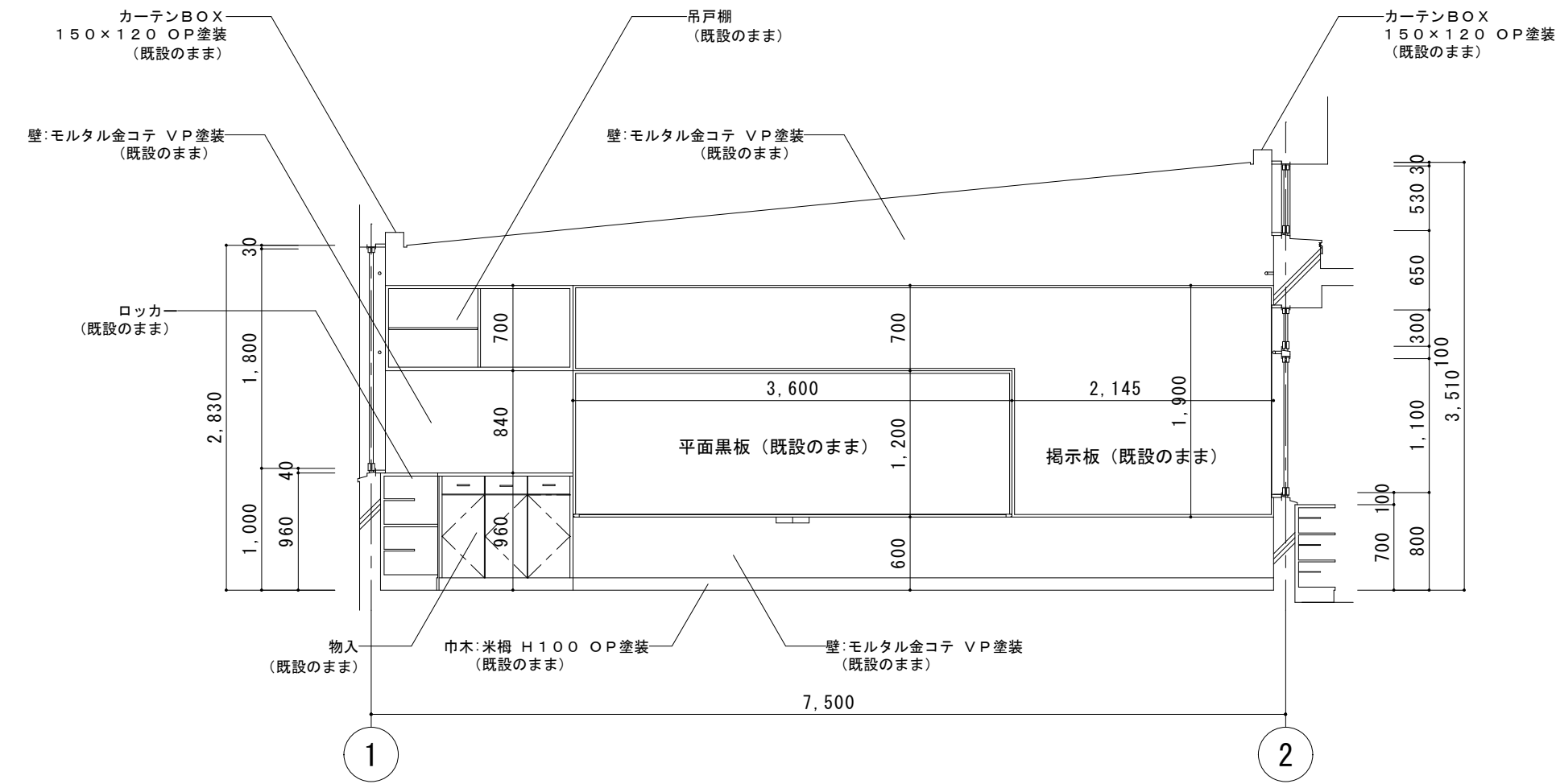
図面名

保育室 I・放課後児童クラブ I 平面詳細図 改修前・改修後

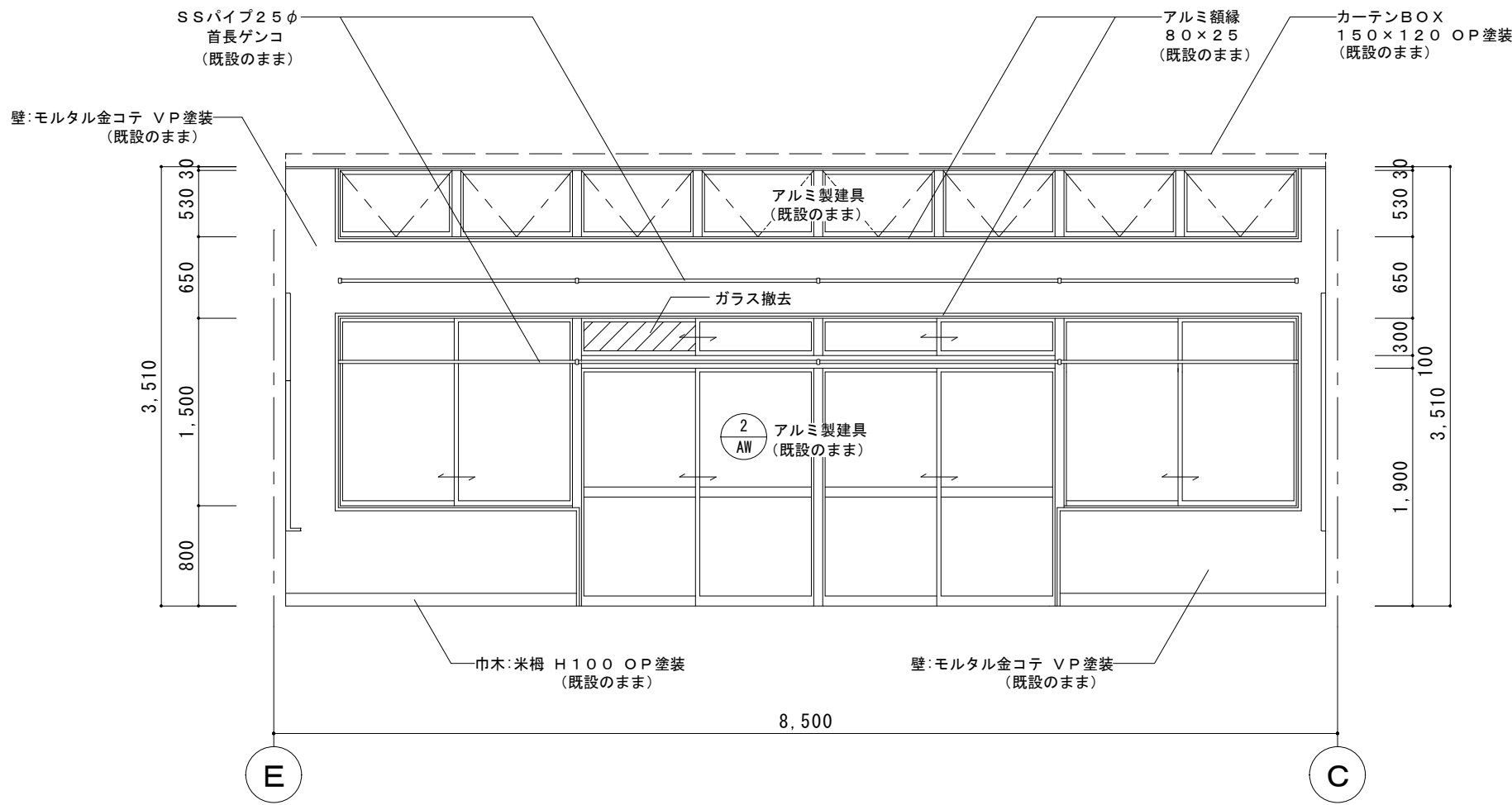
図面番号

A-12

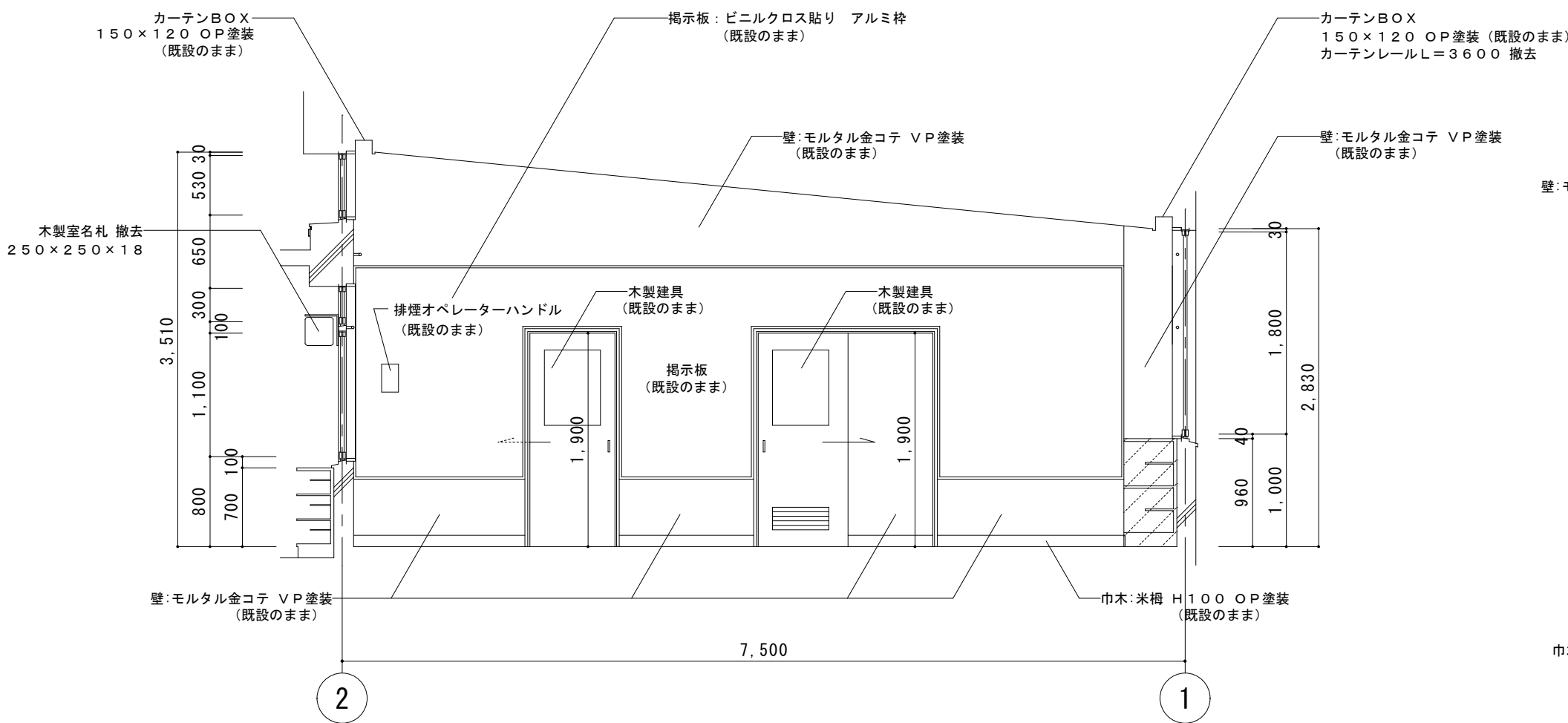
原図：A 2



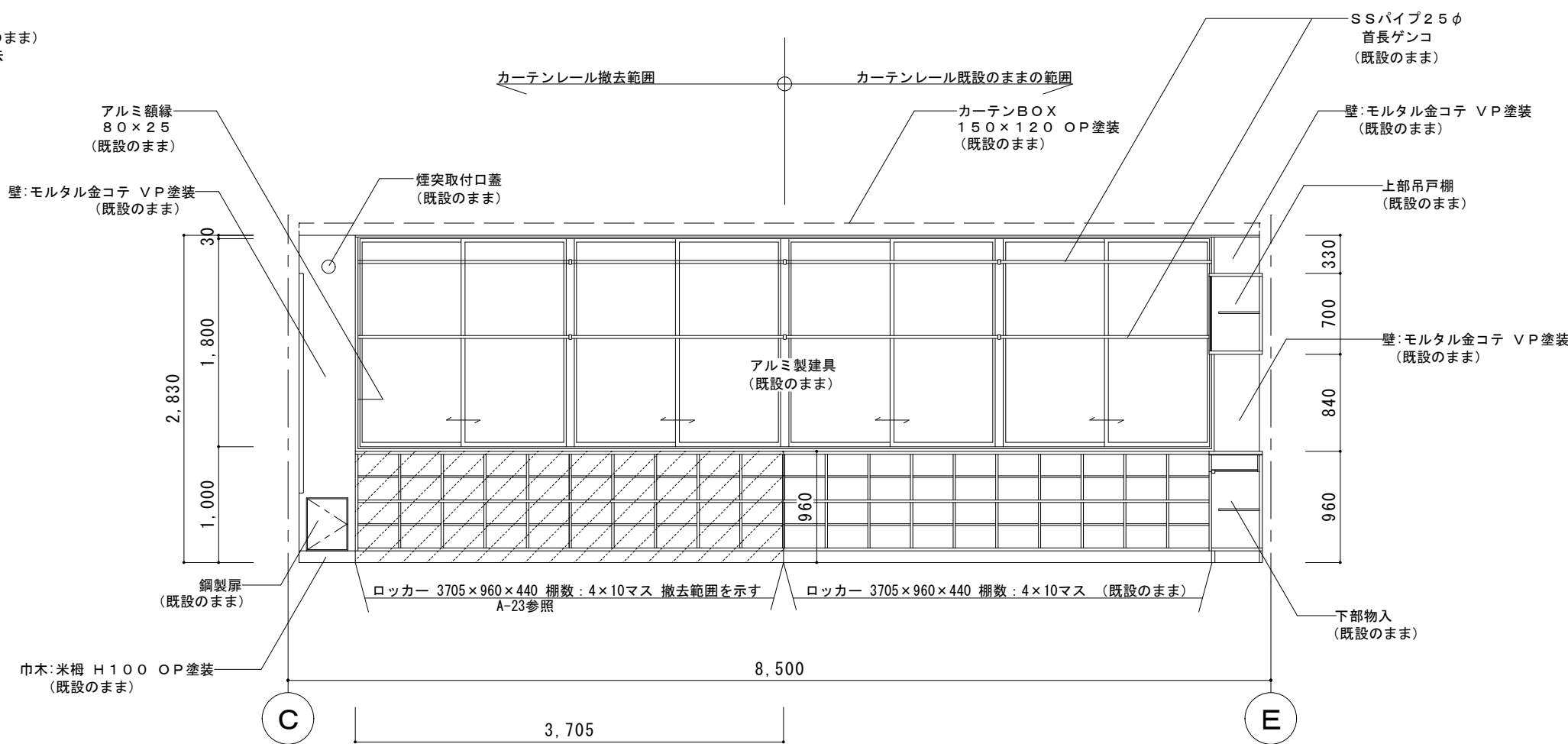
A 面



B 面

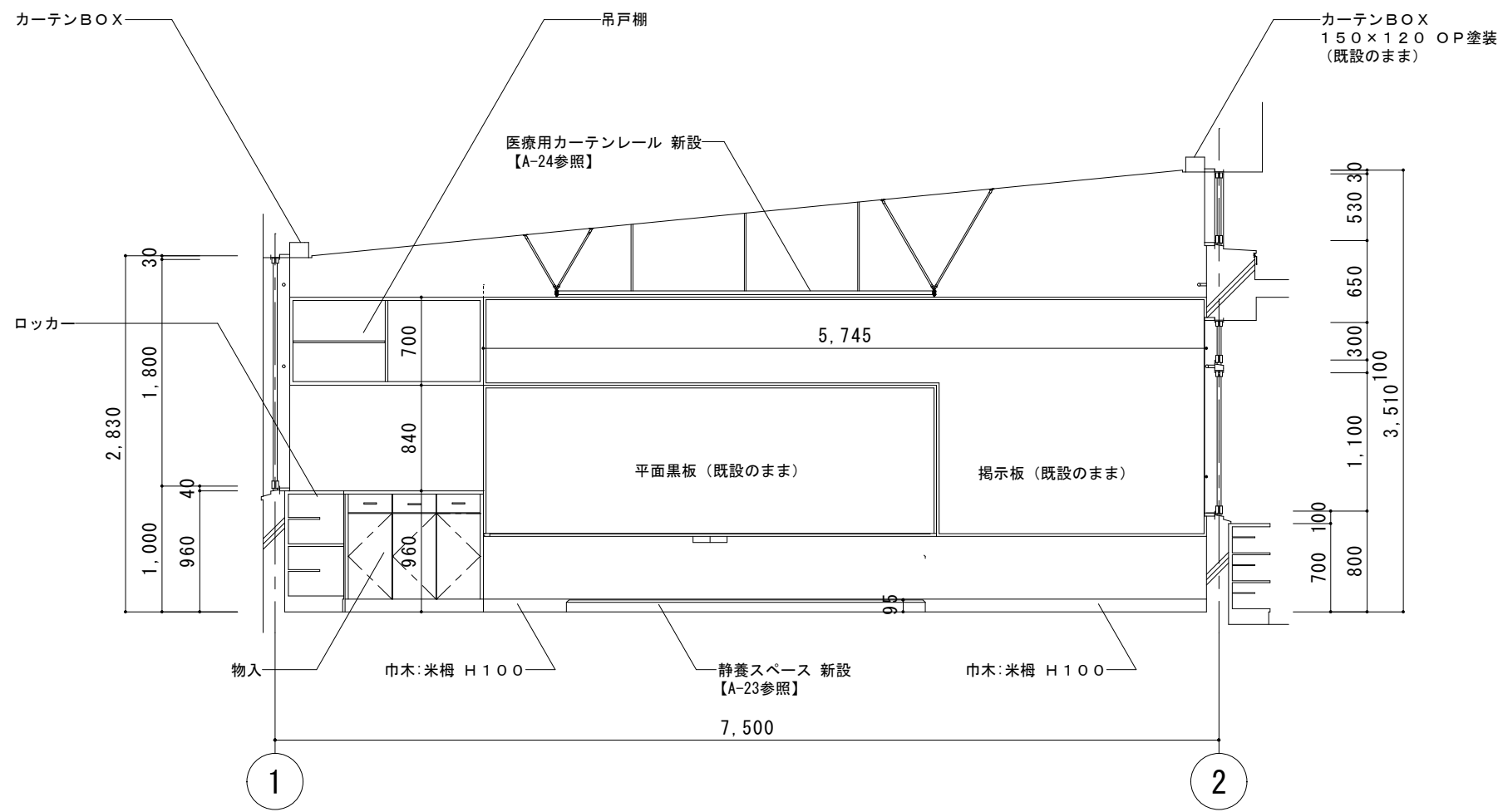


C 面

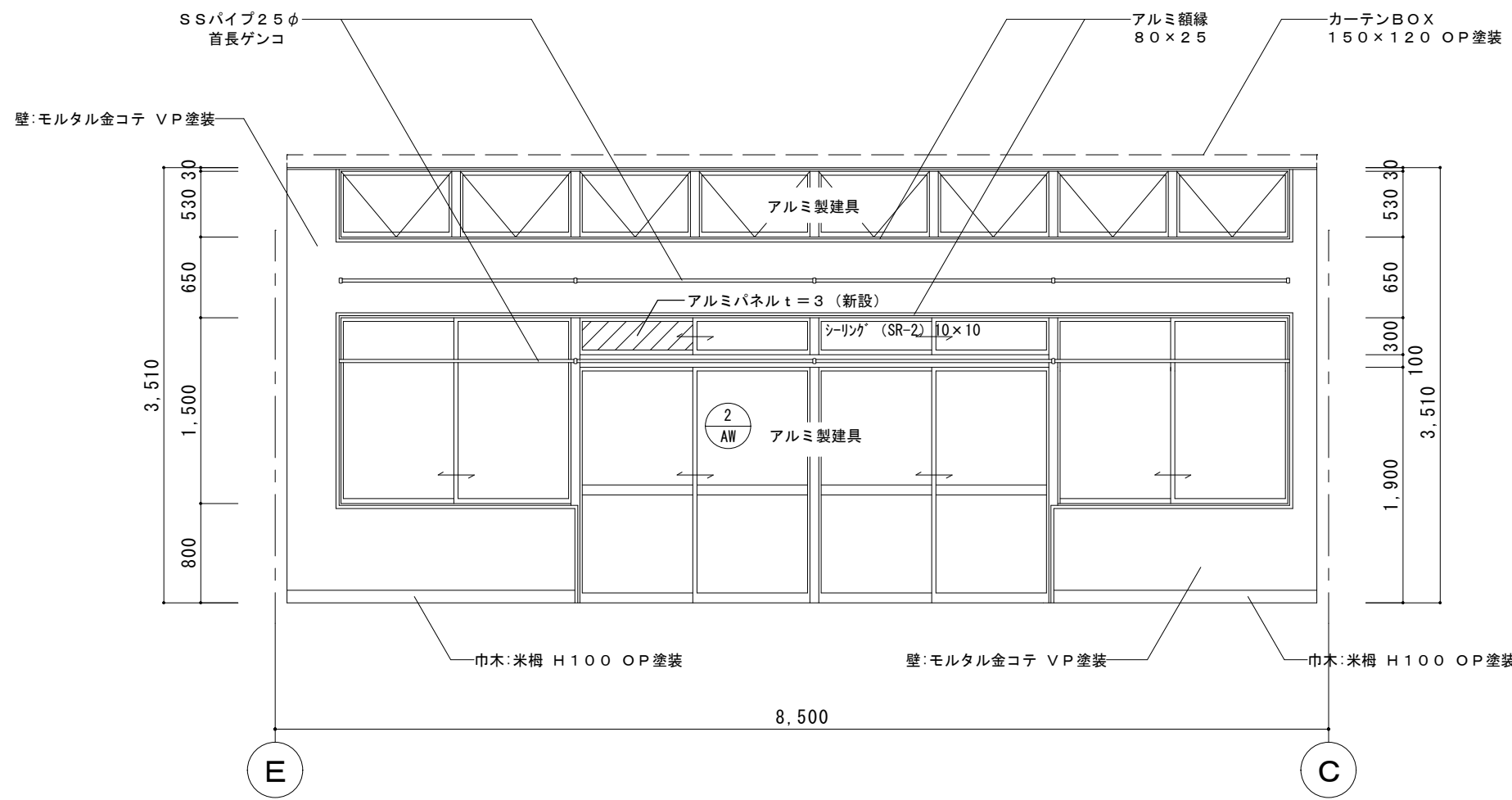


D 面

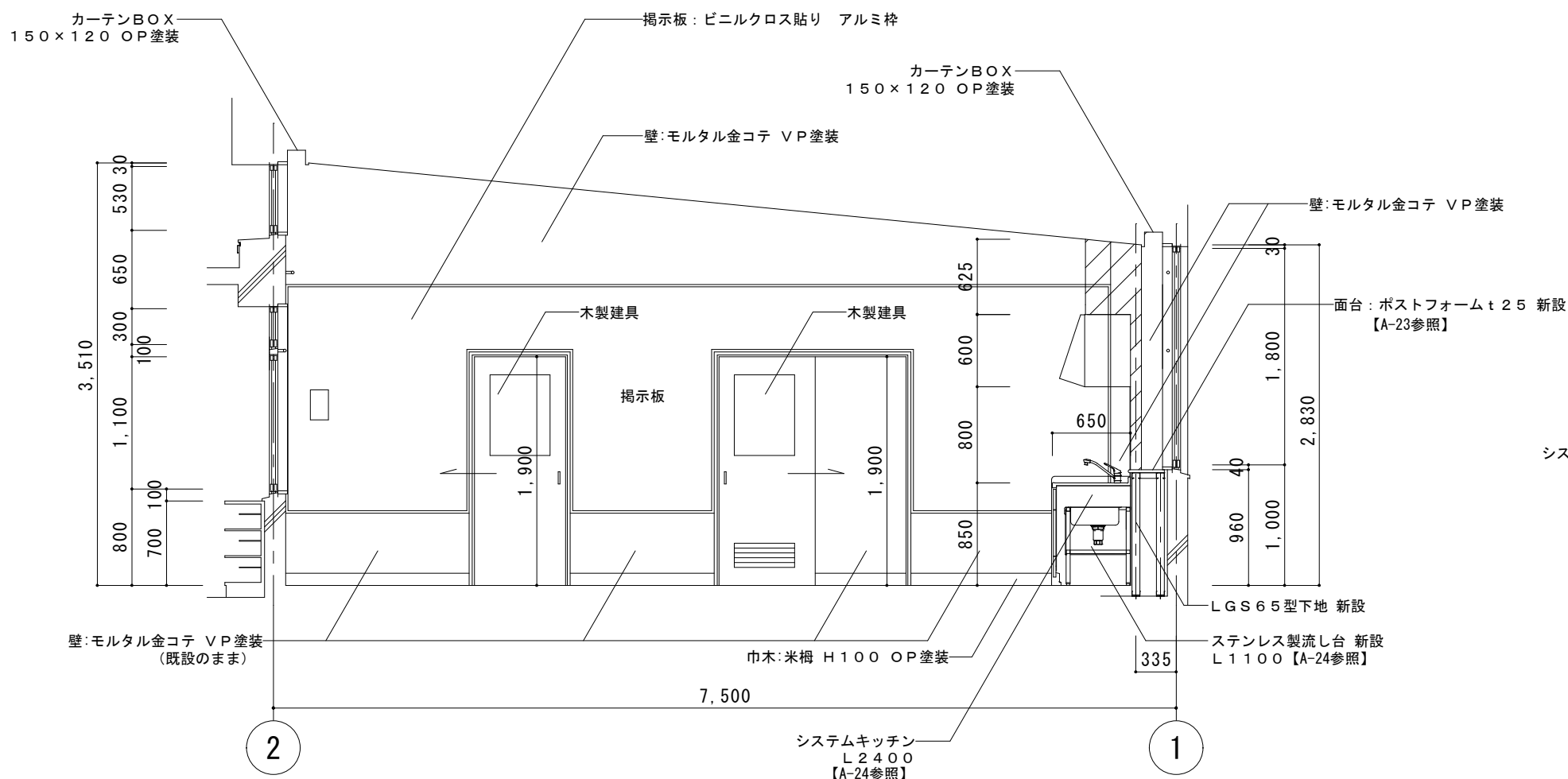
凡例
ロッカー 撤去範囲を示す



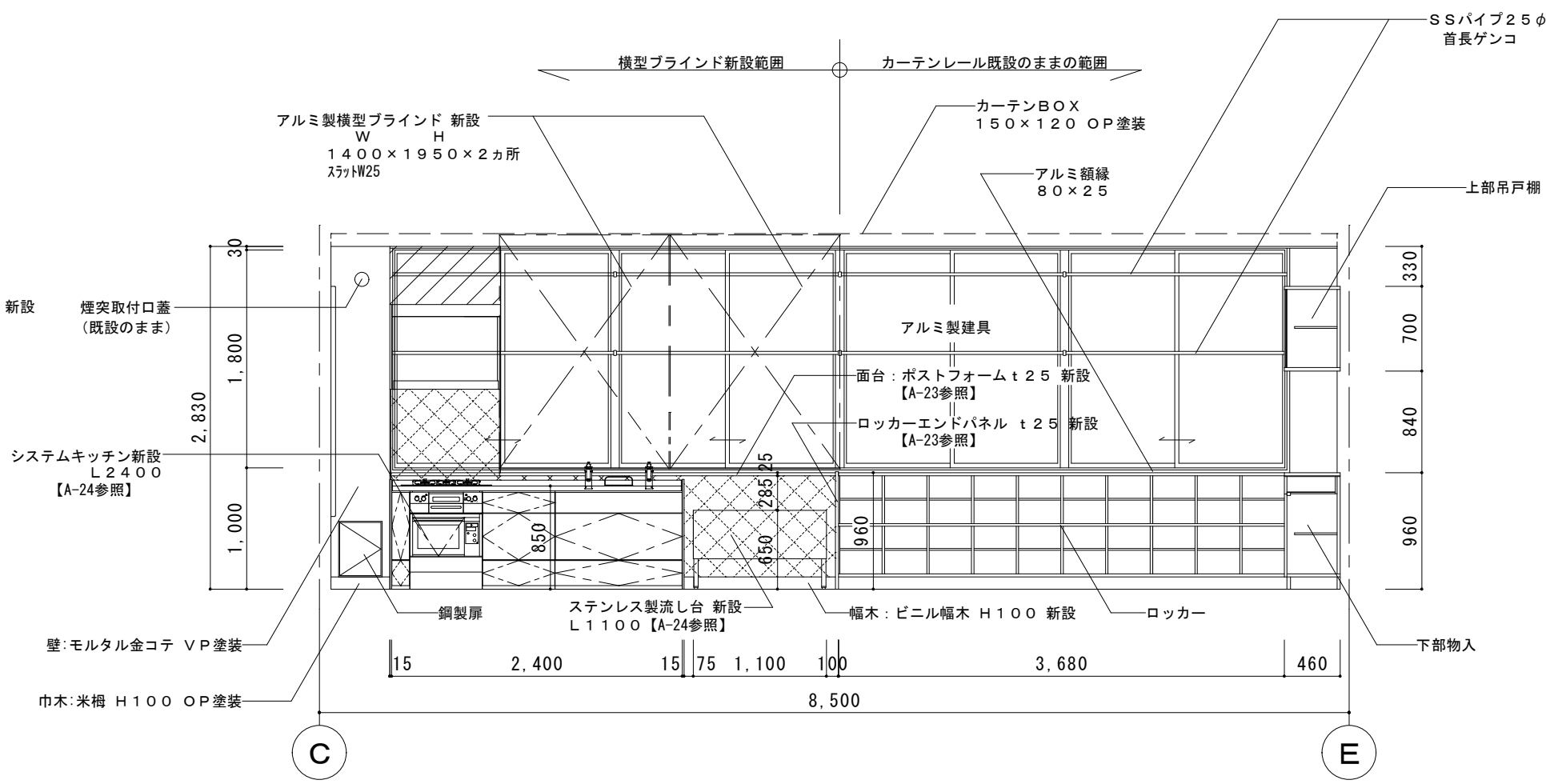
A 面



B 面

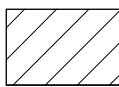


C 面

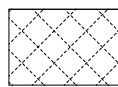


D 面

凡例



LGS90下地@300
シージングPb t12.5
ビニルクロス張り (不燃) 新設範囲



LGS65下地@300
(一部LGS90下地@300)
シージングPb t12.5
メラミン不燃化粧板 t3.0張り
新設範囲

特記事項

イズマイ建築設計

一級建築士事務所 三重県知事登録 第 1-2236 号
〒514-0041 三重県津市八町3丁目6-3増栄ビル200号

設計
一級建築士
第299733号
中西 修二

年月日
縮尺
1/50

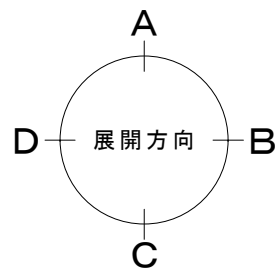
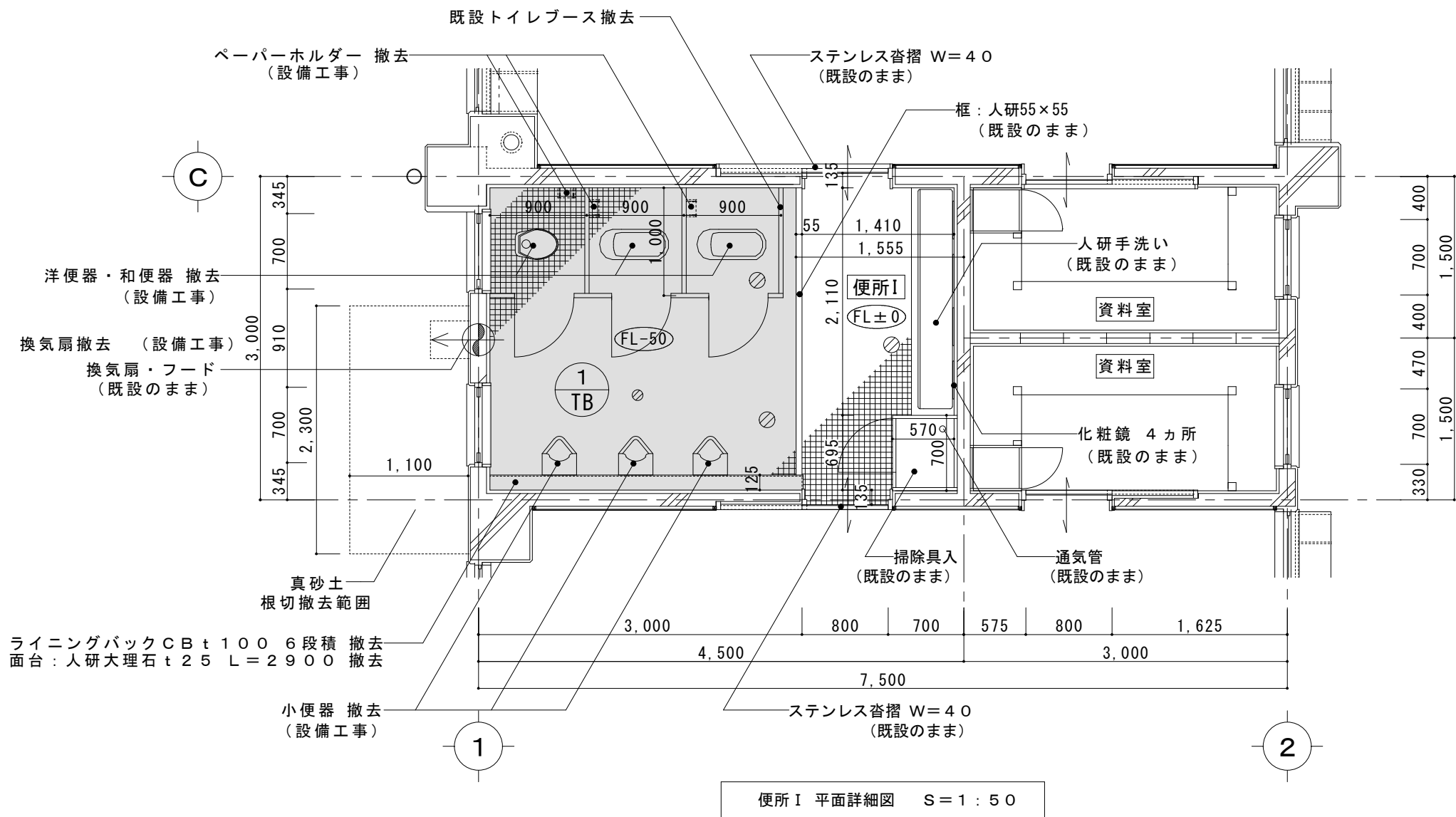
工事名称
図面名

北立誠地区放課後児童クラブ整備に伴う
旧津市立北立誠幼稚園及び津市立北立誠小学校改修工事
放課後児童クラブⅠ 展開図 改修後

図面番号
A-14
原図: A 2

改修前

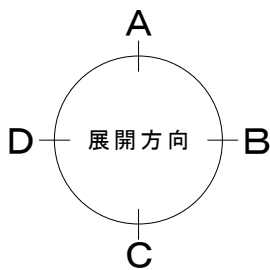
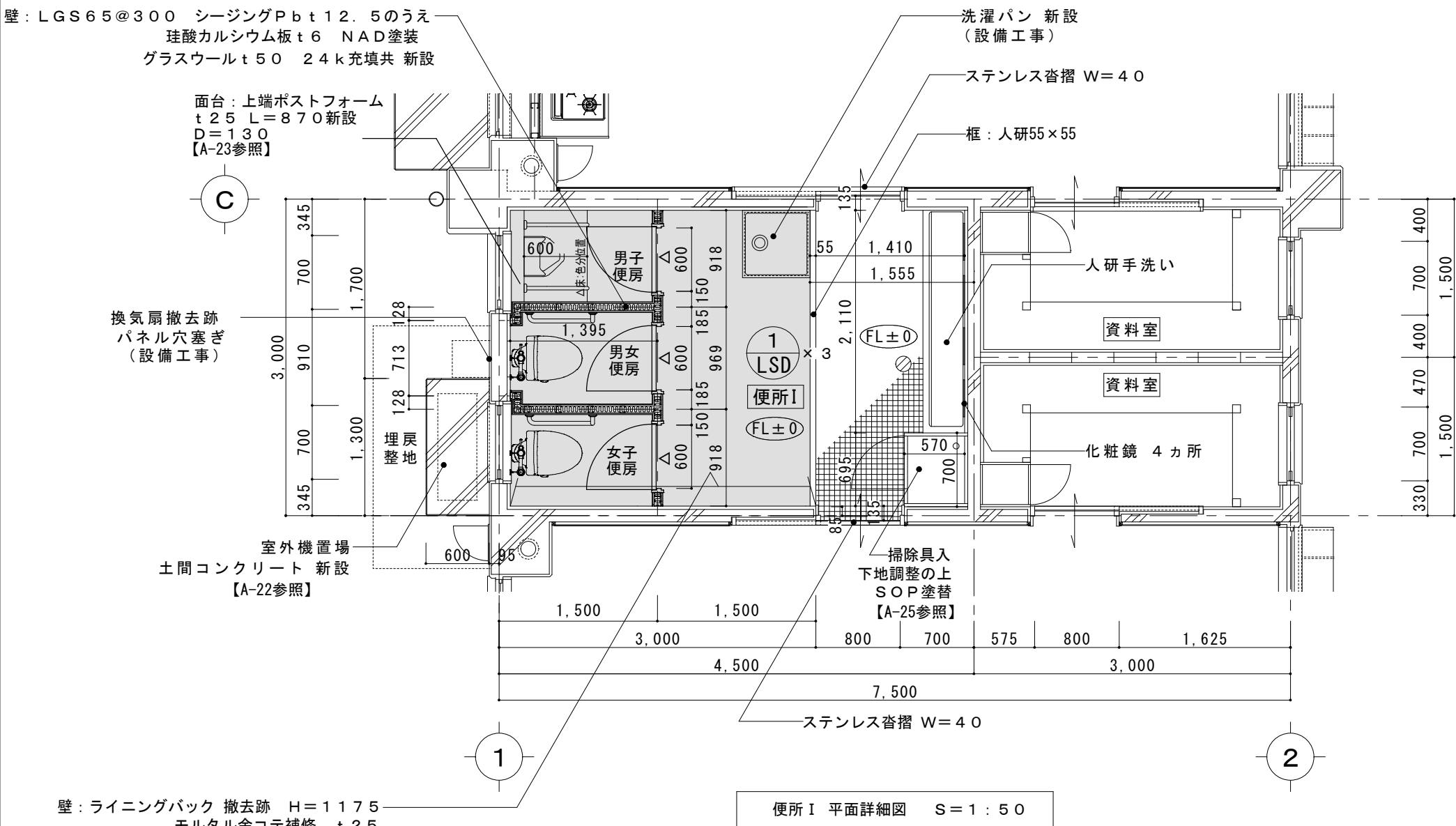
改修後



凡例



床：磁器質25角タイル張り 撤去範囲を示す
モルタル下地 t 40
ワイヤーメッシュφ6@150土間コンクリート t 120
ポリエチレンフィルム t 0.15・砕石 t 100共
周囲カッター切 共



凡例



ピクトサインの位置を示す



床：合成樹脂塗リ床仕上
新設範囲を示す
モルタル金こて t 30下地
土間コンクリート t 120 D10@200タテヨコ
差筋アンカーD10@200 (新設土間周囲)
砕石 t 170、ポリエチレンフィルム t 0.15 共

特記事項

イズマイ建築設計

一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-2236号
〒514-0041 三重県津市八町3丁目6-3増栄ビル200号

設計
一級建築士
第299733号
中西 修二

年月日

縮尺

1/50

工事名称

北立誠地区放課後児童クラブ整備に伴う
旧津市立北立誠幼稚園及び津市立北立誠小学校改修工事

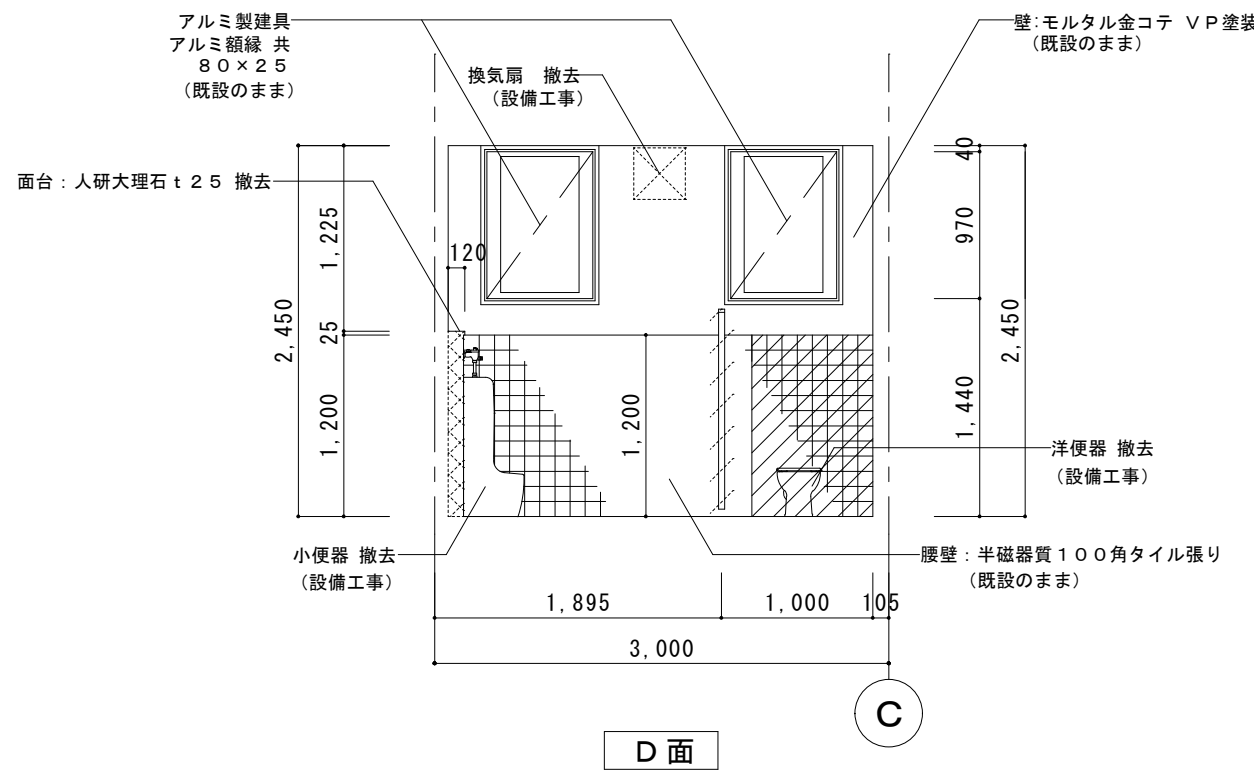
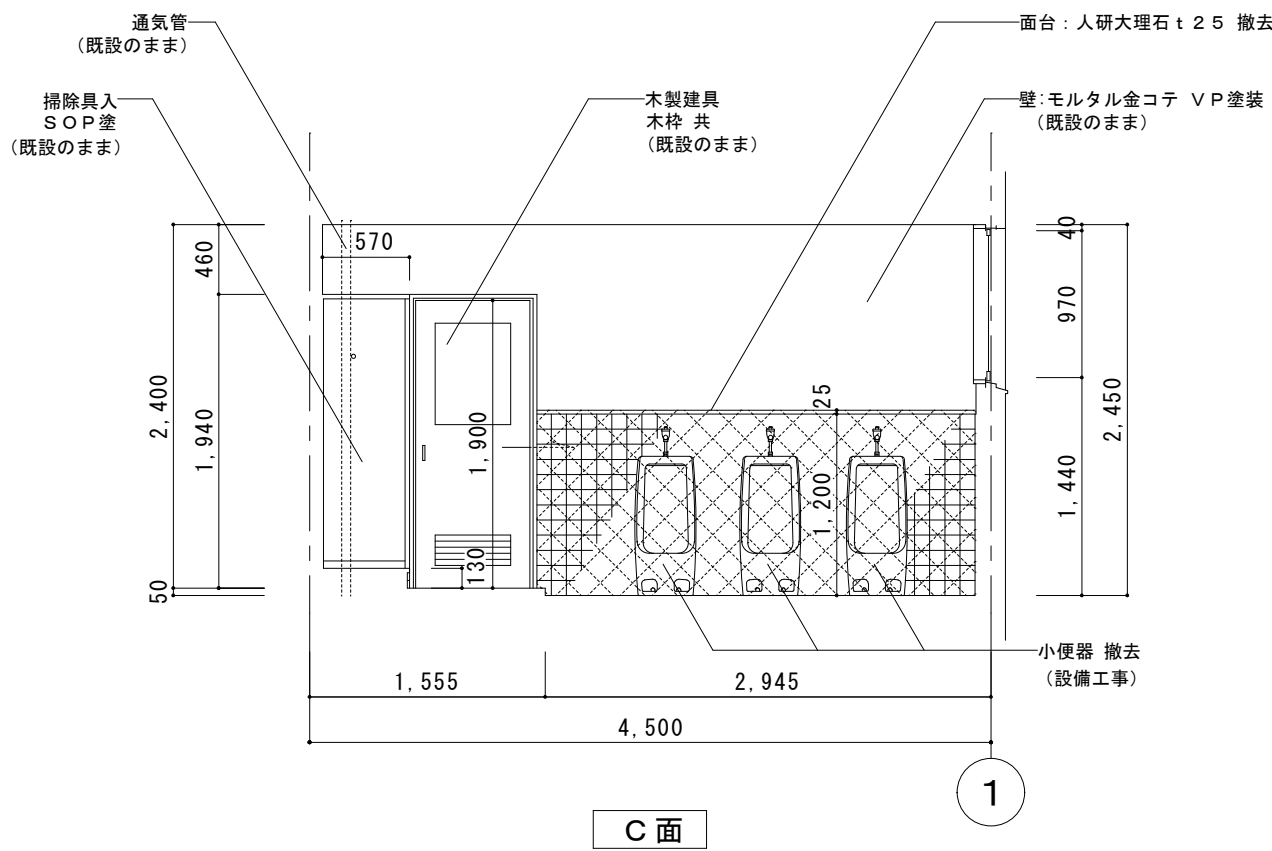
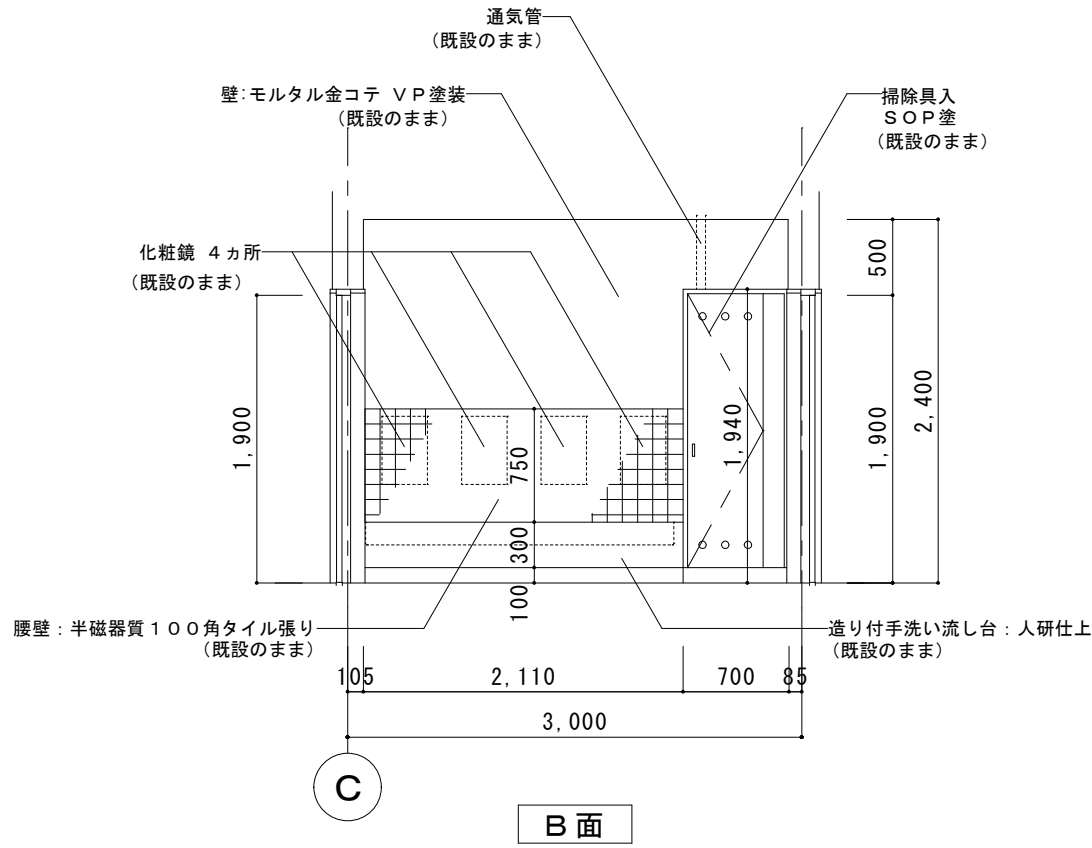
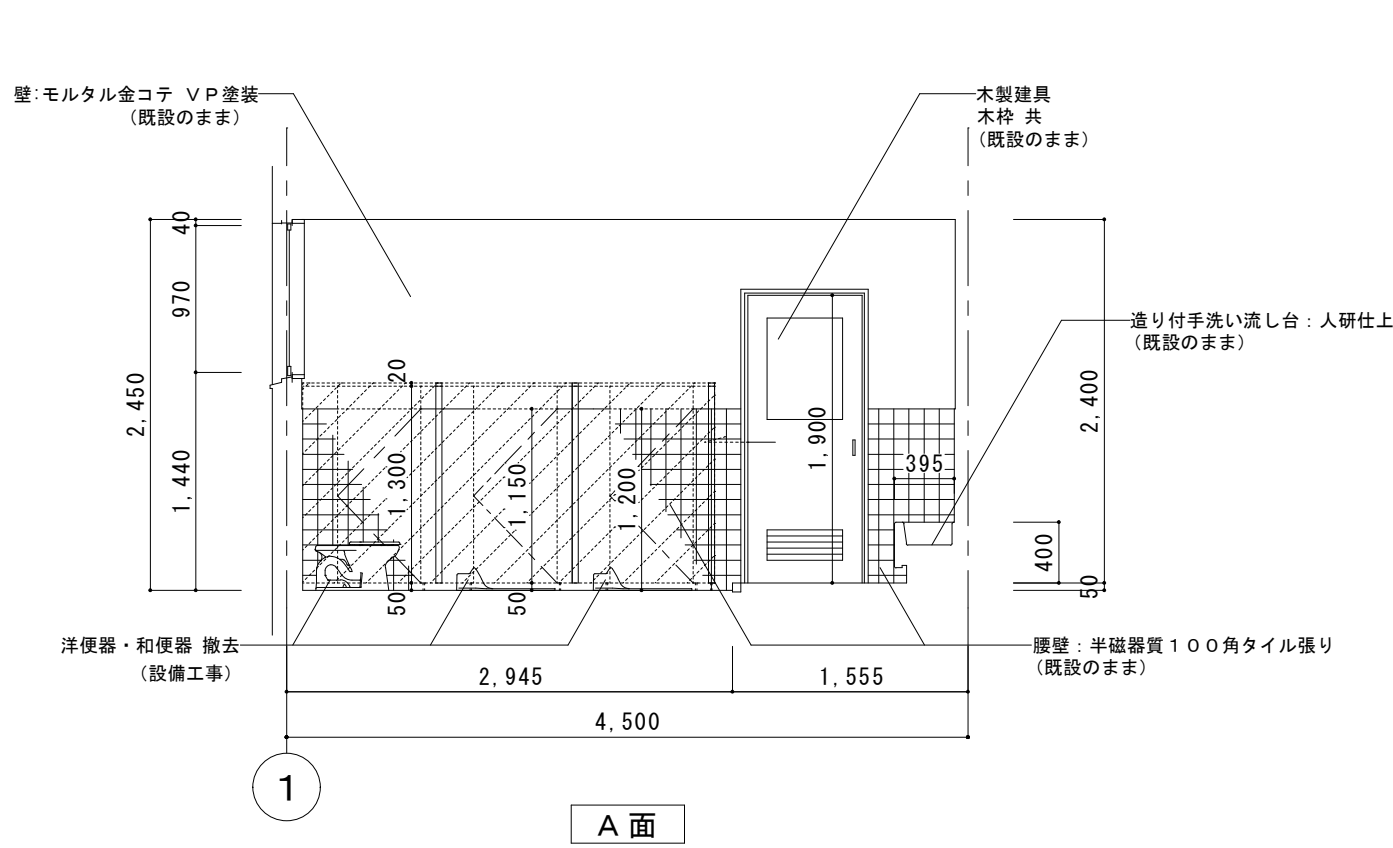
図面名

便所I 平面詳細図 改修前・改修後

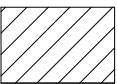
図面番号

A-15

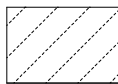
原図：A2



凡例



腰壁:半磁器質100角タイル張り撤去範囲を示す



トイレブース 撤去範囲を示す



ライニングバックCB t 100 6段積 撤去範囲を示す
腰壁: H=1200 半磁器質100角タイル張り 下地モルタル共
面台:人研大理石 t 25 共

特記事項

イズマイ建築設計

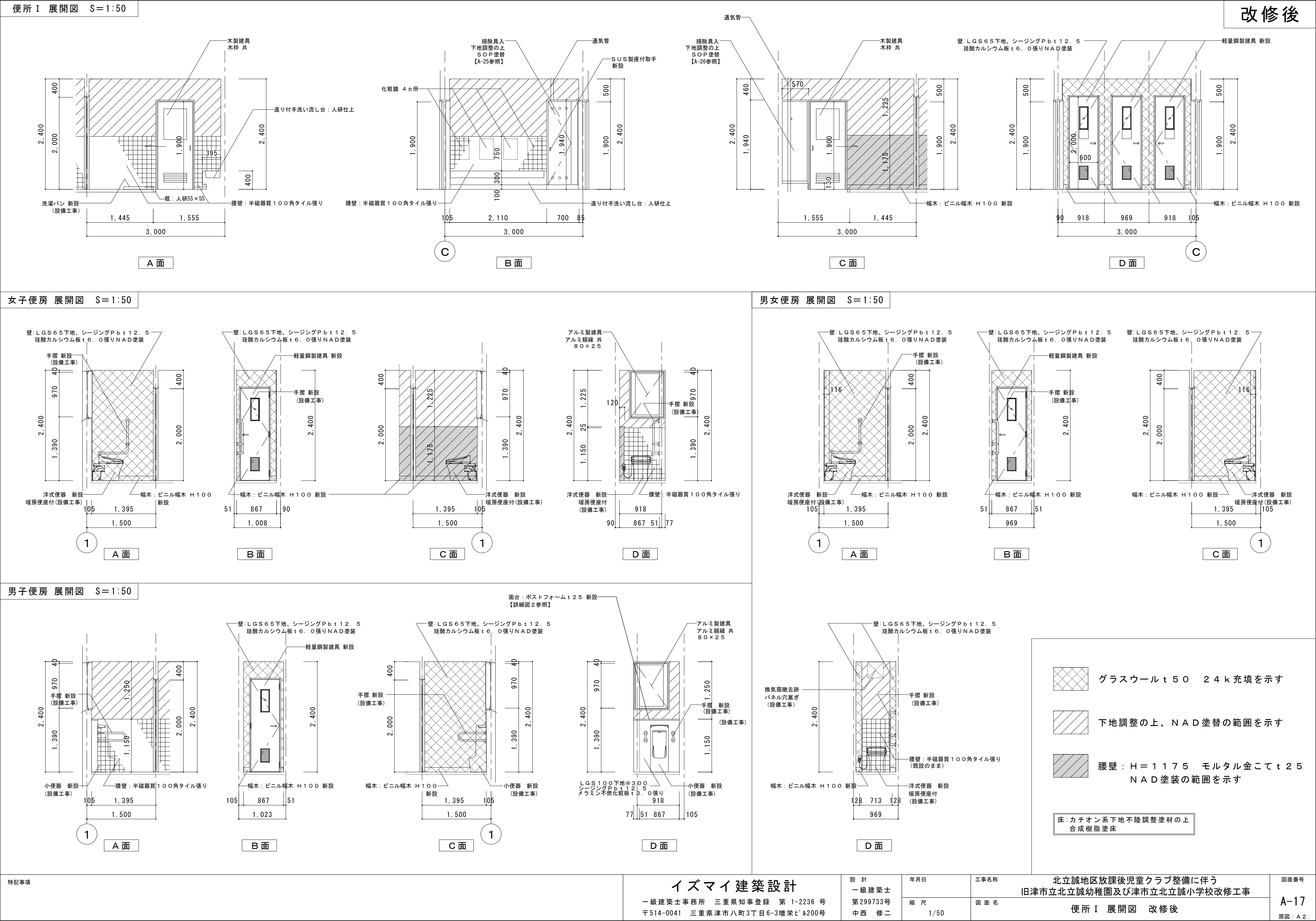
一級建築士事務所 三重県知事登録 第 1-2236 号
〒514-0041 三重県津市八町3丁目6-3増栄ビル200号

設計
一級建築士
第299733号
中西 修二

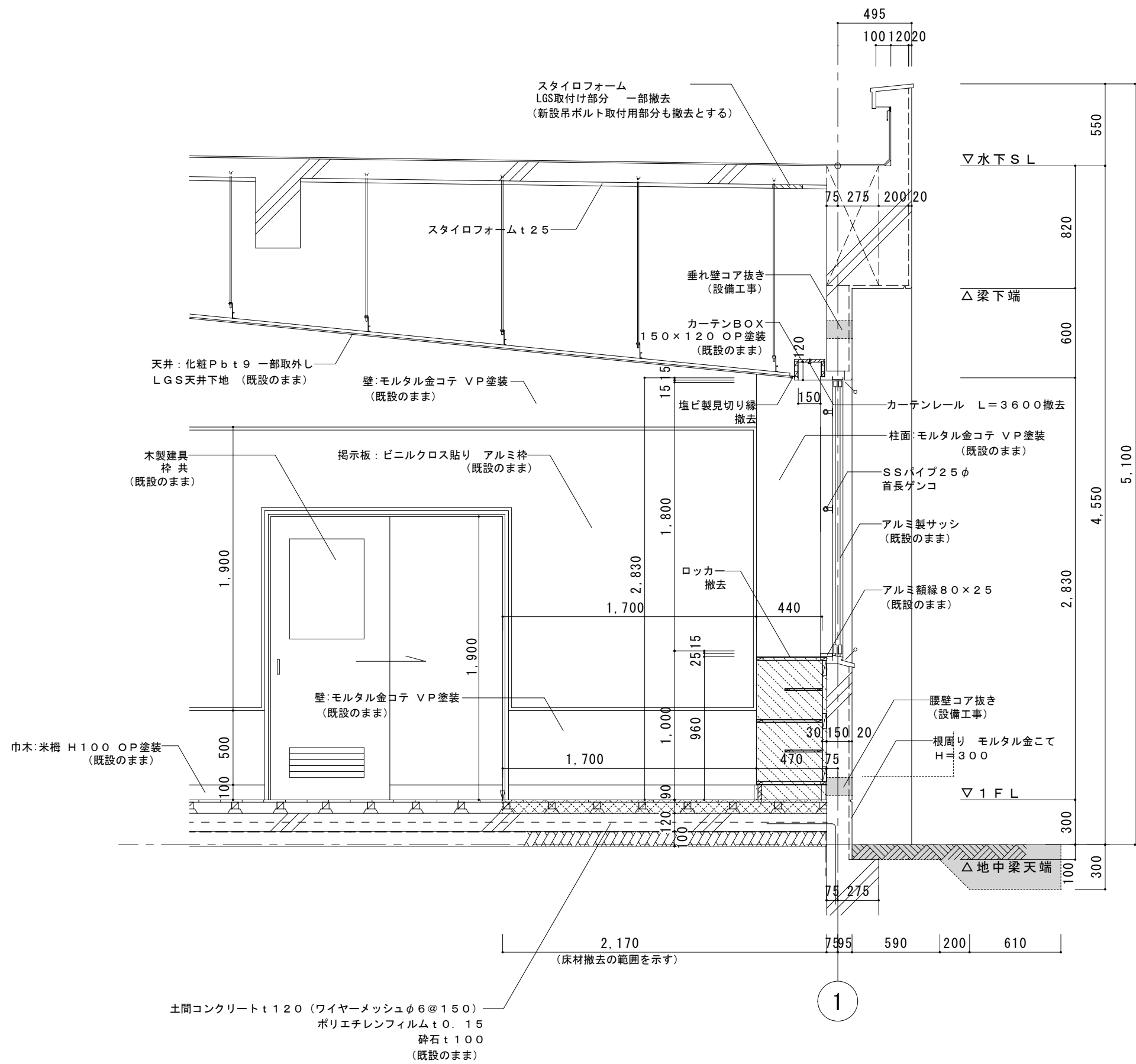
年月日
縮尺
1/50

工事名称
北立誠地区放課後児童クラブ整備に伴う
旧津市立北立誠幼稚園及び津市立北立誠小学校改修工事
図面名
便所 I 展開図 改修前

図面番号
A-16
原図: A 2



改修前



保育室 I 断面図 S=1:30

凡例

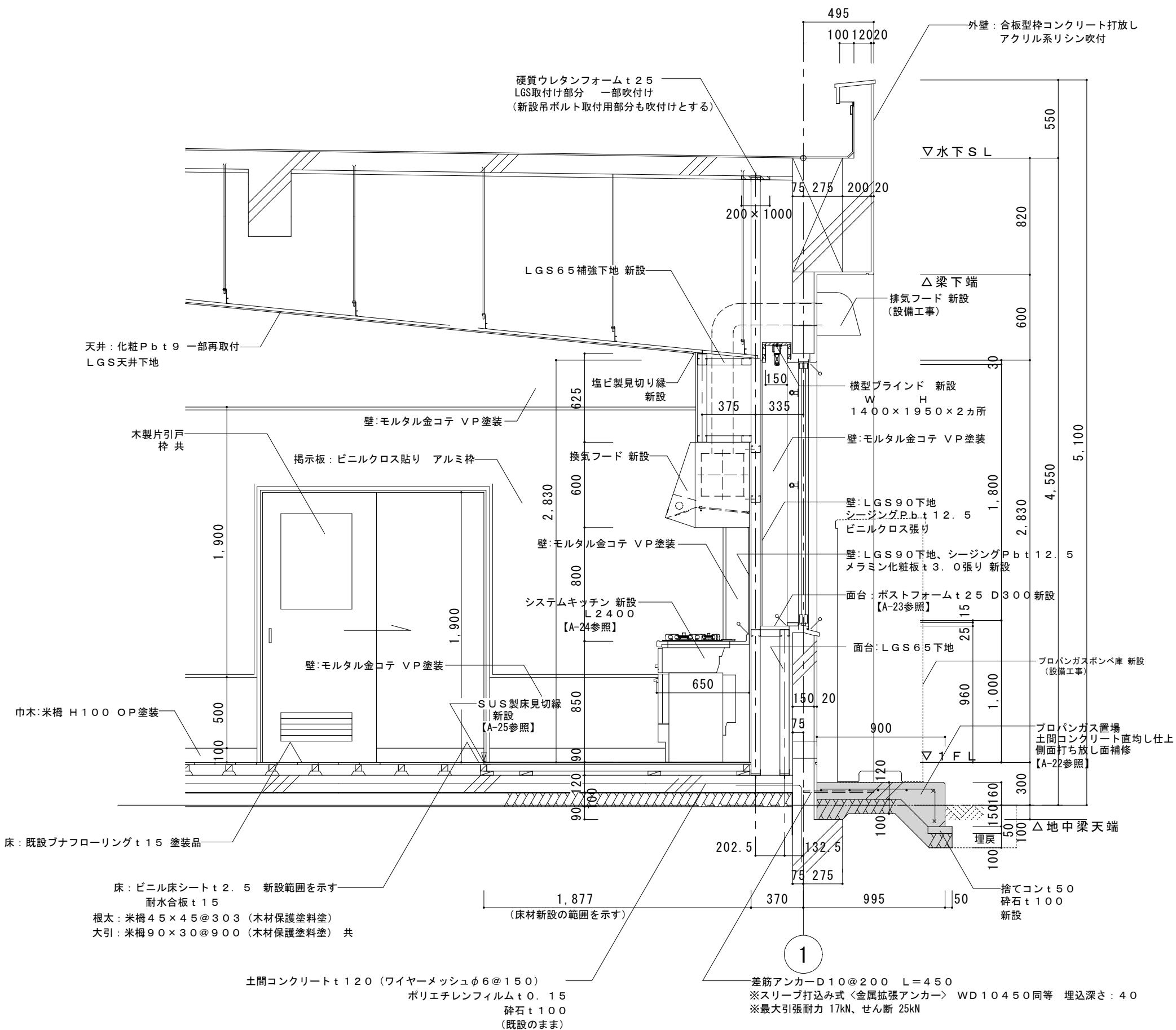
▽ 床：カッター切の位置を示す

■ 土すきとり部分を示す

■ 床：ブナフローリング t 15 塗装品 撤去範囲を示す
根太：桧 45×45@303 (クレオソート塗)
飼いモルタル t 30 共

■ 木製ロッカー 撤去範囲を示す

改修後



児童クラブ I 断面図 S=1:30

凡例

▽ SUS製床見切 新設の位置を示す

■ プロパンガス置場 新設範囲を示す
土間コンクリート直均し仕上
D10@200、2-D13、差筋アンカーD10@200
再生砕石 t 100、捨てコン t 50

▽ シーリング (MS-2) 10×10

特記事項

イズマイ建築設計

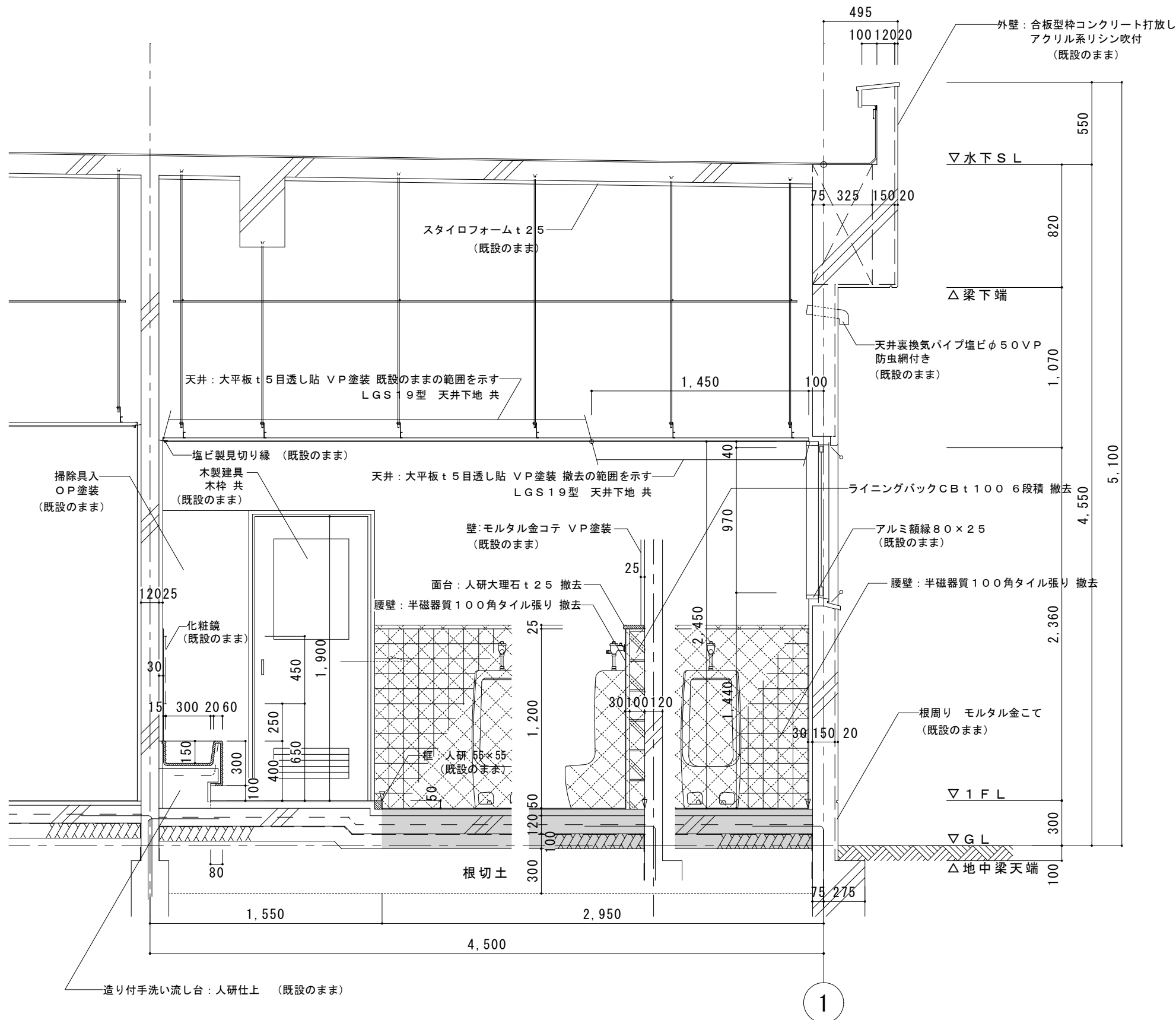
一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-2236号
〒514-0041 三重県津市八町3丁目6-3増栄ビル200号

設計
一級建築士
第299733号
中西 修二

年月日
縮尺
1/30

工事名称
北立誠地区放課後児童クラブ整備に伴う
旧津市立北立誠幼稚園及び津市立北立誠小学校改修工事
図面名
保育室 I・児童クラブ I 断面図 改修前・改修後

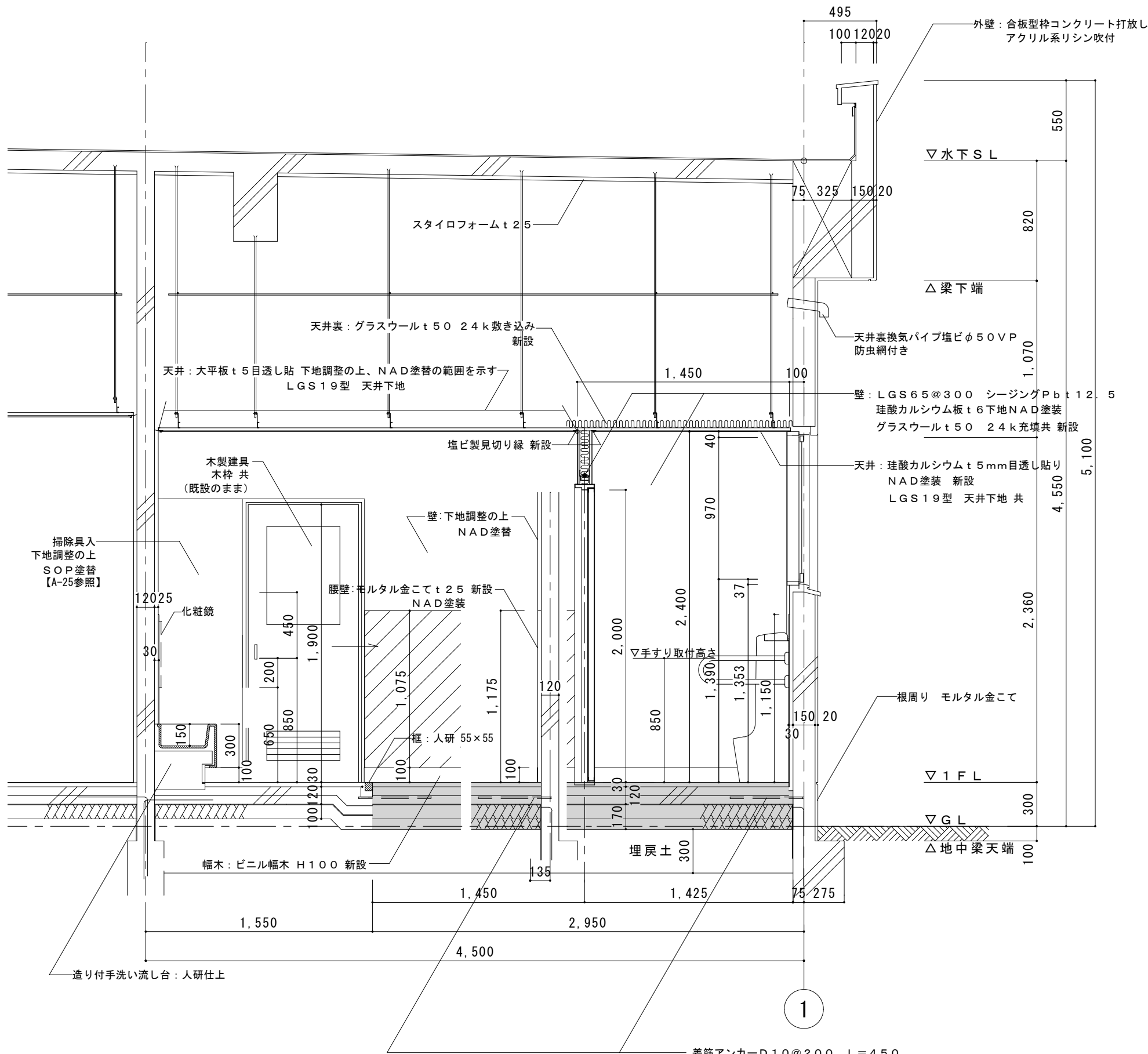
図面番号
A-18
原図：A2



便所 I 断面図 S=1:30

凡例
▽ カッター切の位置を示す

面台：人研大理石 t 25 撤去範囲を示す
腰壁：H=1200 半磁器質 100 角タイル張り
CB t 100 6 段積下地共 撤去
床：磁器質 25 角タイル張り 撤去範囲を示す
モルタル下地 t 40
ワイヤーメッシュ φ 6 @ 150 土間コンクリート t 120
ポリエチレンフィルム t 0.15・砕石 t 100 共
周囲カッター切



便所 I 断面図 S=1:30

凡例
腰壁：モルタル金こて t 25 NAD 塗装
新設範囲を示す
床：合成樹脂塗り床仕上
新設範囲を示す
モルタル金こて t 30 下地
土間コンクリート t 120 D10@200 タテヨコ
差筋アンカー D10@200 (新設土間周囲)
ポリエチレンフィルム t 0.15、砕石 t 170 共

特記事項

イズマイ建築設計

一級建築士事務所 三重県知事登録 第 1-2236 号
〒514-0041 三重県津市八町3丁目6-3増栄ビル200号

設計
一級建築士
第299733号
中西 修二

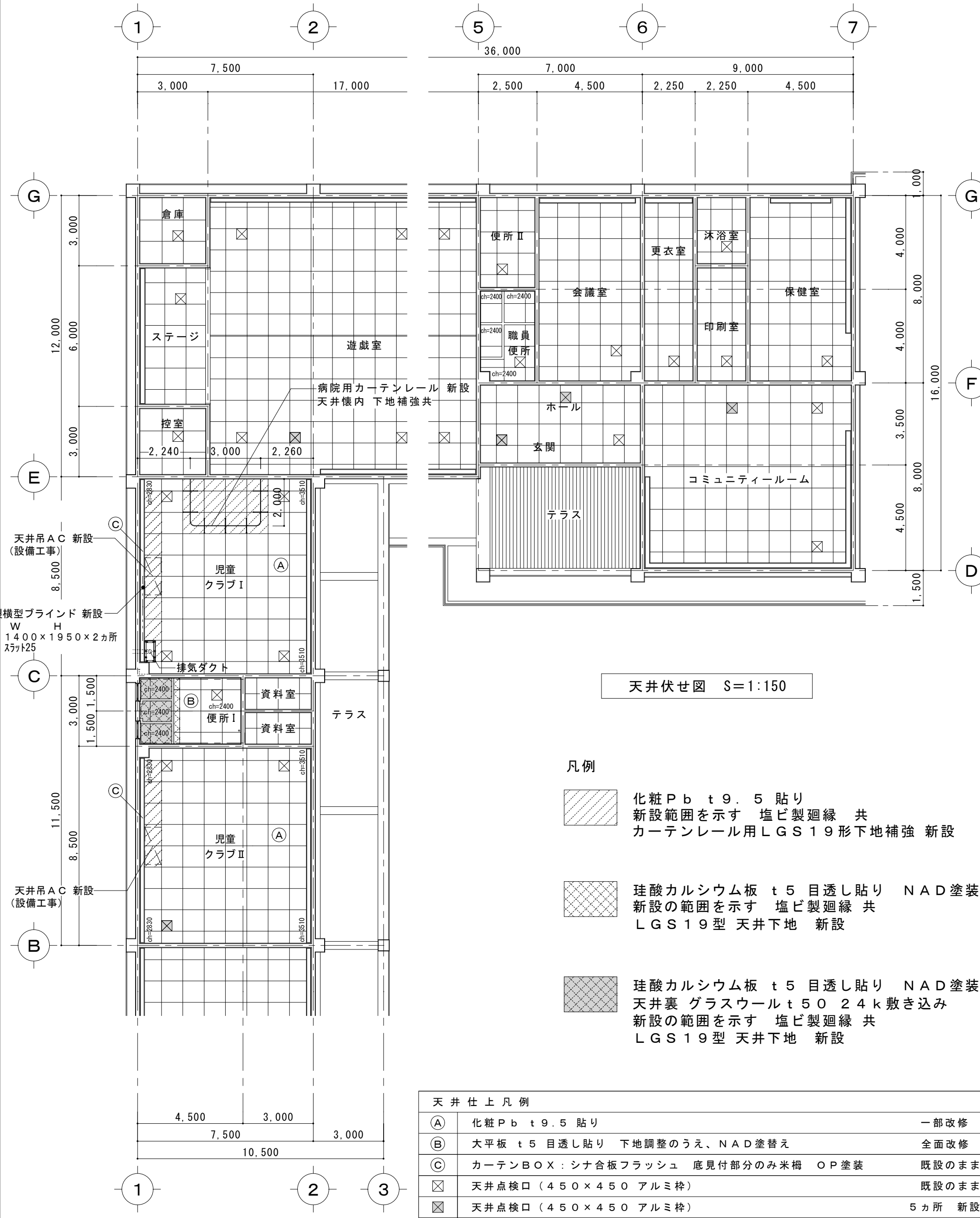
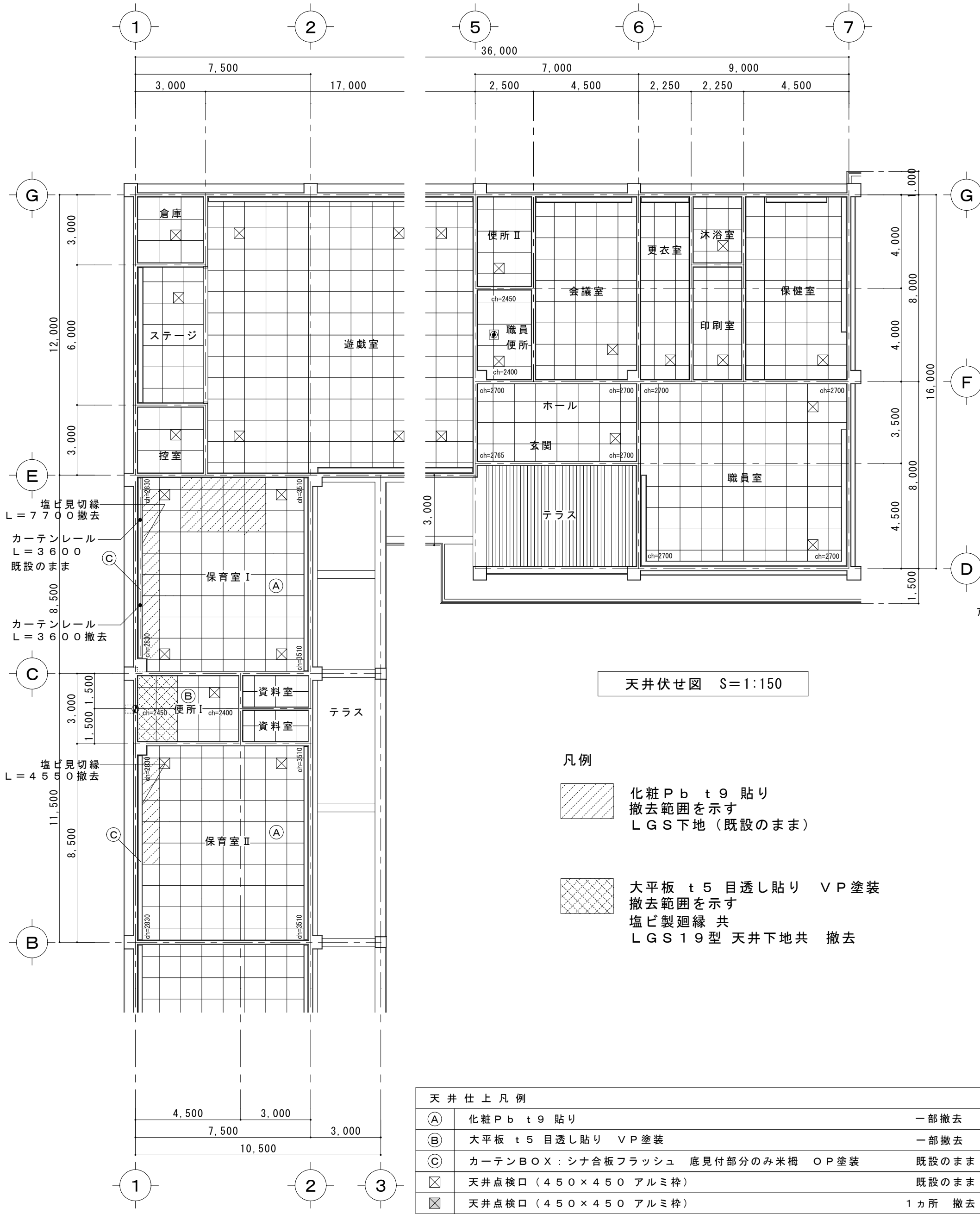
年月日
縮尺
1/30

工事名称
北立誠地区放課後児童クラブ整備に伴う
旧津市立北立誠幼稚園及び津市立北立誠小学校改修工事
図面名
便所 I 断面図 改修前・改修後

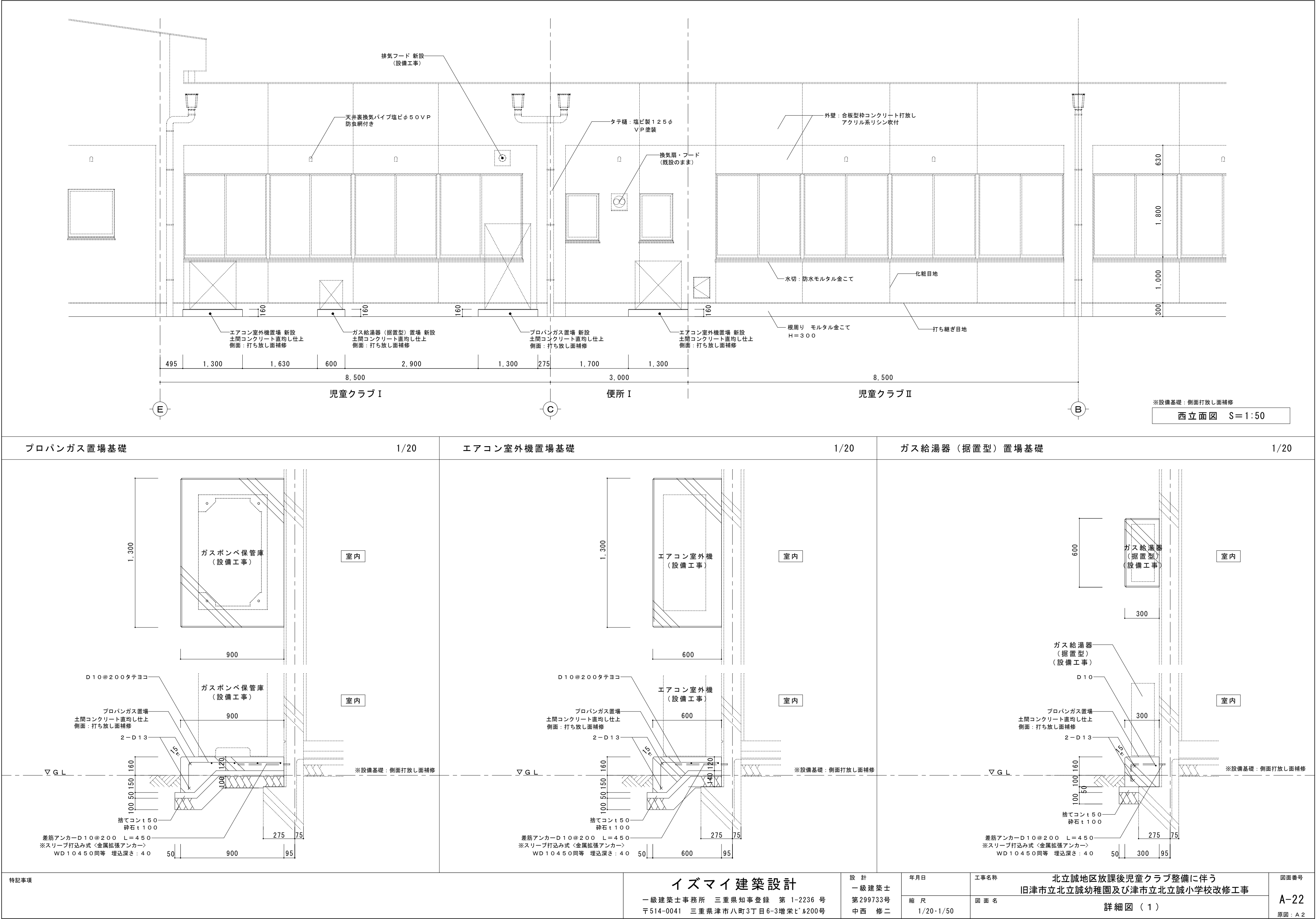
図面番号
A-19
原図：A 2

改修前

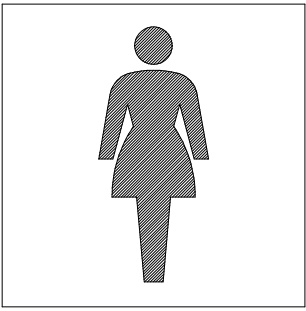
改修後



撤去		新設							
符号・名称・数量		1 TB トイレブース		1 箇所					
形 状	撤去								
					S:1/50				
室 名	便所 I								
名 称	トイレブース								
材 質									
見 込	4 0								
仕 上	シナベニヤ OP 塗装								
ガ ラ ス									
金 物	受金物、自由丁番、ステンレス頭つなぎ								
符号・名称・数量		1 LSD 鋼製軽量片開扉		3 箇所					
形 状	新設								
					S:1/50				
室 名	便所 I								
名 称	鋼製軽量片開扉								
材 質	亜鉛メッキ鋼板 扉：t=0.6 枠：t=1.6								
見 込	枠：112 扉：40								
仕 上	焼付塗装								
ガ ラ ス	型板強化ガラス t = 4 mm								
金 物	レバーハンドル、丁番、ドアクローザー、床付け戸当り、明り窓								
	アルミガラリ（開口率30％）、表示錠（非常解錠付）、帽子掛け								
特記事項				イズマイ建築設計 一級建築士事務所 三重県知事登録 第 1-2236 号 〒514-0041 三重県津市八町3丁目6-3増栄ビル200号		設 計 一級建築士 第299733号 中西 修二	年月日 縮 尺 1/50	工事名称 北立誠地区放課後児童クラブ整備に伴う 旧津市立北立誠幼稚園及び津市立北立誠小学校改修工事	図面番号 A-21 原図：A2
								図面名 便所 I ・職員便所 建具表	



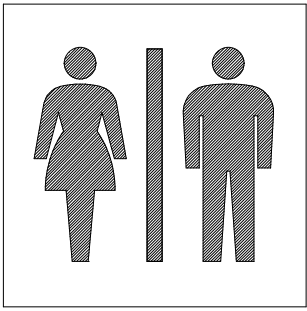
200



200

場 所	便所Ⅰ：女子便房
個 数	1カ所
材 質	アクリル白板 t 5
表 示	シート貼

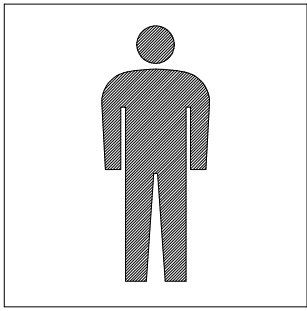
200



200

場 所	便所Ⅰ：男女便房
個 数	1カ所
材 質	アクリル白板 t 5
表 示	シート貼

200



200

場 所	便所Ⅰ：男子小便房
個 数	1カ所
材 質	アクリル白板 t 5
表 示	シート貼

※ J I S Z 8 2 1 0 による記号とする

掃除具入

570

700

25

120

通気管（既設のまま）

受皿：ステンレス板 t 2.0
H = 50

平面図

耐水シナ合板フラッシュSOP塗替え

換気口：塩ビ製φ50

耐水シナ合板フラッシュSOP塗替え

SUS製座付取手 新設

1,940

1,840

100

30

500

140

700

平面図

※既存OP塗装

通気管（既設のまま）

ステンレスパイプφ27.2

耐水シナ合板 t 3 SOP塗替え

受皿：ステンレス板 t 2.0 加工
H = 50

耐水シナ合板フラッシュSOP塗替え

巾木：米桐 t 30 SOP塗替え

15

570

30

断面図

床：ブナフローリング t 15

SUS製床見切 HL

15

20

ビニール床シート t 2.5

12

3

2.5

45

30

根太：45×45
@303
木材保護塗装

大引：90×30
@900
木材保護塗装

耐水ラワンベニヤ t 3

耐水合板 t 12

特記事項

イズマイ建築設計
一級建築士事務所 三重県知事登録 第 1-2236 号
〒514-0041 三重県津市八町3丁目6-3増栄ビル200号

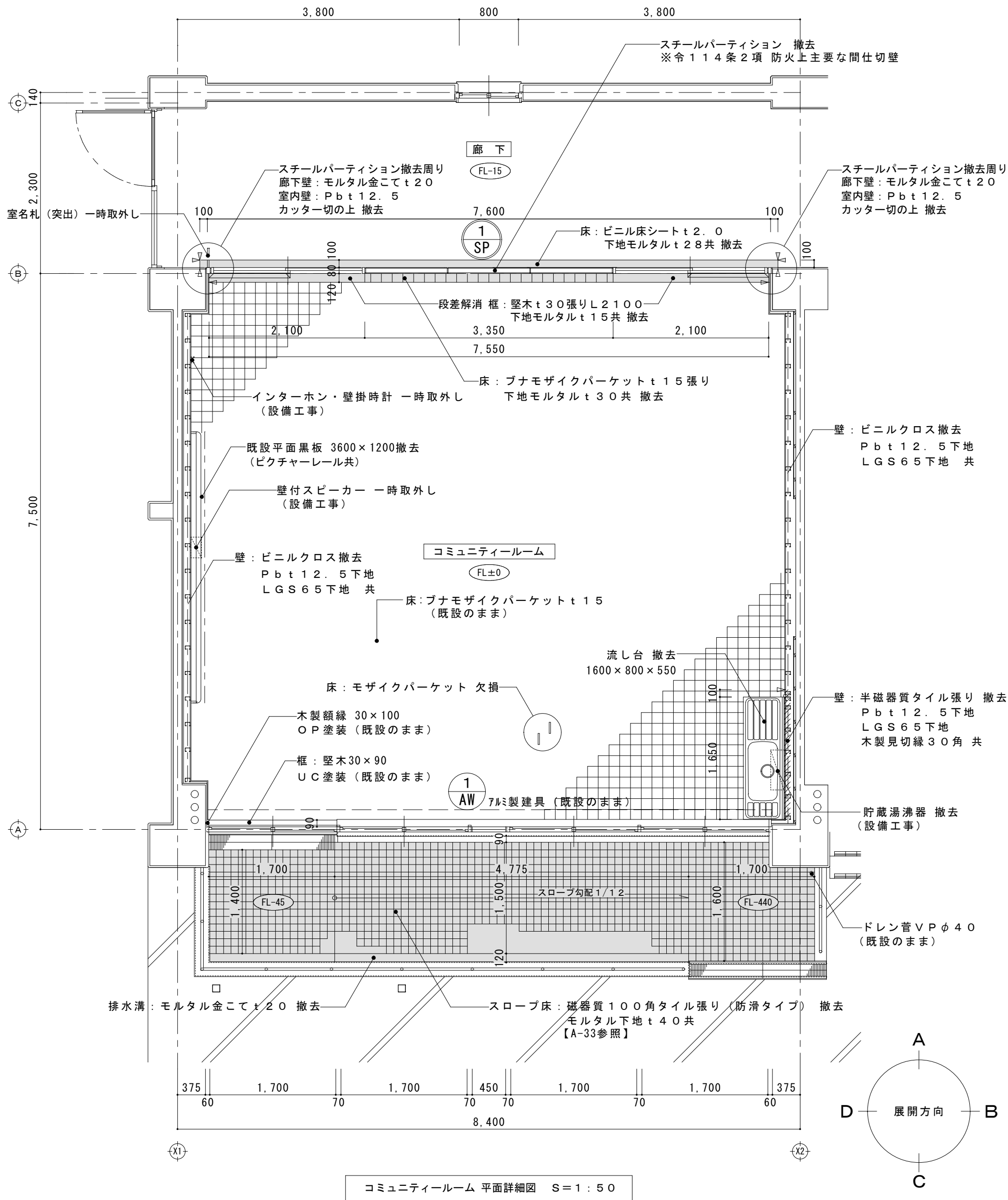
設 計
一級建築士
第299733号
中西 修二

年月日
縮 尺
1/2・1/5・1/20

工事名称
北立誠地区放課後児童クラブ整備に伴う
旧津市立北立誠幼稚園及び津市立北立誠小学校改修工事
図 面 名
詳細図（4）

図面番号
A-25
原図：A 2

改修前

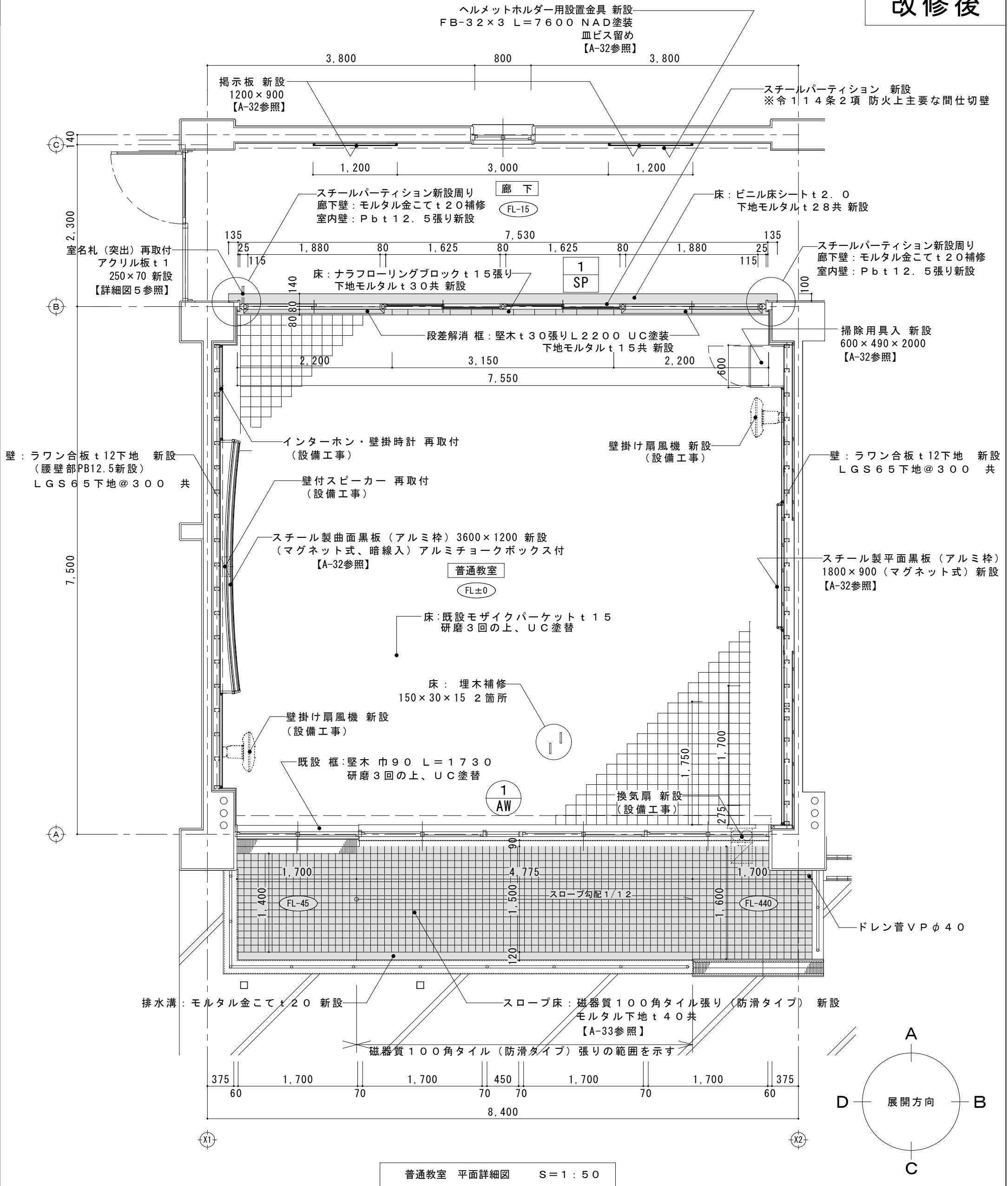


凡例

- 床: カッター切の位置を示す
- 壁: カッター切の位置を示す
- 床仕上げ 撤去範囲を示す
下地モルタル共

※壁紙の貼替に伴い改修後も利用するコンセント及びスイッチプレート等は一時取外しの上、再取付を行うこととする

改修後



凡例

- 床仕上げ 新設範囲を示す
下地モルタル共

※フローリング研磨について
手押し型のサンダーマシンを用い、均質で滑らかな仕上がりとする。研磨完了時、監督員の確認を受け、塗装の工程に進むこと。

特記事項

イズマイ建築設計

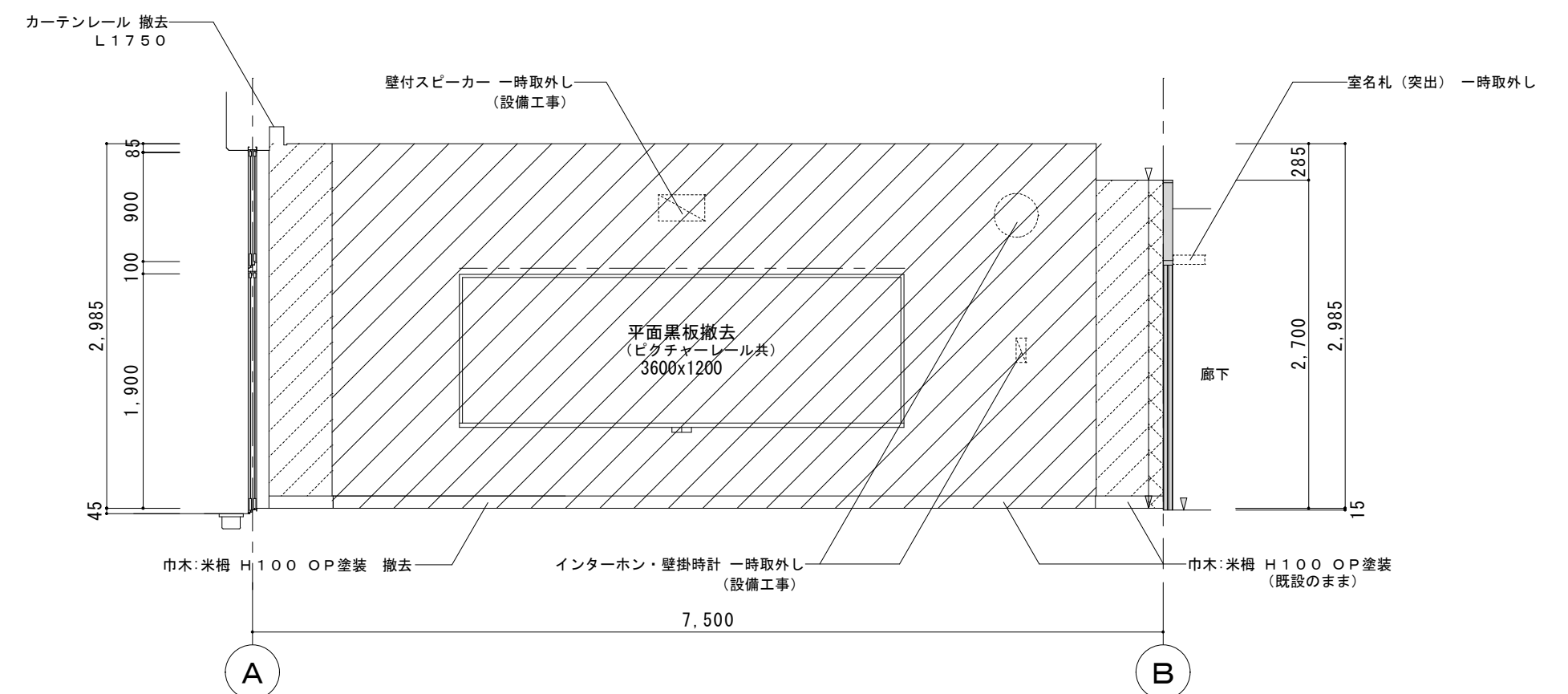
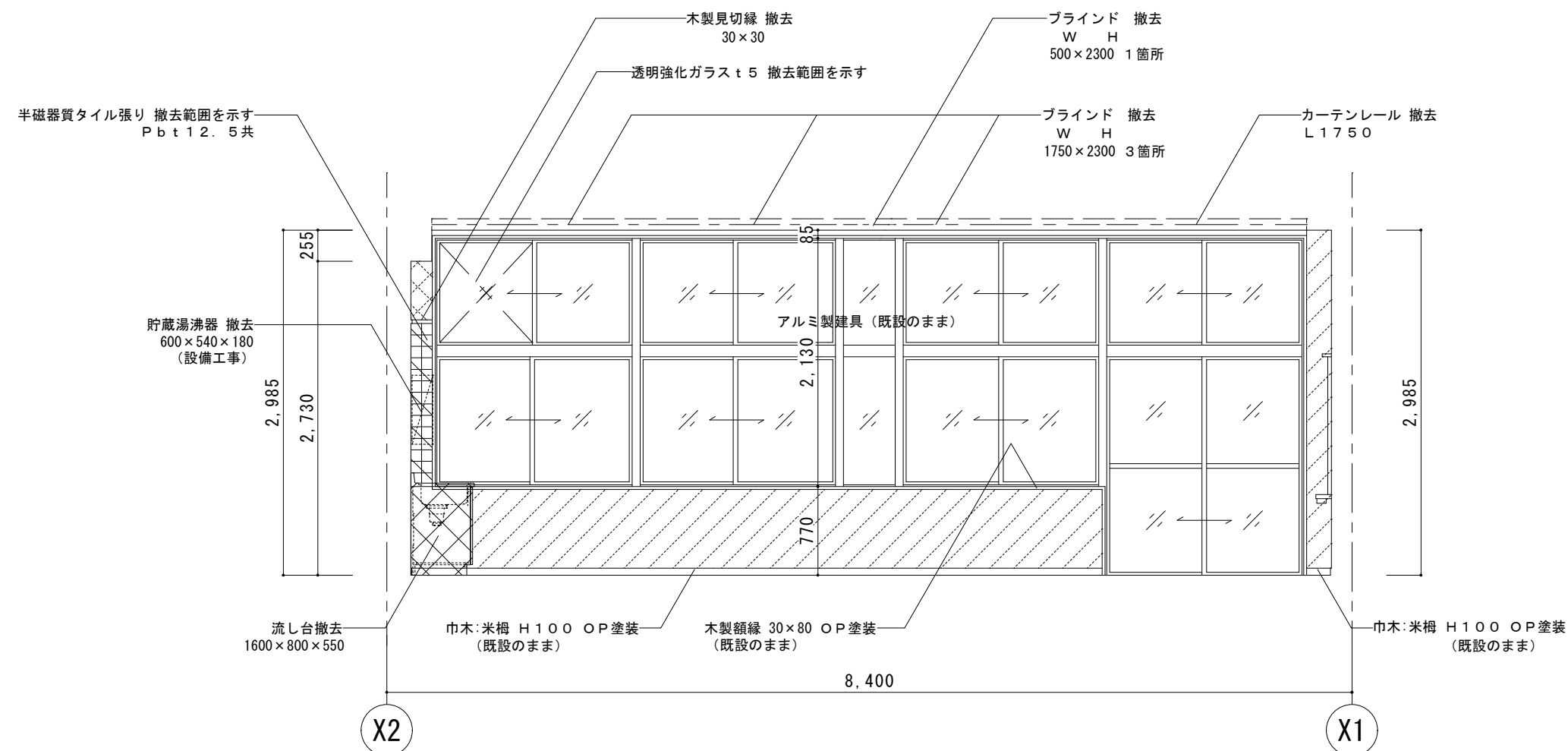
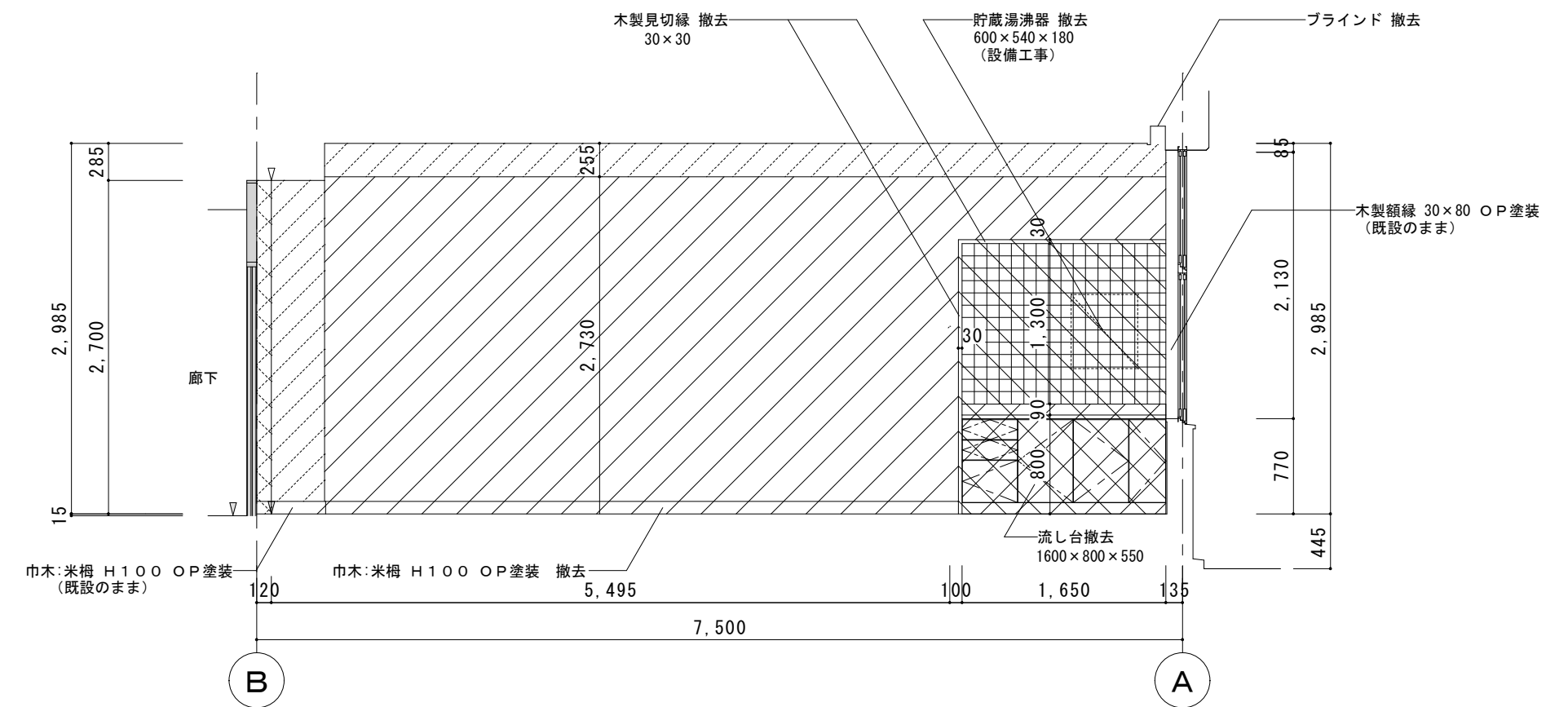
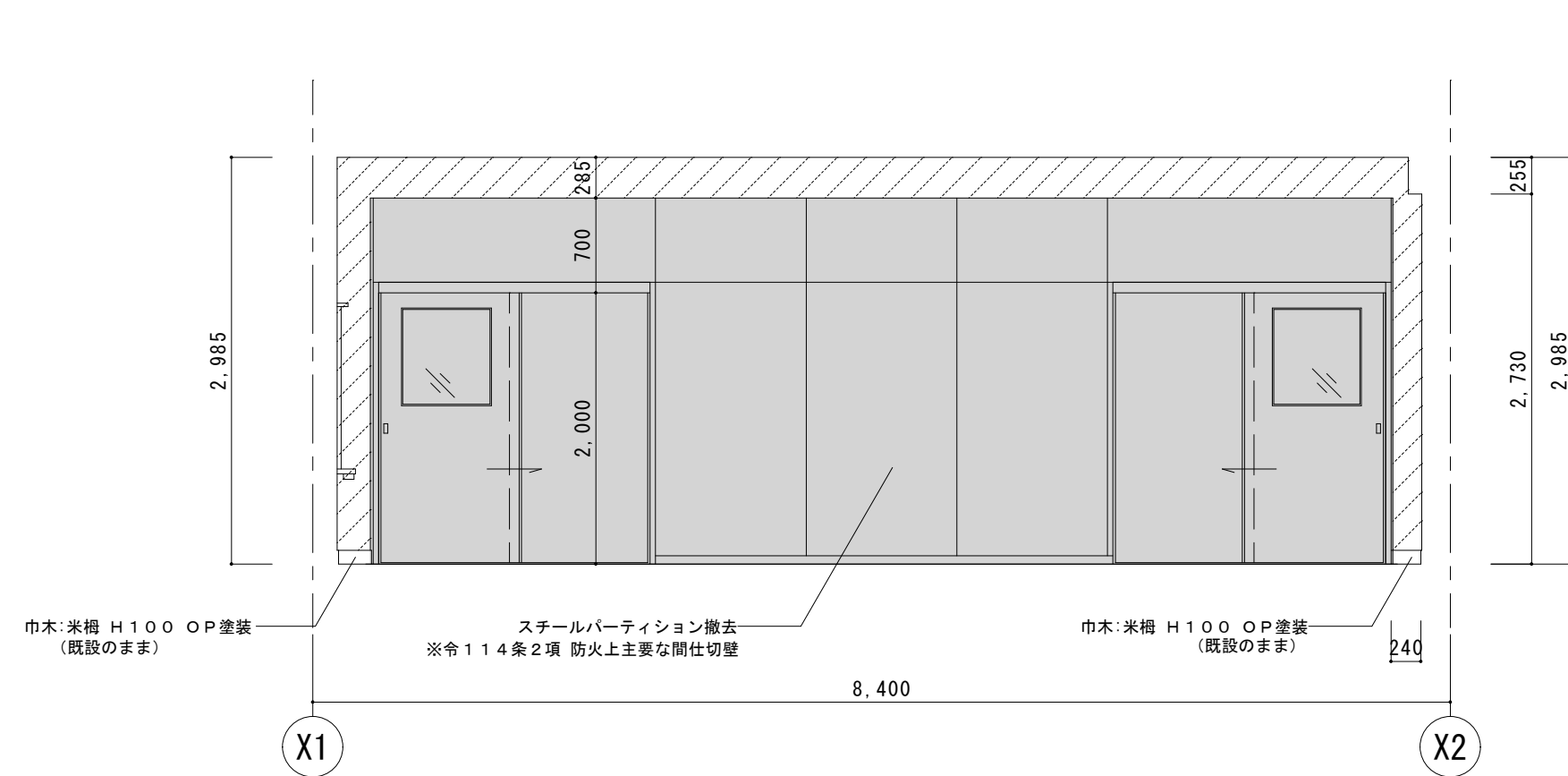
一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-2236号
〒514-0041 三重県津市八町3丁目6-3増栄ビル202号

設計
一級建築士
第299733号
中西 修二

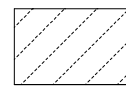
年月日
縮尺
1/50

工事名称
北立誠地区放課後児童クラブ整備に伴う
旧津市立北立誠幼稚園及び津市立北立誠小学校改修工事
図面名
普通教室 平面詳細図 改修前・改修後

図面番号
A-26
原図: A.2



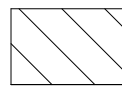
凡例



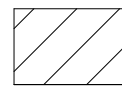
ビニルクロス 撤去範囲を示す
P b t 1 2. 5 下地は既設のまま



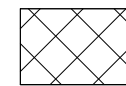
ビニルクロス 撤去範囲を示す
 カッター一切の上、P b t 1 2 . 5 下地共



半磁器質タイル張り 撤去範囲を示す
木製見切縁
P b t 1 2 . 5 + L G S 6 5 共



ビニルクロス 撤去範囲を示す
 カッター切の上
 P b t 1 2 . 5 + L G S 6 5 共

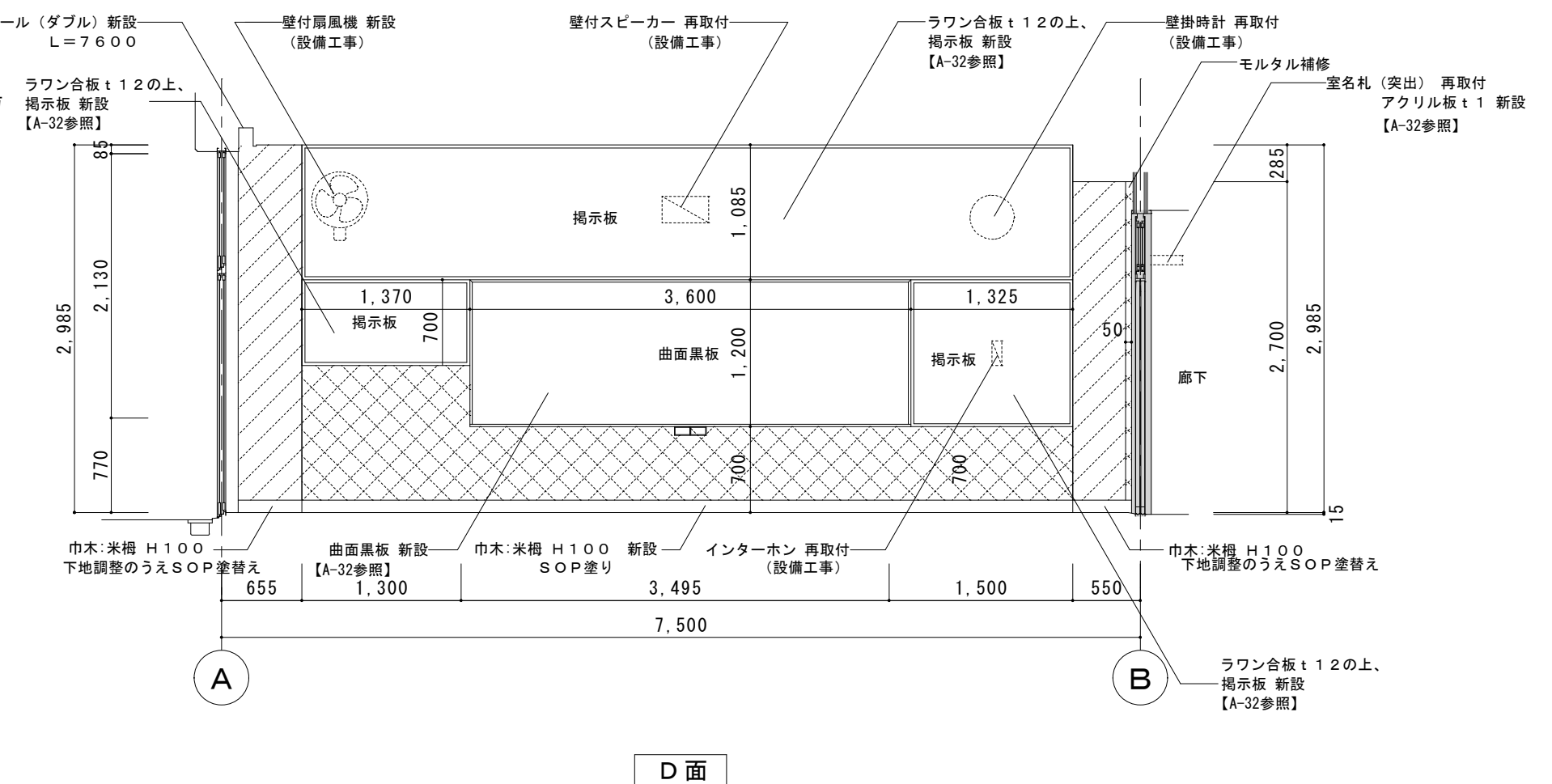
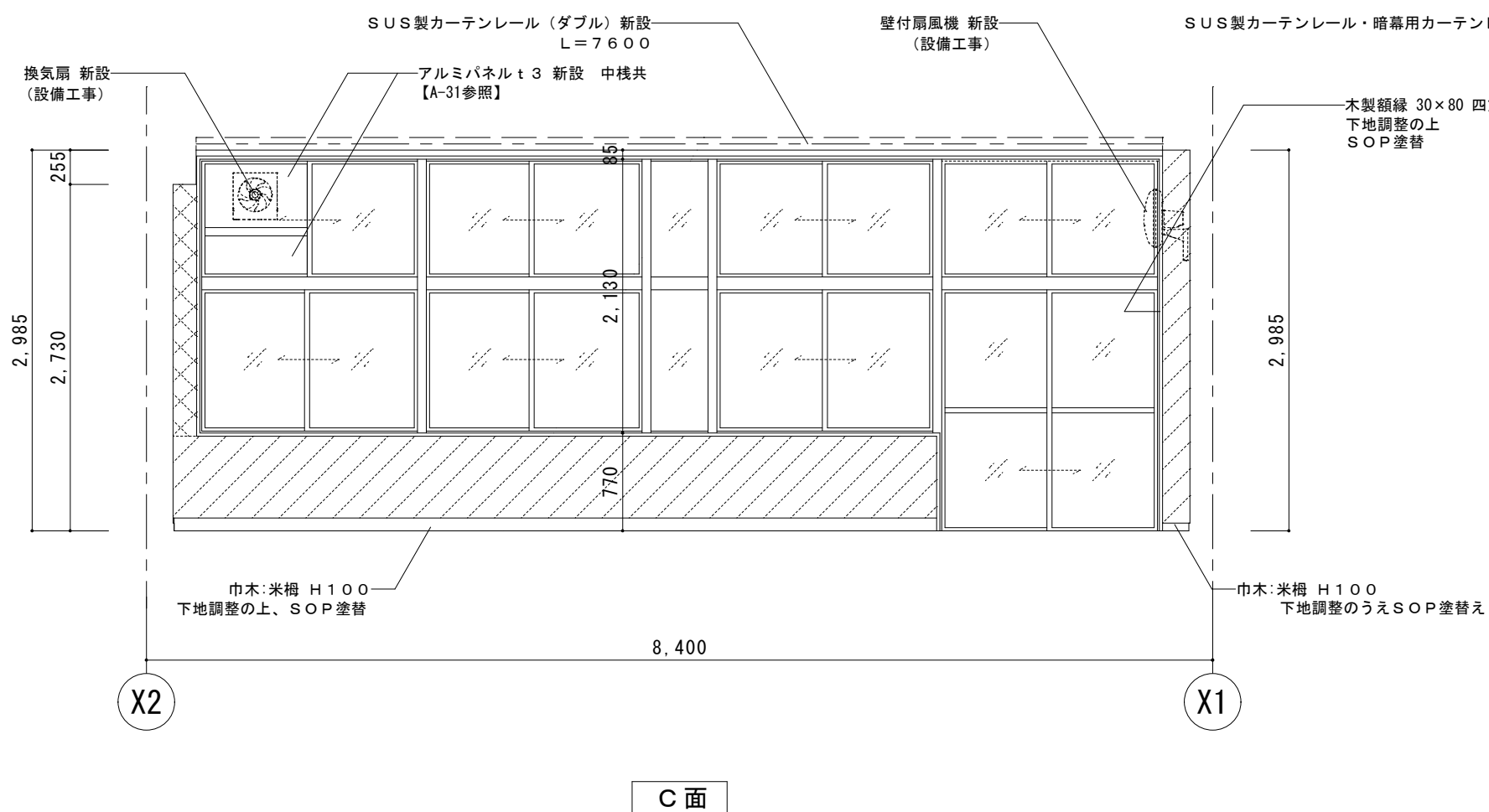
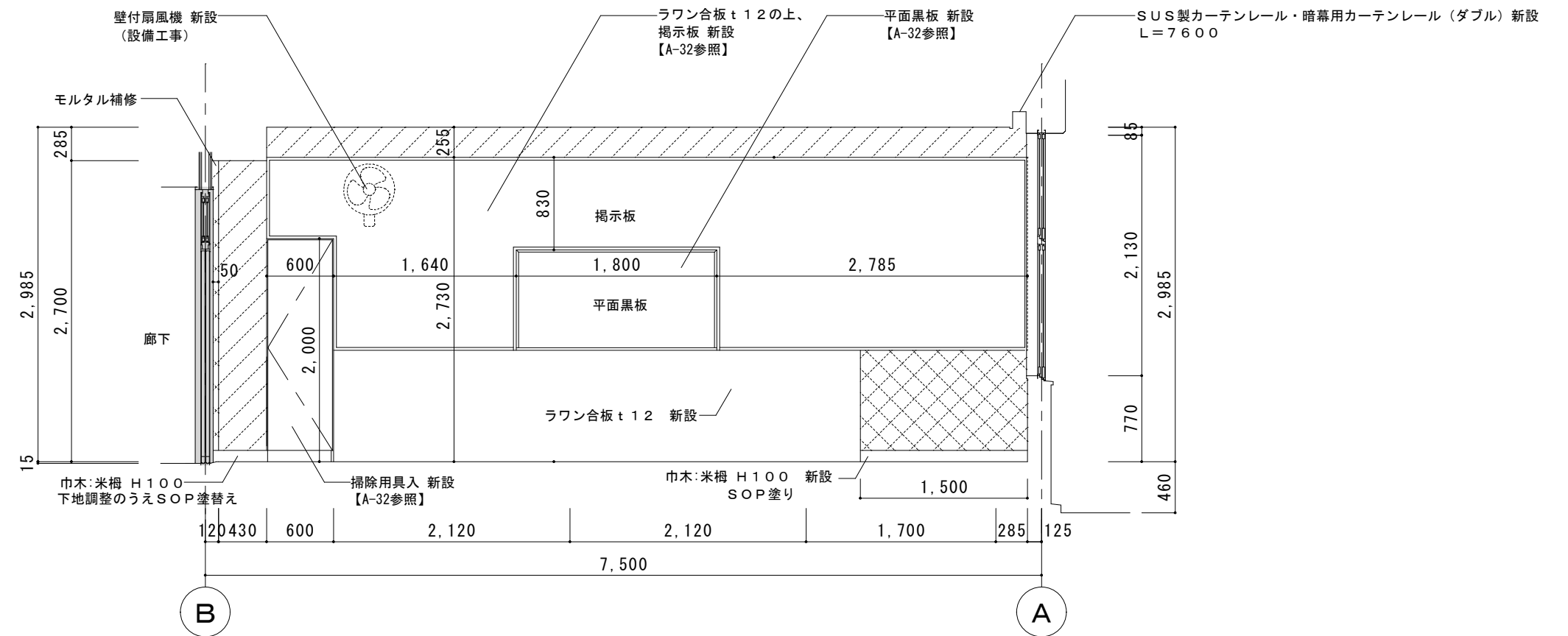
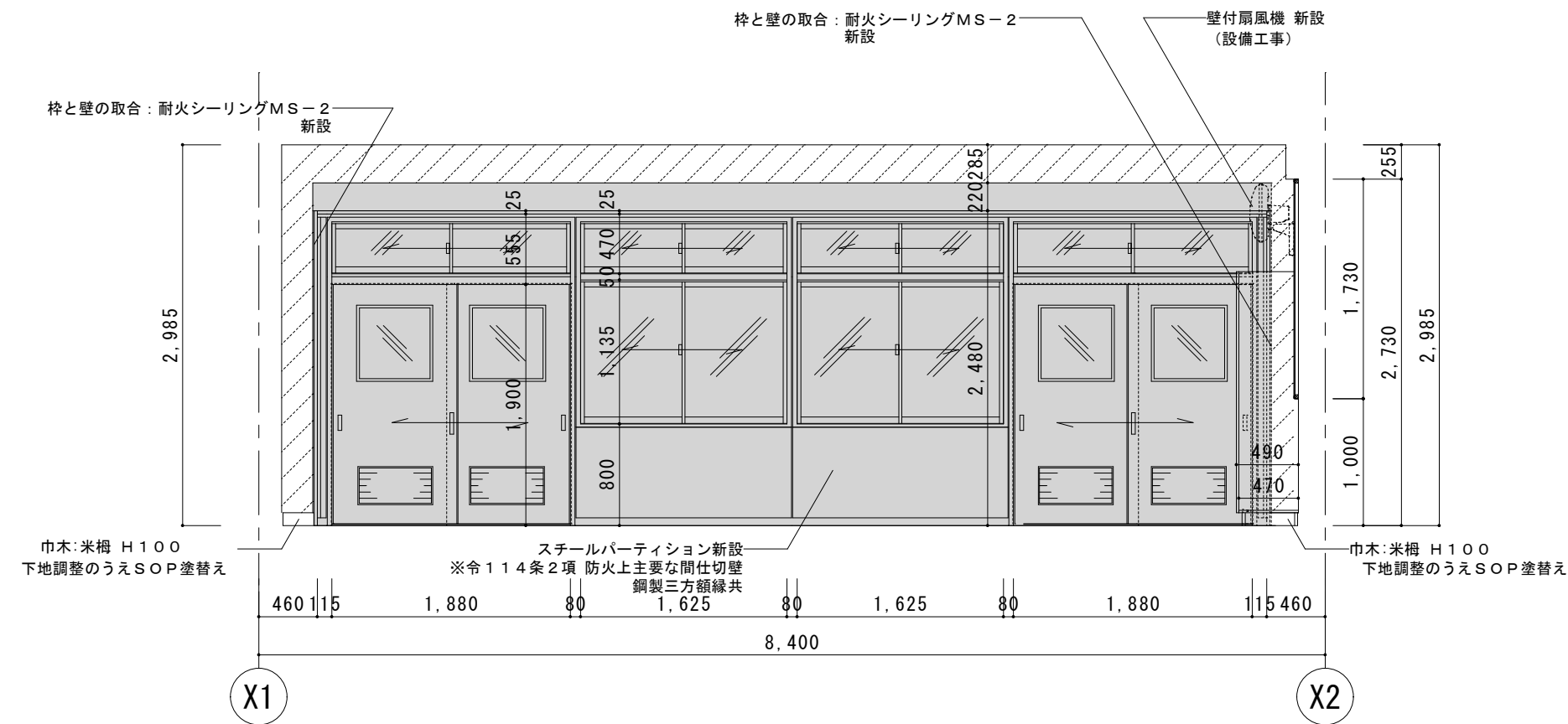


流し台 撤去範囲を示す

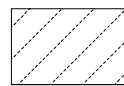


壁：カッター一切の位置を示す

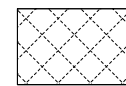




凡例



ビニルクロス 新設範囲を示す
P b t 1 2 . 5 下地は既設のまま

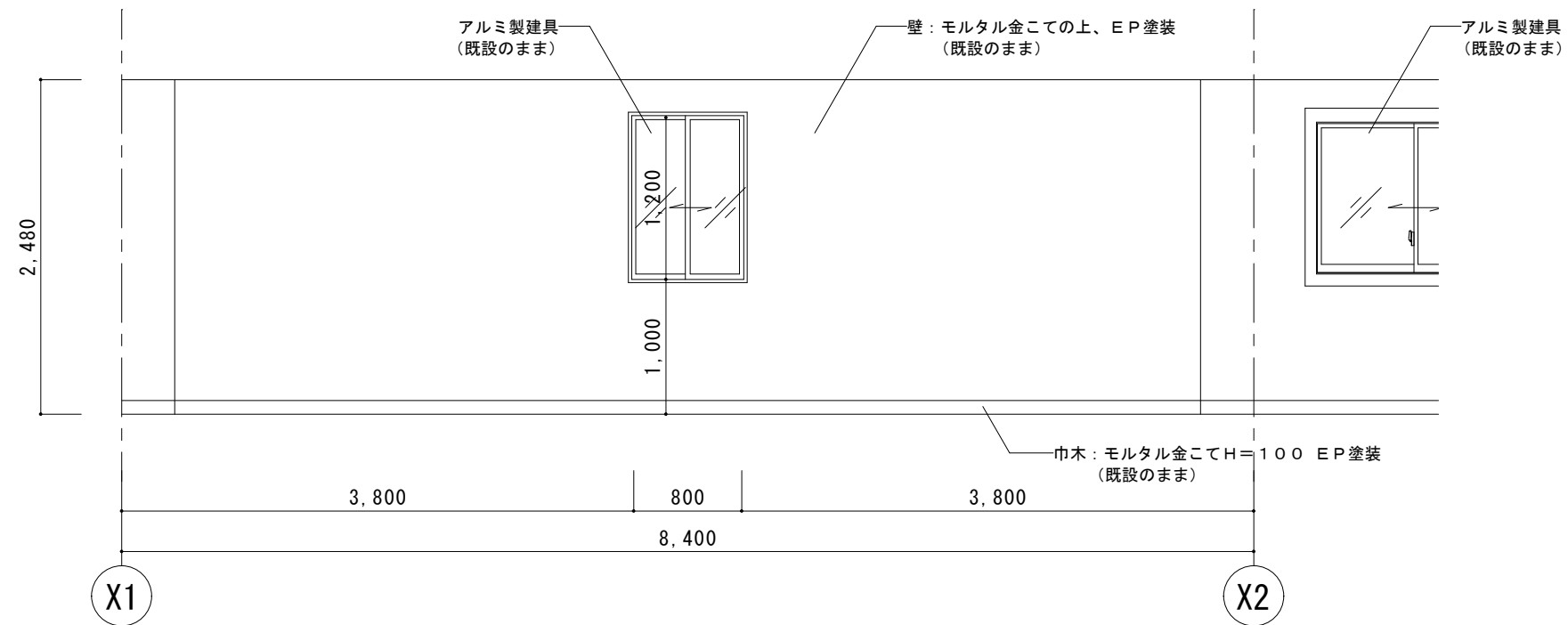


ビニルクロス 新設範囲を示す
P b t 1 2 . 5 下地共

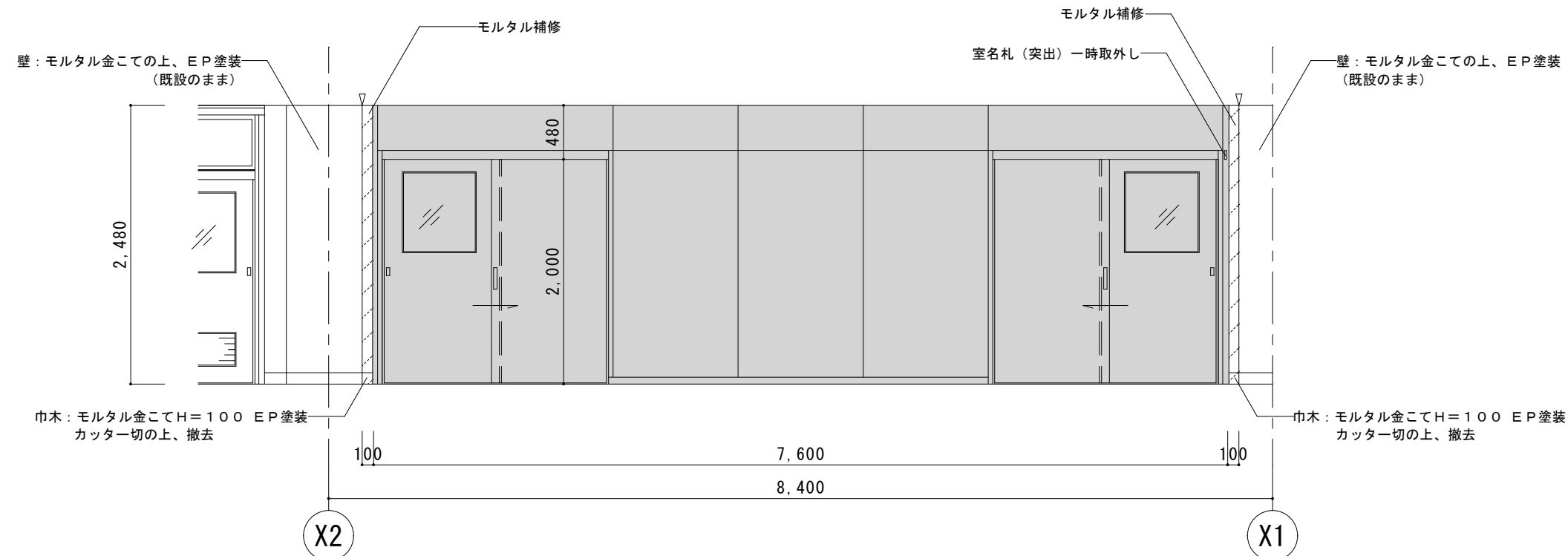


スチールパーティション 新設範囲を示す

改修前



A 面



C 面

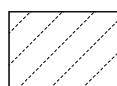
凡例

▽

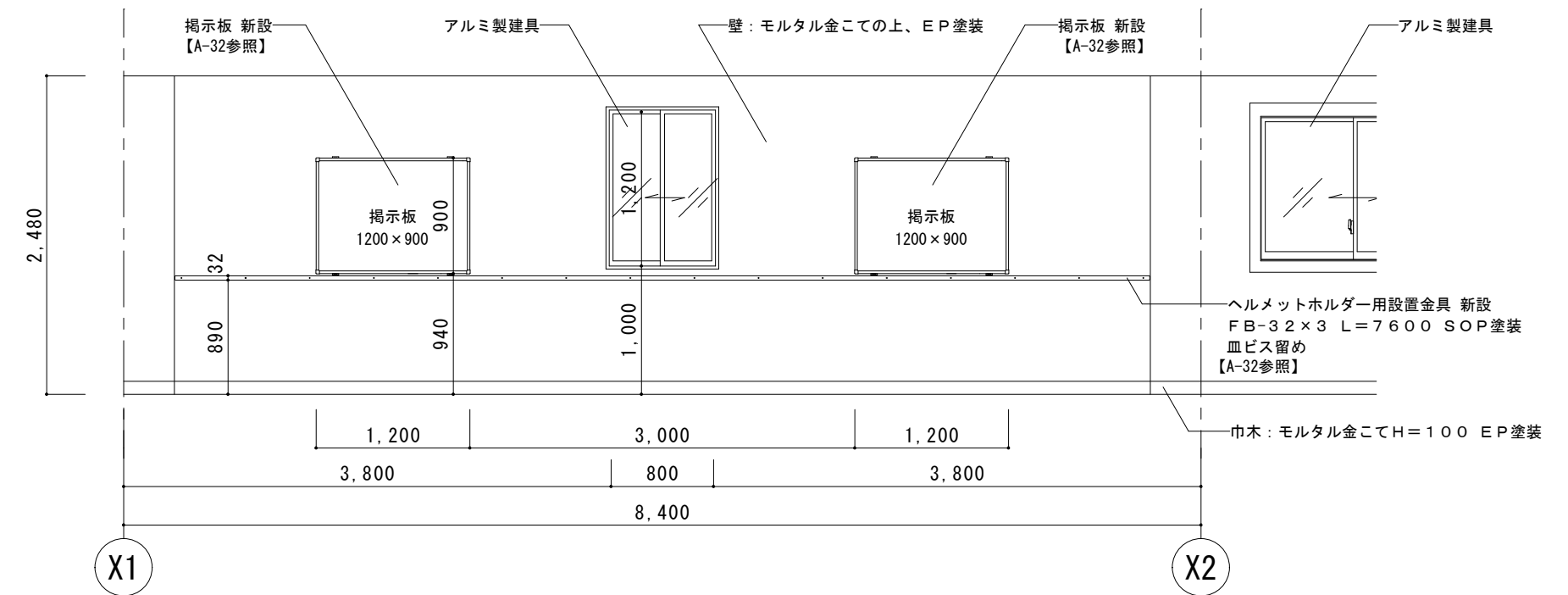
壁：カッター一切の位置を示す



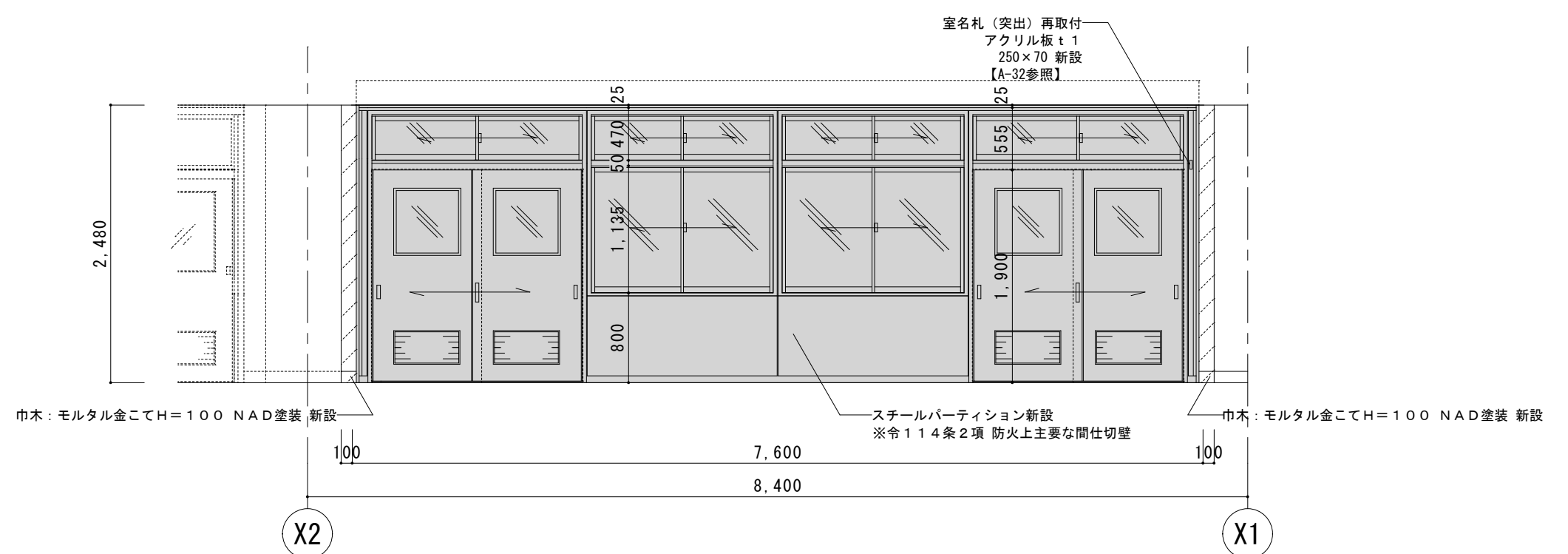
スチールパーティション 撤去範囲を示す



壁：モルタル金こて カッター一切の上撤去範囲を示す



A 面

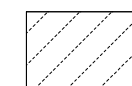


C 面

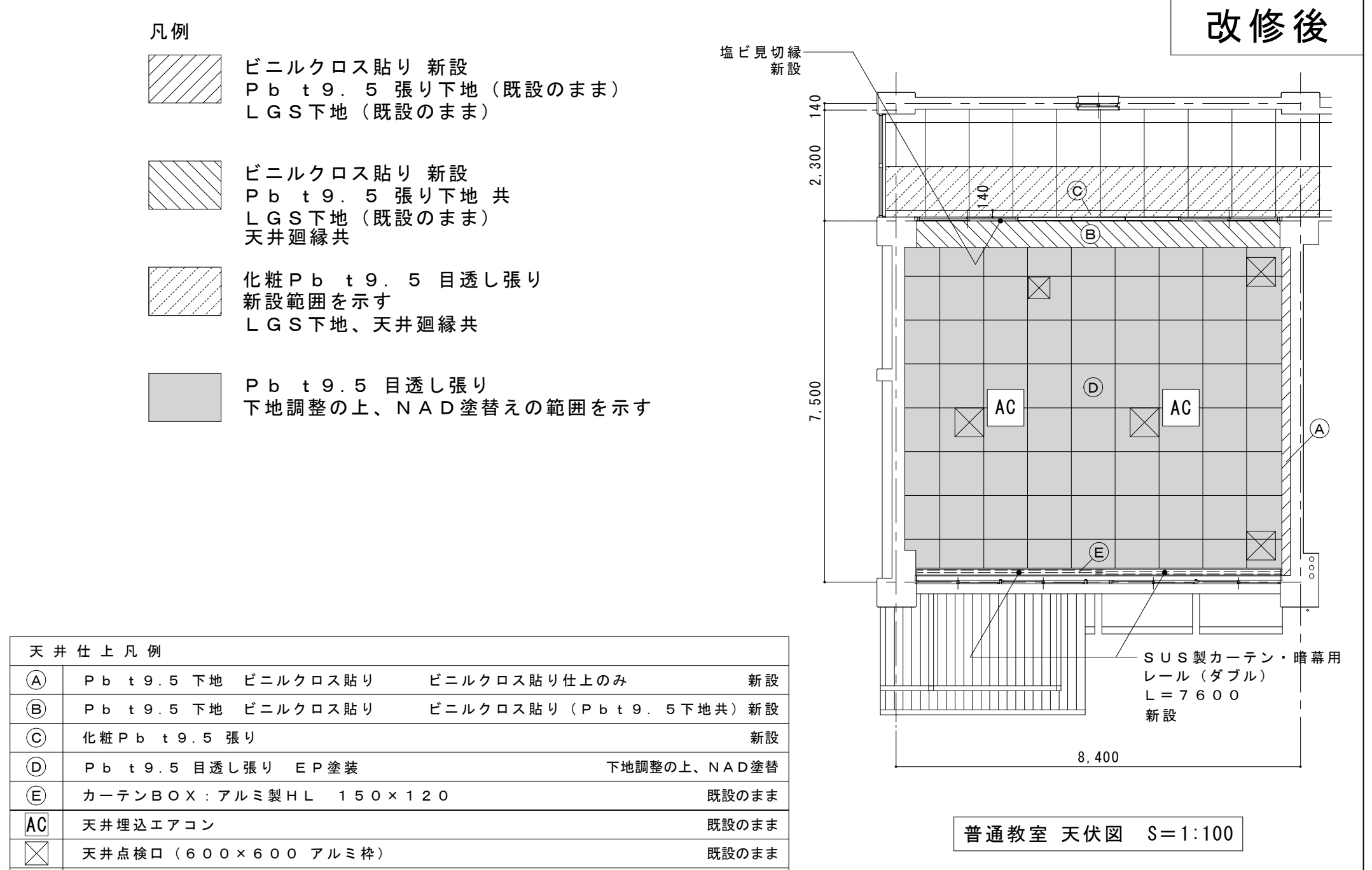
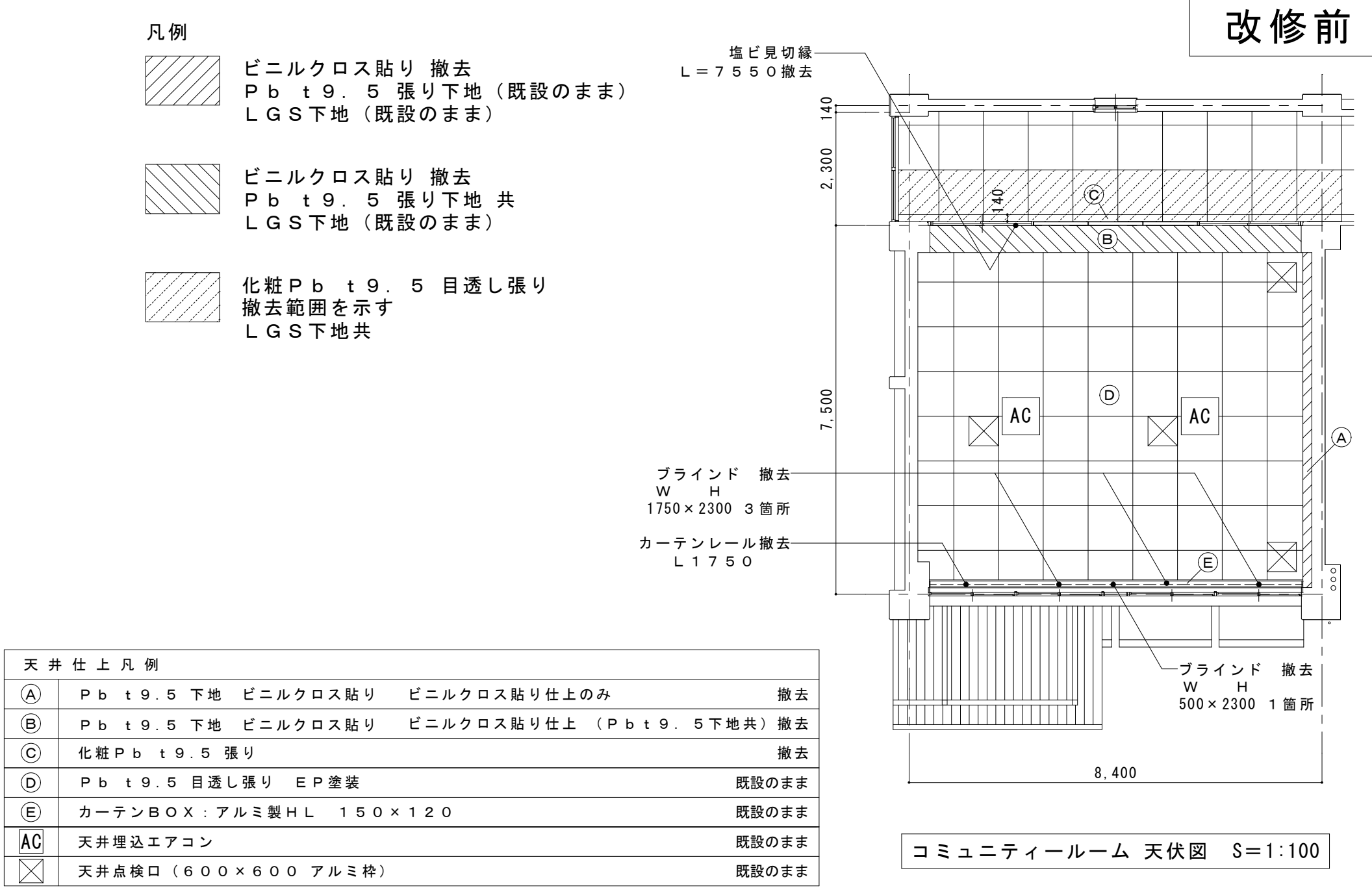
凡例



スチールパーティション 新設の範囲を示す
※令 114 条 2 項 防火上主要な間仕切壁



壁：モルタル金こて t 20 NAD 塗装 新設の範囲を示す



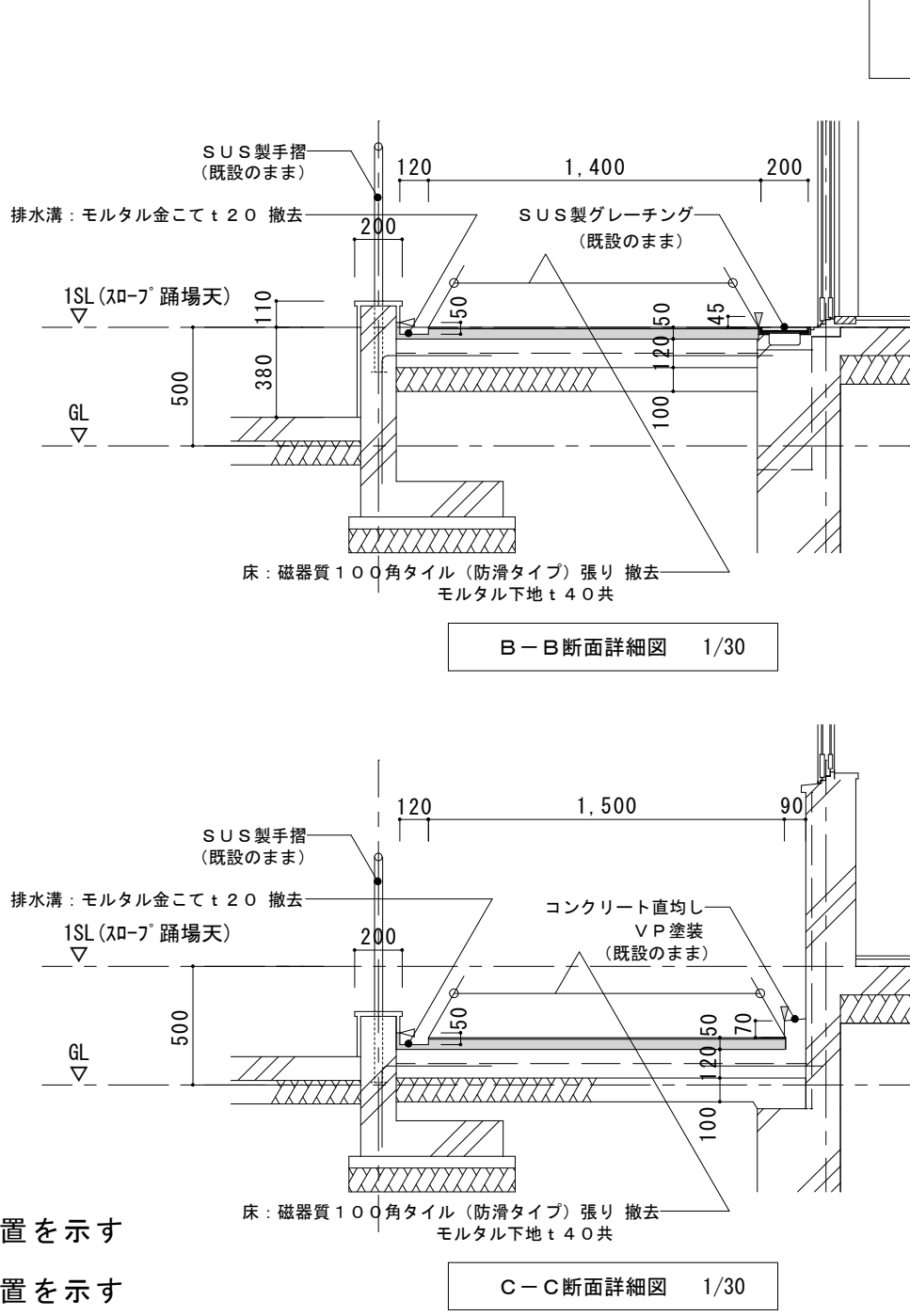
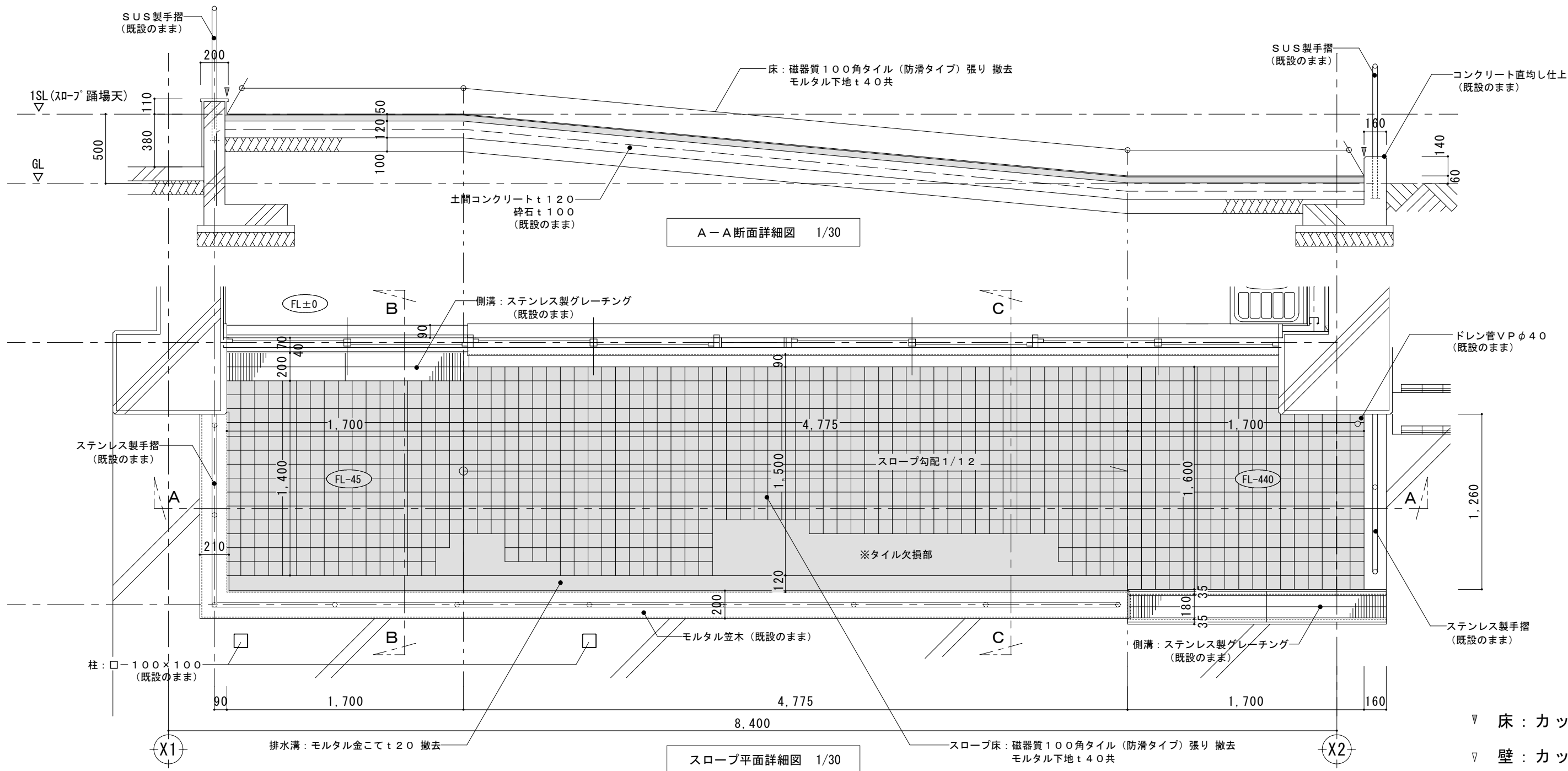
符号・名称・数量		1 SP	スチールパーティション		1箇所	
形状	<div>撤去</div> <div><div><div>撤去範囲を示す</div><div>飛散防止フィルム張り</div><div>△教室梁下面</div><div>△廊下天井面</div></div><div><div>▽廊下FL</div><div>▽教室FL</div></div><div>【廊下側表示】</div></div>					
	室 名 コミュニティルーム 名 称 中央固定間仕切壁両側戸袋付片引戸 材 質 スチール 見 込 80 仕 上 化粧鋼板両面張り ガ ラ ス 型板強化ガラス t=4 金 物 引手、戸車、ステンスレール、引き違い戸錠、 備 考 ステンレス沓摺 ステンレスt=1.5加工					
符号・名称・数量		1 SP	スチールパーティション		1箇所	
形状	<div>新設</div> <div><div>三方鋼製額縁</div><div>▽廊下FL</div><div>▽教室FL</div><div>【廊下側表示】</div></div>					
	室 名 普通教室 名 称 引違いタマ付き引違戸・引違いタマ付き引違窓 材 質 スチール（芯材：不燃材とする） 見 込 80 額縁：160 仕 上 化粧鋼板両面張り 額縁：亜鉛めっき鋼板 t=1.6 ガ ラ ス 戸：型板強化ガラス t=4、タマ：透明強化ガラス t=4 金 物 引手、戸車、ステンスレール、引き違い戸錠（既設マスターキー対応）、クレセント、アンクルヒース、付属金物一式 備 考 ステンレス沓摺 ステンレスt=1.5加工、アルミタマリ、付属物一式					
特記事項						

1 AW		中央 F I X 両袖引違 2 連 2 段アルミサッシ		1箇所	
改修	<div>換気扇 新設（設備工事）</div> <div><div>撤去</div><div>透明強化ガラスt=5 一部 撤去</div><div>アルミパネル t = 3 新設 中棧 共 シーリング（SR-2）</div><div>撤去範囲を示す</div></div>				
	普通教室 中央 F I X 両袖引違 2 連 2 段アルミサッシ アルミ 額縁：木 70 額縁：100 アルミトシルバー 透明強化ガラス t=5 一部 撤去 引手、戸車、クレセント、アンクルヒース、木製額縁、アルミ水切 アルミパネル t=3 新設				
参考図					

教室		廊下		教室		廊下	
<div>三方枠：亜鉛めっき鋼板 1.6t</div> <div>天井レール</div> <div>ガラス</div> <div>U字型ガasket</div> <div>ガラス枠</div> <div>アルミ引戸上枠</div> <div>ドアパネル</div> <div>引戸戸車</div> <div>引戸下レール</div> <div>モルタル充填</div>		<div>三方枠</div> <div>壁面レール</div> <div>壁面カバー</div> <div>溶接用アンカーφ10</div> <div>タップタイト 4X6</div> <div>取合見切 耐火シーリング（MS-2）</div>		<div>天井レール</div> <div>ガラス枠</div> <div>サッシ上レール</div> <div>サッシ障子</div> <div>ガラス</div> <div>U字型ガasket</div> <div>サッシ下レール</div> <div>ガラス枠</div> <div>上骨SP</div> <div>受け下棧</div> <div>パネル</div> <div>受け下棧</div> <div>巾木レール</div>		<div>天井レール</div> <div>ガラス枠</div> <div>サッシ上レール</div> <div>サッシ障子</div> <div>ガラス</div> <div>U字型ガasket</div> <div>サッシ下レール</div> <div>ガラス枠</div> <div>上骨SP</div> <div>受け下棧</div> <div>パネル</div> <div>受け下棧</div> <div>巾木レール</div>	

イズマイ建築設計		設計 一級建築士 第299733号 中西 修二		年月日 縮尺 1/5・1/50		工事名称 北立誠地区放課後児童クラブ整備に伴う 旧津市立北立誠幼稚園及び津市立北立誠小学校改修工事		図面番号 A-31 原図：A	
一級建築士事務所 三重県知事登録 第 1-2236 号 〒514-0041 三重県津市八町3丁目6-3増栄ビル200号						普通教室 建具表			

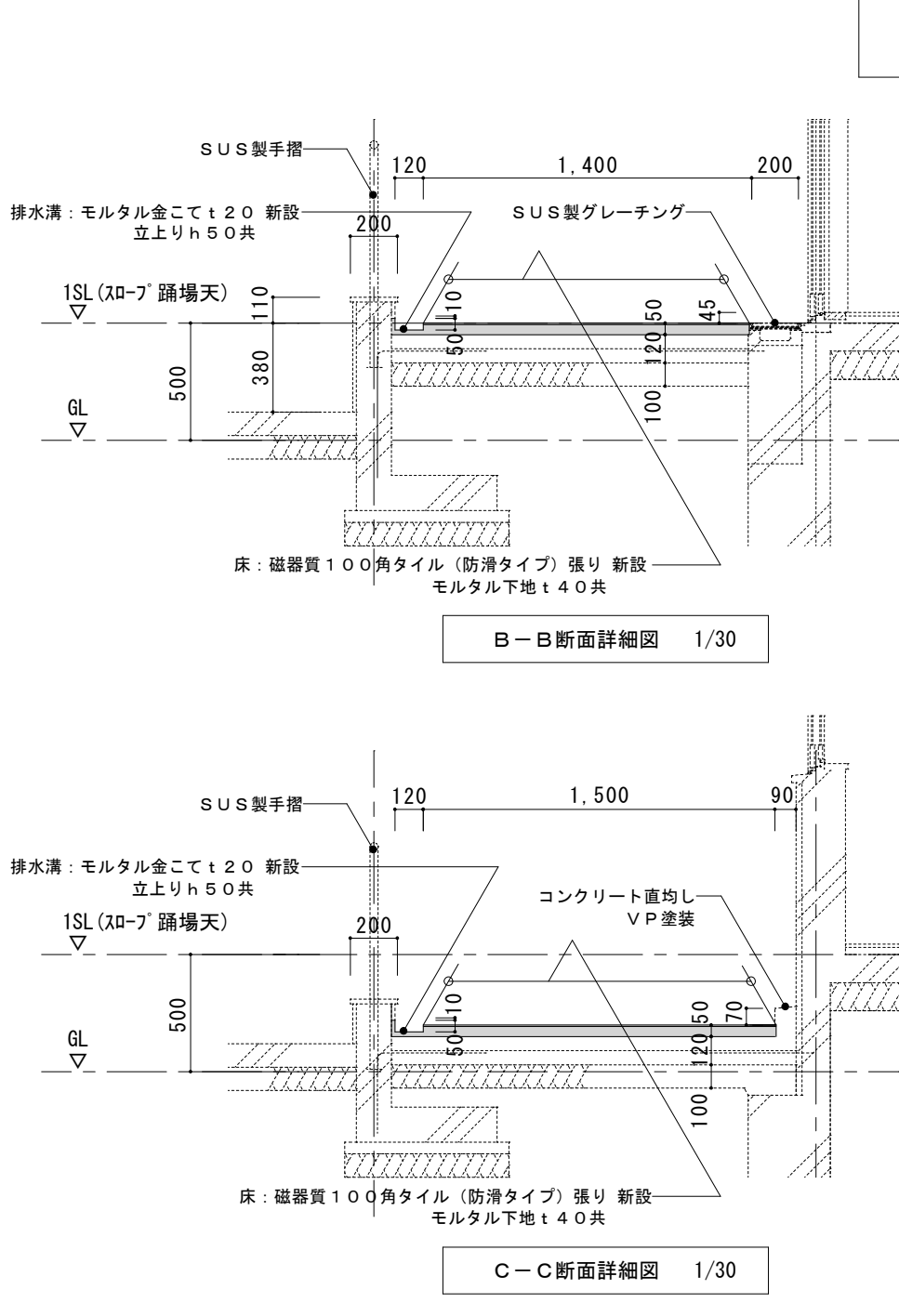
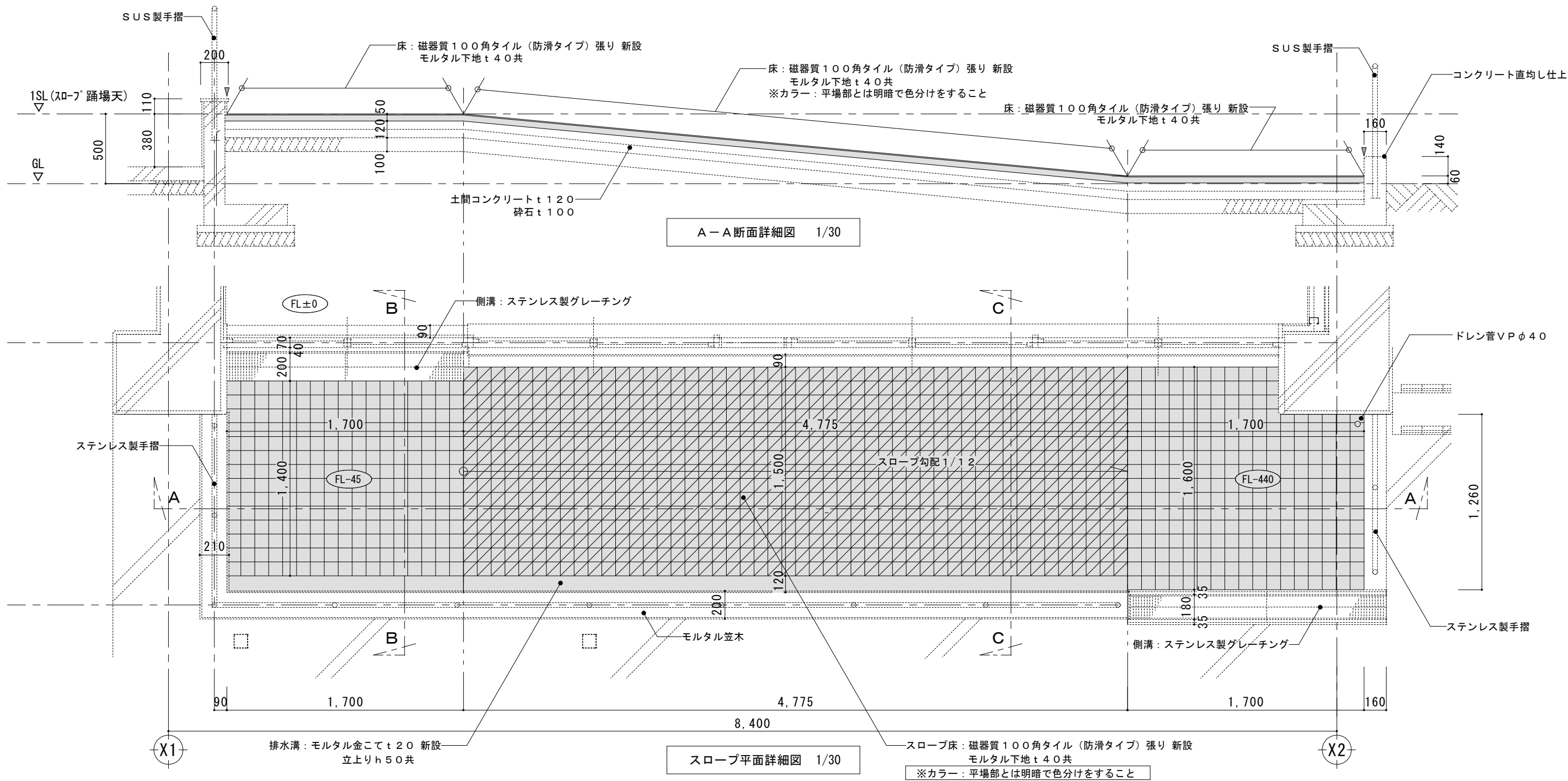
改修前



床：カッター切の位置を示す

壁：カッター切の位置を示す

改修後



特記事項
※スロープ斜路部分と踊場（平場）部分のカラーは、明暗を分けることとする

イズマイ建築設計
一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-2236号
〒514-0041 三重県津市八町3丁目6-3増栄ビル200号

設計
一級建築士
第299733号
中西 修二

年月日
縮尺
1/30

工事名称
北立誠地区放課後児童クラブ整備に伴う
旧津市立北立誠幼稚園及び津市立北立誠小学校改修工事
図面名
詳細図（6）

図面番号
A-33
原図：A 2

電気設備工事特記仕様書

1. 工事概要

1. 工事名称北立誠地区放課後児童クラブ整備に伴う旧津市立北立誠幼稚園及び津市立北立誠小学校改修工事

2. 工事場所津市江戸橋一丁目 地内

3. 建物概要

建 物 概 要	構 造	階 数	延べ面積 (㎡)	用途区分
				消防法施行令別表第一
幼稚園	RC造	1 階	765.0	(6) 二
小学校	RC造	3 階	1,480.0	(7)

4. 工事種目

主な工事種目は、下記の○印のついたものである。

(延べ面積は建築基準法による表記)

工 事 種 目	工 事 場 所			
	幼稚園	小学校		
電力設備	電灯設備	○	○	
	動力設備	○		
	雷保護設備			
	接地設備			
受変電設備				
	交流無停電電源設備			
	電力平準化用変電設備			
	分散電源系統”mp”分散系統			
発電設備	ディーゼル発電設備			
	ガスエンジン発電設備			
	ガスタービン発電設備			
	太陽光発電設備			
	風力発電設備			
	その他発電設備			
通信・情報設備	構内情報通信網設備	○		
	構内交換設備			
	情報表示設備			
	映像・音響設備			
その他	拡声設備			
	誘導支援設備			
	テレビ共同受信設備	○		
	テレビ電波障害防除設備			
	監視カメラ設備			
	駐車場管制設備			
	防犯・入退室管理設備			
	自動火災報知設備	○		
	自動閉鎖設備			
	非常警報設備			
その他	ガス漏れ火災警報設備			

II. 共通仕様

1. 適用

図面及び特記仕様書に記載されていない事項については下記による。(平成28年度版を適用)

- 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書」(建築工事編・電気設備工事編・機械設備工事編)
- 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築設備工事標準図」(電気設備工事編・機械設備工事編)
- 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「施設工事監理指針」(電気設備工事監理指針)「機械設備工事監理指針」
- 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書」(建築工事編・電気設備工事編・機械設備工事編)
- 国土交通省国土技術政策総合研究所及び独立行政法人建築研究所監修「建築設備耐震設計・施工指針」
- 電気設備に関する技術基準を定める省令(電気設備技術基準)
- 電気工事業の業務の適正化に関する法律
- 電気工事法
- 労働安全衛生法
- 消防関連法規(条例・所轄署指導要領を含む。)
- 電力会社供給約款
- その他関連法令、関連標準

2. 一般共通事項

下記の該当する項目を適用する。また、特記事項において選択する事項は、●印のついたものを適用する。

項 目	特 記 事 項
1. 一般事項	(1) 工事の詳細については、本設計図面及び仕様書による他、上記各施工基準に準拠し監督員指示の下に入念かつ誠実に施工すること。 (2) 設計図書に定められた内容、現場の納まり、取り扱い等の不明な点や施工上の困難・不都合、図面上の誤記及び記載漏れ等に起因する問題点及び疑義、設計図書のとおり施工することで将来不具合が発生しうると予想される場合については、その都度、監督員と協議すること。 なお、設計図書のとりの施工であっても使用上の不具合が発生した場合は、協議のうえ改善策を講じること。 (3) 施工工事の取合いについては予め当該工事関係者間において協議し、円滑な工事進捗に努めること。 なお、調整不足による差別的な仕上がり不備や不具合が発生した場合は、監督員の指示により手直し施工を行うこと。
2. 施工中の安全確保及び環境保全	低騒音型、低振動型の建設機械の使用に努めること。
3. 足場	設置する足場については、「手すり先行工法等に関するガイドライン」(厚生労働省 平成21年4月)により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり設置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。
4. 三重県産業廃棄物税	本工事には産業廃棄物税相当分が計上されていないため、受注者が課税対象となった場合には完成年度の翌年度の4月1日から8月31日までの間に三重県産業廃棄物税支払い請求書に産業廃棄物税納付証明書を添付して当該工事の発注者に対し支払請求を行うことができる。 なお、この期間を超えて請求することはできない。 また、産業廃棄物処理集計表(マニフェストの数量の集計)を超えて請求することはできない。
5. 電気工作物の種類	一般電気工作物 ●家用電気工作物・事業用電気工作物
6. 電気工事士	電気工事士の法の区分により施工するものとし、契約電力が500kW以上の電気工作物においても、第一種電気工事士により施工するものとする。
7. 有資格者の配置	(1) 消防設備の工事に従事する者は、当該設備に関する甲種消防設備士の資格を有する者とする。 (2) 電話設備、その他施工に資格が必要なものについては、関係法令に基づいた有資格者を配置し、施工するものとする。
8. 電気工事の施工場所ごとに、その見やすい場所に、氏名又は名称、登録番号その他の経済産業省令で定める事項を記載した標識を掲げなければならない。	
9. 電気主任技術者との調整	自家用電気工作物等で電気主任技術者が選任されている施設で工事を行う場合は、電気保安技術者を選任し、電気主任技術者に工事内容の説明を行い、指導を受けるものとする。 また、工事期間中の電気工作物の保安業務も行う。
10. 現場事務所等に備え付ける図書	下記の図書(最新版のもの)を備え付ける。 ① 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書」(建築工事編・電気設備工事編・機械設備工事編) ② 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築設備工事標準図」(電気設備工事編・機械設備工事編) ③ 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書」(建築工事編・電気設備工事編・機械設備工事編) ④ 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築工事監理指針」、「電気設備工事監理指針」、「機械設備工事監理指針」 ⑤ 工事写真の撮り方ー建築設備編ー ⑥ その他、監督員の指示する図書及び工事の容量計算等に必要な図書
11. 施工計画等	受注者は施工に先立ち、次の書類を提出し監督員と打合せを行う。 なお、書類の作成においては、関連する関係者と充分に調整すること。 ① 総合施工計画書 ② 総合工事計画書は、電気設備工事施工計画書とする。 ③ 各種工程ごとに作成し、停電及び撤入計画書も作成する。 ④ 施工要領(フットロッド、平面図、断面図、各種詳細図、主要機器、重量機器、3kg超吊吊器具等)については、固定方法、吊り方法等の詳細図を作成し、充分な耐震性能を確保する施工方法を提案すること。 ⑤ 耐震計算書、耐震計算書等 ⑥ 耐震分布図、センサー動作範囲図など
12. 品質計画	品質計画については、監督員の承諾を受けること。
13. 測定機器の校正等	試験に使用する計測器類は2年以内の校正証明書(写)又は有効期限内の精度保証書(写)等を提出する。
14. 機器類の能力等	機器類の能力、容量等(電動機出力は除く)は原則として表示された数値以上とする。
15. 工程表	関連業者間にて十分協議し実施工程表、月間工程表を作成して監督員に提出すること。 なお、月間工程表には埋設・隠蔽・高所等の施工確認項目の該当時期を印すること。
16. 工事写真	営繕工事写真撮影要領(平成28年版)に従い撮影すること。
17. 施工条件	監督員及び関係部と協議調整し決定すること。 1) 施工可能日 ・指定なし ・一部指定あり(振動・騒音等作業、重機搬入等入退場、停電作業等) ・指定あり 指定日(・施設の休業日・打ち合わせによる・その他()) 2) 施工可能時間帯 ・指定なし ・一部指定あり(振動・騒音等作業、重機搬入等入退場、停電作業等) ・指定あり 指定時間(・()時～()時・打ち合わせによる・その他()) 3) 搬送方法 ・適用する(工事期日より()日前)・適用しない 4) その他()
18. 事故の発生時	工事施工中に事故が発生した場合には直ちに監督員に通報するとともに、所定の様式により工事事故報告書を監督員が指示する期日までに、監督員に提出しなければならない。 なお、事故発生後の措置について監督員と協議を行うとともに、当該事故に係る状況聴取調査、検証等に協力すること。
19. 建設副産物	(1) 諸負額1億円以上の工事について、再生資源の利用又は建設副産物の搬出がある場合、受注者は工事の着手までに「再生資源利用計画書」(建設資材を搬入する場合)及び「再生資源利用促進計画書」(建設副産物を搬出する場合)を施工計画書に綴じ込んで監督員に提出する。 また、工事が必要又は完了した場合には「再生資源利用実施書」(建設資材を搬入した場合)及び「再生資源利用促進実施書」(建設副産物を搬出した場合)を作成し、監督員に提出する。 なお、計画書及び実施書の提出とともにJ A C I Cが運営する「建築副産物情報交換システム」へのデータ入力も併せて行う。 (2) 諸負額1億円以上の工事について、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」に従い、再資源化等が完了した後に報告書を提出すること。

20. 発生材の処理等

(1) 引き渡しを要するもの()
()
上記以外の引き渡しを要するものについては別途、監督員が指示する。
(2) 特別管理産業廃棄物
・変圧器
・コンデンサ
・その他()
現場内の監督員の指定する場所へ保管するものとする。
なお施工に際して、P C B等特別管理産業廃棄物及び疑わしき機器等を発見した場合は、監督員に報告し対応を協議するものとする。
(3) 現場内において再利用を図るもの
発生土
・その他()
(4) 再資源化を図るもの
・コンクリート塊
・アスファルトコンクリート塊
・建設発生木材
(5) 水銀使用製品産業廃棄物として取り扱うもの
●蛍光灯ランプ・H I D (高輝度放電ランプ)・その他()
「水銀廃棄物ガイドライン」(平成 29年6月 環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部)に基づき適切に処理すること。
(6) 発注者へ引き渡すものについては「現場発生品図書」を提出すること。
また、再利用を図るものについても圖書を作成し、監督員へ提出すること。
(7) 引き渡しを要しないものは、全て構外に搬出し、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、再生資源の利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、その他関係法令に従い適正に処理し、監督員に報告すること。(マニフェストA、B2、D、E票を提示すること。)

21. 官公署への手続き

工事の着手、竣工、完成にあたり、関係官公署への必要な届出、手続き等を遅滞なく行う。
なお、当該手続きに係る費用は発注者の負担とする。
・消防設備関係
・電気工作物関係
・受電関係
・通信関係
・建設工事関係
・その他()

22. 消防法関係の手続き

(1) 消火器に係る消防用設備等設置届出書の作成
本工事・建築工事・電気設備工事・機械設備工事)・別途工事
(2) 防火用設備使用開始届出書
書類の作成(電気設備図面の作成及び電気設備に関する部分の記入)を行うこと。

23. 工事前仮設物

構内への設置 ●できる(施設管理者と協議) ・できない

24. 工事前電力、水、その他

建築工事に準じる。

25. 工事中等の保安管理

新築、増築等で自家用電気工作物の範囲が変更になった場合、工事着手から引退しまでの電気保安管理にかかると費用は本工事に含まれる。

26. 搬入計画

大型機器、重量物等の搬入前に、搬入経路の有効寸法(厚、天井高さ、搬入経路上の曲がり等)、障害物(足場等)、養生方法、運送車両、搬運機械、搬入機械の種類、台数及び数量、雨天の場合の処置、受入検査の方法等を記載し監督員に提出する。

27. 製品確認

発注者及び受注者の協議により仕様を決定し、製作するような規格品でない製品並びに監督員が指定する製品については、試験及び検査等を行う機器が整備された施設内において、監督員等が製品の確認をするものとする。

28. 機材等の検査及び試験

検査及び試験を行うべき機材等は、設計図書によるほか、監督員の指示による。

29. 完成確認及び完成検査時の電源確保

機器の動作確認、電圧、極性、回転転数等確認できるように電源を確保すること。

30. 完成時の操作説明

タイマ、総合盤、動力盤等操作に必要な機器については、使用開始前に操作説明を行うものとする。
また、必要に応じて操作説明書、操作注意事項書を作成し、機例に備えるものとする。

31. 不正経油の使用の防止

市工事の施工に当たり、工事現場で使用し、又は使用させる車両(資機材の搬入車両を含む。)並びに建設現場等の燃料として、不正経油(地方税法第14条の32(製造等の承認を受ける義務等)の規定に違反する燃料をいう。)を使用してはならない。
受注者は、市が使用原料の採油調査を行う場合には、その調査に協力しなければならない。また、受注者は下請業者等に同調査に協力するよう管理及び監督しなければならない。
受注者は、不正経油の使用が判明した場合は、速やかに是正措置を講じなければならない。また、受注者は下請業者等に不正経油の使用が判明した場合は速やかに是正措置を講じよう管理及び監督しなければならない。
また、発注者が加入状況を証明する書類の提出又は提示を求めた場合、速やかに対応すること。

32. 社会保険等未加入対策

(1) 適用除外でないにも関わらず社会保険等が未加入である建設業者を下請契約(受注者が直接締結する請負契約に限る。)の相手方としてはならない。
(2) 下請契約に先立って、適正の候補となる業者について社会保険等の加入状況を確認し、適用除外でないにも関わらず社会保険等が未加入である場合には、早期に加入手続きを進めるよう指導を行うこと。
(3) 受注者は、施工体制台帳・再下請通知書の「健康保険等の加入状況」欄により下請業者が社会保険等に加入しているかどうかを確認すること。また、発注者が加入状況を証明する書類の提出又は提示を求めた場合、速やかに対応すること。

33. その他

設計図書に定められていない事項は監督員に報告し、指示を受けるものとする。

2. 施工仕様

下記の該当する項目を適用する。また、特記事項において選択する事項は、●印のついたものを適用する。

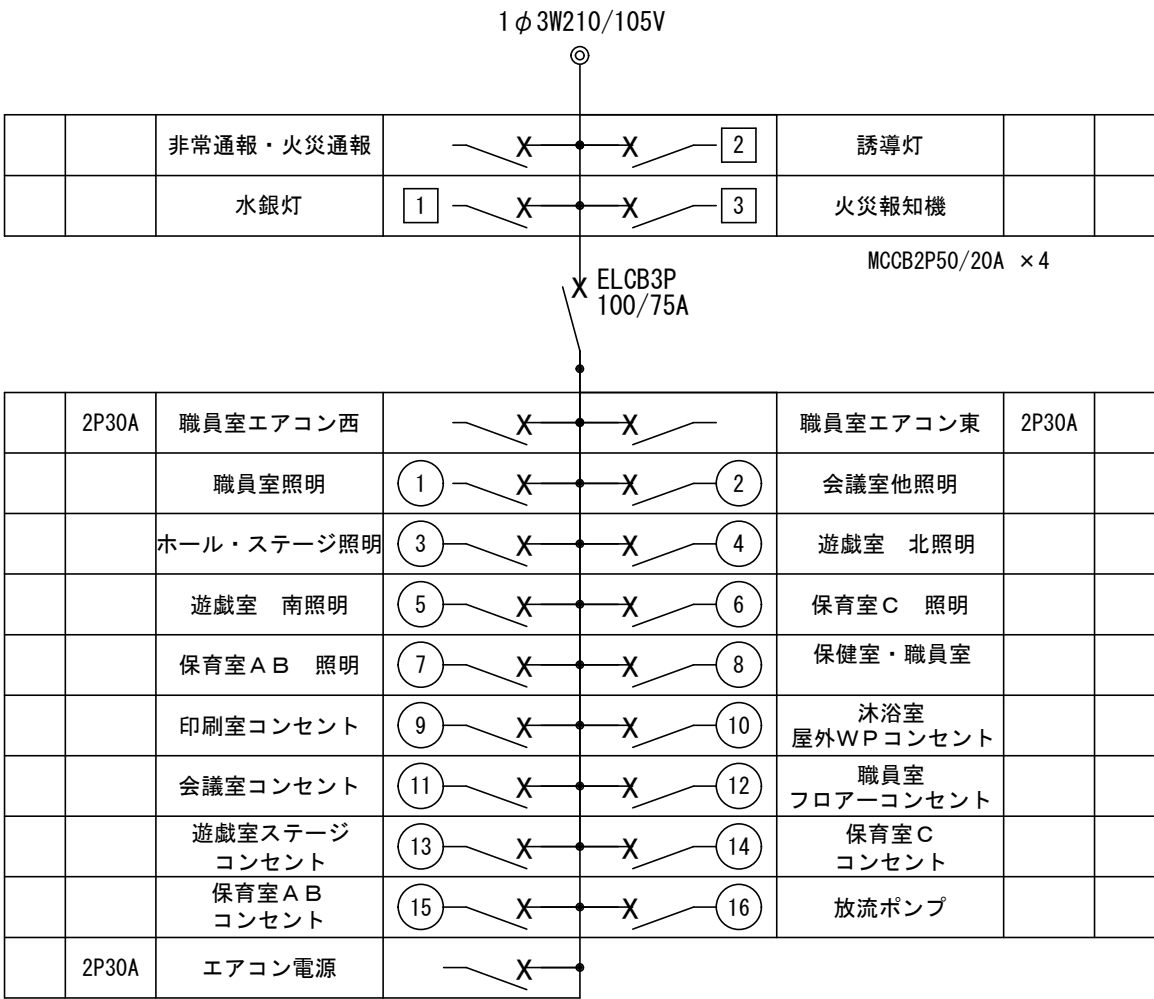
項 目	特 記 事 項
1. 既設設備等の調査	既設設備等の改修を含む場合、他の設備、施設運営に影響をきたさないよう、現地工事着工前に充分な調査を行うこと。 (1) 地下埋設管路 ① 項目 ●埋設配管・横造物・その他() ② 調査ルート ●その他() (2) 貫通及びはつり ① 項目 ●鉄筋 ●配管・その他() ② 調査範囲 ●施工部分 ●その他() (3) 既設との取合い ① 項目 ●接続箇所 ●埋設箇所・その他() ② 調査範囲 ●施工部分 ●その他()
2. 施工前の測定等	改修工事にあつては、工事範囲の既設機器の動作確認及び絶縁測定等を着工前に行い、監督員に報告すること。
3. 耐震施工	(1) 想定される地震に対応するものとする。 (2) 耐震計算書を監督員に提出するものとする。
4. 耐震基準	(1) 適用 耐震措置の計算及び施工方法は、最新版の「官庁施設の総合耐震計画基準及び同解説」(建設大臣官房官庁営繕部監修)及び「建築設備耐震設計・施工指針」(独立行政法人建築研究所監修)による。 (2) 設計用水平地震力 機器の重量に、設計用水平震度を乗じたものとする。 なお、特記なき場合、設計用水平震度は次による。 設計用標準水平震度(Ks)
5. はつり	(1) 穴開け及び補修 ●なし ●あり (2) 溝はつり及び補修 ●なし ●あり
6. あと施工アンカー	性能確認試験及び施工確認試験 ・行う ・行わない
7. 基礎の配線ビット	基礎に配線ビットを設ける場合、ビットの寸法は敷設するケーブルの曲げ半径、条数、将来増設時の作業性、事故時の対応、排水等に配慮する。
8. 配管・配線の耐震処置	建物引込部の配管の耐震処置 ・行う ・行わない 建物のエキスパンションジョイント部の配線の耐震処置 ・行う ・行わない
9. 最上階の埋込配管	最上階のコンクリート屋根スラブへの埋込配管は、原則として行わない。
10. 露出配管	(1) 雨樋外など水気のある場所に施設する場合は、U字配管を行わない。 (2) 埋込配管の人が容易に触れるおそれのある部分(2m以下の配管には、突起のない支持金物又は保護カバーを使用する。 (3) 通路部分では床配管を避け、天井配管の場合は原則2.1m以上とする。 (4) 監督員の指示がある場合は、上記に係わらずその指示に従う。
11. 合成樹脂管	(1) 合成樹脂管の管端には、プッシングを取り付ける。 (2) 原則として屋外の露出には使用しない。(P F管)
12. 金属製電線管等の塗装	(1) 露出配管、露出ボックス、鋼製プルボックス等のうち下記の部分には、塗装を施す。 ① 屋外、屋内(電気室、機械室、E P S、屋上、廊下)の配管には、その他建築意匠上必要な箇所。 ② 図面に特記なき場合は、溶融亜鉛メッキ鋼材製のボルト及びナットは塗装しなくてもよい。ただし、図面に指示がある場合はその指示による。 ③ 電気、水気のある場所及びコンクリート埋込みの金属製位置ボックスの内部には絶縁性防錆塗料を充分に塗布すること。(監督員が指示した場合は除く。) ④ 安伏貫通部の金属配管には錆止め塗装を施すこと。 (2) 塗装はエッチングプライマー1種の下地処理のうえ、監督員の指定する色にて割合ペイント2回塗りをとする。ただし、指定場所及びその他建築意匠上、必要な箇所の露出プルボックスは指定色焼付塗装とする。
13. 導入線	通線を行わない配管及び配線引き後に空となった配管には、導入線(φ1.2mm以上の樹脂被覆鉄線等)を挿入する。ただし、長さ1m以下の部分は省略することができる。
14. ボックス類	位置ボックス及びジョイントボックス類は、図面に特記なき場合、原則として金属製とする。
15. 軽量間仕切のボックス	軽量間仕切に位置ボックスを固定する場合は、ボルト等により堅固に固定する。
16. プルボックス	(1) 屋外形及び特別に製作された特殊形状又は大きいもの(一辺が600mm以上のもの)は、製作図を提出すること。 (2) 屋外形プルボックスと露出配管等の接続部は、カップリング溶接等による。ただし、既設プルボックスに接続する場合は防パナ等でシーリングを行う。 (3) 屋外形プルボックスはボックス内に支持ボルトが突出しない構造とし、取付部にはコーキングを行う。
17. ボルト・ナット類	屋外に使用する支持金物及びボルト、ナット類で特記のないものは ・ステンレス ・溶融亜鉛メッキ仕上げ
18. ケーブル及び配線	(1) 表示 下記の箇所で、ケーブル等に行き先等表示札(ケーブル種別及びサイズ、行き先、用途等を表示。)を取り付ける。 ① ケーブル分岐部分 ② プルボックス内 ③ マンホール及びハンドホールごと (2) ケーブル余長 ① 地中線式の場合、マンホール、ハンドホール内でケーブル余長を見込む箇所数 2箇所 ② 架空線式の場合、電柱上でケーブル余長を見込む箇所数 2箇所 ③ 4箇所 ④ 4箇所
19. 高圧ケーブル端処理	高圧ケーブルの端処理部、直線接続部等に処理者銘板(屋内外共に、線名、作業日、氏名等を表示。)を取り付ける。

17. 映像・音響設備				
(1)設備	・映像機器	・音響機器	・操作装置	
(2)映像機器	1)表示機器	・プロジェクタ(・前面投射式	・背面投射式)	
		・スクリーン・反射マトリクス形	・反射ストライプ形	・透過形
		・その他(
		・スクリーン巻上装置(・電動式	・手動式)	
		・液晶ディスプレイ		
	2)付属機器	・録画再生装置(・HDD	・Blu-ray/DVD	・その他(
		・テレビチューナー(・UHF	・BS	・CS
		・カメラ	・パソコン	・その他(
		・その他の機器(
(3)音響機器	1)増幅器	①出力()W	
		②方式	・ステレオ	・モノラル
		③出力インピーダンス	・Lo形	・Hi形
	2)付属機器	・グラフィックイコライザー	・オーディオミキサー	・電源制御器
		・録音再生装置(・CD	・メモリアーディオ	・その他(
		・ラジオチューナー(・FM	・AM	・その他(
		・有線マイクロホン	・無線マイクロホン(・電波式(・アナログ	・デジタル)
		・その他の機器(
	3)スピーカ	・天井分散配置方式	・集中配置方式	・併用方式
		・その他(
(4)操作装置	1)形状	・卓型	・キャビネットラック型	・その他(
	2)設置	・固定式	・可動式	・その他(
18. 拡声設備				
(1)機器	・増幅器	・付属機器	・操作装置	・スピーカ
				・その他(
(2)増幅器	・非常放送兼用(仕様は非常放送装置を参照)			
	・専用出力	・W		
	・出力インピーダンス	・Lo形	・Hi形	
(3)付属機器	・オーディオミキサー	・リモコンマイク	・電源制御器	
	・録音再生装置(・CD	・メモリアーディオ	・その他(
	・アナウンスレコーダ(・チャイム	・独自メッセージ	・プログラムタイマ	
		・その他(
	・有線マイクロホン			
	・無線マイクロホン(・電波式(・アナログ	・デジタル)	・赤外線式)	
	・ラジオチューナー(・FM	・AM	・その他(
	・スピーカ切替装置	・その他の機器(
(4)操作装置	・卓型	・キャビネットラック型	・壁掛型	・その他(
(5)スピーカ	・非常放送兼用(仕様は非常放送装置を参照)			
	・専用回路	・1W	・3W	()W
	・インピーダンス	・Lo形	・Hi形	
	・設置場所	・屋内	・屋外	・その他(
19. 誘導支援設備				
(1)設備	・音声誘導装置	・インターホン	・トイレ等呼出装置	
(2)音声誘導装置	1)検出方式	・磁気式	・無線式	・画像認識式
	2)設置場所	・屋外(防雨形)	・屋内	・その他(
	3)機能	・自動火災報知設備より火災報知信号を受信した場合停止する	・タイムスケジュールにより停止及び開始を可能とする	
		・その他(
	4)機器	・制御装置	・送信機	・受信機
		・壁掛型	・卓上形	・壁合壁組込
	6)送信機	・壁掛形	・卓上形	・埋込形
	7)受信機	・スピーカ式	・イヤホン式	・その他(
(3)インターホン	1)用途	・内部受付用	・外部受付用	・夜間防犯用
		・その他(
	2)機能	・音声通話	・映像モニタ	
	3)連絡網	・線式	・相互式	・複合式
	4)通話方式	・同時通話式	・交互通話式	・その他(
	5)機器	・親機	・子機	・その他(
	6)親機	①形状	・壁掛型	・卓上形
		②送受話器	・電話機形	・マイク形
	7)子機	①形状	・壁掛形	・卓上形
		②送受話器	・電話機形	・マイク形
(4)トイレ等呼出装置	1)用途	・トイレ呼出	・受付呼出	・非常通報
		・その他(
	2)機器	・親機	・呼出スイッチ	・警報装置
		・親機	・壁掛型	・卓上型
		・衛星用	・壁面取付	・自立
		・警報装置	・光	・音声
		・警報装置	・プザー	・ベル
20. テレビ共同受信設備				
(1)受信放送	・UHF	・BS	・CS	・FM
	・CATV	・その他(
(2)機器	・増幅器	・混合器	・分波器	・分岐器
	・分配器	・機器収容箱	・アンテナ	
	・その他(
(3)アンテナ	1)放送	・UHF	・BS	・CS
	2)マスト	・地上波用(・壁面取付	・自立	・既設利用
		・衛星用(・壁面取付	・自立	・既設利用
		・その他(
	3)自立用基礎	・本工事	・別途工事	・既設利用
21. テレビ電波障害防除設備				
(1)対象戸数	()戸			
(2)機器	・増幅器	・混合器	・分波器	・分岐器
	・ヘッドエンド装置	・その他(
(3)アンテナ	1)放送	・UHF	・BS	・CS
	2)マスト	・地上波用(・壁面取付	・自立	・既設利用
		・衛星用(・壁面取付	・自立	・既設利用
		・その他(
	3)自立用基礎	・本工事	・別途工事	・既設利用
22. 監視カメラ設備				
(1)機器	・カメラ	・モニタ装置	・録画装置	・ハウジング
	・その他(
(2)伝送方式	・アナログ伝送方式	・ネットワーク伝送方式	・その他(
(3)カメラ	1)色方式	・白黒	・カラー	
	2)駆動方式	・固定式	・遠隔可動式	
	3)撮影条件	・昼間	・薄明時	・夜間
	4)設置場所	・屋内	・屋外	・その他(
(4)モニタ装置	1)色方式	・白黒	・カラー	
	2)モニタ	・液晶	・P-C	・その他(
	3)設置	・自立型	・壁掛型	・その他(
(5)録画装置	1)記憶媒体	デジタル記憶媒体とする。		
	2)記憶容量	()		
	3)時刻補正機能	・FM放送受信機(・アンテナ設置	・既設利用)	
		・長波標準電波受信機(・アンテナ設置	・既設利用)	
		・その他(

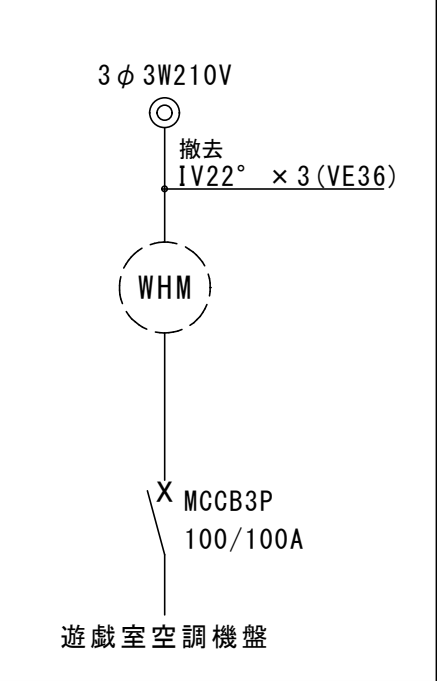
23. 駐車場管理設備		・管制盤	・検知器	・信号灯	・警報灯	・発券機	・カーゲート	・カードリーダー	
(1)機器		・その他()							
(2)管制盤	1)機能	・入場管理	・退場管理	・発券管理	・その他()				
	2)形式	・自立型	・壁掛型	・卓上型	・その他()				
(3)検知器	1)方式	・赤外線式	・超音波センサ式	・ループコイル式	・その他()				
	2)検知器外箱	・ステンレス製	・鋼製						
	3)検出対象車両	・四輪駆動自動車以上							
	4)検出対象速度	・2～40km/h	・その他()						
(4)信号灯・警報灯	1)方式	・発光ダイオード式	・その他()						
	2)警報音	・音声	・ブザー	・その他()					
	3)外箱	・ステンレス製	・鋼製						
(5)発券機	1)発行券	・磁気式	・ICカード式	・その他()					
	2)発券方式	・入場時発行	・事前発行	・その他()					
(6)カーゲート		・バー式(・ガラスファイバー製	・アルミ製	・鋼製(防錆処理)					
	・その他()								
24. 防犯・入退室管理設備		・防犯装置	・入退室管理装置						
(1)設備		・センサ	・制御装置	・その他()					
(2)防犯装置	2)センサ	・パッシブセンサ	・赤外線センサ	・画像センサ	・マグネットセンサ				
	3)制御装置	①形式	・自立型	・壁掛型	・卓上型	・複合壁組込	・その他()		
		②時刻補正機能	・FM放送受信機(・アンテナ設置	・既設利用)					
			・長波標準電波受信機(・アンテナ設置	・既設利用)					
	4)機能	・警報	・記録	・監視カメラ運動制御	・センサ入切制御				
		・その他()							
(3)入退室管理装置	1)機器	・制御装置	・認識部						
		・電気錠(・本工事(・建築工事	・電気設備工事)	・別途工事	・既設利用)				
	2)制御装置	①形式	・自立型	・壁掛型	・卓上型	・複合壁組込	・その他()		
		②時刻補正機能	・FM放送受信機(・アンテナ設置	・既設利用)					
			・長波標準電波受信機(・アンテナ設置	・既設利用)					
		③基本機能	・施錠解除制御、許可・不許可設定、設定データバックアップ機能、こじ開け警報の搭載は必須とする						
		④特記機能	・遠隔施錠解除制御	・スケジュール設定制御	・記録機能	・照明空調制御			
	3)認識部	・バイオメトリックス()	・防炎防犯インテグレーション機能	・その他()					
	4)セキュリティゲート	・仕様詳細は別図による。							
25. 自動火災報知設備		●受信機	・副受信機(表示装置)	・中継器	・発信機	・感知器			
(1)機器		・その他()							
(2)受信機	1)型式	・P型1級	●P型2級	・R型					
	2)回線数	●(5)	・回線	()アドレス					
	3)試験機能	・自動試験機能	・遠隔試験機能						
	4)壁形状	・複合壁組込	・自立型	・壁掛型	・その他()				
(3)副受信機(表示装置)	1)壁形状	・自立型	・壁掛型	・その他()					
	2)回線数	()回線	()アドレス						
	3)表示装置の仕様詳細は別図による。								
(4)中継器	試験機能	・自動試験機能	・遠隔試験機能						
(5)発信機	1)型式	・アドレス付	・P型1級	・P型2級					
	2)消火栓ポンプ起動	・併記する場合は、発信機運動方式とし、発信機表面に「消火栓起動」等の文字を併記する							
	3)設置	・単独設置	・機器収容箱に組込	・消火栓ボックス(別途)に組込					
		・その他()							
(6)感知器	1)型式	・アドレス付	・一般型						
	2)種類	●熱感知器	・煙感知器	・炎感知器					
	3)試験機能	・自動試験機能	・遠隔試験機能						
	4)設置場所	●屋内(●一般	・防水	・防蟻	・防食	・その他()			
		・屋外(・防水	・その他()						
26. 自動閉鎖設備		・運動制御器	・感知器	・自動閉鎖装置	・自動閉錠装置				
(1)機器		・その他()							
(2)運動制御器	1)制御対象	・防火戸	・防火シャッター	・防排煙ダンパー	・非常口等の扉				
		・その他()							
	2)回線数	()回線	・遠方操縦機構()回路						
	3)設置	・単独	・壁掛形	・自立形	・火災受信機等との複合壁				
(3)感知器	1)型式	・アドレス付	・一般型						
	2)種類	・煙感知器(・2種	・3種)						
	3)試験機能	・自動試験機能	・遠隔試験機能						
	4)設置場所	●屋内(●一般	・防水	・防蟻	・防食	・その他()			
		・屋外(・防水	・その他()						
(4)自動閉鎖装置	1)方式	・電磁式	・ラッチ式	・その他()					
	2)施工	・本工事(・建築工事	・電気設備工事)	・別途工事	・既設利用	・その他()			
(5)自動閉錠装置	1)方式	・電気錠	・その他()						
	2)施工	・本工事(・建築工事	・電気設備工事)	・別途工事	・既設利用	・その他()			
27. 非常警報設備		・非常放送装置	・非常ベル						
(1)設備		・消防法基準適合マーク品とする。							
(2)機器	・増幅器	・スピーカ	・非常用リモコンマイク						
	・その他()								
	3)増幅器	①出力	()W						
		②出力インピーダンス	・Lo形	・Hi形					
		③形式	・ロングラック型	・スタンダードラック型	・壁掛型	・その他()			
		④機能	・マイク放送	・自動火災報知設備運動放送	・緊急地震速報設備運動放送				
		・その他()							
	⑤用途	・拡声設備兼用	・非常放送専用						
4)スピーカ	①回路	・1W	・3W	()W					
	②インピーダンス	・Lo形	・Hi形						
	③設置場所	・屋内	・屋外	・その他()					
	④用途	・拡声設備兼用	・非常放送専用						
5)非常用リモコンマイク	型式	・壁掛形	・ラック収納形	・卓上形	・その他()				
(3)非常ベル(自動式サイレンを含む)	1)機器	・起動装置	・非常ベル	・表示灯	・その他()				
	2)設置	・単独設置	・機器収容箱に組込	・消火栓ボックス(別途)に組込					
		・その他()							
28. ガス漏れ火災警報設備		・受信機	・副受信機	・中継器	・検知器	・警報器			
(1)機器		・その他()							
(2)受信機	1)回線数	()回線							
	2)種類	・都市ガス用	・液化石油ガス用						
	3)設置	・単独	・壁掛形	・自立形	・火災受信機などとの複合壁				
		・その他()							
(3)副受信機	設置	・単独	・壁掛形	・自立形	・火災受信機などとの複合壁				
	・その他()								
(4)検知器	1)動作	・単独(単独動作)	・運動(受信機に伝送)						
	2)定格電圧	・AC100V	・DC24V(受信機等から供給)	・その他()					
	3)ガス検知出力信号	・有電圧出力方式	・無電圧接点方式						

【中央監視制御設備】	
29. 中央監視制御設備	
(1)監視制御対象設備	・動力設備 ・受変電設備 ・発電設備 ・火災報知設備 ・その他()
(2)既設との取り扱い	・無し ・盤改造 ・配線接続 ・その他()
(3)機器	・監視操作装置 ・信号処理装置 ・記録装置 ・伝送装置 ・端末装置 ・その他()
(4)機能	仕様詳細は別図による。
(5)監視操作装置	1)形式 ・壁掛型 ・自立型 ・卓型 ・その他() 2)表示装置 ・液晶ディスプレイ ・その他() 3)操作装置 ・タッチパネル ・キーボード ・マウス ・その他()
(6)信号処理装置	1)形式 ・壁掛型 ・自立型 ・卓型 ・ラック型 ・卓上型 ・その他() 2)設置 ・単独 ・監視操作装置に組込 ・その他()
(7)記録装置	1)形式 ・壁掛型 ・自立型 ・卓型 ・ラック型 ・卓上型 ・その他() 2)設置 ・単独 ・監視操作装置に組込 ・その他() 3)装置 ・プリンタ ・記録メディア() ・その他()
【医療関係設備】	
30. 非接地電源用分電盤	
(1)機器	・絶縁変圧器 ・絶縁監視装置 ・電流監視装置 ・医用接地センタボディ ・その他()
(2)仕様詳細	仕様詳細は別図による。
31. ナースコール設備	
(1)形式	・基本形ナースコール装置 ・携帯形ナースコール装置 ・情報表示形ナースコール装置 ・病床ユニット
(2)仕様詳細	仕様詳細は別図による。
【構内配電線路】	
32. 構内配電線路	
(1)配線方式	・地中線式(・直埋 ・管路) ・架空線式(・直接 ・ちよう架線添架) ・建築物等添架式(・露出配管 ・隠蔽配管 ・その他()) ・その他()
(2)建柱	1)施工 ・本工事 ・既設柱利用 ・その他() 2)電柱 ・コンクリート柱 ・鋼管柱 ・パンザマスト ・その他() 3)支持材 ・根柢 ・根柢はじき ・根巻き ・底板 ・支線(保護ガード ・有 ・無) 4)装柱材料 ・有(電力仕様) ・無 5)鉋板 ・有 ・無
(3)装柱機器	1)機器 ・開閉器 ・遮断器 ・カットアウト ・碍子 ・その他()
(4)装柱機器(低圧用)	1)機器 ・開閉器 ・開閉器箱 ・遮断器 ・カットアウト ・碍子 ・その他() 2)耐環境性 ・一般用 ・耐塩用
(5)ハンドホール、マンホール	1)形式 ・ブロック式 ・現場打ち 2)施工 ・本工事(・建築工事 ・電気設備工事) ・別途工事 ・既設利用 ・その他() 3)ケーブル支持金物の取付 ・2箇所 ・4箇所 ・()箇所
(6)鉄鉄蓋	1)鉄鉄蓋の刻印は「強電」又は「電力」又は「高圧」とする。 2)雨水の流れ込みを防ぐため防水パッキン付とする。
(7)地中ケーブル保護材料	1)種類 ・FEP ・GLT(PERライニング管) ・VE ・HIVE ・SGP ・厚鋼電線管 ・その他() 2)標示杭埋設 ・コンクリート製 ・鉄製(アスファルト部分) 3)埋設埋設シート ・2倍長 ・その他() 4)埋設埋設シートの表記は電力用であることがわかるものとする。
【構内通信線路】	
33. 構内通信線路	
(1)用途	・電話用 ・拡声用 ・時刻表示用 ・火災報知用 ・非常警報用 ・インターホン用 ・テレビ共同受信用 ・防犯用 ・制御用 ・その他()
(2)配線方式	・地中線式(・直埋 ・管路) ・架空線式(・直接 ・ちよう架線添架) ・建築物等添架式(・露出配管 ・隠蔽配管 ・その他()) ・その他()
(3)建柱	1)施工 ・本工事 ・既設柱利用 ・構内配電線柱に添架 ・その他() 2)電柱 ・コンクリート柱 ・鋼管柱 ・パンザマスト ・その他() 3)支持材 ・根柢 ・根柢はじき ・根巻き ・底板 ・支線(保護ガード ・有 ・無) 4)装柱材料 ・有 ・無 5)鉋板 ・有 ・無
(4)ハンドホール、マンホール	1)形式 ・ブロック式 ・現場打ち 2)施工 ・本工事(・建築工事 ・電気設備工事) ・別途工事 ・既設利用 ・その他() 3)ケーブル支持金物の取付 ・2箇所 ・4箇所 ・()箇所
(5)鉄鉄蓋	1)鉄鉄蓋の刻印は「弱電」又は「通信」とする。 2)雨水の流れ込みを防ぐため防水パッキン付とする。
(6)地中ケーブル保護材料	1)種類 ・FEP ・GLT(PERライニング管) ・VE ・HIVE ・SGP ・厚鋼電線管 ・その他() 2)標示杭埋設 ・コンクリート製 ・鉄製(アスファルト部分) 3)埋設埋設シート ・2倍長 ・その他() 4)埋設埋設シートの表記は弱電用であることがわかるものとする。
【その他】	
34. 消火器	
(1)設置	・本工事(・建築工事 ・電気設備工事 ・機械設備工事) ・別途工事
(2)消火器	・有 ・無
(3)消火器収納箱	材質() ・数量 ・面

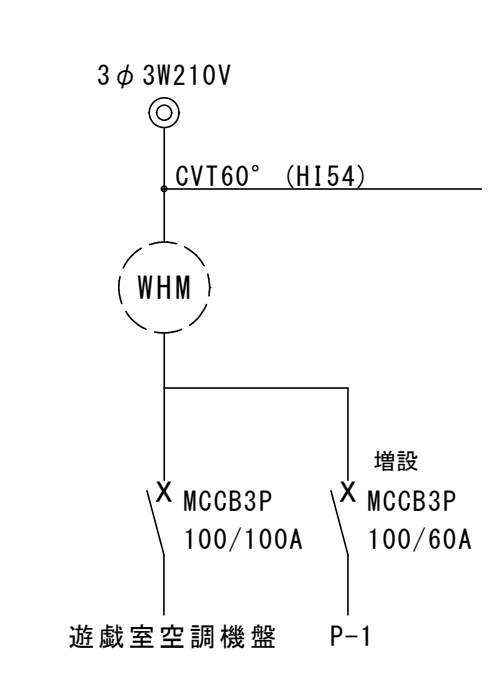
既設L-1 屋内型



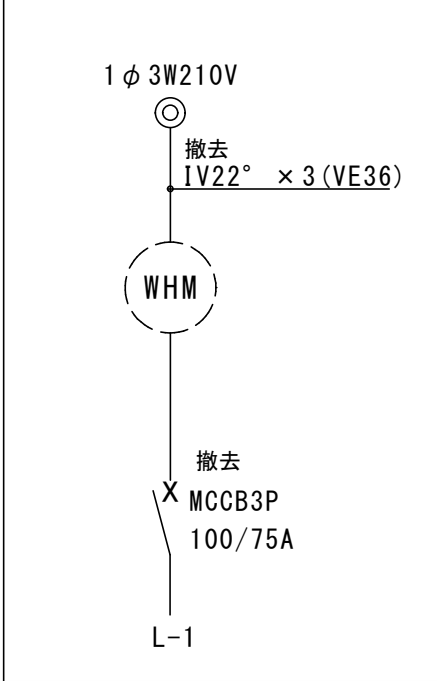
既設引込開閉器盤S-1(改修前)



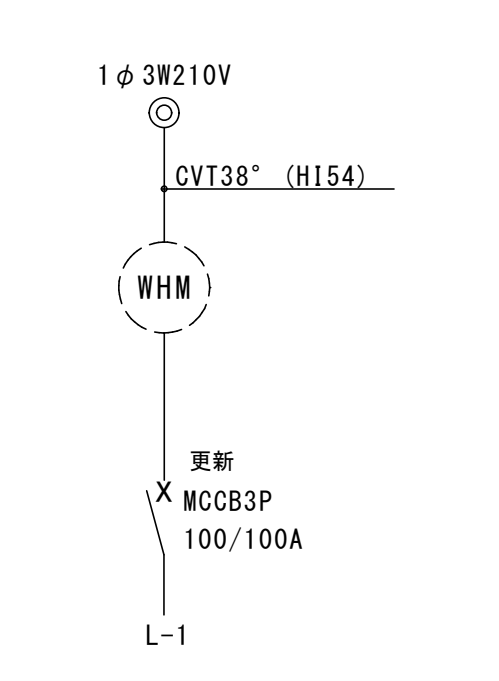
既設引込開閉器盤S-1(改修後)



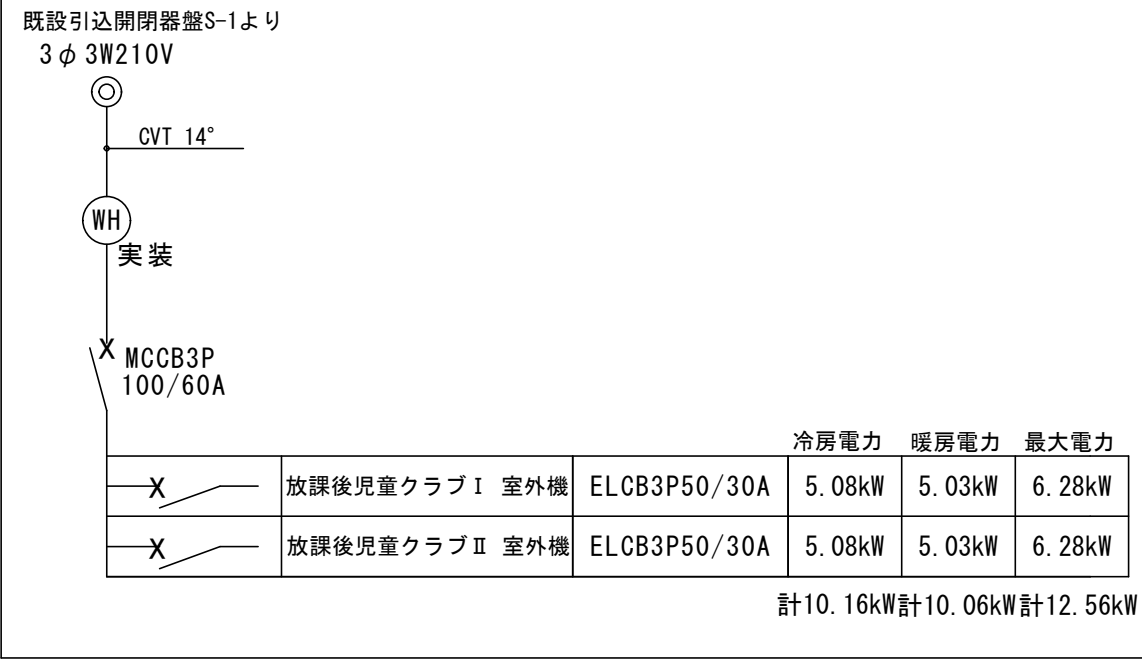
既設引込開閉器盤S-2(改修前)



既設引込開閉器盤S-2(改修後)

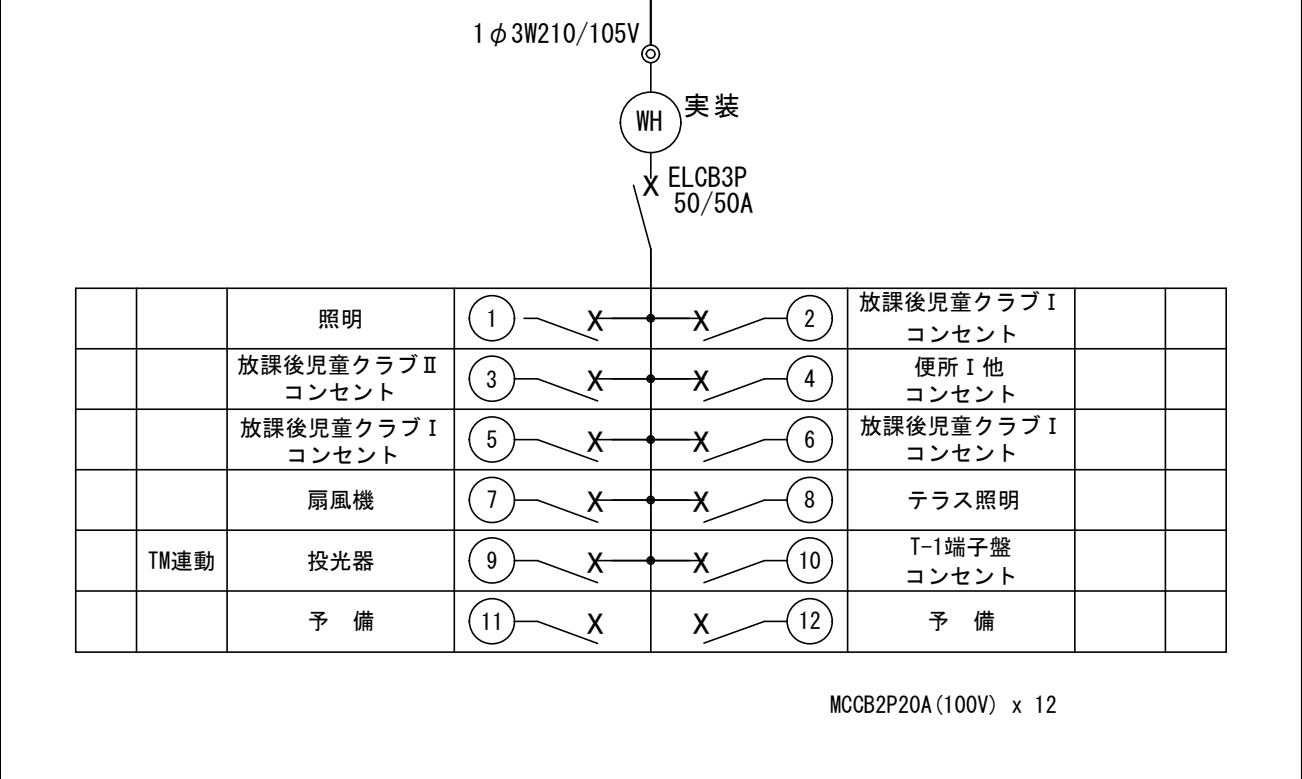


P-1 開閉器盤(新設)
(屋外壁掛型 SUS WP)



CVT14° E2.0

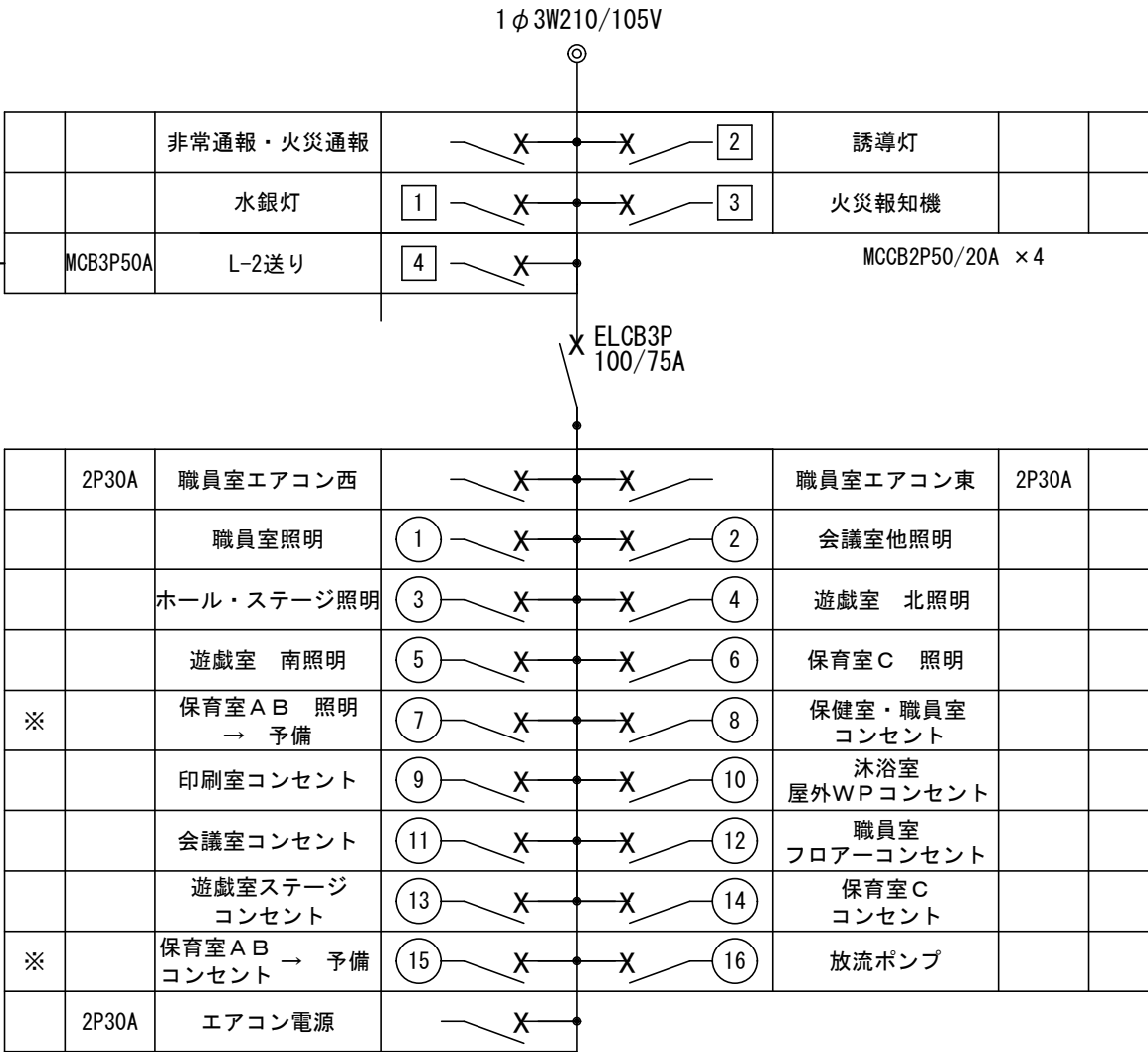
L-2 屋内型(新設)



照明器具姿図(参考)

A	LEDベースライト LSS9-6800LM-LN	B	LED 黒板灯 LSR12-2900LM
参考品番 XLX410DENZ LA9			
C	LEDベースライト FL40W×1相当 調光可能	D	LEDベースライト LSS9MP/RP-2200LM-LN
参考品番 LGB52096 LE1		参考品番 LGB85046LE1	
E	LED流し元灯 FL20W相当	F	LEDミラー灯
参考品番 NNY24910 LE9			
G	LED投光器 電源内蔵型	H	LEDダウンライト LRS1-1300LM-I

既設L-1 屋内型



※印は分電盤の回路名称を修正

MCCB2P20A (100V) × 16
MCCB2P30A (200V) × 3

特記事項

イズマイ建築設計

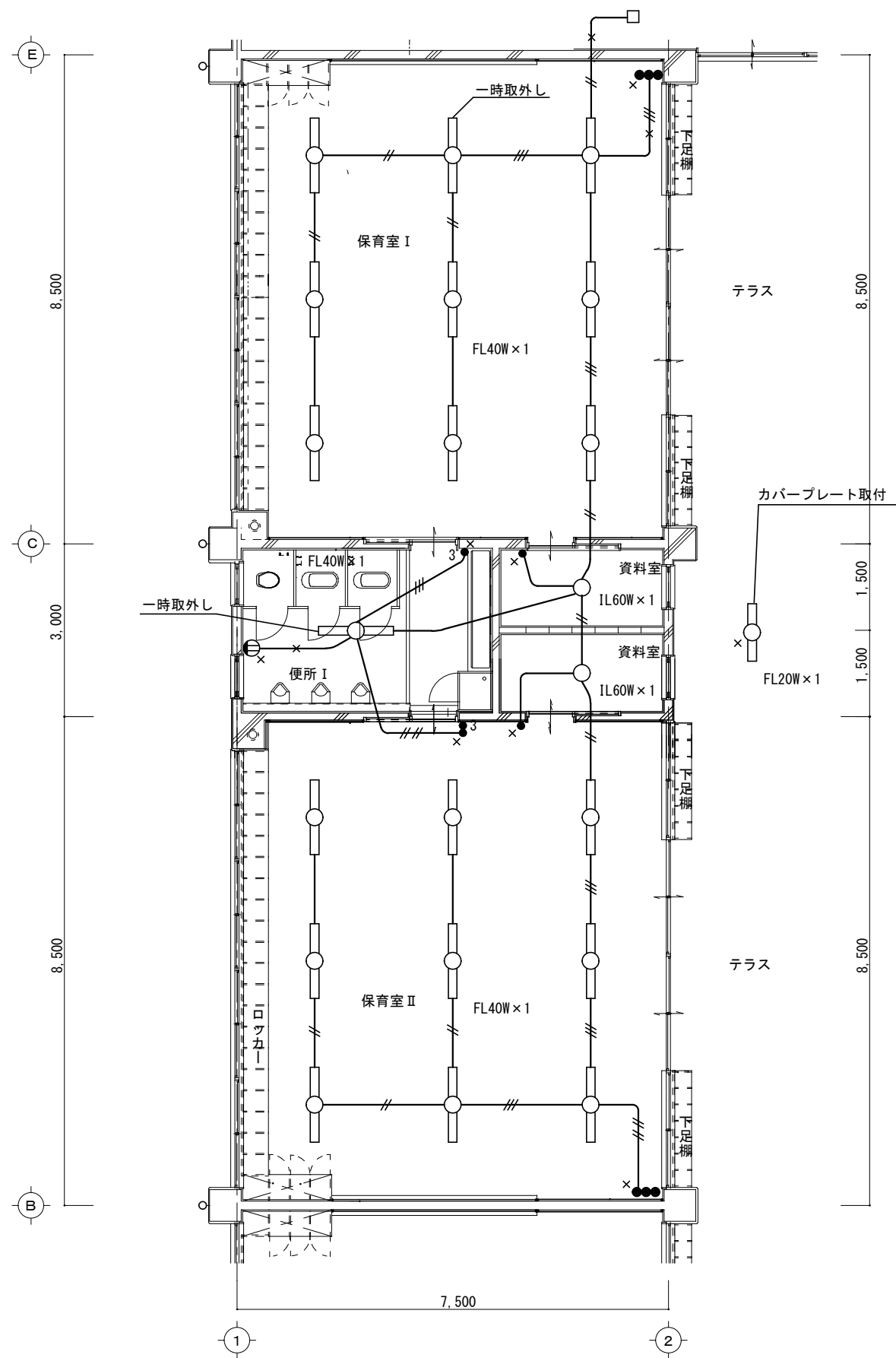
一級建築士事務所 三重県知事登録 第 1-2236 号
〒514-0041 三重県津市八町3丁目6-3増栄ビル200号

設計
一級建築士
第299733号
中西 修二

年月日
縮尺
N/S

工事名称
北立誠地区放課後児童クラブ整備に伴う
旧津市立北立誠幼稚園及び津市立北立誠小学校改修工事
図面名
分電盤結線図・照明器具姿図

図面番号
E-05
原図: A 2

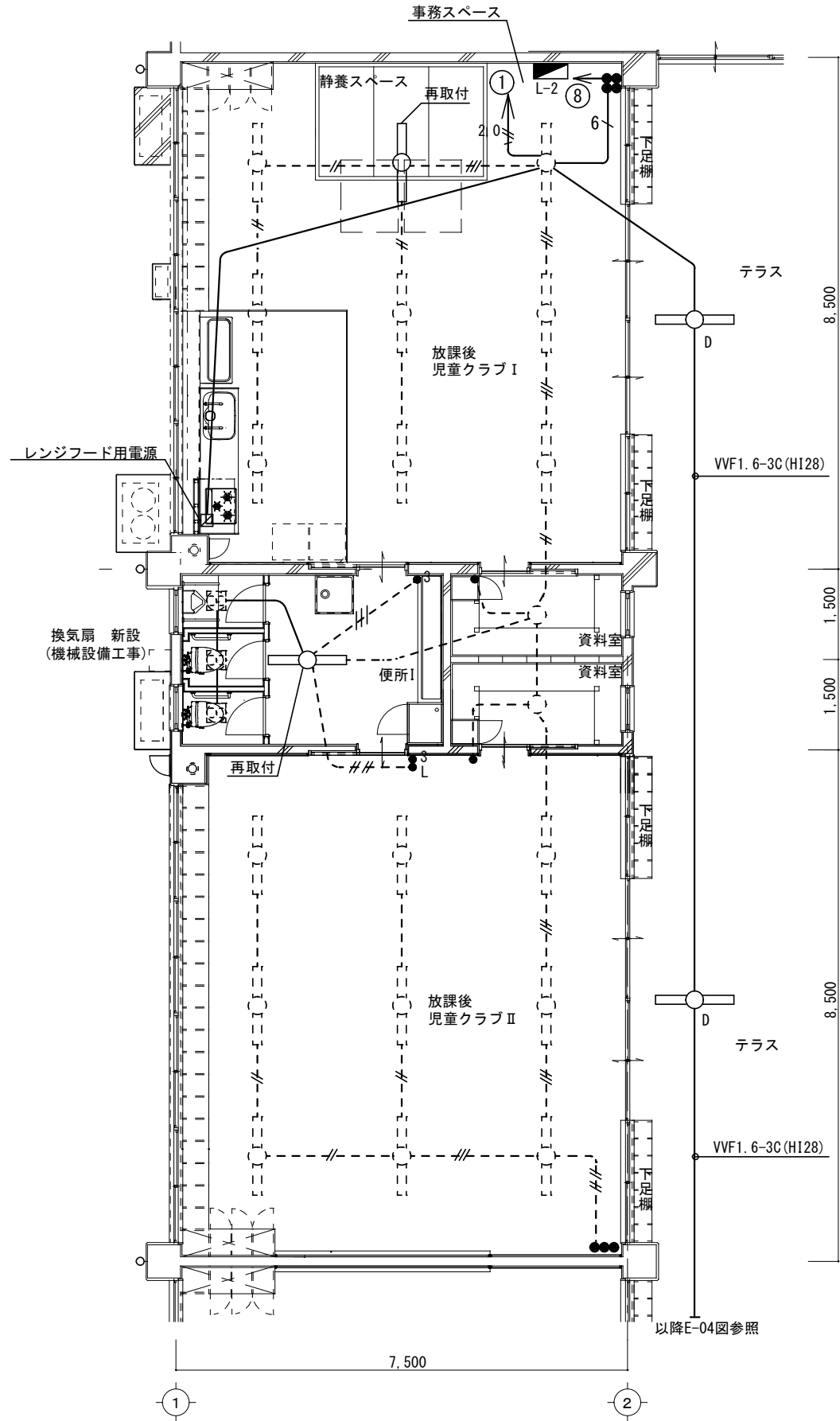


電灯設備図
保育室平面図 S=1/100

凡例		
記号	名 称	備 考
	照明器具	FL40W
	照明器具	1L60W
	埋込コンセント	
	埋込スイッチ	
	埋込3路スイッチ	

※ ×については撤去とする
※ 水銀使用製品は産業廃棄物として
関係法令により適切に処分すること。

図中記入なき配線は下記とする。	
	IV 2.0×2 (19)
	IV 1.6×2 (19)
	IV 1.6×3 (19)
	IV 1.6×4 (25)
	IV 1.6×5 (25)



電灯設備図
保育室平面図 S=1/100

凡例表		
記 号	名 称	備 考
	照明器具	
	埋込スイッチ (プレート共)	1P15A×1
	確認表示灯付埋込スイッチ (プレート共)	1P15A×1+PL
	埋込3路スイッチ (プレート共)	3W15A×1
	電灯分電盤	

記入なき配線は下記による	
	既設配線
	VVF 1.6-3C
	VVF 1.6-3C×2
	VVF 2.0-3C
壁内配線はPF管にて保護のこと。	
壁露出配線は一種金属線びにて保護のこと。	

特記事項

イズマイ建築設計

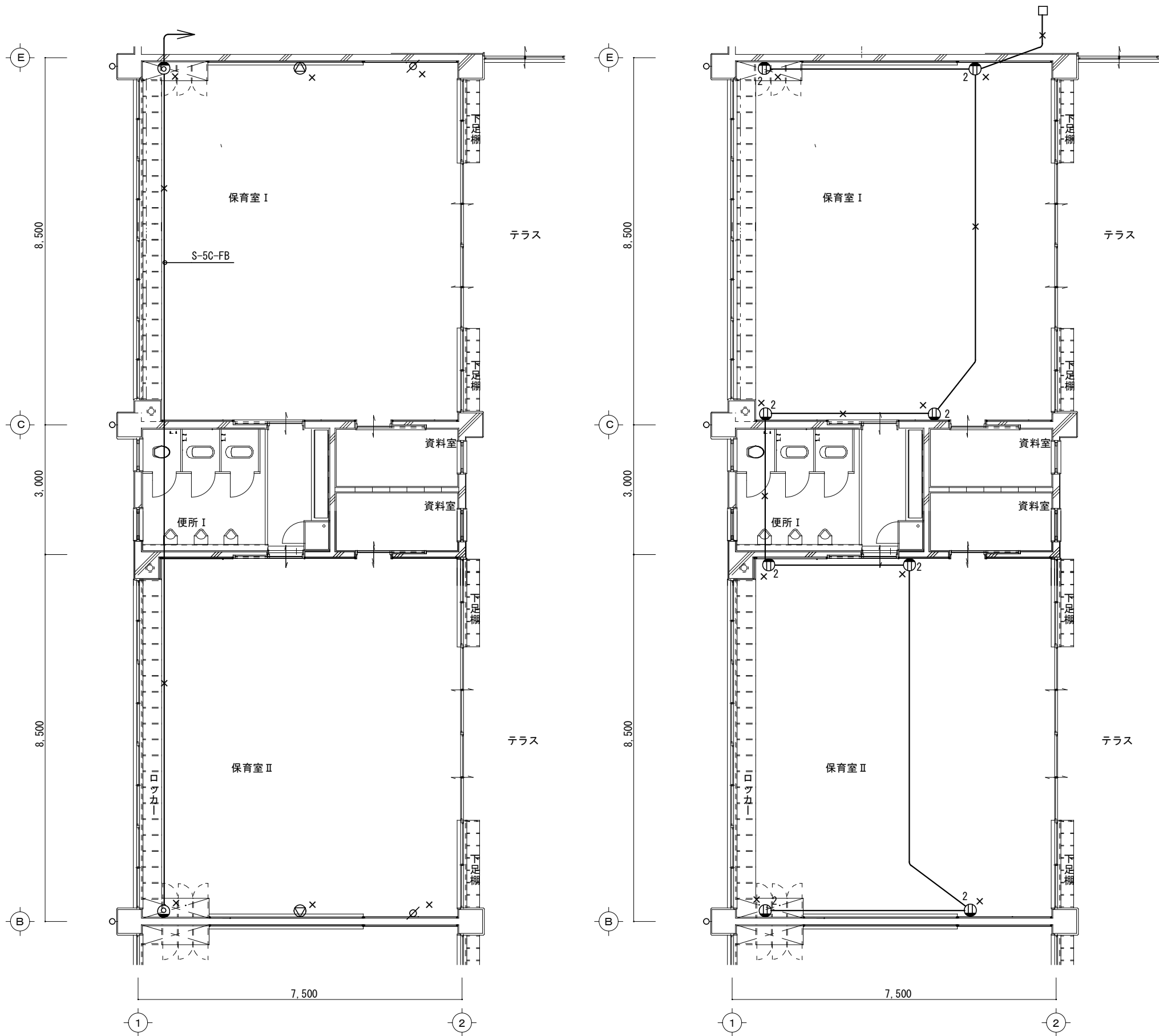
一級建築士事務所 三重県知事登録 第 1-2236 号
〒514-0041 三重県津市八町3丁目6-3増栄ビル200号

設 計
一級建築士
第299733号
中西 修二

年月日
縮 尺
1/100

工事名称
北立誠地区放課後児童クラブ整備に伴う
旧津市立北立誠幼稚園及び津市立北立誠小学校改修工事
図 面 名
津市立北立誠幼稚園 1階 電灯設備図 (改修前・後)

図面番号
E-06
原図: A 2



弱电設備
保育室平面図 S=1/100

コンセント設備
保育室平面図 S=1/100

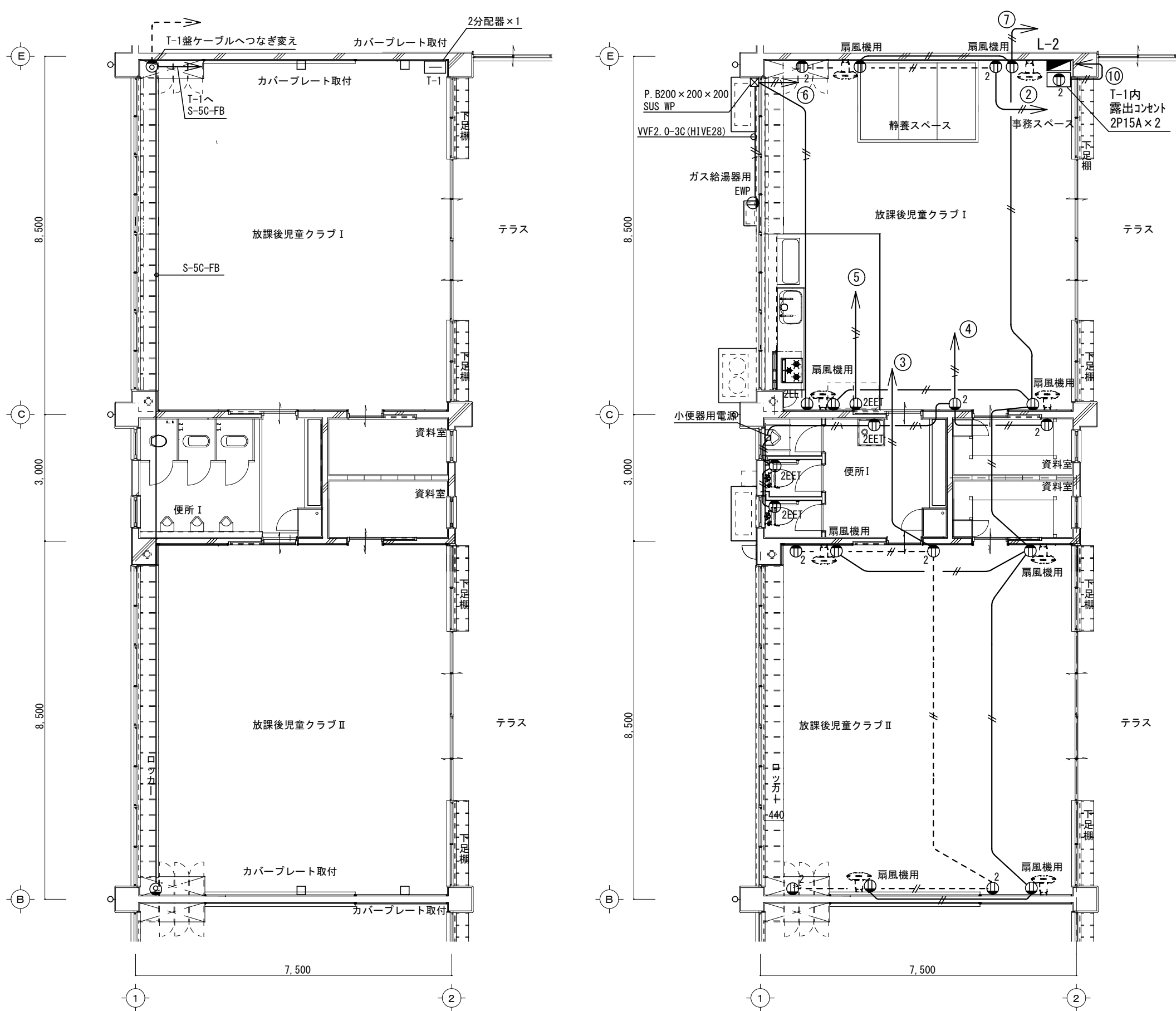
凡例		
記 号	名 称	備 考
⊙	壁掛スピーカ	
⊘	アッテネータ	
⊙	直列ユニット	

※ ×については撤去とする

凡例		
記号	名 称	備 考
2Ⓜ	埋込コンセント	2P15A×2

図中記入なき配線は下記とする。
—— IV 2.0×2(19)

※ ×については撤去する



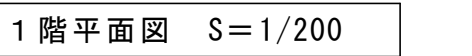
弱电設備
保育室平面図 S=1/100

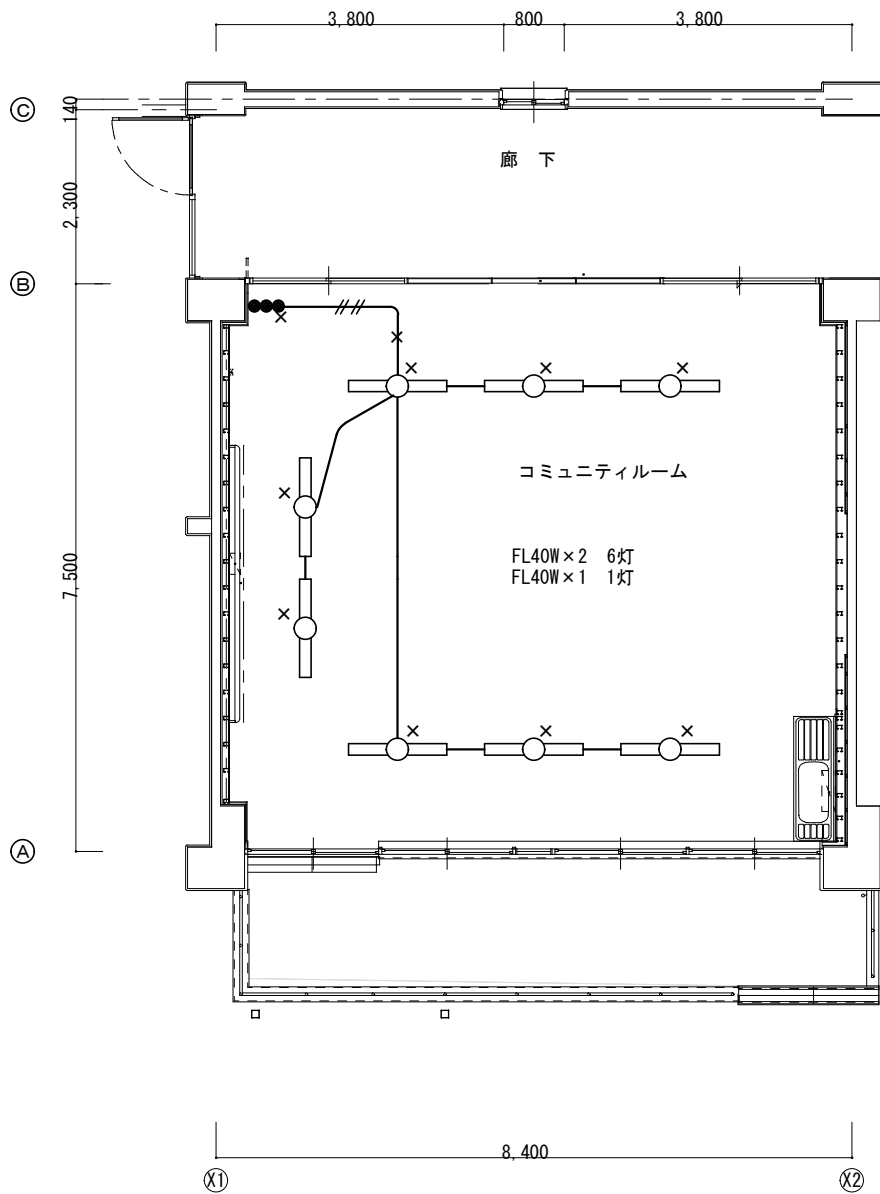
コンセント設備
保育室平面図 S=1/100

凡例		
記号	名 称	備 考
Ⓜ	直列ユニット	
Ⓜ	端子盤	

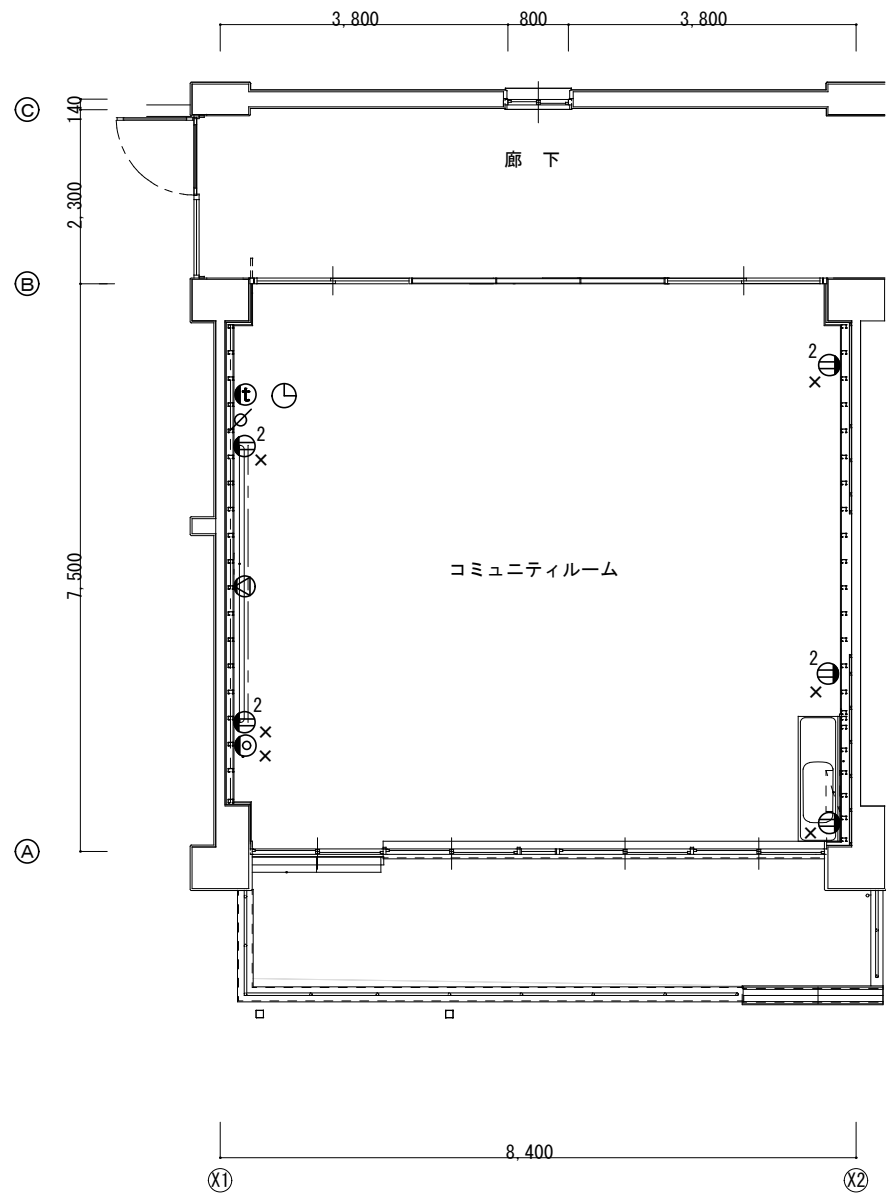
記 号	名 称	備 考
Ⓜ	埋込コンセント(プレート共)	2P15A×1
Ⓜ ²	埋込コンセント(プレート共)	2P15A×2
Ⓜ ^{2EET}	埋込コンセント(プレート共)	2P15A×2E+ET
Ⓜ ^{ENP}	防水コンセント(プレート共)	2P15A×2+ET
Ⓜ ^{EV}	壁付扇風機	機械設備工事
Ⓜ	電灯分電盤	

記入なき配線は下記による
----- 既設配線
—— VVF 2.0-2C
—— VVF 2.0-3C
壁内配線はPF管にて保護のこと。
壁露出配線は一種金属線びにて保護のこと。

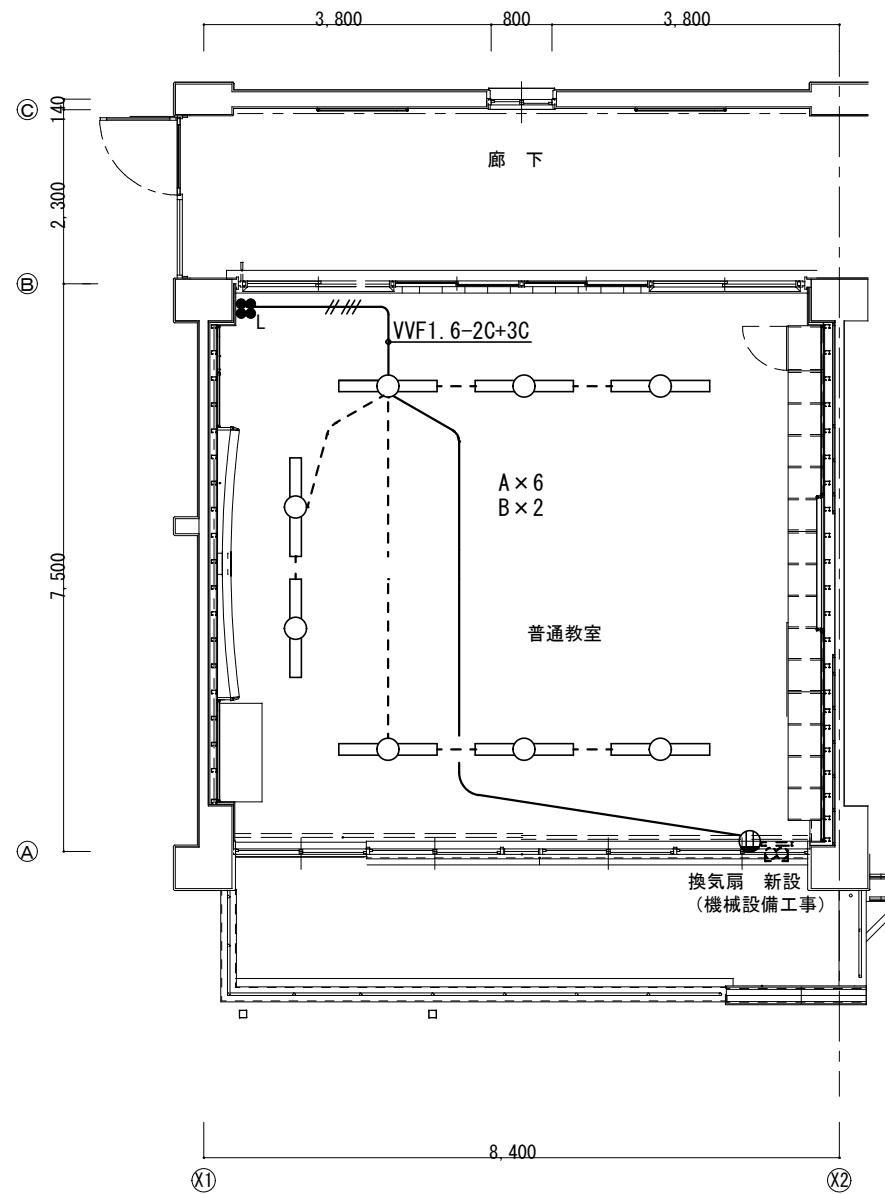




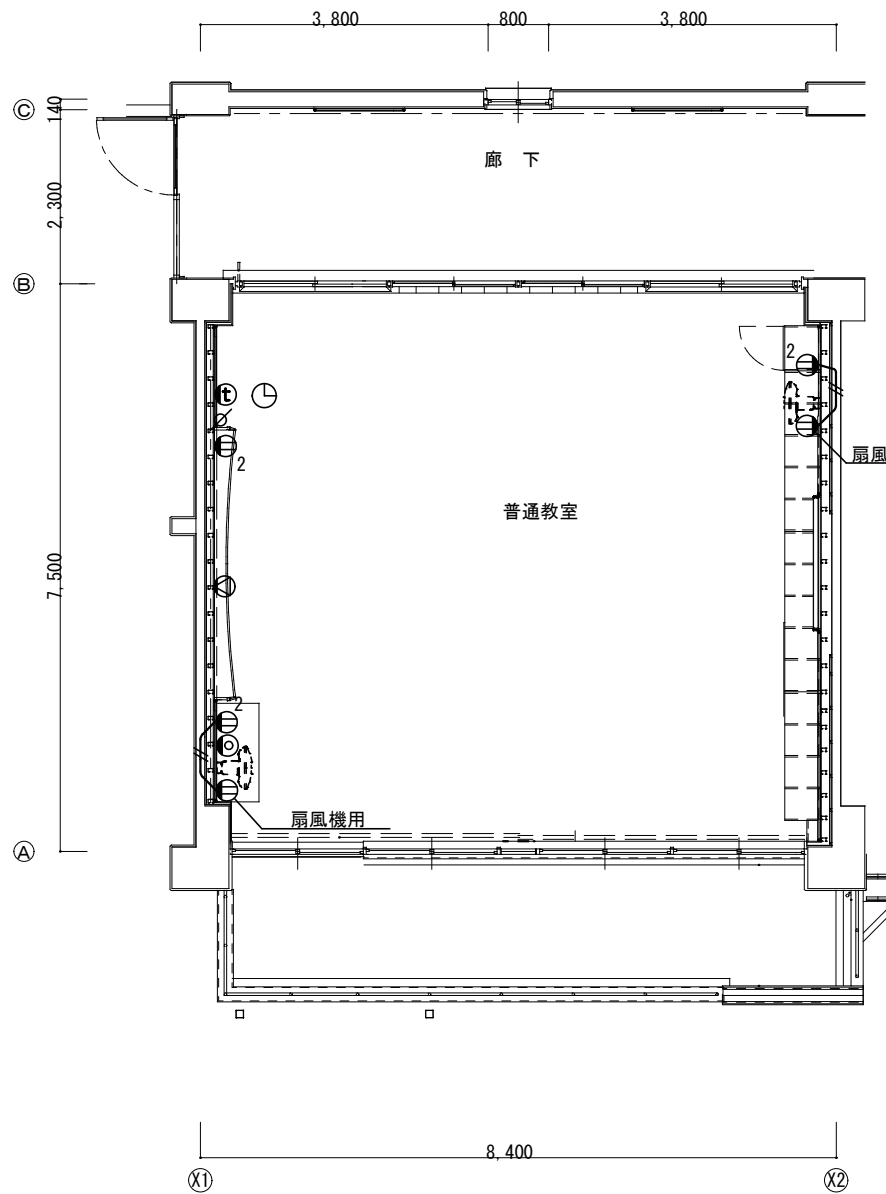
電灯設備
普通教室平面図 S=1/100



弱電・コンセント設備
普通教室平面図 S=1/100



電灯設備
普通教室平面図 S=1/100



弱電・コンセント設備
普通教室平面図 S=1/100

凡例

記号	名 称	備 考
	直付照明器具	
	埋込スイッチ	

図中記入なき配線は下記とする。

— IV 1.6×2(19)

— /// IV 1.6×4(25)

※ ×については撤去とする

※ 水銀使用製品は産業廃棄物として関係法令により適切に処分すること。

凡例

記 号	名 称	備 考
	埋込コンセント(プレート共)	3P20A×1
	埋込コンセント(プレート共)	2P15A×2
	電気壁掛時計	一時取外し
	インターホン	一時取外し
	アッテネータ	一時取外し
	壁掛スピーカ	一時取外し
	直列ユニット(プレート共)	

※ ×については撤去とする

凡例

記 号	名 称	備 考
	LED照明器具 天井付	
	埋込コンセント(プレート共)	2P15A×1
	埋込スイッチ(プレート共)	1P15A×1
	確認表示灯付埋込スイッチ(プレート共)	1P15A×1+PL

記入なき配線は下記による

----- 既設配線

— VVF 1.6-2C

壁露出配線は一種金属線びにて保護のこと。

凡例

記 号	名 称	備 考
	埋込コンセント(プレート共)	2P15A×1
	埋込コンセント(プレート共)	2P15A×2
	電気壁掛時計	再取付
	インターホン	再取付
	アッテネータ	再取付
	壁掛スピーカ	再取付
	直列ユニット(プレート共)	端末

記入なき配線は下記による

— // — VVF 2.0-2C

壁内配線はPF管にて保護のこと。

壁露出配線は一種金属線びにて保護のこと。

特記事項

イズマイ建築設計

一級建築士事務所 三重県知事登録 第 1-2236 号
〒514-0041 三重県津市八町3丁目6-3増栄ビル200号

設 計
一級建築士
第299733号
中西 修二

年月日
縮 尺
1/100

工事名称
北立誠地区放課後児童クラブ整備に伴う
旧津市立北立誠幼稚園及び津市立北立誠小学校改修工事
津市立北立誠小学校
普通教室 電灯・弱電・コンセント設備図(改修前・後)

図面番号
E-09
原図：A 2

<div><div>機械設備工事特記仕様書</div><div><div>1</div><div>工事名称</div><div>北立誠地区放課後児童クラブ整備に伴う 旧津市立北立誠幼稚園改修津市立北立誠小学校改修工事</div></div><div><div>2</div><div>工事場所</div><div>津市 江戸橋一丁目 地内</div></div><div><div>3</div><div>建築概要</div><div>R/C造 平屋建 消能令の適用 項</div></div><div><div>4</div><div>適用基準</div><div>図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、以下による 国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修 「公共建築工事標準仕様書（建築、電気、機械設備工編）平成28年版」 「公共建築改修工事標準仕様書（建築、電気、機械設備工編）平成28年版」 「公共建築設備工事標準図（電気、機械設備工編）平成28年版」 「建築、電気、機械設備工事監理指針平成28年版」 独立行政法人 建築研究所監修 「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」 下記の該当する項目を適用する。また、特記事項において選択する事項は、 ■印のついたものを適用する。</div></div><div><div>5</div><div>一般事項</div><div>工事の詳細については、本設計図面及び仕様書による他、上記各適用基準に準拠し、監督員指示の下に入念かつ誠実に施工すること。 設計図書に定められた内容、現場の納まり・取り合い等の不明な点や施工上の困難・不都合、図面上の誤記及び記載漏れ等に起因する問題点及び疑義、設計図書とおりに施工することで得る不具合が発生しうると判断される場合については、その都度、監督員と協議すること。なお設計図書と通りの施工であっても使用上の不具合が発生した場合は協議の上、改善策を講じること。 他工事との取り合いについては予め当該工事関係者間において協議し、円滑な工事進捗に努めること。なお調整不足による歴史的な仕上がり不備や不具合が発生した場合は監督員の指示により手直し施工を行うこと。 (1) 提出図書 ■建築工事に準じる 1) 工事書類 : ・施工計画書 ・打合記録 ・施工要領書 ・機器使用欄 ・機器明細図 ・工程表 ・施工図等 2) 工事完成図書 : ・品質確認書類 ・工事日報 ・工事写真 ・安全・訓練実施記録 ・竣工図〔製本4(原寸 2部、A3(見開き) 2部)〕 ・機器完成図 (ファイル等1部) ・保守に関する説明書 (取扱説明書・保証書) 2部 ・機器性能試験成績書 1部 ・総合測定表 (試験結果・測定結果等) 1部 ・官公署出書類控、検査済証 1部 ・出来形確認書類 1部 等 ※ 竣工図・竣工図はC A Dにより作成すること。 ※ 工事写真は営繕工事写真撮影要領 (平成28年版) に従い撮影すること。 ※ 建築包含工事の場合、監督員に確認のこと。</div></div><div><div>(2)</div><div>機器及び材料等</div><div>工事に使用する機器及び材料等については、予め使用機材届出書 (メーカーリスト)、機器明細図、現品、カタログ、その他諸資料を事前に届け出ること。 尚、図面に記載の品番は、参考品番として便宜上メーカー品番を使用しているのので、メーカー選定にあたっては、同等品以上の性能を有するものとする。また、国等による環境物品等の調達推進に関する法律 (グリーン購入法) を考慮し、再生品などの環境に優しい (環境物品) の調達に努める。 又、重量機器については、機器据付要領・耐震計算書もあわせて提出すること。</div></div><div><div>(3)</div><div>官公署等への届出手続</div><div>工事に伴う関係官公署への必要な諸手続きは、受注者が遅滞なく行い、これに要する費用も負担する。 1) 消火器に係る消防用設備等設置届出書の作成 □本工事 (□建築工事 □電気設備工事 □機械設備工事) □別途工事 2) 防火対象物使用開始届出書 書類の作成 (機械設備図面の作成及び機械設備に関する部分の記入) を行うこと。</div></div><div><div>(4)</div><div>品質管理</div><div>工事施工に関して、着手前・施工中・施工後の自主検査を実施すること。 チェックリスト等を作成し、管理を行うこと。</div></div><div><div>(5)</div><div>出来形管理</div><div>以下の項目について、出来形管理の対象として管理を行うこと。 1) 各種機器据付 ・耐震強度 (設計標準震度、アンカーの種類・サイズ確認・埋め込み深さ) ・基礎寸法 ・水平、垂直等 2) 配管・ダクト工事 ・支持間隔 ・振れ止め支持間隔 3) 屋外排水工事 ・排水勾配 ・樹の深さ 4) 水栓、リモコンスイッチ類の取付高さ</div></div><div><div>(6)</div><div>製品確認</div><div>発注者、受注者において仕様を決定し、製作するような規格品ではない製品については、試験・検査等を行う機器が整備された施設内において、監督員等が製品の確認を行うものとする。 □ 適用する □ 適用しない</div></div><div><div>(7)</div><div>耐震安全性の分類</div><div>構造体 () 類 建築非構造部材 () 類 建築設備 () 類</div></div><div><div>(8)</div><div>機器の地震力 (主要機器)</div><div>□図示による 機器名 設置階 () 設計標準震度Ks () 地域係数 (1.0) 水槽類 設置階 () 設計標準震度Ks () 地域係数 (1.0)</div></div><div><div>(9)</div><div>冷媒 (フロン類) の回収</div><div>□適用する ■適用しない 冷凍機等の撤去に伴う冷媒の回収方法は、改修標準仕様書第3編 2. 4. 3により、次の書類の写しを監督員に提出すること。 ・フロン回収行程管理票 ・特定家庭用機器廃棄物管理票 (家電リサイクル券) 撤去する前にフロンを屋外機ユニットに集める作業 (ポンプダウン) を行うこと。 パッケージ形空調機の移設等により、冷媒の回収が必要となる場合においても、上記に準じて冷媒の大気中への飛散を防止する措置を講じること。</div></div><div><div>(10)</div><div>中間技術検査</div><div>実施回数 () 回</div></div></div>	<div><div>(11)</div><div>発生材の処理等</div><div>■建築工事に準じる 1) 引渡しを要するもの () 上記以外の引き渡しを要するものについては別途、監督員が指示する。 2) 特別管理産業廃棄物 () 処理方法 () 3) 現場内において再利用を図るもの □発生土 □その他 () 4) 再資源化を図るもの (□コンクリート塊 □アスファルトコンクリート塊 □建設発生木材) 5) 発注者へ引き渡すものについては「現場発生品調書」を提出すること。また再利用を図るものについても調書を作成し、監督員へ提出すること。 6) 引渡しを要しないものは、全て構外に搬出し、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、資源の有効な利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、その他関係法令によるほか、「建設副産物適正処理推進要綱」に従い適切処理し、監督員に報告すること。(マフは1A、B2、D票を提示すること。)</div></div> <div><div>(12)</div><div>電気保安技術者</div><div>□ 適用する ■ 適用しない</div></div> <div><div>(13)</div><div>施工条件</div><div>監督員及び依頼部局と協議調整し決定すること。 1) 施工可能日 □ 一部に土、日曜日、祝祭日施工あり □ 指定なし () 2) 施工可能時間帯 □ 指定なし □ 指定あり (時 ~ 時)</div></div> <div><div>(14)</div><div>概成工期</div><div>建築物等の使用を想定して総合試運転調整を行ううえで、関連工事を含めた各工事が支障のない状態まで完了していること。 ■ 指定なし □ 指定あり (平成 年 月 日)</div></div> <div><div>(15)</div><div>仮設工事</div><div>構内既存の施設 ■建築工事に準じる 1) 便所 □ 利用できる □ 利用できない 2) 工事用水 □ 利用できる (有償) □ 利用できる (無償) □ 利用できない 3) 工事用電力 □ 利用できる (有償) □ 利用できる (無償) □ 利用できない ※ 本工事で新規受電または既設電気回路に接続し通電した時から工事に起因する電力料金は本工事に含まれる。</div></div> <div><div>(16)</div><div>足場</div><div>■建築工事に準じる 1) 内部足場 □ 脚立 □ 足場板 2) 外部足場 □ A種 □ B種 □ C種 □ D種 □ E種 □ F種 3) 防護シート等による養生 □ 適用する □ 適用しない ※設置する足場については、「手すり先行工法等に関するガイドライン」(厚生労働省平成21年4月)により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の2)手すり据置き方式又は3)手すり先行専用足場方式により行うこと。</div></div> <div><div>(17)</div><div>建築材料等</div><div>1) 本工事に使用する建築材料等は、設計図書に定める品質及び性能を有する新品とするほか別記載の指定資材及び参考見積メーカー又はこれらと同等品以上とする。 品質が求められる水準以上であれば、市内生産品の優先使用に努めること。 2) 本工事で使用する建設資材の調達にあたっては、極力市内の取り扱い業者から購入するよう努めること。 3) 下記製品を本工事で使用する場合は、三重県リサイクル製品利用推進条例に基づく認定製品を使用すること。ただし認定製品が入手できない場合は、監督員と別途協議を行うこと。 (認定製品の品名:) 4) 下記製品を本工事で使用する場合は、三重県リサイクル製品利用推進条例に基づく認定製品を使用するように努めること。 (認定製品の品名: ・間伐材工事用バリケード・間伐材工事看板・間伐材表示板 ())</div></div> <div><div>(18)</div><div>建設副産物</div><div>1) 請負額1億円以上の工事について、再生資源の利用又は建設副産物の搬出がある場合、受注者は工事の着手までに「再生資源利用計画書」(建設資材を搬入する場合)及び「再生資源利用促進計画書」(建設副産物を搬出する場合)を施工計画書に綴じ込んで監督員に提出する。 また、工事が変更又は完了した場合には「再生資源利用実施書」(建設資材を搬出した場合)及び「再生資源利用促進実施書」(建設副産物を搬出した場合)を作成し、監督員に提出する。 なお、計画書及び実施書の提出とともにJ A C I Oが運営する「建築副産物情報交換システム」へのデータ入力も併せて行う。 2) 請負額1億円以上の工事について、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」に従い、再資源化等が完了した後に報告書を提出すること。</div></div> <div><div>(19)</div><div>三重県産業廃棄物税</div><div>本工事はに産業廃棄物税相当分が計上されていないため、受注者が課税対象となった場合には完成年度の翌年度の4月1日から8月31日までの間に別に定める様式に産業廃棄物税納付証明書を添付して当該工事の発注者に対して支払請求を行うことができる。なお、この期間を超えて請求することはできない。また、産業廃棄物処理集計表 (マニフェスト)の数量の集計)を超えて請求することはできない。</div></div> <div><div>(20)</div><div>事故の発生時</div><div>工事の施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督員へ通報するとともに、所定の様式により事故発生報告書を監督員が指示する期日までに監督員へ提出すること。 なお、事故発生後の措置について、監督員と協議を行うとともに、当該事故に係る状況聴取、調査、検証等に協力すること。</div></div> <div><div>(21)</div><div>既設との取合い・養生</div><div>本工事施工に伴う、既存設備の軽微な加工・改造は、本工事とする。 また、工事施工に際し、既存部分を汚損・破損等しないよう養生を行うこと。なお汚損・破損等した場合は、機能・仕上げ共、既設にならない復旧すること。</div></div> <div><div>(22)</div><div>不正軽油の使用の禁止</div><div>1) 一般事項 工事の施工に当たり、工事現場で使用し、又は使用される車両 (資機材等の搬入車両を含む。)並びに建設機械等の燃料として、不正軽油 (地方税法第144条の32 (製造等の承認を受ける義務等)の規定に違反する燃料をいう。)を使用してはならない。 2) 調査の協力 受注者は、市が使用燃料の採油調査を行う場合には、その調査に協力しなければならない。また、受注者は下請負者等に同調査を協力するよう管理及び監督及び監督員に提出するよう管理及び監督しなければならない。 3) 是正措置 受注者は、不正軽油の使用が判明した場合は、速やかに是正措置を講じなければならない。また、受注者は下請負者等に不正軽油の使用が判明した場合は速やかに是正措置を講じるよう管理及び監督しなければならない。</div></div>	<div><div>(23)</div><div>その他</div><div>1) 使用機械 低騒音型、低振動型の建設機械の使用に努めること。 2) 測定機器の校正記録 工事で使用する測定機器に対しては適正に校正した器具を使用しなければならない。 測定に先立ち使用する測定機器の検査済証 (写し)又は校正記録 (写し)を監督員に提示すること。 3) フロン回収及び充填 当該工事を施工するに当たって施工時にフロン類の充填、回収作業を行う場合は、フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律 (平成27年4月1日施行)等の関係法令を遵守し、第1種フロン類充填回収登録業者が行うこと。</div></div> <div><div>6</div><div>工事項目</div><div>給排水衛生設備工事 ■ 屋外給水設備工事 ■ 屋内給水設備工事 ■ 屋外排水設備工事 ■ 屋内排水通気設備工事 ■ 衛生器具設備工事 □ 消火設備工事 ■ 給湯設備工事 ■ 屋外ガス設備工事 □ 屋内ガス設備工事 □ 浄化槽設備工事 □ 厨房機器設備 空調設備工事 ■ 機器設備工事 ■ 配管設備工事 ■ 換気設備工事</div></div> <div><div>7</div><div>工事概要</div><div>給排水衛生設備工事 (1) 給水設備工事 本工事は図示のごとくを工事範囲とし、直圧式により所要の各所に給水する。直圧部の弁類は、水道局規格品JIS 10Kを使用する。 その他はJIS 5Kを使用する。 (2) 屋外排水設備工事 本工事は、汚水、雑排水を合流方式とし、敷地内最終幹に至る配管、樹を勾配に十分留意し敷設するものとする。 樹は公園型、現場打ちまたはプラスチック樹とする。 (3) 屋内排水通気設備工事 本工事は汚水、雑排水を合流式により屋外樹に接続放流する。 (4) 衛生器具設備工事 衛生器具を所定の位置に附属金具により堅固に取り付けるとし、陶器の色は監督員と協議の上決定する。 (5) 給湯設備工事 ガス給湯器による局所給湯方式とし、図示の各所に給湯する。 (6) LP ガス設備工事 LPG集合装置により図示の各所に配管供給する。 ホースコックは、過流出防止機構 (ヒューズ) 付きとする。</div></div> <div><div>空調設備工事</div><div>(1) 機器設備工事 本工事は、空冷ヒートポンプパッケージエアコンにより冷暖房をおこなうものとする。 各機器の据付・試運転調整を含めて機器設備工事とする。 空調設備工事に於ける外気、室内の温度湿度条件 <table><tr><th></th><th>乾球温度℃</th><th>湿球温度℃</th><th>相対湿度%</th></tr><tr><td>外気条件</td><td>夏期 34.5</td><td>27.3</td><td>57.6</td></tr><tr><td></td><td>冬期 1.7</td><td>-1.3</td><td>49.6</td></tr><tr><td>室内条件</td><td>夏期 26</td><td>-</td><td>成行き</td></tr><tr><td></td><td>冬期 22</td><td>-</td><td>成行き</td></tr></table> (2) 配管設備工事 各機器間のドレン、冷暖配管をおこなうものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (3) 換気設備工事 換気扇の設置ならびに付帯ダクト設備を行うものとする。</div></div> <div><div>8</div><div>総合調整</div><div>(1) 風量調整 □ 適用する ■ 適用しない (2) 水量調整 ■ 適用する □ 適用しない (3) 室内外空気の温度測定 ■ 適用する □ 適用しない (4) 室内外空気の湿度測定 □ 適用する ■ 適用しない (5) 室内気流及びじんあいの測定 □ 適用する ■ 適用しない (6) 騒音の測定 □ 適用する ■ 適用しない (7) 飲料水の水质の測定 (水道法施行規則10条による水质検査) □ 適用する ■ 適用しない のうち 一般細菌、大腸菌、硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素、塩化物イオン、有機物 (全有機炭素 (TOC) の量)、pH値、味、臭気、色度、濁度 について測定を行うこと。 ※遊離残留塩素 については、上記適用の有無にかかわらず、測定を行うこと。 (8) その他 () □ 適用する □ 適用しない</div></div>		乾球温度℃	湿球温度℃	相対湿度%	外気条件	夏期 34.5	27.3	57.6		冬期 1.7	-1.3	49.6	室内条件	夏期 26	-	成行き		冬期 22	-	成行き	<div><div>9</div><div>工事細目</div><div>(1) 配管材料 部分的に配管種類を変更する場合は、図面内に明記すること。 ■ 給水管 ■ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 JWWA K116 (一般: SGP-VB 地中: SGP-VU) □ フランジ付硬質塩化ビニルライニング鋼管 WSP 011 (一般: SGP-FVA、FVB 地中: SGP-FVD) ※ 継ぎ手はコア内蔵型とする。 ※ 給水管100Aはねじ又はフランジ接合、125A以上はフランジ接合 (工場加工) とする。 ■ 水道用硬質ポリ塩化ビニル管 JIS K 6742 (一般・地中: H1VP) □ 水道配水用ポリエチレン管 JWWA K 144 (地中: PE) □ 水道用ステンレス鋼鋼管JWWA G 115 □ 一般配管用ステンレス鋼鋼管 JIS G 3448 ※ 地中埋設管は、取出し位置の畝面又はSL、FL面より+100立ち上げた所までとする。 ■ 雑排水管 □ 配管用炭素鋼鋼管 (白) JIS G 3452 (SGP-白) ※ 継ぎ手はドレネジ継ぎ手又は、MD継ぎ手を使用 (地中・コンクリート埋設は防食テープ2重巻き) ■ 土間・一般: 硬質ポリ塩化ビニル管 JIS K 6741 (VP・VU) □ 土間: リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 JIS K 9798 (RF-VP) ※ 125A以下はVP、150A以上はVUとする。 □ 排水・通気用耐火二層管 JIS K 6741 (硬質塩化ビニル管VP) 又は JIS K 9798 (リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管RF-VP) 規格品に繊維モルタルで被覆したもので国土交通大臣認定のもの。 ■ 通気管 □ 配管用炭素鋼鋼管 (白) JIS G 3452 (SGP-白) ※ 継ぎ手はドレネジ継ぎ手又は、MD継ぎ手を使用 (地中・コンクリート埋設は防食テープ2重巻き) ■ 硬質ポリ塩化ビニル管 JIS K 6741 (VP・VU) □ リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 JIS K 9798 (RF-VP) ※ 125A以下はVP、150A以上はVUとする。 RF-VPは屋外露出不可 □ 排水・通気用耐火二層管 JIS K 6741 (硬質塩化ビニル管VP) 又は JIS K 9798 (リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管RF-VP) 規格品に繊維モルタルで被覆したもので国土交通大臣認定のもの。 ■ 汚水管 □ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 WSP 042 ※ 同上MD継ぎ手 JPF MDJ 002 ■ 土間・一般: 硬質ポリ塩化ビニル管 JIS K 6741 (VP・VU) □ 土間: リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 JIS K 9798 (RF-VP) ※ 125A以下はVP、150A以上はVUとする。 □ 排水・通気用耐火二層管 JIS K 6741 (硬質塩化ビニル管VP) 又は JIS K 9798 (リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管RF-VP) 規格品に繊維モルタルで被覆したもので国土交通大臣認定のもの。 □ 鉛管 □ 排水・通気用鉛管 SHASE-S202 ■ 給湯管 ■ 水道用耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管 JWWA K 140 (一般: SGP-HVA 地中: WH1LP 内外面耐熱性硬質塩化ビニリング鋼管) □ 水道用ステンレス鋼鋼管JWWA G 115 □ 一般配管用ステンレス鋼鋼管 JIS G 3448 ■ ガス管 ■ 配管用炭素鋼鋼管 (白) JIS G 3452 (SGP-白) ■ 土間: 塩化ビニル被覆鋼管 (黒) □ ガス用ポリエチレン管 JIS K 6774 (地中: PE) ※ 地中埋設鋼管は、取出し位置の畝面又はSL、FL面より+100立ち上げた所までとする。 □ ガス事業者の供給規定に準じる。 □ 消火管 □ 配管用炭素鋼鋼管 (白) JIS G 3452 (SGP-白) □ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 (白) WSP041 (SGP-VS) ※ 地中埋設管VSは、取出し位置の畝面又はSL、FL面より+100立ち上げた所までとする。 ■ 屋外埋設排水 ■ 硬質ポリ塩化ビニル管 JIS K 6741 (VP・VU) □ リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 JIS K 9798 (RF-VP) □ 排水用リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管 AS-58 (RE P-VU) □ リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管 JIS K 9797 (RS-VU) ※ 125A以下はVP、150A以上はVUとする。 □ コンクリート管 JIS A 5372 (プレキャスト鉄筋コンクリート製品) (1類水路用速心力鉄筋コンクリート管) □ 冷温水配管 □ 配管用炭素鋼鋼管 (白) JIS G 3452 (SGP-白) □ 水道用耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管 JWWA K 140 (一般: SGP-HVA) □ 冷却水管 □ 配管用炭素鋼鋼管 (白) JIS G 3452 (SGP-白) □ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 JWWA K116 (一般: SGP-VA、VB) □ フランジ付硬質塩化ビニルライニング鋼管 WSP 011 (一般: SGP-FVA、FVB) ■ ドレン管 □ 配管用炭素鋼鋼管 (白) JIS G 3452 (SGP-白) ■ 硬質ポリ塩化ビニル管 JIS K 6741 (VP・VU) ■ 保温層付硬質ポリ塩化ビニル管 □ リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 JIS K 9798 (RF-VP) ※ 125A以下はVP、150A以上はVUとする。 RF-VPは屋外露出不可。 □ 排水・通気用耐火二層管 JIS K 6741 (硬質塩化ビニル管VP) 又は JIS K 9798 (リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管RF-VP) 規格品に繊維モルタルで被覆したもので国土交通大臣認定のもの。 ■ 冷媒管 □ 銅及び銅合金継目無管 硬質、軟質または半硬質 JIS H3300 ■ 断熱材被覆鋼管 原管はJIS H3300による。製造者標準品 ただし、保温厚は ガス管 20mm、液管 10mm (液管の呼び径が9.52mm以下の断熱厚さは8mmとしてよい) とする。 ※ 冷媒用鋼管の内厚は、冷凍保安規則関係基準の規定による。 □ 油管 □ 配管用炭素鋼鋼管 (黒) JIS G 3452 溶接接合 □ 蒸気管 □ 配管用炭素鋼鋼管 (黒) JIS G 3452 □ プライン管 □ 配管用炭素鋼鋼管 (黒) JIS G 3452</div></div> <div><div>※ 弁類</div><div>揚水ポンプ (二次側)、消火ポンプ (二次側)、水道直圧部は 10Kとし、それ以外は5Kとする。 塩ビライニング鋼管に使用する際は、管端防食コアリフ、又はライニング弁を使用すること。</div></div>
	乾球温度℃	湿球温度℃	相対湿度%																				
外気条件	夏期 34.5	27.3	57.6																				
	冬期 1.7	-1.3	49.6																				
室内条件	夏期 26	-	成行き																				
	冬期 22	-	成行き																				

※ 横走り管の吊り間隔

鋼管	100A以下 125A以上	－ －	2m 以下 3m以下
ビニル管 耐火二層管 鋼管	80A以下 100A以上	－ －	1m 以下 2m以下
鉛管			1.5m以下
鉄鉄管	標準図による		

※ 横走り管形鋼振れ止め支持間隔

支持間隔	6m以下	8m以下	12m以下
鋼管	－	50A～100 A	125A～
鉄鉄管			
ビニル管 耐火二層管 鋼管	25A～40A	50A～100A	125A～

※ 冷媒用銅管の横走り管の支持間隔

基準外径 9.52mm 以下 吊り間隔 1.5m以下 ※ 液管・ガス管共吊りの場合は
基準外径 12.70mm 以上 吊り間隔 2.0m以下 液管の外径を基準とする。
形鋼振れ止め支持間隔は、銅管に準ずる。

(2) ダクト工事

- 矩形ダクト □ 亜鉛鉄板 JIS G 3302 (SGCC、SGCCA) 鍍金付着Z18以上
□ ステンレス鋼板 JIS G4305
工法 □ アングルフランジ工法
□ 共板フランジ工法
□ スライドオンフランジ工法
形鋼補強 □ 山形鋼 JIS G 3101 □ SUS鋼材 JIS G 4317
丸ダクト ■ スパイラルダクト
□ 下水道用リサイクル三層硬質塩化ビニル管（多湿箇所） AS-62 (RS-VU)

(3) 保温塗装工事

1) 材料 部分的に材料を変更する場合は、図面内に明記すること。

■ グラスウール保温材 保温筒 JIS A 9504 2号 40K (屋内一般等) 保温板、保温帯 JIS A 9504 2号 40K			
■ 給水管	□ 排水管	■ 給湯管	□ 温水管
□ 蒸気管	□ 冷水・冷温水管	■ 冷媒管	□ 温水管
(屋外等)			
□ 給湯管	□ 温水管	□ 蒸気管	□ 冷水・冷温水管
□ 冷媒管	□	□	□
□ ロックウール保温材 保温板、保温帯、ブランケット (防火区画貫通部等) 1号JIS A 9504			
□ 給水管	□ 排水管	□ 給湯管	□ 温水管
□ 蒸気管	□ 冷水・冷温水管	□ 冷媒管	□ 消火管

■ ポリスチレンフォーム保温材 保温筒 JIS A 9511 3号 (屋内一般等) 保温板 JIS A 9511 3号			
□ 給水管	□ 排水管	□ 冷水・冷温水管	□ 冷水管 (2～4℃)
□ ブライン管	□	□	□
(屋外等)			
■ 給水管	□ 排水管	□ 給湯管	□ 冷水・冷温水管
□ ブライン管	□ 消火管	□	□

■ 調合ペイント塗り塗料 JIS K 5516 (合成樹脂調合ペイント) 1種 (露出)			
□ 給水管	■ 排水管	□ 通気管	□ ドレン管
□ ガス管	□ 消火管	□ 油管	□ 冷却水管

2) 保温厚

・ グラスウール、ロックウール					
保温厚 (mm)	20	25	30	40	50
給水・排水・ドレン・給湯	～80A	100～150A	－	200A～	－
膨張・温水・消火管					
蒸気管	～25A	－	32～50A	65A～	－
冷水・冷温水・冷媒管	－	－	～25A	32～200A	250A～

・ ポリスチレンフォーム						
保温厚 (mm)	20	25	30	40	50	65
給水・消火・排水管	～80A	100A～	－	－	－	－
冷水・冷温水管	－	－	～25A	32～200A	250A～	－
冷水管 (冷水温度2～4℃)	－	－	～20A	25A～100A	125A～	－
ブライン管	－	－	－	～25A	32～80A	100A～

・ 機器ダクト保温厚

保温厚	
25mm	ダクト(屋内露出〔機械室、書庫、倉庫〕、陽蔽部)、消音チャンパー・エルボ 膨張タンク、銅板製タンク、排煙ダクト隠蔽部(ロックウール)
50mm	ダクト(屋内露出〔一般居室、廊下〕)、サプライチャンパー、貯湯タンク類 冷水・冷温水・温水・環水タンク、熱交換器、冷水・冷温水・温水・蒸気ヘッダー 排気筒隠蔽部 (ロックウール)
75mm	煙導 (ロックウール)

3) 種別

給排水衛生設備配管の保温仕様	1	2	3	4
屋内露出	保温筒	鉄線	合成樹脂製カバー	
機械室・書庫・倉庫	保温筒	鉄線	原紙	7A5M' 52/22仕上
天井内・P S内	7A5M' 52化粧保温筒	アルミガラスクロス粘着テープ		
暗渠内 (ピット内)	保温筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	着色7A5M' 52/22
屋外露出	保温筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	SUS鋼板仕上
※ 1) 排水管については、上表暗渠内 (ピット内) の仕様を防食テープ巻きに読み替える。 ※ 2) サヤ管工法：架構ポリエチレン・ポリブデン管使用の場合は、上表保温不要。 ※ 3) 消火管の外側露出は保温を行う。				

空調設備配管の保温仕様 (R、G保温材の仕様のみ)

	1	2	3	4	5
屋内露出	保温筒	鉄線	8' 52F6/22/46A	合成樹脂製カバー	
機械室・書庫・倉庫	保温筒	鉄線	8' 52F6/22/46A	原紙	アルミガラスクロス仕上
天井内・P S内	保温筒	鉄線	8' 52F6/22/46A	アルミガラスクロス仕上	
(温水・蒸気管以外)					
暗渠内 (ピット内)	保温筒	鉄線	8' 52F6/22/46A	着色アルミガラスクロス仕上	
屋外露出	保温筒	鉄線	8' 52F6/22/46A	SUS鋼板仕上	
※ 1) 冷媒管に断熱材被覆鋼管を使用した場合の保温種別 ■ 保温化粧ケース仕上 ■ ポリスチレン成形の上、SUS鋼板仕上 (屋外露出部分)					

機器保温仕様

	1	2	3	4	5
冷水・冷温水タンク					
銅板製タンク	鉄	保温板	ポリエチレン フィルム	鉄線	SUS鋼板仕上 カラー鉄板 (屋内)
冷水・冷温水ヘッダー					
温水・膨張・還水					
貯湯タンク	鉄	保温板	鉄線	SUS鋼板仕上 カラー鉄板 (屋内)	
温水・蒸気ヘッダー					
熱交換器					

※ 1) 密閉式膨張タンク及び、プレート形熱交換器は、保温施工不要

ダクト・チャンパー・煙道 保温仕様

		1	2	3	4	5
長方形ダクト	屋内露出	一般・廊下	鉄	保温板	カラー鉄板	
	機械室					アルミガラスクロス粘着テープ
	屋内隠蔽、D S内		鉄	アルミガラスクロス化粧保温板		アルミガラスクロス粘着テープ
	屋外露出、多湿箇所		鉄	保温板	ポリエチレンフィルム	鉄線 SUS鋼板
スパイラルダクト	屋内露出	一般・廊下	保温帯	鉄線	カラー鉄板	
	機械室					アルミガラスクロス化粧保温帯
	屋内隠蔽、多湿箇所		アルミガラスクロス化粧保温帯	アルミガラスクロス粘着テープ		
	屋外露出、多湿箇所		保温帯	鉄線	ポリエチレンフィルム	鉄線 SUS鋼板
サプライチャンパー			鉄	保温板	ガラスクロス	銅亀甲金網
消音チャンパー、エルボ			鉄	保温板	ガラスクロス	
排煙ダクト長方形	屋内隠蔽	鉄	アルミガラスクロス化粧保温板			アルミガラスクロス粘着テープ
排煙ダクト 円形	屋内隠蔽		アルミガラスクロス化粧保温帯	アルミガラスクロス粘着テープ		
煙道	ブランケット	鉄線		カラー鉄板		

- ※ 1) 排煙ダクトは、ロックウール保温板、保温帯、1号を使用。
※ 2) 煙道ブランケットは、JIS G 3554 (亀甲金網) による亜鉛鍍金施した網目16径径0.55
による防錆処理施したプラス0号で外面補強したものを使用。
※ 3) 銅亀甲金網は、JIS H 3260 網目10、線径0.5

配管用炭素鋼鋼管の塗装仕様

機材	状態	塗料の種類	塗り回数			備考
			下塗り	中塗り	上塗り	
白管	露出	調合ペイント	1	1	1	下塗りはさび止めペイント
黒管	露出	調合ペイント	2	1	1	下塗りはさび止めペイント

※ 1) わじ切りした部分の鉄面は、さび止めペイント2回塗りを行う。

4) 施工

ダクト保温施工範囲

1. S A
□ 保温あり □ 保温なし □ 図面による □ その他 ()
2. E A
□ 保温あり ■ 保温なし □ 図面による □ その他 ()
3. R A
□ 保温あり □ 保温なし □ 図面による □ その他 ()
4. O A
□ 保温あり □ 保温なし □ 図面による □ その他 ()
チャンパー内貼施工
□ 内貼あり (mm) □ 内貼なし □ 図面による □ その他 ()

(4) スリーブ工事

1. 管スリーブの径は、原則として、管の外径 (保温されるものは、保温厚さを含む)
より40mm程度大 (≒2サイズUP) なるものとする。
箱抜きスリーブは、木枠又は鋼板 (実管ダクト) とする。
2. 地中部分のスリーブは、塩化ビニル管 (VU) とし、水密を要する部分のスリーブは、
つば付き鋼管とする。
3. その他のスリーブは、特記なき限り、紙ボイドとする。紙ボイド使用の際は、
配管前に必ず撤去のこと。

共通事項

- 1) 陸上ポンプ、送排風機 (エアハン含む) の電動機は、すべて全閉防まつ形とする。
2) 配管途中、要所にはフランジ接続箇所を設置し、取り外しを容易にすること。
3) 系統が分かるように、必要箇所 (機械室、P S内等) に文字書き・矢印記入・バルブ札取付を
行うこと。手書きもしくはカットティングシートとする。
4) 機器・配管・支持金物には、絶縁処理を行うこと。
5) 配管に空気が滞留する恐れのある箇所には、エア抜き弁を設置し、最寄りの
ドレン管に接続すること。
6) 屋外機器設置基礎のアンカーボルトは、構造体鉄筋より取り出す、
もしくはあと施工アンカー工法の類とする。使用アンカーについては、標準仕様書
機器仕様書、耐震クラス等を確認すること。また、重量機器にあと施工アンカー
工法を採用する場合、ケミカルアンカーを使用し施工すること。
7) 機器、配管の耐震措置及び機器、ダクトの防振・消音については、標準仕様書
、標準図、施工監理指針及び建築設備耐震設計・施工指針に基づき十分考慮
すること。
8) 雨がかり部に取り付けけるガラのチャンパーには、水抜きを設けること。
9) 屋外埋設管 (給水、消火、ガス) には、埋設シートを敷設し、曲がり・分岐部には、
地中埋設機を施工すること。
10) 冷水及び冷温水管の支持材には、合成樹脂製支持受けを使用すること。
11) 水栓は、節水機構付きのものを使用すること。
12) 冷媒管等防火区画貫通部は、建築基準法・消防法に適合する工法にて
防火処理を行うこと。
13) 地中埋設配管については、下記の沈下対策を講ずること。
・ 管は継ぎ手の組み合わせにより可とう性をとせる。
・ 接続箇所は必要に応じコンクリートで保護する。
・ 土間配管は、土間筋に吊り下げるなど埋設配管を保持すること。
・ 呼び径100A以下はM10、125A～250AはM12、250A以上はM16のステンレス
棒鋼を使用する。
14) 屋外露出及び多湿箇所 (トレンチピット等) の配管架台は、SUS又はSS溶融亜鉛
メッキ仕上げとすること。
15) 屋外設置のマノホール類には用途名を入れること。
16) 合成樹脂製カバーの仕上げについては、保温見切り箇所には菊巻の取り付けを
行うこと。
17) 送風機用ベルトカバーには点検口を設けること。
18) 建設発生土は場外自由処分とすること。

特記事項

イズマイ建築設計

一級建築士事務所 三重県知事登録 第 1ー2236 号
〒514ー0041 三重県津市八町3丁目6ー3増栄ビル200号

設計
一級建築士
第299733号
中西 修二

年月日

縮尺

N/S

工事名称

北立誠地区放課後児童クラブ整備に伴う
旧津市立北立誠幼稚園及び津市立北立誠小学校改修工事

図面名

機械設備 特記仕様書 2

図面番号

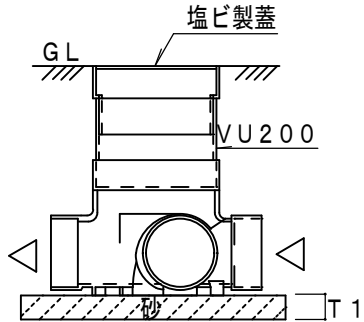
M-02

原図：A 2

衛生凡例

記 号	名 称	摘 要
-----	給水管	屋外埋設：水道用硬質ポリ塩化ビニル管（H I V P）
		屋内埋設：水道用塩ビライニング鋼管（S G P－V D）
		一般：水道用硬質塩ビライニング鋼管（S G P－V B）
		一般：フランジ付水道用硬質塩ビライニング鋼管（S G P－F V B）1 0 0 以上
-----	屋外排水管	硬質ポリ塩化ビニル管（V P）但し 1 5 0 以上は V U
-----	汚水管	埋設：硬質ポリ塩化ビニル管（V P）
-----	雑排水管	埋設：硬質ポリ塩化ビニル管（V P）
-----	通気管	硬質ポリ塩化ビニル管（V P）
----- I -----	給湯管	耐熱性ライニング鋼管（S G P－H V A）
----- G -----	ガス管	埋設：ポリエチレン被覆鋼管 一般：配管用炭素鋼鋼管（白）
----- M G V -----	仕切弁	
----- □ -----	フレキシブル継手	
○	汚水小口径樹	
⊗	排水樹	
⊗ ⊙	給水栓	
⊗ ⊙ ⊕	混合水栓	
⊗ ⊙	フラッシュ弁	
⊕ ----- ⊕ -----	床上掃除口	
■	埋設標示	コンクリート製

汚水小口径樹（参考図）



衛生機器表

記 号	機 器 名 称	機 器 仕 様	電 源		設 置 場 所	台数	備 考
			φ－V	W			
GW－1	ガス給湯器：L P Gガス用	形式 屋外据置形 2 0 号：給湯専用	1 φ 1 0 0 V	4 3	屋外	1	
		ガス消費量 4 1 . 6 K W					
		付属品 メインリモコン、リモコンコード、配管カバー（L＝6 0 0 程度）、他付属品共					
	L P Gガス集合装置	5 0 k g 2 本立（1＋1） 自動切替装置、転倒防止鎖、メーターコック 2 0 A 他付属品共				1	
		マイコンガスメーター：貸与品					
	L P Gガス用ポンベ庫	5 0 k g 2 本立用（標準タイプ） 1 0 0 0 X 6 0 0 X 1 8 6 2 H				1	参考型番：B N－1 0 0 M T
特記なき機器能力は J I S 条件による。 特記なき機器はメーカーは標準仕様とする。 能力は参考数値とする。							

衛生器具表

名 称	参考品番（T O T O）	参考品番（L I X I L）	合 計	便 所 I	児 童 ク ラ ブ I
洋風便器	C F S 4 9 4 N H N S、T C F 2 2 6（暖房便座）、T 5 6 P H、H P 4 3 0 7、Y H 1 1 6	C－P 2 5 S、C F－T 7 1 1 4 A、C F－2 1 A L J（暖房便座）、C F－1 0 3 B B、C F－1 1 5－1、C F－1 1 5－2、C F－1 2 C	2	2	
L 形手すり	T 1 1 2 C L 1 2、付属固定金具共	K F－9 2 0 A E 7 0 D 1 2、付属固定金具共	2	2	
自動洗浄小便器	U F S 9 1 0	U－A 3 1 A P	1	1	
小便器用手すり	T 1 1 2 C U 2 2、付属固定金具共	K F－7 0 1 A E、付属固定金具共	1	1	
洗濯機パン	P W P 6 4 0 N 2 W、P J 2 0 0 8 N W	P F－6 4 6 4 A C、T P－5 2	1	1	
混合水栓	T K S 0 5 3 1 5 J	S F－W L 4 3 5 S Y（1 7 0）	2		2
洗濯機用水栓	T W 1 1 R	L F－W J 5 0 K Q	1	1	
システムキッチン：建築工事	排水金物、ガスコンロ、レンジフードファン、他付属品共 ※配管接続は本工事				(1)
S U S 製流し：建築工事	排水金物 他付属品共 ※配管接続は本工事			(1)	(1)

特記事項

イズマイ建築設計

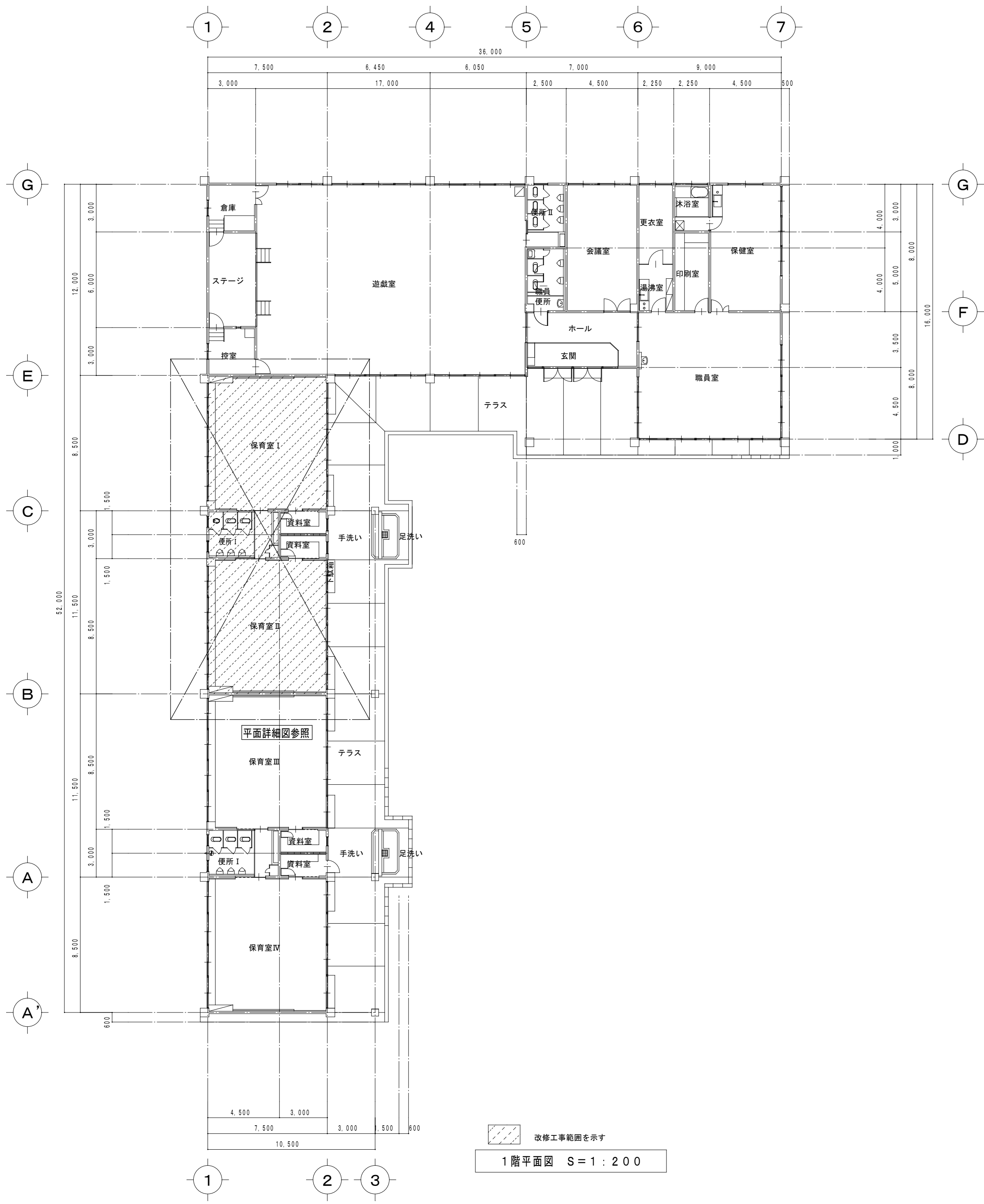
一級建築士事務所 三重県知事登録 第 1－2 2 3 6 号
〒5 1 4－0 0 4 1 三重県津市八町 3 丁目 6－3 増栄ビル 2 0 0 号

設 計
一級建築士
第 2 9 9 7 3 3 号
中 西 修 二

年月日
縮 尺
1 / 2 0 0

工事名称
北立誠地区放課後児童クラブ整備に伴う
旧津市立北立誠幼稚園及び津市立北立誠小学校改修工事
図 面 名
給排水・衛生設備 凡例・器具機器表

図面番号
M－0 3
原因：A 2

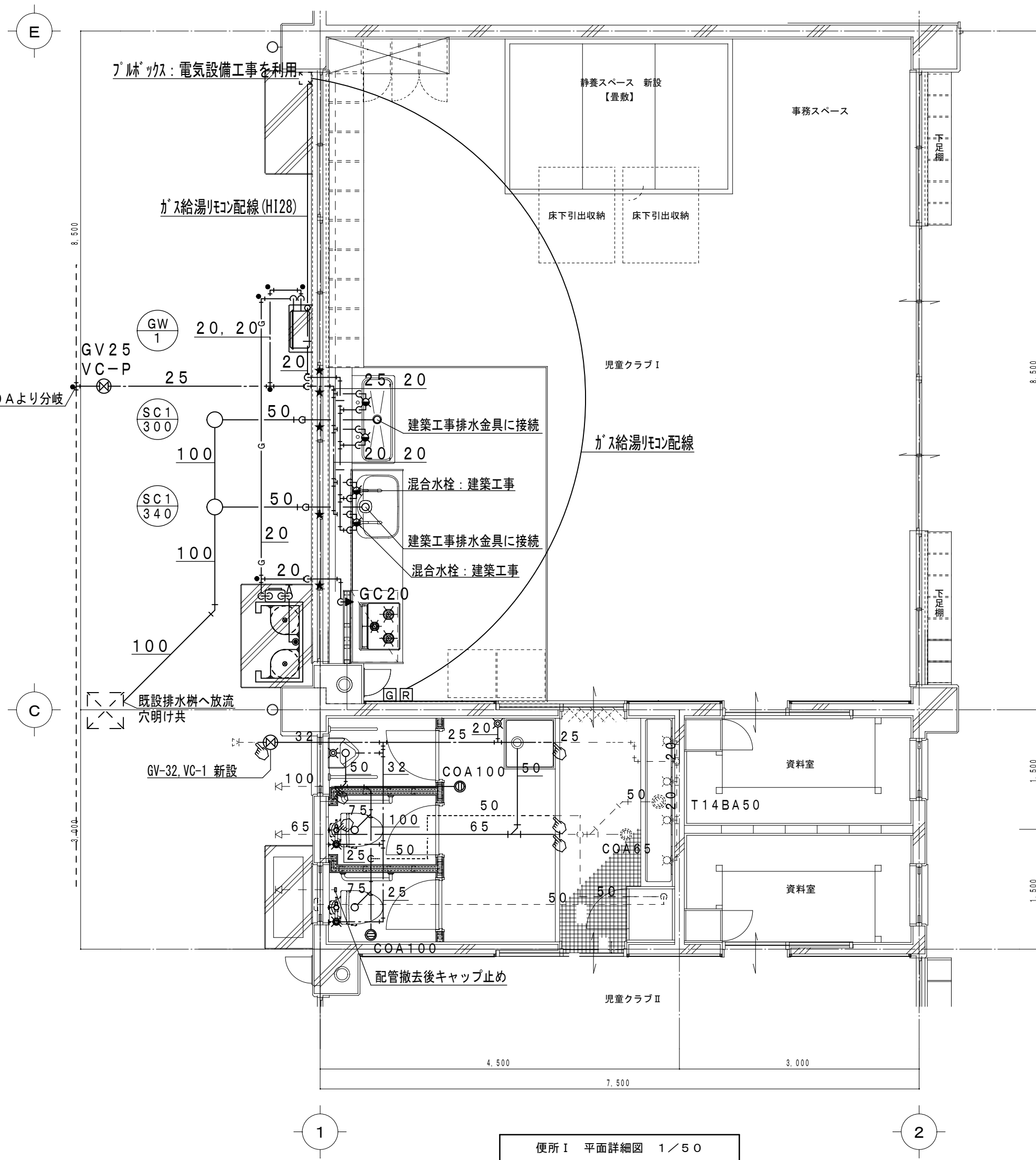
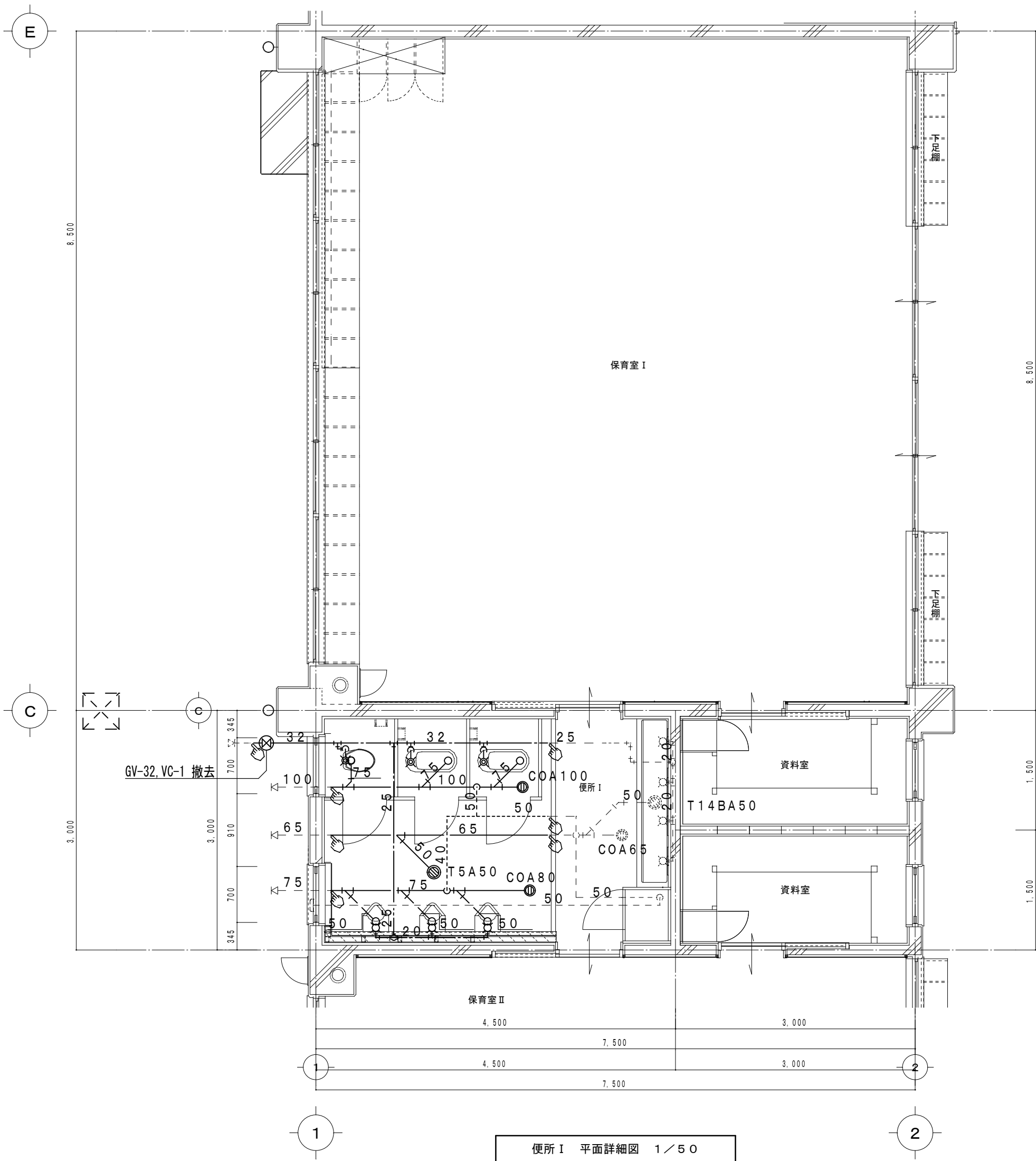


1 階平面図 S = 1 : 200

撤去工事凡例：処分は建築工事	
———	今回撤去工事を示す。
-----	既設を示す。
撤去配管リスト	
給水管：硬質塩ビライニング鋼管	
污水管：硬質塩化ビニル管	
器具接続：排水用鉛管	
雑排水管・通気管：硬質塩化ビニル管	
換気ダクト：スパイラルダクトSD	
土間はつり及び復旧は建築工事とする。建築図参照	
器具及び配管撤去後のスラブ穴埋めは建築工事とする。	

改修前

改修後



衛生器具類撤去一覧表：処分は建築工事		
衛生器具表	品番及び付属品	便所
幼児用大便器	C103, FV, 他付属品共	2
幼児用腰掛便器	C420, FV, 他付属品共	1
ストール小便器	U308, 他付属品共	3

撤去工事凡例：処分は建築工事	
—	今回撤去工事を示す
- - -	既設を示す
✂	既設配管切断箇所を示す
撤去配管リスト	
給水管：硬質塩化ビニリング鋼管	
污水管：硬質塩化ビニル管	
器具接続：排水用鉛管	
雑排水管・通気管：硬質塩化ビニル管	
土間はつり及び復旧は建築工事とする。建築図参照	
器具及び配管撤去後のスラブ穴埋めは建築工事とする。	

改修工事凡例	
—	今回施工工事を示す
- - -	既設を示す
✂	既設配管接続箇所を示す
★	コア抜き貫通箇所を示す
< 3 >	既設貫通箇所を示す
躯体貫通箇所は既設スリーブを優先に使用すること。	
梁貫通箇所は鉄筋探査を必要とする。	
屋外はつり復旧は建築工事とする。（建築図参照）	
※今回改修工事にあたって、施工上当然と思われる工事は本工事に含む。	

GW-1 ガス給湯器接続箇所は給水20A (GV・FJ), 給湯20A (FJ), ガス20A (GC・FJ) 取付けの事	
リモコン配線 (メーカー付属品) とする 但し, 取付位置は打合せによる	
Ⓡ	給湯器リモコン (取付位置は打合せによる。)
Ⓢ	ガス漏れ警報器 (LPGガス用)

特記事項

イズマイ建築設計

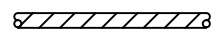
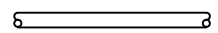







一級建築士事務所 三重県知事登録 第 1-2236 号
〒514-0041 三重県津市八町3丁目6-3増栄ビル200号

設計
一級建築士
第299733号
中西 修二

年月日
縮尺
1/50

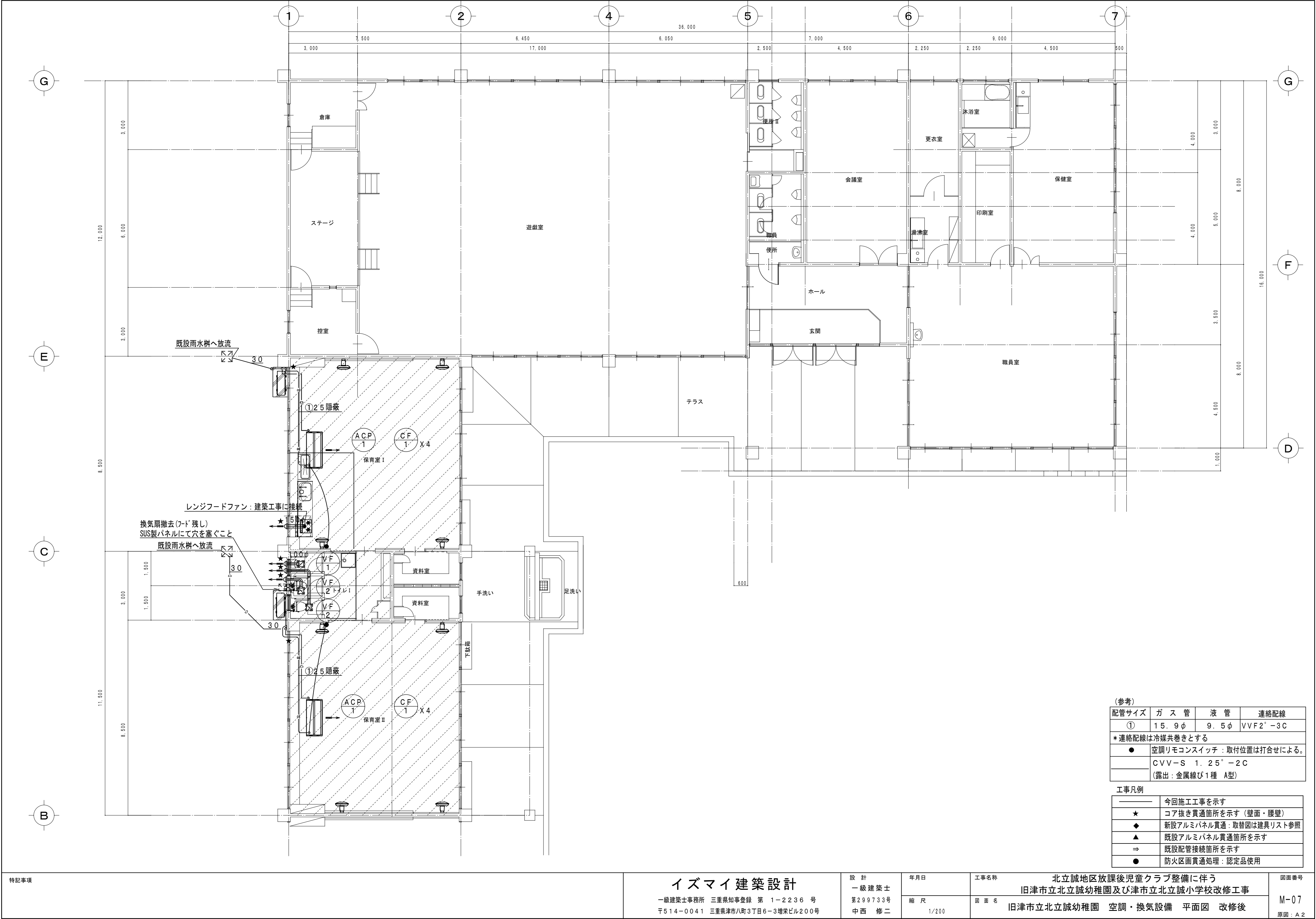
工事名称
北立誠地区放課後児童クラブ整備に伴う
旧津市立北立誠幼稚園及び津市立北立誠小学校改修工事
図面名
給排水・衛生設備 便所 I 平面詳細図 (改修前・改修後)

図面番号
M-05
原図：A 2

凡 例					
記 号	名 称	記 号	名 称	記 号	名 称
―― R ――	冷媒管：冷媒用保温付被覆銅管 ガス管：保温厚20mm 液管：保温厚8～10mm	●	空調リモコンスイッチ	Ⓓ ← Ⓓ →	パイプフード
			スパイラルダクト ダクト（保温施工範囲を示す）		
			スパイラルダクト		
―― D ――	ドレン管：硬質ポリ塩化ビニル管		天井換気扇・排気ファン		
 	空調室内機				
 	空調室外機		吹出・吸込口		

空 調 機 器 表			形式 ヒートポンプ式							
記 号	機器名称	形 式 ・ 仕 様		電 気 容 量					台数	備 考
				相 (φ)	電圧 (V)	圧縮機 (kW)	送風機 内 (kW) 外 (kW)			
ACP-1	ヒートポンプ式 エアコン	形 式	天井吊下げ形	3	200	3.70	0.160	0.06X2	2	設置場所:保育室Ⅰ・Ⅱ
		冷房能力	14.0 (6.0~16.0)kW							
		暖房能力	16.0 (7.0~19.0)kW							
		冷房消費電力	5.08 kW							
		暖房消費電力	5.03 kW							
		最大低温暖房消費電力	6.28 kW							
		付 属 品	ワイヤードリモコンスイッチ、標準フィルター、 ドレンアップメカ、防護ネット、背面金網、 他付属品一式							
		基 礎	建築工事							
注 記	運転特性、能力はJIS条件による。 電源容量値は参考とする。 空調機トップランナー基準改定仕様とする。 冷媒ガスはオゾン破壊係数ゼロとする。 室外機-室内機間の2次側配線は冷媒管と抱き合わせの上本工事とする。 リモコン配線共本工事とする。 室外機・室内機共耐震振れ止め、転倒防止を施す事。 機器の製作仕様は国土交通省仕様とする。但し該当しない機器については製造業者標準仕様による。 機器は同等品以上とする。									

換 気 機 器 表								
記 号	機器名称	形 式 ・ 仕 様	電 気 容 量			台数	備 考	
			相 (φ)	電 圧 (V)	消費電力 (W)			
V F - 1	天井換気扇	形 式	低騒音形：銅板製ボディ	1	1 0 0	9 . 3	1	設置場所：便所Ⅰ
		風 量	7 0 m3／h					参考品番：VD-1 0 Z 1 0
		ダクト径	1 0 0 φ					
		静 圧	2 0 P a					
		付 属 品	SUS製深形パイプフード：ガラリ付、天吊防振金具、その他付属品共					
V F - 2	天井換気扇	形 式	低騒音形：銅板製ボディ	1	1 0 0	2 8 . 5	2	設置場所：便所Ⅰ
		風 量	1 5 0 m3／h					参考品番：VD-1 5 Z P 1 0
		ダクト径	1 0 0 φ					
		静 圧	5 0 P a					
		付 属 品	SUS製深形パイプフード：ガラリ付、天吊防振金具、その他付属品共					
V F - 3	壁付換気扇	形 式	窓枠取付格子形（電気式シャッター・引きひもなし）	1	1 0 0	4 8 . 0	1	設置場所：普通教室
		風 量	1 2 9 0 m3／h					参考品番：EX-3 0 S C 3 - S
		羽 根 径	3 0 0 φ					
		静 圧	— P a					
		付 属 品	SUS製ウェザカバー、防鳥網、化粧枠アタッチメント、その他付属品共					
C F - 1	壁掛扇	形 式	引きひもタイプ	1	1 0 0	3 8 . 0	1 0	設置場所：児童クラブⅠ・Ⅱ
		風 量	2 8 5 0 m3／h					普通教室
		羽 根 径	3 0 c m					参考品番：K 3 0 - Y Q - W
		付 属 品	取付金具、その他付属品共					
		SUS製深形暴パイプフード：ガラリ付 1 5 0 φ						
電源容量は参考数値とする。 機器は同等品以上とする。								



(参考)			
配管サイズ	ガ ス 管	液 管	連絡配線
①	15. 9φ	9. 5φ	VVF2 ² - 3C
* 連絡配線は冷媒共巻きとする			
● 空調リモコンスイッチ：取付位置は打合せによる。			
CVV-S 1. 25° - 2C			
(露出：金属線ぴ1種 A型)			
工事凡例			
——	今回施工工事を示す		
★	コア抜き貫通箇所を示す（壁面・腰壁）		
◆	新設アルミパネル貫通・取替図は建具リスト参照		
▲	既設アルミパネル貫通箇所を示す		
⇒	既設配管接続箇所を示す		
●	防火区画貫通処理：認定品使用		

特記事項

イズマイ建築設計

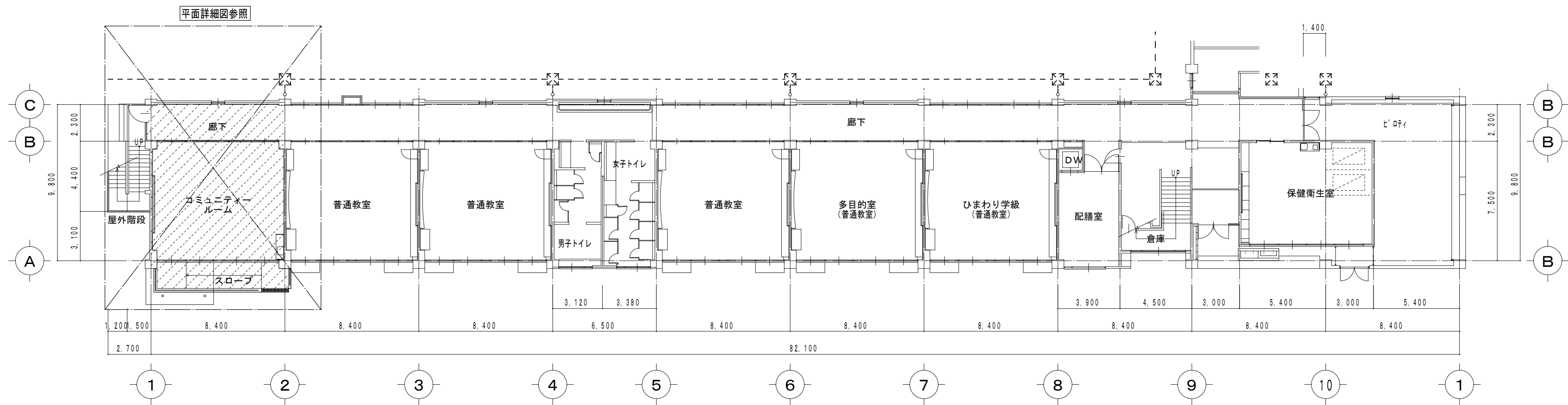
一級建築士事務所 三重県知事登録 第 1-2236 号
〒514-0041 三重県津市八町3丁目6-3増栄ビル200号

設 計
一級建築士
第299733号
中西 修二

年月日
縮 尺
1/200

工事名称
北立誠地区放課後児童クラブ整備に伴う
旧津市立北立誠幼稚園及び津市立北立誠小学校改修工事
図 面 名
旧津市立北立誠幼稚園 空調・換気設備 平面図 改修後

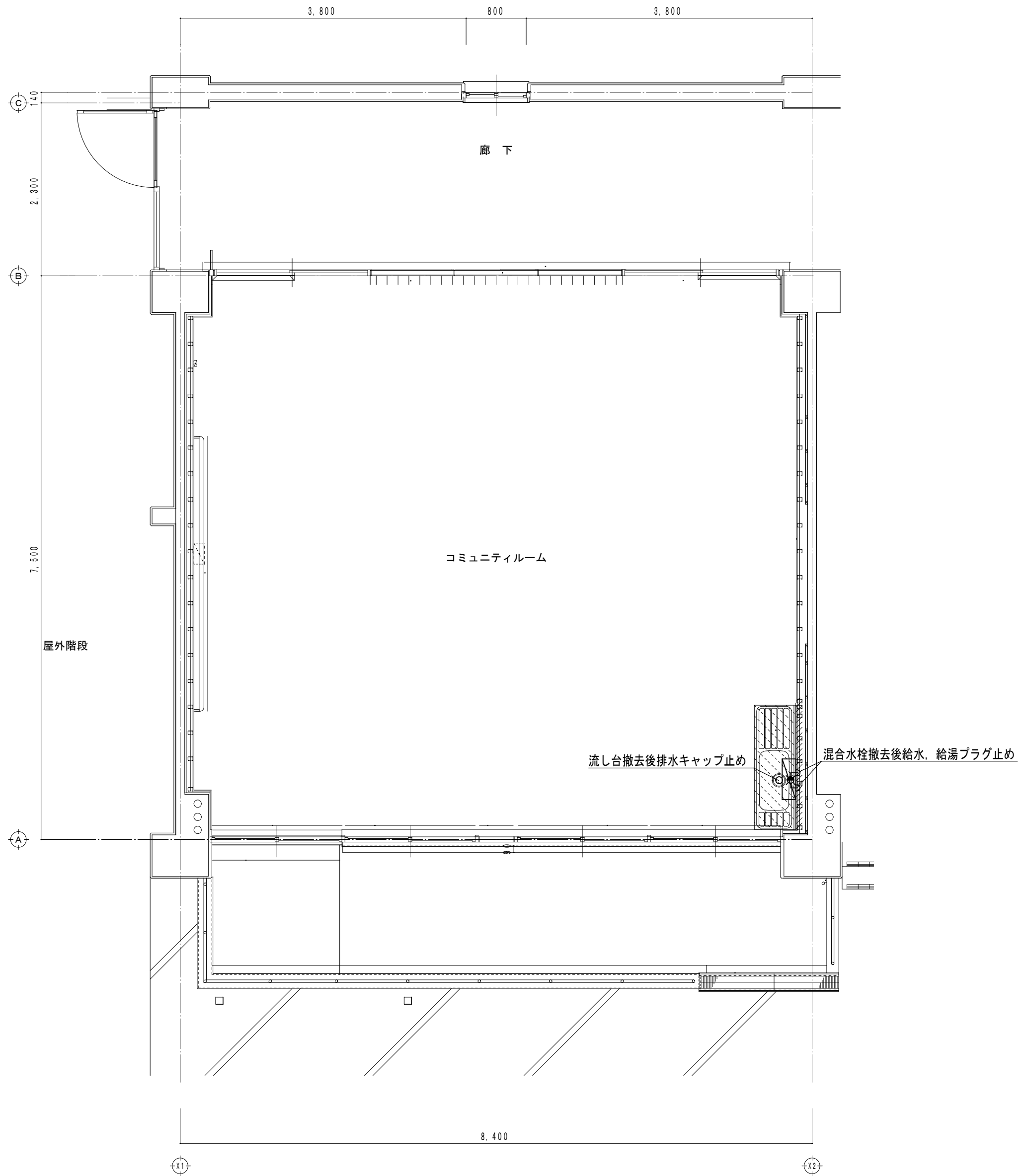
図面番号
M-07
原図：A 2



普通教室・管理棟 1階平面図 S=1:200

特記事項	イズマイ建築設計 一級建築士事務所 三重県知事登録 第 1-2236 号 〒514-0041 三重県津市八町3丁目6-3増栄ビル200号	設 計 一級建築士 第299733号 中西 修二	年月日	工事名称 北立誠地区放課後児童クラブ整備に伴う 旧津市立北立誠幼稚園及び津市立北立誠小学校改修工事	図面番号 M-08 原図: A 2
			縮 尺 1/200	図 面 名 津市立北立誠小学校 普通教室・管理棟 1階平面図	

改修前



普通教室平面詳細図 1/50

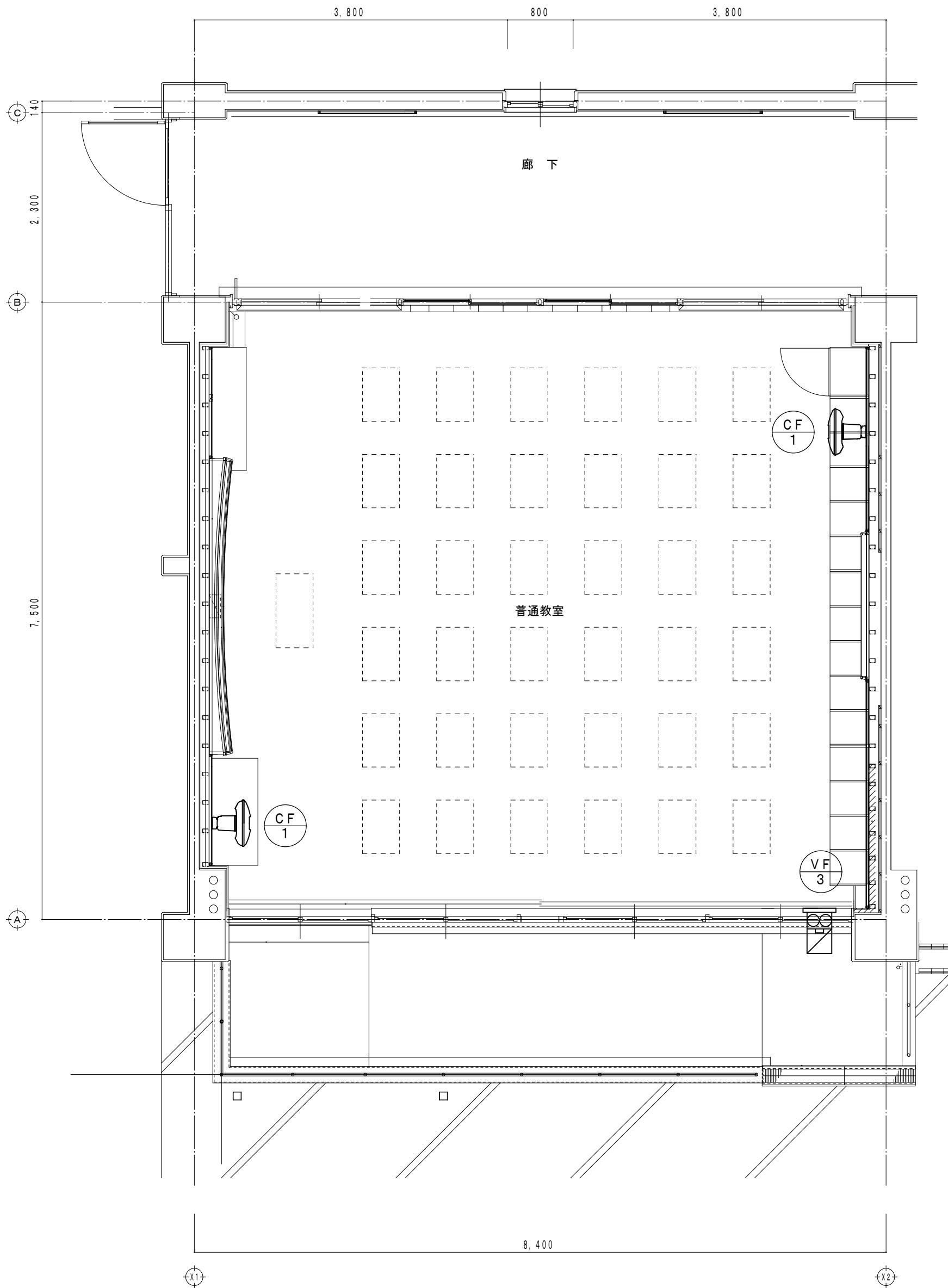
衛生器具類撤去一覧表：処分は建築工事

衛生器具表	品番及び付属品	便所
電気温水器	20L：壁掛形（付属品共）	1
混合水栓		1

撤去工事凡例：処分は建築工事

—	今回撤去工事を示す。
---	既設を示す。
撤去配管リスト	
給水管：硬質塩ビライニング鋼管	
排水管：硬質塩化ビニル管	
土間はつり及び復旧は建築工事とする。建築図参照	
器具及び配管撤去後のスラブ穴埋めは建築工事とする。	

改修後



普通教室平面詳細図 1/50

特記事項

イズマイ建築設計

一級建築士事務所 三重県知事登録 第 1-2236 号
〒514-0041 三重県津市八町3丁目6-3増栄ビル200号

設計
一級建築士
第299733号
中西 修二

年月日
縮尺
1/50

工事名称
北立誠地区放課後児童クラブ整備に伴う
旧津市立北立誠幼稚園及び津市立北立誠小学校改修工事
図面名
給排水・衛生・換気設備 普通教室平面詳細図(改修前・改修後)

図面番号
M-09
原図：A2